

# 防災総合センター一年報

第3号

Annual Report of  
Center for Integrated Research and Education of  
Natural hazards, Shizuoka University

No.3, August 2014

2014年8月

静岡大学防災総合センター



## 目 次

1 センターの概要	1
1.1 設立趣旨と沿革	1
1.2 組織及びメンバー	2
2 研究成果	5
2.1 個人研究成果	5
2.2 研究業績リスト	40
2.2.1 著書	40
2.2.2 学術論文	42
2.2.3 学会口頭発表	57
2.2.4 その他の著作物	81
2.2.5 受賞	83
2.2.6 特許等	84
3 学内教育活動	85
3.1 新入生セミナー	85
3.2 学際科目「地震防災」	86
3.3 学際科目「地域社会と災害」	87
3.4 静岡大学防災マイスター制度	88
4 プロジェクト・関連行事	90
4.1 科学技術振興調整費「ふじのくに防災フェロー養成事業」	90
4.1.1 事業の概要	90
4.1.2 受講生の活動成果	97
4.1.3 シンポジウム	113
4.2 静岡県委託業務防災学創出事業	114
4.3 しずおか防災コンソーシアム・土曜セミナー	117
4.4 東海圏減災コンソーシアム	119
5 社会的活動	120
5.1 外部・公開講演会等	120
5.2 マスメディア・新聞等への掲載	150
5.3 公的な委員会等	179

5.4	学会活動	186
5.5	集計資料	190

# 1 センターの概要

## 1.1 設立趣旨と沿革

静岡大学防災総合センターは、全学組織のひとつとして2008年7月に設置され、静岡大学地域連携協働センターを構成する組織のひとつとしても位置づけられている。防災総合センター設置の目的は、地域連携を通じ、静岡大学における防災教育を多面的に展開させるとともに、防災科学研究、災害時の危機管理能力を組織的に発展させ、地域の防災体制の向上に資することである。

東海地震の発生可能性が指摘されて以来、静岡大学は防災体制構築への先進的な取り組みを続けてきた。1980年代に大学内の建物の耐震診断をおこなって耐震工事を実施するとともに、全学防災対策委員会の下に地震対策検討部会を設置し、地震発生時の詳細な対応策を決定した。

さらに、防災教育の充実を目指して、2004年度から学外講師も含めた十数名の教員が担当する講義「地震防災」を開講するとともに、1年生全員の必修科目である「新入生セミナー」の中で防災の基礎知識と心得に関する講演を行うようになった。この背景には、静岡大学内の各部署に防災と密接に関係する研究テーマをもつ教員が徐々に増えてきたことがある。もともと地震防災は理学だけにとどまらず、工学、情報科学、人文・社会科学、医学などの幅広い分野にわたる総合科学の側面をもっていたからである。こうした教員たちは、各自の分野における防災研究・教育を推進するだけでなく、防災施策の検討を目的とした国や自治体の委員を委嘱されることによって、防災行政にも深く関わるようになった。また、地域社会からの講師派遣要請にも、個別的にはあるが積極的に貢献してきた。

このような防災研究・教育・地域連携の活動実績を背景として、静岡大学は、静岡県防災局（現・静岡県危機管理部）との協力の下に、文部科学省の特別教育研究経費（初年度は特殊要因経費）に「防災教育の地域連携を通じた多面的展開と拡充」を申請した結果、2008年度から4年間にわたる交付が認められることになった。そして、この経費を最大限活用しつつ、これまで各学部・各教員が個別におこなってきた防災研究・教育・地域連携活動を有機的・組織的に結びつけ、より高次かつ困難な地域防災課題の解決に取り組むために設立されたのが、静岡大学防災総合センターである。

本センターでは、2008年11月に1名、2009年に1名の計2名の専任教員を迎えるとともに、学内兼務教員、学外客員教員を拡充し、防災研究・教育・地域連携に取り組んできた。2010年には文部科学省の科学技術振興調整費(2011年度からは科学技術戦略推進費)による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」に採択され、より活動の幅が広がった。2011年4月には大学会館内に研究室、事務室、セミナー室を集約し活動拠点も整備された。

## 1.2 組織及びメンバー

2014年4月現在の当センターメンバーは下記のとおりである。

### センター長

増田 俊明（理学研究科教授(兼務)、構造岩石学・地球進化学)

### 副センター長

牛山 素行（専任教授、自然災害科学・災害情報学・豪雨災害)

小山 真人（教育学部教授(兼務)、火山学・歴史地震学)

前田 恭伸（工学研究科教授(兼務)、災害情報・リスクコミュニケーション)

### 専任教員

原田 賢治（専任准教授、津波工学)

### 特任教員

小澤 邦雄（特任教授、地震防災)

狩野 謙一（特任教授、構造地質学)

### 兼務教員

土屋 智（研究部門長：農学研究科教授、地震砂防学・土砂災害)

村越 真（教育部門長：教育学部教授、認知心理学・リスク心理学)

寺村 泰（人文社会科学部教授、経済学)

池田 恵子（教育学部教授、社会地理学)

岩崎 一孝（情報学研究科教授、地理情報システム)

西原 純（情報学研究科教授、地理学)

北村 晃寿（理学研究科教授、第四紀の層序学・古環境学)

安村 基（農学研究科教授、林産学・木質科学・耐震設計)

佐治 斉（創造科学技術大学院教授、画像処理・形状処理・交通情報解析)

古橋 裕子（保健センター教授、精神医学)

山本 裕之（保健センター教授、内科医学)

小林 朋子（教育学部准教授、学校心理学・被災者の心のケア)

藤井 基貴（教育学部准教授、教育学（教育哲学・道徳教育))

木村 浩之（理学研究科准教授、地球微生物学・環境ジェノミックス)

橋本 岳（工学研究科准教授、電気電子工学・画像処理・画像計測)

今泉 寿文（農学研究科准教授、砂防工学)

生田 領野（理学研究科講師、地震学・測地学)

石橋 秀巳 (理学研究科講師、火山岩石学・実験マグマ学)

三井 雄太 (理学研究科助教、地震学・測地学)

#### 客員教員

安藤 雅孝 (客員教授、地震学・固体地球物理学)

石川 有三 (客員教授、地震学・地震予知・テクトニクス)

伊藤 潔 (客員教授、地震学・固体地球物理学)

伊藤 谷生 (客員教授、構造地質学)

岩松 暉 (客員教授、応用地質学・自然災害科学・情報地質学)

鶴川 元雄 (客員教授、火山物理学・地震学)

笠原 順三 (客員教授、固体地球惑星物理学)

風間 聡 (客員教授、水工水理学)

片田 敏孝 (客員教授、災害社会工学)

唐戸俊一郎 (客員教授、地球科学・地球内部構造)

吉川 肇子 (客員教授、組織心理学・社会心理学)

近藤 昭彦 (客員教授、地理学)

佐藤 健 (客員教授、建築学)

佐藤 博明 (客員教授、火山学)

鈴木 清史 (客員教授、文化人類学・異文化コミュニケーション)

武村 雅之 (客員教授、強震動・地震災害史)

千木良雅弘 (客員教授、地質学・応用地質学)

中川 和之 (客員教授、災害報道・市民防災)

野津 憲治 (客員教授、地球化学)

林 拙郎 (客員教授、林学・森林工学・砂防学)

藤井 直之 (客員教授、地球物理学・地震予知)

増澤 武弘 (客員教授、環境動態分析、資源保全学)

安田 清 (客員教授、整形外科学・災害医療)

山岡 泰治 (客員教授、地域医療・放射線管理)

矢守 克也 (客員教授、社会心理学・防災心理学)

吉田 明夫 (客員教授、地震学)

吉野 篤人 (客員教授、救急医学・災害医学)

渡辺 俊樹 (客員教授、物理探査・地震波動)

柄谷 友香 (客員准教授、都市防災計画・土木計画)

秦 康範 (客員准教授、社会システム工学・安全システム)

林 能成 (客員准教授、地震学・地震防災)

学術研究員

大森 康智

特任事務職員

四ノ宮立男

松村元喜

パート事務職員

風間明子

鈴木あゆみ

中村恵美

三浦千恵子



## 2 研究成果

### 2.1 個人研究成果

防災総合センターには2014年4月時点で2名の専任教員が所属しているが、広範な課題に対応する防災の分野を2名でカバーすることは極めて困難である。このため当センターでは、多数の学内外研究者を特任教員、兼務教員、客員教員というメンバーとして迎え入れ、研究・教育活動のいっそうの充実を図っている。2014年4月現在で、特任、兼務、客員教員の総数は52名を数え、学内の全学部に少なくとも1名の兼務教員が所在するほか、東北地方～九州地方に渡る全国の大学・研究機関から31名の研究者に客員教員として当センターの活動に加わっていただいている。

本節では、これら当センター関係教員による最近の研究活動のトピックスを紹介する。いずれも日本の防災関係研究分野の第一人者であり、さまざまなユニークな取り組みが行われているところである。なお、論文等の研究業績は、2.2節を参照されたい。



写真 2-1 防災総合センター関係者  
(伊豆大瀬崎ビャクシンの天然林を現地見学, 2012年9月28日)

教員名：増田俊明

所 属：センター長・理学研究科教授・兼務教員

年報と称して2年に1回の報告の、今回は3回目です。まだ毎年発行するほどの実力は持っていない、という認識です。

このセンターの在り方として2年前と大きく違うところがありますので報告します。それは、専任教員の立場が変わった、ということです。昨年度の3月の教育研究評議会で、それまで任期付きの准教授2名が当センターには認められていましたが、それを「任期無しの教授1名と准教授1名」に変更することになりました。この変更で、「吹けば飛ぶような頼りないセンター」が「ちょっとくらい吹いても飛ばないセンター」になりました。

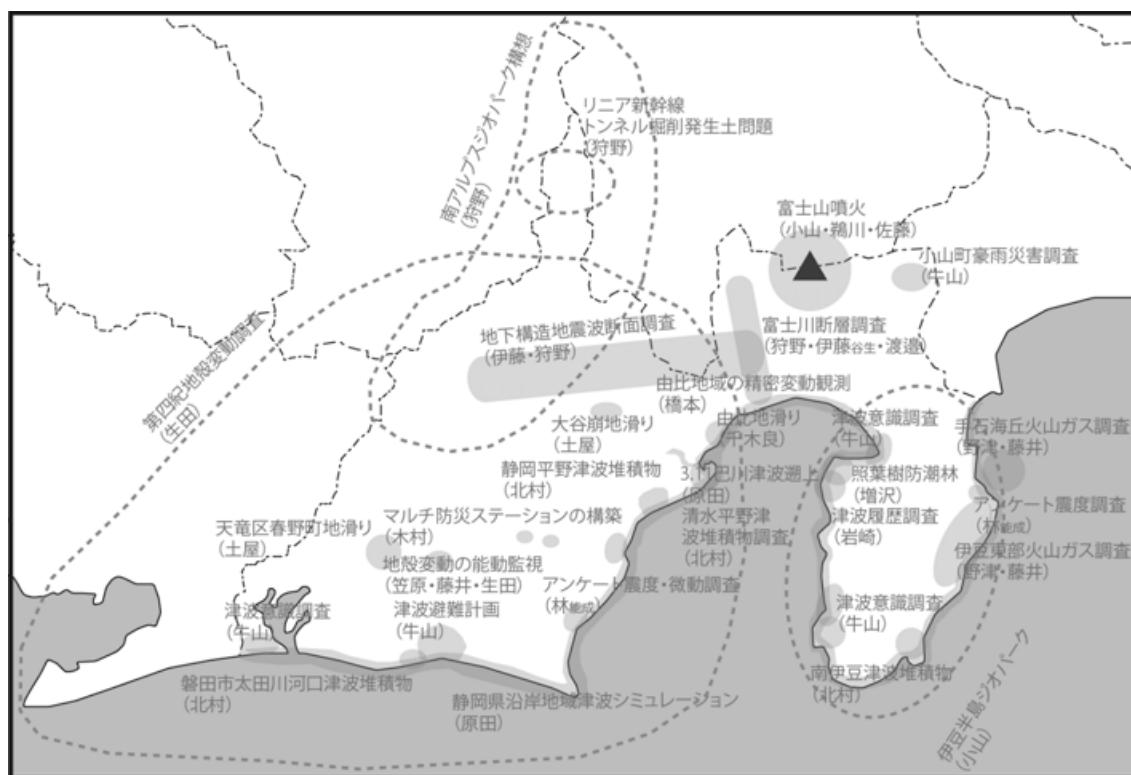


図 2-1 防災総合センターが静岡県周辺で行っている研究プロジェクト

教員名：牛山素行

所 属：副センター長・防災総合センター教授

自然災害科学および災害情報学を専門としています。豪雨・津波を中心に各地の災害時の現地調査に取り組み、災害情報の伝達や避難行動などの調査研究を行っています。

### ●豪雨・津波災害による人的被害の研究

豪雨災害による犠牲者が、どのような状況で亡くなられたのかを分類する研究を進めています。「高齢者などの災害時要援護者に情報が届かず、逃げ遅れて犠牲になっている」といったイメージが持たれがちですが、このような形態はむしろ少なく、年代に関わりなく車などで移動中に遭難するケースが少なくないこと、避難行動を取ったにもかかわらず遭難した人も存在することなどが明らかになりつつあります。この成果を基礎に、東日本大震災時の津波犠牲者についての分析も進めています

### ●避難・災害意識などのアンケート

豪雨災害や津波災害による被害を受けた地域などを対象に、避難行動や災害時の情報利用、防災気象情報に対する考え方などについてのアンケート調査を継続的に行っています。

- 防災気象情報に関するアンケート(2013年11月 大雨特別警報等)
- 防災気象情報に関するアンケート(2013年3月 警報のレベル化等)
- 大雨災害と防災に関するアンケート(岩手県住田町)

問：「大雨警報レベル1」～「大雨警報レベル5」のように、5段階のレベルで警報が発表された場合、死者の発生・住家の床上浸水や全壊などの被害が発生する可能性があると感じるのは、どのレベルですか。

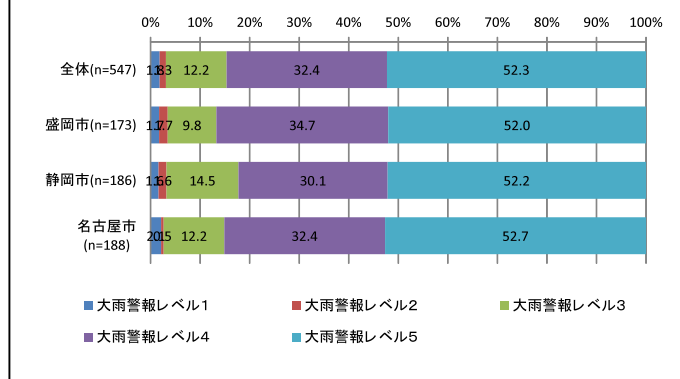


図 2-2 調査アンケートの一例

### ●当研究室の目指すもの

当研究室では、豪雨災害、津波災害を中心に、災害時の事例調査などをさらに推進し、災害情報の利用実態把握、災害情報への理解と防災行動などの関係検証を行っていきます。これらの成果をもとに、防災実務者の人材育成(ふじのくに防災フェロー養成講座)、ハザードマップ等、各種災害情報の伝達手段の中で、「どのような根拠に基づき、どのような内容の情報を、誰に伝えていくべきか」を考えていきます。

教員名：小山真人

所 属：副センター長・教育学部教授・兼務教員

静岡県周辺ならびに他地域の火山噴火史、地震活動史、地震火山防災、リスク情報の伝達・教育普及、ジオパークによる地域社会の活性化と防災基盤強化などに関する研究を進めています。また、東日本大震災以降は、火山灰の拡散過程についての知識を生かしながら、静岡県周辺地域への放射性微粒子の拡散・汚染状況についての調査研究、低頻度巨大災害リスクの定量評価と行政の意思決定方策に関する考察、噴火史研究の成果を活かした伊豆大島の土砂災害のメカニズムや歴史についての研究なども進めています。

こうした研究活動の一方で、静岡県防災・原子力学術会議 地震・火山対策分科会委員、富士山火山防災対策協議会委員、伊豆東部火山群防災協議会委員として、地域の火山防災体制確立のための助言活動に精力的に取り組んでいます。また、静岡県と伊豆半島7市8町が進める伊豆半島ジオパークの学術顧問をつとめ、活動の基本理念である「伊豆半島ジオパーク構想指針書」を書き上げるとともに、2012年9月の伊豆半島ジオパークの国内認定に貢献しました。

以上の作業と並行して、研究成果を一般市民にわかりやすい形で伝える書籍・資料を多数執筆するとともに、多数の講演会・公開講座の講師をつとめています。2012年4月からは静岡大学教育学部附属浜松小学校の校長も併任し、児童・保護者と地域社会に対して自然現象や自然災害についてのわかりやすい解説を機会あるたびに努めています。詳しい教育・研究・地域貢献活動の全貌については、研究室のWebサイト（以下、あるいは「小山研究室」で検索）をご覧ください。

[http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/public\\_html/](http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/public_html/)



写真 2-2 2013年8月に開催された第14回地震火山こどもサマースクール「南から来た大地のものがたり」（主催：日本地震学会・日本火山学会・日本地質学会）で野外実習と講義を担当する筆者。



**教員名：前田恭伸**

**所 属：副センター長・工学研究科教授・兼務教員**

私の専門は、リスクアナリシスならびにリスクアナリシスのための情報システムの開発です。2012年度～2013年度は、防災については主に3つの研究を進めました。

ひとつめは、自主防災組織を対象とした、図上訓練手法ならびに防災ゲームの開発に関する研究です。これはふじのくに防災フェロー養成講座受講生の渡邊さん、早川さんとの共同研究です。

ふたつめは、土木工事現場における災害リスクの早期警戒システムについての研究です。この研究は、元ふじのくに防災フェロー養成講座の受講生で、建設会社の経営者でもある中林氏との共同研究です。彼はフェロー養成講座終了後、社会人大学院である事業開発マネジメント専攻に入学し、センサーの研究を続けました。

三つ目は、東日本大震災が環境配慮行動に与えた影響についての調査です。大震災以降、節電など環境配慮行動が広がったといわれています。その実態について、震災前後のアンケート調査から比較分析しました。



**写真 2-3 土木工事現場の災害リスク早期警戒システム：試作品の現場検証**

**教員名：原田賢治**

**所 属：防災総合センター准教授**

津波の災害現象や防災対策についての研究を行っています。津波数値シミュレーションや現地調査、実験により災害現象の理解と対策効果の評価検討について研究を進めています。新たに、津波堆積物の形成過程を明らかにするために、水路を用いた水理実験による研究を進めています。また、海岸樹木の津波減衰効果を明らかにするために、現地樹木の引倒し試験を行い津波に対する限界を評価する手法についても検討をしています。さらに、沿岸自治体と協力して津波防災対策を地域で進めたもらうための計画作りなども行っています。国内だけでなく、津波災害の危険のあるインドネシアやチリと行った国に対しても津波防災対策が進む様に現地条件に適した対策の提案なども検討しています。

教員名：狩野謙一

所 属：防災総合センター特任教授

○ 赤石山地(南アルプス)の地形・地質の特性把握

南アルプス世界自然遺産登録推進協議会および同ジオパーク推進委員会の一員として、南アルプスの地質・地形に関する調査研究を行ってきた。2012～13年度については、特に地すべり・崩落などの斜面崩壊と地質との関連について注目した。その結果、これらの斜面崩壊は、その規模は別として、頻度に関しては高度との関係よりは基盤地質に大きく依存していることを具体的に示す事ができた。また、南アルプス主稜線付近での大規模斜面崩壊の前兆となる線状凹地について、荒川三山から赤石岳にかけて発達する凹地群の微地形の特徴を記載した。

○ 富士川河口断層帯の地下構造解析

伊藤谷生客員教授、渡辺俊樹客員准教授、防災フェロー講座受講生らと共同して、プレート境界が上陸する位置に発達する富士川河口断層帯の地下構造調査を、2011年度から行っている。前年度からの準備をふまえて、2012年4月に反射法地震探査を実施した。深部構造探査では、フィリピン海プレートの上面を確定することができ、地表部にみられる断層群は地下深部でプレート境界に収斂する可能性が示された。また大宮断層をまたぐ断層帯の東部の浅部高分解能探査では、同断層が従来考えられていた高角正断層ではなく、低角逆断層であることが明らかになった。これらの結果からみて、同断層帯の地震リスク評価を従来よりも高めに再検討する必要があることを指摘した。これらの結果については、地質学会、地震学会などで報告し、行政関係、報道関係にも説明している。2013年度には自然地震を用いた深部構造探査を行い、得られたデータを現在解析中である。また2014年度以後の高分解能探査の実施に向けた準備を行った。

○ リニア中央新幹線の南アルプストンネル掘削に伴う発生土置き場問題

リニア中央新幹線の南アルプス地下のトンネル掘削に伴う発生土を大井川上流部に廃棄する件について、JR東海が指摘した置き場(土捨て場)候補地についての地形・地質学的問題点を検討した。その結果、それらのうち二カ所については、斜面崩壊、土石流発生の観点から適地ではないことを言及した。この指摘は、静岡市長、静岡県知事によるJR東海への答申書に活かされている。また、この件に関しては、新聞、テレビ等を通じて繰り返し一般市民に対して解説をした。

**教員名：村越 真**

**所 属：教育部門長・教育学部教授・兼務教員**

認知心理学を基礎としてリスクマネジメントと安全教育の研究をしています。ハードな防災教育では限界があることが、東日本以来指摘されています。しかし、学校教育の中では、自ら考え、判断する力を養う防災教育の展開はこれからです。こうした安全・防災教育の現状を踏まえて、認知心理学的な視点から「自ら考える」「判断する」とはどのようなことかを検討することで、科学的な根拠を持った実践に活用できる安全教育やリスクマネジメントの教材開発を行っています。



教員名：池田恵子

所 属：教育学部教授・兼務教員

災害脆弱性やレジリエンスが社会的につくられるということに関心があります。東日本大震災は、災害が与える影響が、一人ひとりの被災者それぞれに異なることを改めて浮き彫りにしました。被害や復興において差異を生み出す要因は、ジェンダー、セクシュアリティ、年齢、障害や病気の有無・種類、国籍・母語、働き方や家族形態、ケア責任の有無・程度、地域の社会的ネットワークなどであり、それらが総合された自治体の減災力です。特に、ジェンダーに関しては、その他の要因とも横断的に関係するため、重要です。地域のレジリエンスを増強する取り組みも、そうした要因を組み込むことで、有効性を増すことができると考えます。

このような関心から、「東日本大震災女性支援ネットワーク」(2011年5月—2014年3月)、「減災と男女共同参画研修推進センター」(2014年4月—)のメンバーとして調査や研修を行ってきました。自主防災組織など地域で防災活動に関わる人々、災害支援に関わる自治体職員や民間支援団体の皆さんと共に、防災・被災者支援・復興などの活動がジェンダー・多様性の視点を持って行われるために研修カリキュラムや教材の開発に携わってきました。



(左) 東日本大震災女性支援ネットワーク、2012、  
『こんな支援が欲しかった！ ～現場に学ぶ、女性  
と多様なニーズに配慮した災害支援事例集～』

日本語版 <http://risetogetherjp.org/?p=2189>

英語版 <http://risetogetherjp.org/?p=3909>

(右) 東日本大震災女性支援ネットワーク、2013、  
『男女共同参画の視点で実践する災害対策：テキスト  
災害とジェンダー〈基礎編〉』(浅野幸子と共著)

また、静岡県が自主防災組織向けに作成した「男女共同参画の視点からの防災手引書」の作成と、防災分野での女性人材育成のお手伝いをさせていただきました。

地域防災の体制に、女性や多様な立場の人々の視点と参画が必要であるという考えは、徐々に浸透していますが、まだまだこれからです。今後は、このテーマで、いろいろな場で語れる人の育成に取り組んでいきたいと考えています。

教員名：岩崎一孝

所 属：情報学研究科教授・兼務教員

地理情報システムを援用した防災研究を進めています。

2011年には、大学院の指導学生の山本和希君とともに、浜松市内の小中高等学校に対してアンケート調査を行い、今回の東日本大震災前後での東海地震に対する意識の変化を明らかにし、その成果をWiNF2011論文集にて発表しました。

2012年には、防災フェローの島田千亜紀氏との共同研究で、沼津市戸田地区における小中学生の津波に関する防災意識の実態を把握するため、該当地域の津波災害履歴を整理するとともにアンケート調査を行い、その研究成果をWiNF2012論文集にて発表しました。

2013年には、浜名湖河口付近の自然環境や街道の変遷を、地理情報システムを援用して解明し、その成果をISRS2013論文集にて発表しました。この発表において、鎌倉時代には、浜名川河口付近に浜名橋が架けられており、街道は、浜名湖の海岸沿いを東西に走っていた。1498年の明応地震により、今切が形成されたため、街道は大きく北へ変更された。江戸時代には、徳川家康が新居に関所を設置し、新居宿が発展していったが、宝永地震、安政東海地震や暴風や高潮・高波などの自然災害が起きるたびに、新居関所の場所や東海道のルートを変更せざるを得なかったことなどを地図上で明らかにしました

さらに、指導学生に対しては、毎年、防災に関する卒業研究をテーマとして与え、以下の成果を上げています。(最近2年間の卒業論文を記載)

横山康晴:「牧之原市の地震防災研究 ―津波研究を中心に―」, 静岡大学情報学部卒業論文、  
2014年3月.

佐藤功平:「静岡県松崎町における津波被害の歴史と防災対策」, 静岡大学情報学部卒業論文、  
2013年3月.

渡邊奈央:「浜名湖周辺地域の地震被害復元」, 静岡大学情報学部卒業論文、2013年3月.

**教員名：北村晃寿**

**所 属：理学研究科教授・兼務教員**

#### 最近の研究活動

2011年3月の東北地方太平洋沖地震の発生を受け、静岡平野、清水平野、下田・南伊豆町で津波堆積物と古地震の調査を行ってきた。その結果を以下に列挙する。

(1) 静岡平野から3枚の推定津波堆積物を見出した。それらの年代は西暦1000年頃、3565-3486 cal BP, 4000 cal BP頃で、3565-3486 cal BPのものは駿河湾か南海トラフ東部の海溝型地震による可能性がある (Kitamura et al., 2013, The Holocene, 23, 1682-1696)。

(2) 清水平野から4枚の先史時代の推定津波堆積物を見出した。それらの年代は6180-6010~5700-5580 cal. yr BP, 5700-5580~5520-5320 cal. yr BP, 4335-4125~4250-4067 cal. yr BP, 3670-3540~3500-3360 cal. yr BPである。西暦1498年の明応地震か西暦1707年の宝永地震によるイベント堆積物を確認した (Kitamura & Kobayashi, 2014, The Holocene. doi:10.1177/0959683614530447)。

(3) 地質学的・古生物学的証拠から、西暦1854年の安政東海地震に伴う清水平野の最大隆起量は1.2 mと推定した (Kitamura & Kobayashi, 2014, The Holocene. doi:10.1177/0959683614530447)。

(4) 南伊豆町の後背湿地堆積物からは津波堆積物は検出されなかった (北村ほか, 2013, 静岡大学地球科学研究報告, 40, 1-12)。

(5) 下田市周辺の隆起貝層から同地域が西暦570-820年, 西暦1000-1270年, 西暦1430-1660年に1 m余りの隆起があったことが分かった (Kitamura et al., 2014, Island Arc, 23, 51-61)。

#### 今後の研究展望

(1) 静岡・清水平野に見られる推定津波堆積物で、両地域に分布する可能性があるのは、静岡平野の3565-3486 cal BPの推定津波堆積物と清水平野の3670-3540~3500-3360 cal. yr BPである。よって、この推定津波堆積物をもたらした津波が、過去数千年間で静岡周辺に襲来した津波の中で最大のものであると思われる。今後、この津波堆積物の分布域を静岡平野西部や焼津市周辺において調査する。

(2) 南伊豆町からは津波堆積物が検出されなかったが、その周辺では過去2000年間に3回の突発的隆起が起こったことが判明した。この隆起は地震による可能性が高いので、伊豆半島南端における過去数千年間の地殻変動の動態について調査し、地震履歴を解明する。

(3) 国は2013年5月の「南海トラフの地震活動の長期評価の第二版」で、南海トラフの東端については、駿河トラフのトラフ軸から富士川河口断層帯を結ぶ線としているが、遠州灘~銭州海嶺付近~新島・神津島付近~相模トラフのどこかにも巨大地震の震源域に含まれる領域が存在する可能性がある、とした。この問題提起を踏まえて、新島に隣接する式根島の隆起貝層の調査から、“巨大地震の震源域”の過去数千年間の地殻変動を解明する。

(4) 安藤雅孝客員教授と共同で、石垣島の津波堆積物の調査を行う。

**教員名：藤井基貴**

**所 属：教育学部准教授・兼務教員**

研究室では「自律的思考」(Selbstdenken)を鍵概念として、学生たちと共にその形成を目指す教育活動に関する実践的な研究を進めています。これまでの取り組みとしては、2011年度より、防災教育と道德教育を連携させた「防災道德」の授業開発および実践を行い、その改善と普及を進めてきました。また、2013年度からは「ふじのくに防災フェロー養成講座」を通して、特別支援学校における防災教育にも取り組んでおります。2014年度は研究室の取り組みが内閣府主催の「防災教育チャレンジプラン」に採択されました。学校、地域、家庭との連携を進めながら、取り組みのさらなる充実を図りたいと考えております。

教員名：木村浩之

所 属：理学研究科准教授・兼務教員

#### 付加体深部地下での微生物の活性と地域特性の把握

静岡県中西部の温泉用大深度掘削井より、地下水および付随ガスを採取した。その後、地下水に含まれる各種イオン濃度、付随ガスの組成、付随ガスに含まれるメタンおよび地下水に含まれる溶存態無機炭素（主に、炭酸水素イオン）の炭素安定同位体比を分析した。さらに、地下水に含まれる発酵細菌およびメタン生成菌をターゲットとした嫌気培養を試みた。その結果、地下水は水温 28.2℃から 64.5℃まで比較的高温であること、pH は弱アルカリ性であること、酸化還元電位は嫌氣的であることが示された。付随ガスの化学分析においては、ほとんどの大深度掘削井において 97%以上がメタンであることが明らかとなった。さらに、メタンと溶存態無機炭素の炭素安定同位体比から、メタンは微生物起源であることが示された。一方、メタン生成菌を対象とした嫌気培養実験において、 $H_2+CO_2$  を添加した培養系からメタン生成が確認された。また、地下水に酵母エキス、ペプトン、グルコースからなる混合有機基質とメタン生成菌に特異的な阻害剤を添加した嫌気培養実験においては、発酵細菌による高速の水素ガス生成が確認された。さらに、地下水に混合有機基質のみを添加した嫌気培養実験では、水素発生型発酵細菌と水素資化性メタン生成菌による高速のメタン生成が観察された。これらの結果より、付加体の深部地下水と地下圏微生物を利用して水・ガス・電気を自家的に生産する「新規エネルギー生産システム兼災害時防災ステーション」が、当初の予想より広い付加体分布域において構築できる可能性が示唆された。

#### 中型嫌気培養槽を用いたメタン・水素ガス生成技術の開発

静岡県島田市の大深度掘削井より地下水を採取し、中型嫌気培養槽に注入した。地下水に含まれる付随ガスを窒素ガスで置換したのち、酵母エキス、ペプトン、グルコースからなる混合有機基質を添加した。水素ガス生成実験においては、混合有機基質に加えてメタン生成菌に特異的な阻害剤も同時に添加した。その後、55℃にてインキュベートし、24時間毎に pH、吸光度、培養槽内の圧力を測定した。さらに、ガスクロマトグラフ (GC-TCD) を用いて培養槽の気相の水素、窒素、メタン、二酸化炭素の濃度を測定し、メタン生成速度及び水素ガス生成速度を算出した。最終濃度 0.2%の混合有機基質を添加したメタン生成実験の結果、高速のメタン生成が観察された。また、最終濃度 0.2%の混合有機基質とメタン生成菌阻害剤を添加した水素ガス生成実験においても、高速の水素ガス生成を確認した。これらの結果は、当研究室にて開発を進めている「新規エネルギー生産システム兼災害時防災ステーション」の開発に向けた重要な基盤データとなる。

**教員名：橋本 岳**

**所 属：工学研究科准教授・兼務教員**

私は画像計測の観点から、防災に関する研究を行っています。具体的には、ブロック擁壁の変形、土石流の流動計測等の研究を行っています。屋外遠距離でも高精度な計測が可能という特長を生かして、実用的な研究を進めたいと考えています。

**教員名：今泉文寿**

**所 属：農学研究科准教授・兼務教員**

土砂災害の発生メカニズムの解明を、現地調査と物理メカニズムの検討の両面から進めています。2013年には伊豆大島において大きな土砂災害が発生し、火山地域で発生する土砂災害への対応の難しさが改めて明らかになりました。また、計画規模を超える土砂移動へどう対処するかは、今後の大きな課題といえます。

土砂災害を引き起こすような大規模な土砂移動は、突発的に発生することが多く、発生メカニズムを解明するために必要な現地データの収集が困難です。現在、我が国でも有数の土砂移動の活発さをほこる南アルプスを主なフィールドとし、新たな調査手法の開発や、発生メカニズムの解明につながる観測データの蓄積に努めています。

教員名：生田領野

所 属：理学研究科講師・兼務教員

地下を通ってくる地震の波は、岩石の強さや受けている力の状態によって伝わり方を変化させます。私は微弱な地震の波を人工的に放射する装置を使って、地球の浅い部分（地殻；といっても 30km と結構な深さ）の状態の変化を監視する研究をしています。また船の上から深さ数 km の海底がたった数 cm 動くのを超音波で捉える手法の開発研究もしています。これらを通してプレートテクトニクスによって力を溜めこんだ地球表面が地震を起こすまでのプロセスを解明することを目指しています。

さらに 2011 年の東北地方太平洋沖地震の発生以降、世界の沈み込み帯で巨大地震が発生しうる場所を予め知りたい（東海・東南海などは確実に発生することがわかっているわけですが）という思いを強くし、過去の地震の発生履歴からこれを研究する取組を行っています。

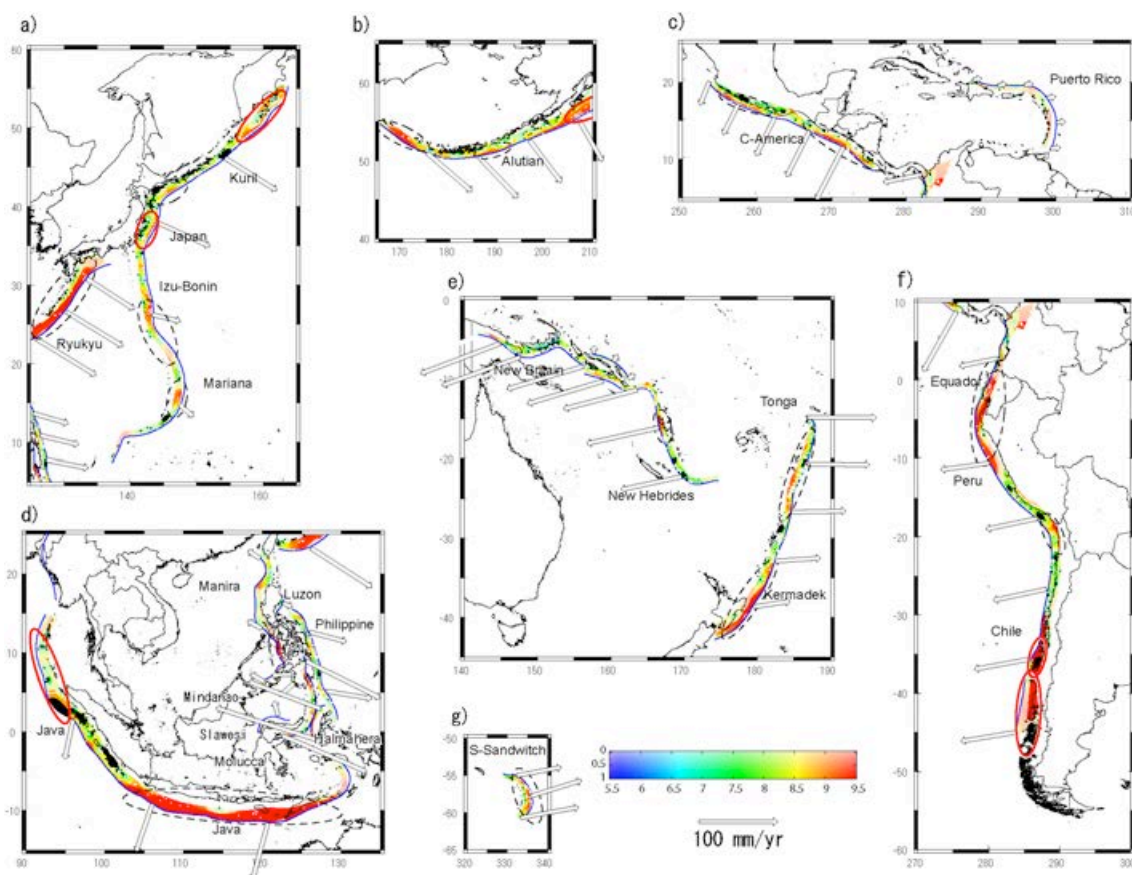


図 2-4 巨大地震を準備している領域は、プレートの収束にもなって徐々にひずみを溜めこんでいる。過去 100 年の地震の履歴から、プレートの収束速度に対して地震によるすべりが足りていない領域の広さを見積もった（広い場所が赤・狭い場所は緑）。すべり足りていない領域の広さが、その場所が準備している巨大地震の震源域の広さを反映する（EPSL に投稿中）。矢印はプレートの収束方向と速度を表す。



教員名：石橋秀巳

所 属：理学研究科講師・兼務教員

私は、マグマ物性に関する室内高温実験と、天然の火山噴出物の観察・分析との二方向から、マグマの噴火ダイナミクスについて研究しています。

前者の研究では主に、マグマのレオロジーにおよぼす斜長石結晶作用の影響について調べています。火山噴火時におけるマグマのふるまいは、そのレオロジー的性質に決定的に支配されます。そして、マグマのレオロジーは、マグマ中に浮遊する結晶の量や形状に著しく依存します。中でも斜長石結晶は、晶出する量の多さと扁平な形状から、マグマのレオロジーに及ぼす影響が最も大きい鉱物であり、その効果を定量的に明らかにすることは、火山噴火時におけるマグマのダイナミクスを理解・予測するうえで重要といえます。2012-13年度は、40vol.%ほどの斜長石を含むマグマの高温一軸圧縮変形実験を行い、そのレオロジー的性質を実験的に検討しました。その結果、マグマの粘性率が、斜長石浮遊結晶の結晶方位分布に依存して2~3桁も変化することを発見しました。そして、この性質は、マグマの変形の局所化を引き起こすことによって、火山噴火様式が爆発的になるか、非爆発的になるかのダイナミクスを左右する可能性があることもわかってきました。現在、更に理解を進めるために、実験試料の組織解析に取り組んでいます。

後者の研究では、富士山や東伊豆単成火山群の火山を対象とし、噴出物の化学的・組織的特徴からマグマの噴火ダイナミクスを解読する試みに取り組んでいます。2012-13年度には、理学部地球科学科4年生（当時）の高島淳君の卒業研究として、伊豆半島カワゴ平火山の噴火ダイナミクスに関する研究を行いました。カワゴ平火山はおよそ3100年前に伊豆半島中部の天城山麓で噴火した流紋岩質単成火山です。この噴火では、爆発的なサージ噴火からはじまり、激しいプリニー式噴火と火砕流の発生を経て、溶岩流の流出で収束したことが知られています。本研究では、この様式の異なる噴火での噴出物それぞれについて斑晶鉱物の化学組成からマグマの経てきた温度圧力経路と含水量を推定し、それらの比較を行いました。その結果、いずれの様式で噴火したマグマも、深さ2.5 km以深で経てきた経路は全く共通であり、噴火様式の多様性は深さ2.5 kmより浅部での上昇過程で生じたことがわかりました。この研究は、理学研究科地球科学専攻に進学した高島淳君が修士研究として引き続きすすめています。この他、富士山についても、貞観噴火や宝永噴火の噴出物の分析を行い、その噴火ダイナミクスの検討に取り組んでいます。

教員名：三井雄太

所 属：理学研究科助教・兼務教員

(1) 震源力学の物理シミュレーションに基づく地震発生過程の理解。特に、流体の影響による断層摩擦の非線形な振る舞いが引き起こす、地震発生過程の多様性について研究を行ってきた。マグニチュード9級の2011年東北地方太平洋沖地震の発生について、この枠組みからの説明が可能であることを示した。

(2) 地球物理学的観測データ、特にGNSSによる地表変動の連続モニタリングデータの解析から、巨大地震後の地球自由振動や津波伝播による地表の加重変形など非常に小さなシグナルを検出する試みを行った。

教員名：石川有三

所 属：(独)産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門 招聘研究員・客員教授

アジア・環太平洋地域の地震活動のデータベースを作成しています。大きな地震の位置を点や丸だけで表すと実際は震源域という広がりを持った領域で表す方が良いので、そのデータも作っています。その中で南海トラフのように1854年の安政東海地震 M8.4 が起きた2日後に安政南海地震 M8.4 が起き、昭和でも1944年に M7.9 東南海地震、1946年に M8.0 南海地震と続発する傾向のある地域がありますが、環太平洋には同じような傾向がある地域があり、そのような地域の特徴を調べています。

そのほか、海外で目立った地震が起きたときにその地震に関する参考資料を下記ホームページに掲載しています。興味があったらご覧ください。

<http://www.ab.cyberhome.ne.jp/~catfish/zisin.html>

教員名：伊藤 潔

所 属：(株)阪神コンサルタンツ・客員教授

通常、地殻内の浅い地震は地下数 km の深さまでは発生していない。どの深さまで地震が発生するかは、地震の発生原因を知る上で重要である。一方、原発などの耐震設計のための地震動を設定する場合は、地下数 km 以浅にある地震断層を仮定するが、その際断層の上限をどの深さにするかは、地震動の大きさに大きく影響する。実際、大飯原発では上限を 3km にするか 4km にするかで、規制委員会と関西電力が攻防戦をやった。

地震発生の上限は地表に近い割には決めるのが難しい。特に上限を決めるための地下構造と観測網が十分な条件を満たしていないためである。この解明のためにいくつかの地域のデータを集めて解析を行っている。

たとえば、2000 年鳥取県西部地震の調査結果は数少ない良質のデータである。発破、バイオプロサイスによる構造探査と共に、50 点以上の観測点間隔 2km 以内の稠密余震観測が実施されているからである。この解析結果によると鳥取県西部地震地域では余震は深さ 2km 以深で発生していることが分かった。この付近の P 波の速度は 5.2km/s 程度である。また、 $V_p/V_s$  比は 1.8~1.9 程度と求められた。地震は一様に発生するわけではないので、地震が発生しない地域の地震の上限はこのような地震波速度を参照することになる。上限は地域的に異なるので、1km の精度で決めるには大がかりな調査が必要である。

建築物は地上から地下数百 m に設置されているので、今後、このようなデータが蓄積され、方法が確立して耐震設計に生かされていくことが必要であると考えられる。

教員名：伊藤谷生

所 属：帝京平成大学現代ライフ学部教授・客員教授

2011～2013 年度科学研究費補助金『基盤研究 A』によって富士川河口断層帯から糸魚川静岡構造線までの地殻構造解明のために 2012 年 4 月、富士川河口断層帯－糸魚川静岡構造線横断地震探査（Fujikawa-kako fault system－Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line Transect = 2012FIST）を静岡大学防災総合センターと共同して行った。この 2012FIST によって取得されたデータの解析、ならびに構造地質学的調査・研究によって、(1) 富士川河口断層帯は西傾斜逆断層であり、その下部はフィリピン海プレート上面に近接している、(2) 同断層帯東縁の大宮断層は高角正断層ではなく浅部で低角化する衝上断層群の一つである、(3) 従来の垂直変位速度に基づく同断層帯活動性評価は過小評価の恐れがある、などが明らかとなった。富士川河口断層帯は相当量の横ずれ運動を含んでいると思われるので、活動性の正確な評価のために 3 次元的な調査の準備を始めたところである。

教員名：岩松 暉

所 属：鹿児島大学名誉教授・(株)防災地質研究所所長・(株)建設技術研究所顧問  
・客員教授

2014年1月12日は、わが国が20世紀に経験した最大の火山噴火である桜島大正噴火のちょうど100周年に当たる。さまざまな記念行事が行われたが、主として、火山活動の今後の推移と島民避難に焦点が当たっていた。島民以外の人にとっては人ごとであり、あまり関心と呼ばなかった。鹿児島大学地域防災教育研究センター特任教授時代、南日本新聞社と共同で、始良カルデラ湾岸の約200事業所を対象に、アンケート調査を行ったが、事業継続計画(BCP)を策定し実践しているところはほとんどなかった。そこで、この2年間は、あらゆる機会を利用して、火山災害が同時多発広域複合災害であることを啓発した。

また、いちき串木野市の神社社伝に江戸時代津波被災との記述があったので、近くに川内原発があることでもあり、東シナ海沿岸の津波堆積物調査に当たっている。

教員名：風間 聡

所 属：東北大学大学院工学研究科土木工学専攻教授・客員教授

防災に関して下のような内容の研究を行っています。主に水に関するものです。

#### 1. 気候変動に伴う洪水リスクの推定

気候変動による日本の洪水被害額を推定しています。複数の気候モデル（GCM）から得られた降雨データを、洪水氾濫モデルに入力して、再現確率に応じた氾濫水深、湛水期間を求め、治水経済マニュアル（案）に従って被害額を計算します。その結果、2100年頃には、一般資産で年間4000億円の程度上昇することが求められました。この結果は地図情報で提供されるので、脆弱な地域を俯瞰的に判断することができます。

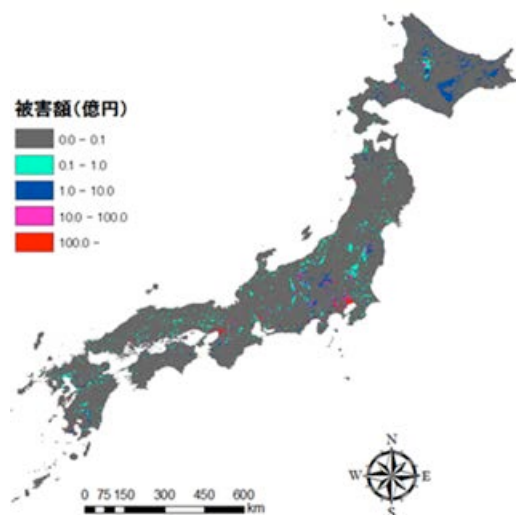


図 2-5

#### 2. タイ国の斜面災害ハザードの推定

起伏量、地下水水位、地質に基づいた斜面崩壊確率モデルをタイ国に適用しています。地下水水位は、降雨データを入力値として不飽和飽和地中流モデルを計算されます。複数のGCMを入力して、気候変動後のハザードを推定します。本成果は、タイ国灌漑局との共同研究であり、ハザードマップの3県に配布しました。将来のリアルタイム推定を見越して、灌漑局には推定モデルの簡易版が提供されています。

#### 3. 複合災害の評価手法の開発

現在の河口付近の堤防には、高潮と洪水が同時に生じたときのことが考慮されていません。そこで、再現期間を求める関数を洪水、高潮ともに求め、同時に発生した場合と同年に発生した場合の被害額を比べました。日本全体で見ると、50年確率のような大きい災害の場合、同時に発生してもそれほど大きな相乗効果がないことがわかりました。但し、同年に生じると、思わぬところで被害がでる可能性もあります。

#### 4. 秋田県米代川流域の洪水予測精度の向上

高精度な分布型物理流出モデルを開発しています。多くの同様のモデルはピーク流量の推定に問題があります。これを解決するための基礎研究をはじめています。降雨パターンの解析やモデルの性質などを、モデル定数に反映させることを目指しています。

教員名：近藤昭彦

所属：千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授・客員教授

旧計画的避難区域であった福島県伊達郡川俣町山木屋地区において放射能調査等を継続して行った。基本的な考え方は帰還そして復興を目指す住民の意志に従い、必要な科学的知見・成果を提供することである。放射能対策に対する考え方は、里山流域を最小単位として、地域における暮らしとの関わりの程度に応じた優先順位の元で、放射能対策を進めるということである。これは地理学における人と自然の関係性を中心とする考え方である。そのための放射能調査を行った。

山木屋地区北部の流域を対象として、空間線量率、落葉(リター)層、土壌、水の放射能濃度を計測したが、その結果、放射能、ここでは放射性セシウムは流域一様ではなく、高標高域を中心に極めて不均質に分布していることが明らかとなった。特に南西向き(東電福島第一原発方向)斜面の、常緑針葉樹林において局地的に空間線量率の高い領域もある。数 m 離れて空間線量率が大きく異なることもある。

放射性セシウム濃度は落葉層(L層、F層)が高く、土壌層(A層)への移行はまだ進んでいないことも明らかとなった。原発事故後2年目の秋に落葉したL層の放射性セシウム濃度が高いことは、カビや菌類による放射性セシウムの吸い上げも予想できる。山木屋地区は花崗岩山地であり、山容はなだらかで、山頂部には前輪廻地形である頂部平坦面が広く存在する(牧草地として利用されている場所が多い)。そこでは、土壌浸食や落葉の移動は活発ではなく、放射性物質の移行は緩慢である。また、水に溶けて移行する放射性セシウムは微量であり、懸濁物質とともに移行する放射性セシウムをコントロールする、すなわち溪流に到達する土砂や落葉を制御できれば流域外への移行は軽減できると考えられる。

放射能対策としてはまず沈着量の大きな場所、いわゆるホットスポットを探すことから始め、次に、ホットスポットにおいて落葉層を剥がす(除染)、ためる(隔離)、移行防止(封じ込め)を小技術・中技術により行うことができると考える。小技術、中技術とは個人およびコミュニティで適用可能な技術であり、筋工や粗朶伏工といった日本が培ってきた砂防、緑化技術を用いることができる。地域では復興公社(仮称)やNPO等の組織を立ち上げ、そこに国や民間の予算を投入し、放射能対策を地域で担当することにより、時間をかけることにより放射能対策を進めることができると考える。

以上は三年間現場で行った調査結果に基づく提案であり、旧計画的避難区域縁辺部の避難指示解除準備区域に対する提案である。国は帰還や移住など、様々なオプションを認めた上で、その上で長期的な対策について地域と協働であたるべきである。人が行為を決める基準には合理性、理念、共感の三つがあると考えられる。この三つが共有できる状況を作り出すことが、災害からの復興における基層をなす考え方だと思われる。



**教員名：佐藤 健**

**所 属：東北大学災害科学国際研究所教授・客員教授**

石巻市教育委員会、神戸大学、宮城教育大学、山形大学との連携研究として、石巻市立鹿妻小学校における復興教育プログラムの開発と実践に取り組んだ。その成果は、日本安全教育学会年次大会をはじめ、第9回 APRU マルチハザードシンポジウム（台湾）、カンタベリー大学（ニュージーランド）との国際交流など、国内外において情報発信を行うことができた。また、文部科学省指定研究開発学校運営指導委員会・委員長、宮城県防災専門教育アドバイザー、仙台市新たな学校防災教育推進協議会・座長、石巻市学校防災推進会議・委員などを担い、被災地の教育復興に関する社会貢献を果たした。

**教員名：千木良雅弘**

**所 属：京都大学防災研究所教授・客員教授**

私は、地すべりや崩壊を地形・地質学的に研究しています。最近では、2009年8月に台湾で発生した小林村の深層崩壊、2011年9月に紀伊山地で台風12号によって発生した深層崩壊などの調査を行い、その様子は2010年の6月放送のNHKスペシャル「深層崩壊が日本を襲う」と2012年9月放送のNHKスペシャル「崩れる大地」として紹介されました。これらの経験から降雨による深層崩壊のほとんどが重力によって変形した斜面で発生すること、これらの変形を解析することによって、崩壊発生場所の予測が可能であることがわかりました。今後、関東から西南日本にかけて巨大地震が予想されていますが、私は地震によって発生する深層崩壊の研究も進めています。その中の一つのタイプは、静岡県でも1978年伊豆大島近海地震で発生した降下火砕物の崩壊性地すべりです。このタイプは、環太平洋の火山地帯で広く発生しているものと考えられ、調査対象をインドネシアにも広げています。これらの研究成果の一部は、著書「深層崩壊」として取りまとめました。

教員名：中川和之

所 属：(株) 時事通信社解説委員・客員教授

地震学会から日本ジオパーク委員会の委員となっており、講演などの 4 割がジオパークになっています。それぞれの地での大地と人の関わりを楽しく知ること、「究極の防災教育」（小山真人静岡大学防災総合センター副センター長）にもなりうるテーマです。2013 年に三陸ジオパークが日本ジオパークネットワークのメンバーになるなど、33 地域のうち半数以上が近年の大規模災害の被災地です。ジオパークでの大地と人のストーリーは「地元で語れば地域防災、外に語れば観光ガイド」とも言われます。静岡県内でいまのところ唯一の伊豆半島ジオパークは、センターで支援を行っていますが、今後、伊豆大島や箱根のジオパークと、日本列島にぶつかっているフィリピン海プレート側のジオパークとして、ネットワークで活動していくことも期待しています。



写真 2-4 ジオの魅力にとりつかれてます  
(2014年1月 伊豆半島・城ヶ崎海岸で)

教員名：野津憲治

所 属：東京大学名誉教授・客員教授

## 1. 手石海丘火口からの揮発性物質放出調査

1989年7月13日に、伊東から2km離れた水深約90mの海底で火山噴火が発生し、手石海丘が形成した。噴火直後には火口底から激しい発泡があったが、1991年9月には発泡も殆ど止まり、噴火時には100°C近かった海底温度も1994年3月には30°Cまで下がった。噴火後の手石海丘の火山活動の監視は、地震活動、地殻変動、変色水観察で行われてきたが、揮発性物質放出の調査は全く行われなかった。今回はじめて、静岡大学、東京大学、名古屋大学、伊豆半島ジオパーク、スペイン ITER の計14名の共同研究チームを組み、火口からの揮発性物質放出の状況を、採取した海水に溶存する成分の分析で明らかにした。

2012年7月17日、火口直上に停泊させた漁船（みのる丸）から内径12mmの特殊ホースを最水地点に降ろし、海水は甲板上に置いたチューブポンプで吸引して、試料容器に導入採取した。海水採取地点は火口底直上の3地点と火口上の水深100m、80m、50mの3地点の合計6地点である。

1989年の噴火の発泡地点に近い地点の火口底海水試料の全無機炭素(TIC)濃度やメタン(CH<sub>4</sub>)濃度は、火口外浅部の海水に比べわずかに高く、火口底からの物質の付加が明らかとなった。付加物質の起源は炭素同位体比(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)や放射性炭素(<sup>14</sup>C)量から特定され、低温の火山ガス起源であった。この結果は、大量の発泡が起きた噴気孔から火山起源の揮発性物質が23年たっても滲み出していることを示しており、ヘリウム同位体比(<sup>3</sup>He/<sup>4</sup>He)にもマグマ起源のヘリウムの混入が現れている。しかし、海水中の火山起源の揮発性物質濃度は噴火直後に比べ1万分の1以下と極めて少なく、実質的に0に近いことは、手石海丘の噴火活動が終息していることと整合的である。次の噴火も手石マグマに繋がる岩脈上の何処かで起きるなら、手石海丘の揮発性物質放出にも変化が現れる可能性があり、手石海丘から放出される揮発性物質の監視は学術的にも興味深い。

## 2. 伊豆東部火山群の火山ガス拡散放出研究

2011-2013年度科学研究費助成事業、基盤研究(C)に採択された課題「単成火山のマグマ上昇はマグマ起源揮発性物質の拡散放出から捉えられるか」の研究を行った。群発地震震源域の陸上部分のCO<sub>2</sub>拡散放出量は、2011年、2013年の調査でいずれも生物活動由来のバックグラウンドレベルで、マグマ揮発性物質の拡散放出は検出できなかった。4000年前の噴火で生成した大室山のCO<sub>2</sub>拡散放出量の二次元分布を精密に求めたところ、山頂火口内で少し高く、火山体全体からのCO<sub>2</sub>拡散放出総量は1日あたり(22±2)トンと極めて少なかった。また、2700年に噴火した岩ノ山から伊雄山に至る火山列を横切る3測線では測定を繰り返す、割れ目に沿うマグマ揮発性物質の拡散放出があるか検討している。

教員名：林 拙郎

所 属：三重大学名誉教授・客員教授

### 1. 火山地域における豪雨の土砂災害発生時刻への影響—阿蘇と伊豆大島被害地との対比—

2012年7月熊本県阿蘇地域の阿蘇火山外輪山の斜面に多数の土砂災害が発生した。また、2013年10月伊豆大島の西側斜面においても大規模な土砂災害が発生した。どちらも火山地域における土砂移動であるが、大島では溶岩上部レス層上の火山灰(砂)覆われた表土層の崩壊土砂が流下し、土砂(石)流となって家屋を襲った。両者とも、夜半から未明にかけて発生したもので、夜間ということでは、小規模ではあったが、2012年滋賀県大津市に発生した土砂災害と類似して夕方から深夜にかけて降雨が激しくなるという、避難のタイミングが難しい事例であった。それと同時に、実質6時間の間に強雨が集中し、アメダス阿蘇乙姫では最大6時間雨量が459.5mmであり、アメダス大島では549.5mm、滋賀県大石雨量計で207mmであった。解析では、これまで実効雨量の係数 $a$ と1段タンクモデルの流出係数 $b$ の一次関数関係を示し、土砂災害発生時の係数 $b$ と地域雨量 $R_{1/2}$ との関係を示した。両者の関係は、実効雨量の係数に関する特性線ということができる。本研究では、火山地域の土砂災害である阿蘇地域と伊豆大島における崩壊および土石流の発生に対して実効雨量の係数特性値を算出し、これまでの特性線との比較検討を行っている。

### 2. 改良法による大規模崩壊の発生予測法—四万十帯を中心にして—

2013年テレビ報道等で世間の耳目を集めた静岡県浜松市茶畑の大規模崩壊は、15日間無降雨が続いた後、4月23日04時に発生した。無降雨状態での大規模崩壊は、長野市地附山の事例が有名であるが、その他に今回採り上げる宮崎県日向土木事務所管内の崩壊がある。本事例は、四万十帯の崖状斜面の上部にて土塊の移動量が測定され、崩壊が予知された数少ない例である。移動計測は、4月8日からされ、崩壊までの日数は14日間であった。現地斜面は、上部に茶畑が広がり、末端から崖面にかけて森林が生育する急斜面となっており、崖下を杉川が曲流する攻撃斜面であった。同じような四万十帯での大規模崩壊として、1990年5月31日に発生した宮崎県国道327号の切土斜面の崩壊がある。この場合も、崩壊まで33日間計測され、実地における移動計測データとしては、貴重な事例となった。両事例とも、発生当日、無降雨状態における崩壊で、移動計測がなされた貴重な例であり、各方面から解析が期待される事例である。本研究では、斎藤・福囿の崩壊の発生予測の改良法として移動速度を片対数グラフ上にて展開する方法を改めて提案している。

**教員名：増澤武弘**

**所 属：静岡大学大学院理学研究科特任教授・客員教授**

本研究は、東北三陸地域の海岸で津波に対し強い抵抗性を示した照葉樹に着目し、その性質を生かして、東海地域のクロマツ林の一部を潜在自然植生である照葉樹に変えていくことに対する論理的構築を試みるものである。

現在までの調査では、伊豆半島の大瀬崎ではビャクシンが、戸田ではイヌマキが、安良里ではウバメガシが優占する群落とであることが示された。さらに、これらの群落では植物種の多様度が高いことも示された。以上のように防災に関する基礎的な研究を行っている。

教員名：矢守克也

所 属：京都大学防災研究所教授・客員教授

2012年度から、文部科学省の「特別経費（プロジェクト分）」の支援を受けて、新規に大型研究プロジェクトを開始しています。研究テーマは、「巨大地震津波災害に備える次世代型防災・減災社会形成のための研究事業－先端的防災研究と地域防災活動との相互参画型実践を通して－」【略称：減災社会プロジェクト（GSP）】で、研究プロジェクト代表者を私がつとめております。おかげさまで、すでにいくつかの成果が上がっています。詳細および最新の情報は、こちらのウェブサイトをどうぞご覧ください。

※減災社会プロジェクト WEB サイト→<http://www.drs.dpri.kyoto-u.ac.jp/gsp/>

また、昨年から今年にかけて、新しい本を数冊出版しました。新しいところでは、まもなく（2014年6月）、『時代 QUEST－災害編－：被災地 DAYS』（弘文堂）が出ます。私が作成に関わった防災ゲーム「クロスロード」をシナリオ化したような構成の書物で、GENERATION TIMES 編集長の伊藤剛さんとのコラボレーションです。

2013年度には、単著として、『巨大災害のリスク・コミュニケーション：災害情報の新しいかたち』（ミネルヴァ書房）を出しました。近年手がけてきた災害情報に関する研究の集大成です。また、共編著として、『質的心理学ハンドブック』、『発達科学ハンドブック 7：災害・危機と人間』（いずれも新曜社）が刊行されました。前者は、質的心理学会が10周年を記念して出版した大著で、私は、主に、Ⅲ部「社会実践としての質的心理学」の編集と執筆を担当しました。後者は、発達科学ハンドブックシリーズの中の一書で、前川あさ美先生との共編です。

2012年度には、災害心理学がご専門の藤森立男先生との共編著として、『復興と支援の災害心理学－大震災から「なに」を学ぶか－』（福村出版）を刊行しました。東日本大震災をうけた論考を満載しています。

いずれの書物にも、最新の研究成果を盛り込んだつもりです。ぜひご一読ください。

あわせて、最近集中的に取り組んでいる津波防災教育に関するアクションリサーチ（実践研究）の成果が、NHKのEテレで番組化されました。次の2つです。いずれもWEBサイトからストリーミング視聴可能です。どうぞご覧ください。

(1)NHK「シンサイミライ学校」～「僕たちがつくる『ふるさとの未来』」

[http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/program\\_yamori01/index.html](http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/program_yamori01/index.html)

※高知県四万十町興津地区での個別避難訓練タイムトライアルの取り組みをベースにしています

(2) NHK「シンサイミライ学校」～「きみならどうする？判断の分かれ道」

[http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/program\\_yamori02/index.html](http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/program_yamori02/index.html)

※防災ゲーム「クロスロード」を活用した小学校での授業です。舞台は三重県紀北町です。

教員名：吉田明夫

所 属：客員教授

地震の前兆現象は実際にあると考えています。ただ、前兆とおぼしきものを観測したからといって、それを予知に結びつけるのは、たいへん難しいことも事実です。それは、地震が、詳細な情報を得ることが本質的に不可能な、微視的、巨視的な様々な初期条件や境界条件の下で発生するからであると考えられます。地震発生に関しては、物理現象のように初期条件や境界条件を明確に指定することができません。前兆現象の現れ方に曖昧さと多様性があるのは、個々の地震の発生プロセスが場の状況に大きく影響されると考えれば理解可能です。前兆現象の観測を、減災に有効な予知情報にいかにしたら結びつけられるかを念頭に、地震及びその前兆現象の多様性と地震発生場の状況との関連について研究しています。

最近では、南関東で発生する巨大地震の震源域の *non-characteristic earthquake* 的な特徴や地震の平均発生頻度、伊豆半島周辺域のテクトニクスなどに関心を持っています。また、南海トラフ沿いにおける巨大地震の発生評価との関連で、東海から四国及びその沖合の地震活動や地殻変動の観測データに注意を払っています。



教員名：渡辺俊樹

所 属：名古屋大学大学院環境学研究科教授・客員教授

私の関心は地球の内部にあります。地震が起きる場所には何があって、どうなると地震が起きるのかを理解するために、まず、そこを「見て」構造を明らかにし、地震が来るまでのプロセスを「監視する」ことを研究しています。地球の中には光が届かないので、代わりに地震波を用いて探査しています。

2013年度には、当センターの狩野謙一特任教授、伊藤谷生客員教授と一緒に、静岡県内の南アルプス南端部において自然地震観測を行いました。この観測では、静岡県の山間部、富士川流域梅ヶ島から大井川流域を経て天竜川流域浜松市春野町まで約50 kmに地震計34点を設置し、2013年10月から翌年2月まで約4ヶ月間連続で地震を記録しました。多数の観測点で観測した地震記録から、震源の位置をより正確に求めることができます。また、地下を伝播してくる遠地地震や深発地震の波形情報を用いて、地下の構造を求めることができます。これらから、静岡県下に沈み込むフィリピン海プレートの形状や地殻内の構造を明らかにしていきます。



写真 2-5 自然地震観測（2013年度）  
（左上）地震計設置候補点調査の光景  
（右上）地震計とデータ記録機器の設置状況  
（左下）観測点に設置した調査中の看板

教員名：秦 康範

所 属：山梨大学大学院医学工学総合研究部准教授・客員准教授

私の強い関心事項は、持続的な地域の安全安心活動をどのように展開していくかということと、災害リスクを長期的にどのように低減させるかです。

2014年で一番印象的だったのは、2月の歴史的、記録的な大雪である。2月14日から降り続いた大雪のため、2月15日に114cmを記録し、1894年からの観測史上最大の積雪量となった。甲府市の既往最大は1998年1月の49cmで、倍以上の積雪を記録した。筆者が勤める勤務先においても、異常な降雪から14日の正午過ぎには帰宅指示が出た。この大雪で感じたことは、1つは普段積雪の少ない地域における記録的大雪の影響についてと、そのための普段の備えのあり方である。もう1つは、災害情報の収集・発信のツールとしてのTwitterの有効性である。現在は、地元新聞をベースに大雪の被害の多様性について分析を進めているので、まとめ次第ご報告させていただく予定である。

東日本大震災以降、筆者が取り組んでいるのが小中学校の防災教育である。特に緊急地震速報システムが導入された小中学校を対象に、従来の防災訓練を抜本的に見直す取り組みを行っている。今年で3年目となるが、過去2年間の取り組みに大きな手応えを感じており、今年度はこれまでの取り組み結果を踏まえて、全県的な活動として普及展開できるような枠組みを構築していきたいと考えている。

筆者が以前から研究を続けているテーマとして、地震時の電気火災がある。1995年兵庫県南部地震においては、地震火災285件の出火原因は「不明」の146件を除けば、「電気による発熱体」が29.8%（85件）と最も多かったのである。これまで平成8年以降に発生した被害地震における火災の出火原因を調べていたが、やはり「電気」が出火原因の1位を占めていた。今回、東日本大震災における出火原因に関する火災データを消防本部から入手し、津波による火災を除いた地震型火災について分析を行った。その結果、出火原因の68%を電気が占めていることが判明した。また、関東地方においても90件の地震型火災が発生し、多くが電気を起因としていたこと、停電が発生していない地域でもいわゆる通電火災が発生していたことを明らかになった。今後は地震動と出火の関係を考察し、感震ブレーカー等の出火防止対策の効果についてシミュレーションを行う予定である。

教員名：林 能成

所 属：関西大学社会安全学部准教授・客員准教授

2010年4月に新設された関西大学社会安全学部で働いています。社会安全学部は自然災害対策と事故防止を看板に掲げた学部で、東日本大震災復興構想会議の委員などをつとめた河田恵昭教授が初代学部長をつとめました。

社会的に目立つのが土木工学出身の河田教授ということもあり、理系の自然災害を主に扱う学部のように見られがちですが、入学してくる学生の多くは高校時代に文系科目を履修した学生です。また、学生の履修者数が多い科目は、どちらかと言えば事故防止系のものに偏っています。たとえば「コンプライアンス論」「危機管理とリーダーシップ」「公衆衛生学」といった科目が人気を集めています。

私の専門は地震を中心とした自然災害ですが、社会安全学部赶赴する以前から「防災だけの学部は厳しい」と考えていました。それは、かつて企業に勤め防災対策を担当していた経験にもとづくもので、事故のような発生頻度が高いものと、自然災害のような発生頻度があまり高くないものを一体的に取り組まないと「仕事」として成立しないと感じたからでした。その意味で、外（社会）に対しては理系の防災が目立ち、内（学生）に対しては文系の事故防止系科目の人気があるのは健全なことと感じていました。

2014年3月に社会安全学部の初めての卒業生が出ました。幸いなことに社会安全学部は社会から高く評価され、一期生の就職率は97.1%という高いものとなりました。また就職先企業の規模別でみると「巨大企業」「大企業」への就職率は約70%で、これは関西大学の全13学部の中で1位です（図参照）。一期生の学生が努力した結果が実ったものと考えています。私はこの2年間ほど、学部の就職担当をしていたこともあり、ほっとしています。

防災の裾野を広げるには、防災原理主義に陥らないことが必要です。防災の基礎を学び、事故防止などの分野で就職して活躍する卒業生をこれからも安定して送り出すことは、社会安全学部にしかならない防災の裾野を広げる重要な取り組みだと考えています。

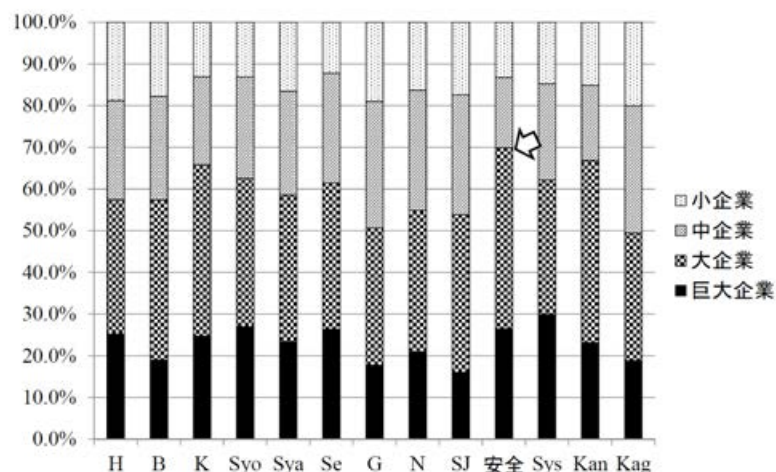


図 2-6：学部別にみた就職先企業の規模別割合（関西大学，2014年3月卒業）

## 2.2 研究業績リスト

### 2.2.1 著書

Chigira, M., Nakasuji, A., Fujiwara, S., Sakagami, M., Soil-Slide Avalanches of Pyroclastic Fall Deposits Induced by the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake. In: H. Kawase (Ed.), Studies on the Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake. Springer, Tokyo, pp. 65-86, 2014.

千木良雅弘, 深層崩壊-どこが崩れるのか-. 近未来社, 名古屋, 2013.

藤井基貴, 「いじめへの対応」『教務主任ミドルマネジメント研修 BOOK』, 教育開発研究所, 180-183 頁, 2014 年 3 月.

藤井基貴, 「キャリア教育で地域を拓く」『キャリア教育の基礎・基本 考え方・実践事例・教材・重要資料集』, 学事出版, 48-57 頁, 2013 年 12 月.

藤井基貴, 「幼児教育の歴史と思想 (1) —西欧—」『希望をつむぎだす幼児教育』, あいり出版 48-61 頁, 2013 年 7 月, .

藤井基貴, 「いじめ防止への取り組み」山崎保寿編『教務主任の仕事術 2』, 教育開発研究所, 130-134 頁, 2013 年 4 月.

Furuhashi, Y., 分担執筆 「The effect of group cognitive behavior therapy for patients with auditory hallucinations in psychiatric disorder」, Sofia Alvarez 編著, Hallucinations causes, management and prognosis Nova Science Publishes, New York, 71-92, 2013.

古橋裕子, 分担執筆 「災害時のメンタルヘルス—特に大地震時について—」, 里村幹夫編著 地震防災 (第 2 版), 学術図書出版, 155-163, 2013.

原口 強・岩松 暉: 東日本大震災津波詳細地図 改訂保存版, 古今書院, 264pp, 2013.

林能成, 「1943 鳥取地震 (p.469-497)、1944 東南海地震 (p.500-503)」, 『日本歴史災害事典』, 吉川弘文館, 2012.

林能成, 『スマトラ地震による津波災害と復興』 (p.327-338, 「IV-1 津波災害体験談の収集と活用」), 古今書院, 2014.

林能成, 『防災・減災のための社会安全学』 (p.3-21, 「第 1 章 地震の定量的評価と地震災害軽減」), ミネルヴァ書房, 2014.

藤森立男・矢守克也: 復興と支援の災害心理学—大震災から「なに」を学ぶか—, 福村出版 (共編著), 2012.

池田恵子, 支援の国際基準とは, 竹信三恵子・赤石千衣子編『災害支援に女性の視点を!』 (岩波ブックレット No.852), 35-42 頁, 岩波書店, 2012.

池田恵子, 自然災害とジェンダー —バングラデシュと日本の事例から, 宇佐見耕一ほか編集, 『世界の社会福祉年鑑 2012』, 第 12 集, 17-34 頁, 旬報社, 2012.

Ikeda, S., and Yasunobu Maeda (eds.): Emerging issues learned from the 3.11 disaster

- as multiple events of earthquake, tsunami and Fukushima nuclear accident, Society for Risk Analysis, Japan, 2013.
- 岩松 暉・橋村健一：桜島大噴火記念碑－先人が伝えたかったこと－，徳田屋書店，292pp，2014.
- 金森博雄著、瀬川茂子・林能成編，巨大地震の科学と防災，朝日選書 912，朝日新聞出版，pp.233，2013.
- 狩野謙一(分担執筆・写真提供および解説計 15p):日本地質学会構造地質部会・編，日本の地質構造 100 選，朝倉書店，173p，2012.
- 川上紳一・藤井直之：現代地球科学 第 2 刷，(財)放送大学教育振興会，300pp，(第 1，4，13，14，15 章担当) 2012 年 2 月.
- 河田恵昭・林能成，『事故防止のための社会安全学』(p.246-264，第 13 章 もう一つの安全神話の崩壊)，ミネルヴァ書房，2013.林能成，『防災教材 勇気をもって 災害を知り、いのちを守る』(「第 1 章 地震」p.26-39、「第 3 章 火山噴火」p.60-73)，メディアランド，2013.
- 風間聡:全世界の河川事典，高橋裕編集委員長，編集委員. 丸善出版，2013.
- 小山真人，火山がつくった西伊豆の風景-伊豆半島南西部のジオマップ-. 静岡新聞社，変形 A 2 判，2012.
- 小山真人，火山がつくった中伊豆の風景-伊豆半島のジオマップ 4-. 静岡新聞社，変形 A 2 判，2013.
- 小山真人，富士山—大自然への道案内. 岩波新書，222p., 2013.
- Mitsui, Y., Change of pore fluid pressure versus frictional coefficient during fault slip, Earthquake Research and Analysis - Seismology, Seismotectonic and Earthquake Geology, Chap. 17, 309-324, InTech, 2012.
- 村越真，ひとはなぜ地図を回すのか：方向オンチの博物誌，角川学芸出版，255p，2013.
- 野津憲治 (分担執筆)，地球と宇宙の化学事典 (日本地球化学編集，朝倉書店)，付録 1) 年表 (p.444-448)を分担，2012.
- 野津憲治 (分担執筆)，同位体環境分析 (馬淵，宮崎，山下編，丸善)，5 章. 同位体の地球科学への応用(p.125-148)を分担，2013.
- 佐藤健・上原鳴夫：東日本大震災を分析する，株式会社明石書店，第 2 章 (災害保健医療支援室による被災地支援) 25 頁～39 頁，2013.
- 佐藤健：日本建築学会東北支部 2011 年東日本大震災災害調査報告，日本建築学会東北支部，津波に対する緊急避難施設としての学校校舎 214 頁～217 頁，2013.
- 佐藤健：東日本大震災における学校の被害と対応に関するヒアリング調査記録集(増補第四版)，2014.
- 土屋智：地震により発生する土砂災害 (第 7 章分担)，地震防災 増補改訂版，学術図書出版社，2013.

- 土屋智・櫻井正明・吉松弘行ほか：二次災害，地震地すべり（第8章分担），社）日本地すべり学会，2012.
- 牛山素行：豪雨の災害情報学 増補版，古今書院，2012.
- 牛山素行：防災に役立つ地域の調べ方講座，古今書院，2012.
- やまだようこ・麻生武・サトウタツヤ・秋田喜代美・能智正博・矢守克也：質的心理学ハンドブック，新曜社（共編著），2013.
- 山本裕之，分担執筆，「地震災害時の医療（3）」，p.143-145，「付・放射線と人体への影響」，p.146-154，「地震防災（第2版）」，里村幹夫編著，学術図書出版，2013.
- 矢守克也：巨大災害のリスク・コミュニケーション：災害情報の新しいかたち，ミネルヴァ書房（単著），2013.
- 矢守克也・前川あさ美：発達科学ハンドブック 7巻：災害・危機と人間，新曜社（責任編集・日本発達心理学会編），2013.
- 矢守克也：「何謂“地域防災力”」（pp.222-225）、「“生活防災”的思考」（pp.226-229）、「状況依存型新息の共同産生」（pp.230-236）、「防災教育と防災文化」（pp.237-240）、「痕跡・記念碑・博物館」（pp.241-247），公益財団法人兵庫震災記念21世紀研究機構・四川省社会科学院四川震災研究中心，「災害対策全書」（中国語版），四川出版集团四川人民出版社，（分担執筆），2013.
- 矢守克也：レジエント・コミュニティとは何か，藤井聡（編著）「レジエント・エコノミー～「強靱」な日本経済を求めて～」，日本評論社，pp.145-157.（分担執筆），2013.
- 矢守克也：被災 日本発達心理学会（編）「発達心理学事典」，丸善，pp. 500-501.（分担執筆），2013.
- 矢守克也：アクションリサーチ，見田宗介・大澤真幸・吉見俊哉・鷺田清一（編），現代社会学会事典，弘文堂，p.9（分担執筆），2013.

### 2.2.2 学術論文

- Abe, H., Changyuan Tang, Akihiko Kondoh: Effect of Urban Aquifer Exploitation on Subsurface Temperature and Water Quality. Groundwater, DOI: 10.1111/gwat.12154, 2014.
- Amano, A., So Kazama, Evaluation of nutrient condition and agricultural production in the inundation areas of the Mekong River, Environmental Hydraulics, pp.375-378, 2014.1.9.
- Amano, A., Taisuke Sakuma, So Kazama and Luminda Niroshana Gunawardhana, Spatial - temporal distribution of waterborne infectious diseases risk, River Systems, Vol.20, Iss.3-4, pp.185-196, 2013.4.1 DOI: 10.1127/1868-5749/2012/0064
- Ando, M., M. Nakamura and C.-H. Lin, Tsunami folklore and potential tsunami risk on the eastern coast of Taiwan, Terr. Atm. Ocean, doi: 10.3319/TAO.2013.07.12.01(T),

- 2013.
- Ando, M. and M. Nakamura, Seismological evidence for a tsunami earthquake recorded four centuries ago on historical documents, *Geophys. J. Int.*, doi: 10.1093/gji/ggt270, 2013.
- Ando, M., M. Ishida, Y. Hayashi, C. Mizuki, Y. Nishikawa, and Y. Tu, Interviewing insights regarding the fatalities inflicted by the 2011 Great East Japan Earthquake, *Nat. Hazards Earth Syst. Sci.*, 13, p.2173-2187, 2013.
- 安藤雅孝, スマトラと東北の津波避難, スマトラ地震による津波災害と復興高橋・田中・木股編著, 古今書院, 359-362, 2014.
- 安藤和敏・金満達也・前田恭伸・関谷和之: 最短距離 DEA の単調性に関する検証, *オペレーションズ・リサーチ*, 58(12), pp.732-742, 2013.
- 新井涼允・糠澤桂・風間聡・竹門康弘, 水温環境の変化に伴う源流域における底生動物群集の将来変化, *土木学会論文集 B1(水工学) Vol.70, No.4*, pp. I\_1303-I\_1308, 2013.3.6.
- Bajo, K., Sumino, H, Toyoda, M., Okazaki, R., Osawa, T., Ishihara, M., Katakuse, I., Notsu, K., Igarashi, G. and Nagao, K., Construction of a newly designed small-size mass spectrometer for helium isotope analysis: toward the continuous monitoring of  $^3\text{He}/^4\text{He}$  ratios in natural fluids, *Mass Spectrometry* 1, DOI: 10.5702/massspectrometry. A0009, 1-10 (2012)
- 布和宝音・近藤昭彦・崔斐斐・孫バイ・沈彦俊: 統計年鑑から見た中国内モンゴル自治区の2000年以降の土地利用状況. *沙漠研究*, 23(3), 101-108, 2014.
- Chaminda, S. P., and So Kazama, Climate change impact on surface water flow variation in Sri Lanka during past decades *Environmental Hydraulics*, pp.232-235, 2014.1.8.
- Chigira, M., Hariyama, T., Yamasaki, S., Development of deep-seated gravitational slope deformation on a shale dip-slope: observations from high-quality drillcores. *Tectonophysics*, 605, 104-113, 2013.
- Chigira, M., Matsushi, Y., Deep-seated catastrophic landslides induced by typhoon talas, 2011: For the spacial and temporal prediction of their occurrence. *Journal of Disaster Research*, 8(1), 163-164, 2013.
- Chigira, M., Tsou, C.-Y., Matsushi, Y., Hiraishi, N., Matsuzawa, M. Topographic precursors and geological structures of deep-seated catastrophic landslides caused by Typhoon Talas. *Geomorphology*, 201, 479-493, 2013.
- 崔斐斐・近藤昭彦: 東アジアにおける黄沙の発生と地表面状態の関係. *沙漠研究*, 23(3), 85-92, 2014.
- Dwiyani, R., Saraswati, S. P., Yamori, K., and Okada, N. : Adaptation of a disaster education game from Japanese context into Indonesian volcanic prone area context:

- Lessons learned. *Asian Journal of Environment and Disaster Management*, 4, 513-532, 2012.
- 藤井基貴, 「ドイツにおける研究倫理への取り組み (1)」山本隆太との共著, 『教育学部研究報告 (人文・社会・自然科学編)』第 64 号, 静岡大学教育学部編, 113-130 頁, 2014 年 3 月.
- 藤井基貴, 「道德教育の内容項目『畏敬の念』に関する基礎的研究」中村美智太郎との共著, 『教科開発学論集』第 2 号, 173-183 頁, 2014 年 3 月.
- 藤井基貴, 「教員養成課程における「いじめ問題」への理解・対応に関する授業開発」川村遼との共著, 『静岡大学教育研究』10, 27-41 頁, 2014 年 3 月.
- 藤井基貴, 「知的障害がある児童生徒に対する防災教育の取り組み—岐阜県立可茂特別支援学校の事例研究」松本光央との共著, 『静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』No. 22, 73-81 頁, 2014 年 3 月.
- 藤井基貴, 「道德教育の学問的基盤の解明に関する基礎的研究—永田繁雄の道德教育論を中心に—」高口涼との共著, 『静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』No. 22, 63-72 頁, 2014 年 3 月.
- Fujiwara, Y., Takashi Okutani, Hiroyuki Kimura, First occurrence of *Alviniconcha* from Japanese waters (Gastropoda: Provannidae). *Venus* 71: 217-219, 2013.
- Furuhashi, Y., 「Comparison between teen-onset hikikomori and adult \_onset hikikomori in Japan」*European Psychiatry*, vol.27, suppl.1, 2012.
- Furuhashi, Y., Masaya Ishikawa 「Acute normalization of thyroxine induced hallucinations and delusions」, *International Journal of Clinical Medicine*, vol.3, No.2, 341-343, 2012.
- Furuhashi, Y., 「Hikikomori in Japanese University Students: A case study of 38 hikikomori patients」*The Multidisciplinary Facets of Psychiatry*, 2013.
- 古橋裕子, 加治由記, 松本百合子, 野上愛里子, 山本こず恵, 前堀洋子, 浅井園子, 太田裕一, 山本裕之, 「大学入学後自閉症スペクトラムと診断された自験例の検討」, *CAMPUS HEALTH* 51(1):441-442, 2014.
- 古橋裕子, 加治由記, 松本百合子, 野上愛里子, 山本こず恵, 太田裕一, 前堀洋子, 山本裕之, 「長期不登校学生の調査 2」, *CAMPUS HEALTH* 50(1):442-443, 2013.
- Gunasekara, N. K., S. Kazama, D. Yamazaki, T. Oki, Water conflict vulnerability of Mekong countries in the near future, *Southeast Asian Water Environmnet* 5, pp.205-211, 2014.1.
- Gunasekara, N. K., S. Kazama, D. Yamazaki, T. Oki, Water conflict risk due to water resource availability and unequal distribution, *Water Resources Management*, No.28, pp.169-184, 2014.1.1. DOI 10.1007/s11269-013-0478-x
- Gunasekara, N. K., S. Kazama, D. Yamazaki, T. Oki, The effects of country-level



- population policy for enhancing adaptation to climate change, *Hydrology and Earth System Sciences*, Vol.17, No.11, pp.4429-4440, 2013.11.12.  
DOI:10.5194/hess-17-4429-2013
- 秦康範, 原田悠平: 2011年東北地方太平洋沖地震における従来型火災の特徴, 土木学会 第33回地震工学研究発表会講演論文集, 4-564, 2013
- 原田賢治, 松富英夫, A. Bagyo Widagdo, Subandono Diposaptono, 倒伏を考慮した海岸林の津波減衰効果の Indonesia 現地条件による検討, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol.68, No.2, I\_1426- I\_1430, 2012.
- 原田賢治, 永澤豪, 樋口敬芳, 田中良仁, 橋和正, 東北地方太平洋沖地震津波による福島県いわき市の海岸林の被災実態, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol.68, No.2, I\_1301- I\_1305, 2012.
- 原田昌武・明田川 保・伊東 博・本多 亮・行竹洋平・板寺一洋・吉田明夫, 2011年東北地方太平洋沖地震によって誘発された箱根火山の群発地震活動, 地震 2, 64, 135-142, 2012
- 原田昌武・行竹洋平・宮岡一樹・本多 亮・板寺一洋・道家涼介・里村幹夫・吉田明夫, 箱根火山における群発地震活動の分類, 温泉地学研究所報告, 45, 1-8, 2013.
- Hashimoto, T., Takayoshi Tezuka, András Rövid: Stereo-Vision Based Oscillation Measurement for Disaster Prevention, *International Journal of Computer Science and Network*, Vol. 3, pp.66-72, 2014.
- 畑山満則・中居楓子・矢守克也: エージェント技法を用いた津波避難評価システムの開発, 京都大学防災研究所年報, 56B, 45-51, 2013.
- Hattori, S., Hiroaki Nashimoto, Hiroyuki Kimura, Keisuke Koba, Keita Yamada, Mikio Shimizu, Hiroshi Watanabe, Muneoki Yoh, Naohiro Yoshida, Hydrogen and carbon isotope fractionation by thermophilic hydrogenotrophic methanogens from a deep aquifer under coculture with fermenters. *Geochemical Journal* 46: 193-200, 2012.
- 林 拙郎・内田芳貴・櫻本智美・沼本晋也: 森林斜面における立木の崩壊土砂への影響, 砂防学会誌, Vol.65, No.4, pp.24-31, 2012.
- 林 拙郎・山田 孝: 最近の土砂災害における実効雨量の係数の特性について, 砂防学会誌, Vol.66, No.2, pp.31-39, 2013.
- Hayashi, Y., Munasri, Nakamura, M. and Sugiyanto, D., " Development of Disaster Education Material Based on Comparative Evacuation Process of Recent Two Earthquakes in Indonesia", *Proceeding of 9th Asian Seismological Commission*, 246-248, 2012.
- 林能成, 震災関連死に影響する地震の起こり方—余震多発による尿路合併症—, 排尿障害プラクティス Vol.20, 2, 18-25, 2012.
- 林能成, 鉄道における津波避難誘導標識の研究 — 紀伊半島を周遊する JR 線の事例から

- 一, 社会安全学研究, vol.3 p.118-125, 2013.
- Heki, K., and Yuta Mitsui, Accelerated Pacific Plate subduction following interplate thrust earthquakes at the Japan Trench, *Earth Planet. Sci. Lett.*, 363, 44-49, doi:10.1016/j.epsl.2012.12.031, 2013.
- 樋口慈・土屋智・逢坂興宏: 干渉 SAR を用いた土砂災害域の抽出について, 中部森林研究, Vol.61, 47-51, 2013
- Higuchi, K., Chigira, M., Lee, D.H., High rates of erosion and rapid weathering in a Plio-Pleistocene mudstone badland, Taiwan. *Catena*, 106, 68-82, 2013.
- 平石成美, 千木良雅弘, 松四雄騎, 紀伊山地北部天川地域に分布する遷急線. 京都大学防災研究所年報, 56B, 731-740, 2013.
- 堀清和・村上佳司・佐藤健: 発達障がいを持つ子への防災教育 (2) —教育の課題と方法—, 日本安全教育学会第 14 回浦安大会, 34 頁-35 頁, 2013.
- Hotta, N., Kubo, T., Imaizumi, F., Miyamoto, K., Lee, S.P., Tsai, Y.L., and Shieh, C.L., Influence of past landslides and resulting sedimentation in a sediment disaster at Shao-ling village, Taiwan, during Typhoon Morakot, 2009, In *Proceedings of 4th International Workshop on Multimodal Sediment Disasters*, 117-124, 2013.
- 深畑 幸俊・八木 勇治・三井 雄太, 2011 年東北地方太平洋沖地震による絶対歪みの解放: 遠地実体波インバージョン解析と動的摩擦弱化, *地質学雑誌*, 118, 7, 396-409, 2012.
- 池田恵子, 女性の視点による被災者ニーズの把握— 東日本大震災における活動経験の聴き取り調査から—, *国際ジェンダー学会誌*, 第 10 号, 9-32 頁, 2012.
- 池田恵子, ジェンダー・多様性の視点に基づいた救援・復興—東日本大震災の経験からみた課題, *日本地震工学会誌*, 第 17 号, 68-71 頁, 2012.
- Ikuta, R., M. Satomura, S. Shimada, A. Fujita, M. Ando, A small persistent locked area associated with the 2011 Mw9.0 Tohoku-Oki earthquake, deduced from GPS data, *Journal of Geophysical Research*, 117, B11408, doi:10.1029/2012JB009335, 2012
- 今井健太郎, 原田賢治, 南幸弘, 川口誠史, 二宮栄一, 海岸樹木の津波耐力評価手法の高度化, *土木学会論文集 B2 (海岸工学)*, Vol.69, No.2, I\_361-I\_365, 2013.
- 今井健太郎, 原田賢治, 菅原大介, 2011 年東北地方太平洋沖地震津波による青森県沿岸の津波痕跡高と津波の挙動, *土木学会論文集 B2 (海岸工学)*, Vol.68, No.2, I\_1376-I\_1380, 2012.
- Imaizumi, F., Miyamoto, K., Matsumura, Y., Experimental Study of Pore Water Pressure in Multi-layer Soil Structure, In *Proceedings of 4th International Workshop on Multimodal Sediment Disasters*, 141-146, 2013.
- 今泉文寿・土屋 智, 静岡県浜松市門島地区で発生した斜面崩落, *地すべり学会誌*, Vol. 50, No. 4, p.33-35, 2013.
- 今泉文寿・Roy C. Sidle・外狩麻子・島村 誠, 崩壊地周辺におけるソイルクリープの長期

- 観測, 地形, Vol.34, 129-141, 2013.
- 今泉文寿・宮本邦明, 多層構造を有する地層を鉛直浸透する場での間隙水圧と有効応力の分布, 砂防学会誌, Vol. 65, No. 5, p.3-10, 2013.
- Imaizumi, F., Sidle, R. C., Effect of forest harvesting on hydrogeomorphic processes in steep terrain of central Japan, *Geomorphology*, 169, p. 109-122, 2013.
- 飯尾能久・矢守克也・城下英行・岩堀卓弥: 東北地方太平洋沖地震と地震防災に関する最先端の研究, *物理教育*, 60(4), 282-288, 2012.
- Ishibashi, H., Masashi Arakawa, Junji Yamamoto, Hiroyuki Kagi (2012) Precise determination of Mg/Fe ratio applicable to terrestrial olivine using Raman spectroscopy. *Journal of Raman Spectroscopy*, 43, 331-337.
- Ishibashi, H., Hiroyuki Kagi, Haruko Sakurai, Hiroaki Ohfuji, Hirochilka Sumino (2012) Hydrous fluid as the growth media of natural polycrystalline diamond, carbonado: implication from IR spectra and microtextural observations. *American Mineralogist*, 97, 1366-1372.
- 石橋秀巳 (2013) スピネル-メルト酸素フュガシティ計: 手法および北西九州東松浦地域の新生代アルカリ玄武岩への適用. *静岡大学地球科学研究報告*, 40, 21-32.
- 石川芳治・池田暁彦・柏原佳明・牛山素行・林真一郎・森田耕司・飛岡啓之・小野寺智久・宮田直樹・西尾陽介・小川洋・鈴木崇・岩佐直人・青木規・池田武徳: 2013年10月16日台風26号による伊豆大島土砂災害, 砂防学会誌, Vol.66, No.5, pp.61-72, 2014.
- 板寺一洋・菊川城司・吉田明夫, 1960年代に箱根強羅の温泉で観測された異常昇温現象, *温泉科学*, 62, 294-305, 2013.
- Iwasaki, K. : RECONSTRUCTION OF THE NATURAL ENVIRONMENTS AND THE LOCATIONS OF OLD TOKAI-DO ROAD NEAR THE MOUTH OF LAKE HAMANAKO, *Proceedings of international Symposium on Remote Sensing(ISRS2013)*, pp.18~21, 2013.
- Kagi, H., Shoko Odake, Hidemi Ishibashi, Katsumi Shozugawa, Motoyuki Matsuo, Wataru Satake, Takashi Mikouchi (2013) Oxygen fugacity and valence state of chromium in ferropericlasite: Can Cr<sup>2+</sup> be a redox indicator for the deep mantle? *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, 108, 172-177.
- 上治雄介・今泉文寿, デジタルカメラ画像を用いた開葉期・落葉期の客観的識別手法の検討, *筑波大学農林研究報告*, 1, 39-46, 2013.
- Kang, J. H., and So Kazama, Short-term river response and restoration of biological diversity following slit construction, *Journal of Hydro-environment Research*, Vol.7, Iss.3, pp.161-173, 2013.9. DOI: 10.1016/j.jher.2013.05.003
- Kasahara, j., Shinji Ito, Tomohiro Fujiwara, Yoko Hasada, Kayoko Tsuruga, Ryoya Ikuta, Naoyuki Fujii, Koshun Yamaoka, Kiyoshi Ito, and Kin'ya Nishigami, Real

- time Imaging of CO2 storage zone by very accurate- stable-long term seismic source, *Energy Procedia*, 37, 4085-4092, 2013.
- Kasahara, J., Ito, S., Hasada, Y., Fujii, N., Ikuta, R., F, Tsuruga, K., Fujiwara, T., Yamako, K., Nishigami, K., and Ito, K., Time lapse experiment using the seismic ACROSS source near the Nojima-fault in Awaji Island -Imaging and travel time changes by injection and rain-fall effect, *Proc. of #126 Exploration Geophysicists of Japan*, 106-109, 2012.
- Kasahara, J., Ayato Kato, Mamoru Takanashi, Yoko Hasada, Time lapse simulation for SAGD (Steam-Assisted Gravity Drainage) of JACOS (Japan Canada Oil Sands) assuming seismic ACROSS and 2D geophone array, *Proc. of #128 Exploration Geophysicists of Japan*, pp. 103-105, 2013.
- Kasahara, J., Kayoko Tsuruga, Mamoru Takanashi, Ayato Kato and Yoko Hasada, Short distance observation using low frequency Seismic ACROSS (3.5-7.5Hz) in Mori, *Proc. of #128 Exploration Geophysicists of Japan*, pp. 106-109, 2013.
- Katsuyama, C., Hiroaki Nashimoto, Kazuyo Nagaosa, Tomotaka Ishibashi, Rakeshi Kinoshita, Hideki Yoshikawa, Kazuhiro Aoki, Takahiro Asano, Toshito Sasaki, Rumi Sohrin, Daisuke Komatsu, Urumu Tsunogai, Hiroyuki Kimura, Yuichi Suwa, Kenji Kato Occurrence and potential activity of denitrifiers and methanogens in groundwater at 140 m depth in Pliocene diatomaceous mudstone of northern Japan. *FEMS Microbiology Ecology* 86: 532-543, 2013.
- Kikkawa, T. and Suzuki, S. Localization of Risk Communication Tools: Two Case Studies, *Journal of Disaster Research*, Vol.8 (1) Feb. 2013:90-94
- 菊池秀哉、風間聡、朝岡良浩、 月最少降水量と無降雨期間に着目した渇水期の流出特性評価, *土木学会論文集 B1(水工学)* Vol.70, No.4, pp. I\_439-I\_444, 2013.3.5.
- Kimura, H., Kousuke Mori, Toshiro Yamanaka, Jun-Ichiro Ishibashi, Growth temperatures of archaeal communities can be estimated from the guanine-plus-cytosine contents of 16S rRNA gene fragments. *Environmental Microbiology Reports* 5: 468-474, 2013.
- Kitamura, A., Koyama, M., Itasaka, K., Miyairi, Y., and Mori, H.(2014): Abrupt Late Holocene uplifts of the southern Izu Peninsula, central Japan: Evidence from emerged marine sessile assemblages. *Island Arc*, 23, 51-61.
- Kobayashi, T., Junji Yamamoto, Takao Hirajima, Hidemi Ishibashi, Naoto Hirano, Yong Lai, Vladimir S. Prikhod'ko, Shoji Arai (2012) Conformity and precision of CO2 densimetry in CO2 inclusions: microthermometry versus Raman microspectroscopic densimetry. *Journal of Raman Spectroscopy*, 43, 1126-1133.
- 近藤誠司・矢守克也・奥村与志弘・李勇昕：東日本大震災の津波来襲時における社会的な

- リアリティの構築過程に関する一考察～NHK の緊急報道を題材とした内容分析～, 災害情報, 10, 77-90., 2012.
- 小山真人: 864 富士山貞観噴火. 日本歴史災害事典, 北原糸子・松浦律子・木村玲欧編, 吉川弘文館, 170-171, 2012.
- 小山真人: 富士山宝永噴火とそれに伴う降灰災害. 武蔵野, 87, no.1, 35-43, 2012.
- 小山真人: 静岡県周辺で詳細放射線量マップを描く意義. 科学, 82, 828-831, 2012.
- Koyama, M. (分担執筆) ,National Catalogue of the Active Volcanoes in Japan (4th edition) - Japan Meteorological Agency and Volcanological Society of Japan.DVD-ROM, 2013.
- 李勇昕・近藤誠司・矢守克也: 台湾の「明星災区」の意義と課題-マスメディアと住民のインタラクションを中心に-, 災害情報, 11, 56-68, 2013.
- Lin, A., Shin, J.-H. & Kano, K. : Fluidized cataclastic veins along the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line active fault system. Central Japan, and its seismotectonic implications. Journal of Geology, 120, 453-465, 2012.
- Lin, A, R. Ikuta, G. Rao, Tsunami run-up associated with co-seismic thrust slip produced by the 2011 Mw 9.0 Off Pacific Coast of Tohoku earthquake, Japan, Earth and Planetary Science Letters, 337-338, 121-132, 2012.
- 前堀洋子, 浅井園子, 太田裕一, 古橋裕子, 森田純仁, 松元百合子, 加治由記, 野上愛里子, 山本裕之, 「生活時間調査からみた大学生の肥満予防指導への一考察」, CAMPUS HEALTH 50(2):113-118, 2013.
- 前堀洋子, 浅井園子, 太田裕一, 古橋裕子, 森田純仁, 松元百合子, 加治由記, 野上愛里子, 山本裕之, 「生活時間調査からみた大学生の肥満予防指導への一考察」, CAMPUS HEALTH 50(1):247, 2013.
- Mama, V., Naotatsu Inoue, Chaiwat Ekkawatpanit, Phonchai Klinkhachorn, Somkid Saphaokham, Thattanaporn Khomsri, Kanokporn Boochabun, Teerawat Senahan, Keisuke Ono, So Kazama, Daisuke Komori, Projection of extreme-rainfall-induced landslide in Thailand, Proceedings of The 5th Natural Convention on Water Resources Engineering, 1-8/155/CD-ROM, 2013.9.5. (in Thai)
- 松田 悟・宮本邦明・今泉文寿, レーザー距離計を用いた山岳地での土砂生産量の簡易計測手法, 砂防学会誌, Vol. 64, No. 6, p.43-46,2013.
- 松岡憲知・今泉文寿・西井稜子, 南アルプスにおける地形変動と土砂収支\_最近の研究動向と展望\_, 地学雑誌, 122, 591-614, 2013.
- 松富英夫, 原田賢治, 星孟志, 齋藤可織, 決得元基, 現地試験に基づく東北地方太平洋沖地震津波浸水域における黒松の特性と被害条件, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol.69, No.2, I\_416-I\_420, 2013.
- 松富英夫, 山口枝里子, 直江和典, 原田賢治, 東北地方太平洋沖地震津波における鉄筋コ

- ンクリート造建物と海岸黒松の被害条件, 土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol.68, No.2, I\_351-I\_355, 2012.
- Matta, M., Y. Ota, W.-S. Chen, Y. Nishikawa and M. Ando, and L.-H. Chung, Finding of probable tsunami boulders on Jiupeng coast in southeastern Taiwan, *Terr. Atmos. Ocean. Sci.*, 24, 159-163, 2013.
- 美澤綾子・林能成, 防災ロゲイニング普及に向けたテストフィールドの設計と活用, *社会安全学研究*, vol.4 p.33-42, 2014.
- Mitsui, Y., and Kosuke Heki, Scaling of early afterslip velocity and possible detection of tsunami-induced subsidence by GPS measurements immediately after the 2011 Tohoku-Oki earthquake, *Geophys. J. Int.*, 195, 238-248, doi:10.1093/gji/ggt256, 2013.
- Mitsui, Y., and Yuji Yagi, An interpretation of tsunami earthquake based on a simple dynamic model: Failure of shallow megathrust earthquake, *Geophys. Res. Lett.*, 40, 1523-1527, 2013.
- Mitsui, Y., and Kosuke Heki, Observation of Earth's free oscillation by dense GPS array: After the 2011 Tohoku megathrust earthquake, *Sci. Rep.*, 2(931), doi:10.1038/srep00931, 2012.
- Mitsui, Y., Yoshihisa Iio and Yukitoshi Fukahata, A scenario for the generation process of the 2011 Tohoku earthquake based on dynamic rupture simulation: role of stress concentration and thermal fluid pressurization, *Earth Planets Space*, 64(12), 1177-1187, 2012.
- Mitsui, Y., Naoyuki Kato, Yukitoshi Fukahata and Kazuro Hirahara, Megaquake cycle at the Tohoku subduction zone with thermal fluid pressurization near the surface, *Earth Planet. Sci. Lett.*, vol.325-326, 21-26, doi:10.1016/j.epsl.2012.01.026, 2012.
- 三井 雄太・柳谷 俊, 珪岩・水晶・熔融石英の破壊に伴う発光の色について -結晶の圧電性の寄与-, *北海道大学地球物理学研究報告*, 75, 109-116, 2012.
- Miyamoto, K., Imaizumi, F., A theoretical explanation of triggering condition of deep-seated landslide, In *Proceedings of 3rd International Workshop on Multimodal Sediment Disasters*, 2013.
- 宮本 匠・渥美公秀・矢守克也: 人間科学における研究者の役割-アクション・リサーチにおける「巫女の視点」- *実験社会心理学研究*, 52, 35-44, 2012.
- 宮岡一樹・吉田明夫, 日本周辺の巨大地震に伴った大きな余震, *温泉地学研究所報告*, 45, 9-16, 2013.
- Mori, K., Takao Iino, Jun-Ichiro Ishibashi, Hiroyuki Kimura, Ken-Ichiro Suzuki, *Meiothermus hypogaeus* sp. nov., a novel moderately thermophilic bacterium isolated from a Japanese hot spring. *International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology* 62: 112-117, 2012.

- 森田純仁, 山本裕之, 古橋裕子, 太田裕一, 松元百合子, 加治由記, 野上愛里子, 山本こず恵, 前堀洋子, 浅井園子, 「全学年を対象とした大学生の定期胸部エックス線検査の有用性について」, *CAMPUS HEALTH* 51(1):303-305, 2014.
- 森田純仁, 山本裕之, 古橋裕子, 太田裕一, 松元百合子, 加治由記, 野上愛里子, 山本こず恵, 前堀洋子, 浅井園子, 「静岡大学静岡キャンパス事業所における保健業務の重点項目に関する検討」, *CAMPUS HEALTH* 50(1):232-233, 2013.
- 森保文・根本和宜・前田恭伸・浅野敏久・伊藝直哉：環境配慮行動に与えた東日本大震災の影響とその機構, *環境共生*, 24, pp.43-53, 2014.
- Morizawa, K., Yoshihiro Asaoka, So Kazama and Luminda Niroshana Gunawardhana, Temporal glacier area changes correlated with the El Nino/La Nina Southern Oscillation using satellite imagery, *Hydrological Research Letters* 7(2), pp. 18-22, 2013.4.18. doi: 10.3178/HRL.7.18
- 村上佳司・堀清和・佐藤健：発達障がいを持つ子への防災教育（1）—調査結果から—, 日本安全教育学会第14回浦安大会, 32頁-33頁, 2013.
- 村越真・小山真人・河合美保・鈴木雄介, ジオパークのガイド養成講座を通じた受講者の知識、態度と意識の変容. 静岡大学教育実践総合センター紀要, no.20, 195-202, 2012.
- 村越真・村松由貴, 静岡県の小中学校における防災教育の実態と課題, 教科開発学論集, 2,1-12, 2014.
- 村越真・渡邊雄二・東秀則・山本一登, 山のひやりはっと, 登山研修, 29,46-53, 2014.
- 中川和之, 「？」を「！」に＝ジオパークで山形をもっと楽しもう, 山形応用地質第32号, 2012年10月.
- 中川和之, 大地動乱の時代を豊かに生き抜くために, 警察政策学会資料第69号, 2013年5月.
- 中居楓子・畑山満則・矢守克也：避難計画作成支援を目的とした津波避難評価システムの構築 情報処理学会研究報告. 情報システムと社会環境研究報告, 2013-IS-124(3), 1-8. 2013.
- 延原尊美・小山真人（2012）駿河トラフ軸部の石花海ゴージ伊豆側斜面から採集された貝化石：「しんかい2000」第579潜航の追補報告. 静岡大学地球科学研報, no.39, 1-6.
- 野上愛里子, 鈴木美香, 古橋裕子, 森田純仁, 太田裕一, 松元百合子, 加治由記, 山本こず恵, 前堀洋子, 浅井園子, 山本裕之, 「大学生の月経および随伴する健康問題に関する実態調査～保健センターの介入方法の検討～」, *CAMPUS HEALTH* 51(1):376-378, 2014.
- 野津憲治:Geochemistryは「地球化学」か「地化学」か:Geochemistryが日本に導入された1920年代の葛藤, *地球化学*, 47, 105-115, 2013.
- Notsu, K., Sohrin, R., Wada, H., Tsuboi, T., Sumino, H., Mori, T., Tsunogai, U., Hernandez, P.A., Suzuki, Y., Ikuta, R., Oorui, K., Koyama, M., Masuda, T., and Fujii,

- N. (2014): Leakage of magmatic-hydrothermal volatiles from a crater bottom formed by a submarine eruption in 1989 at Teishi Knoll, Japan. *J.Volcanol.Geotherm.Res.*, 270, 90-98.
- 糠澤桂、風間聡、高瀬陽彦、渡辺幸三、水生生物の生息場適性度と遺伝的多様性の関係、土木学会論文集 B1(水工学) Vol.70, No.4, pp. I\_1405-I\_1410, 2013.3.6.
- Ono, K., S. Kazama, Extreme daily rainfall in Thailand using a gridded daily rainfall dataset: A frequency analysis with 6 types of plotting position formula, *Southeast Asian Water Environmnet* 5, pp.221-228, 2014.1.
- Ono, K., So Kazama, Luminda Niroskana Gunawardhana, and Koichiro Kuraji, An investigation of extreme daily rainfall in the Mekong River Basin using a gridded precipitation dataset, *Hydrological Research Letters*, Vol.7, No.3, pp.66-72, 2013.6.28. DOI: 10.3178/hrl.7.66
- 太田裕一、太田祐子、古橋裕子、里村澄子、山本裕之、森田純仁、前堀洋子、浅井園子、加治由記、松元百合子、野上愛里子、「大学における障害学生修学支援機関立ち上げについて」、*CAMPUS HEALTH* 51(1):497-499, 2014.
- 太田裕一、太田祐子、古橋裕子、里村澄子、山本裕之、森田純仁、前堀洋子、浅井園子、加治由記、松元百合子、野上愛里子、「大学におけるインターネットを活用した危機介入について」、*CAMPUS HEALTH* 50(1):504-506, 2013.
- Pratoomchai, W., So Kazama, Naota Hanasaki, Chaiwat, Ekkaawatpanit, Daisuke Komori, An evaluation of groundwater resources for the agricultural water requirements in the lower Yom and Nan River Basins in Thailand, *Environmental Hydraulics*, pp.118-121, 2014.1.7.
- Pratoomchai, W., So Kazama, Naota Hanasaki, Chaiwat Ekkawatpanit, Daisuke Komori, A projection of groundwater resources in the Upper Chao Phraya River basin in Thailand, *Hydrological Research Letters*, Vol.8, No.1, pp.20-26, 2014.1.22. DOI:10.3178/hrl.8.20
- 阪本真由美・矢守克也：広域災害における自治体間の応援調整に関する研究—東日本大震災における宮城県の事例より—，地域安全学会論文集，18，391-400. 2012.
- 桜井愛子・村山良之・徳山英理子・佐藤健：東日本大震災復興プロセスにおける防災教育の取り組み-石巻市立鹿妻小学校の事例-，神戸大学都市安全研究センター研究報告，17，207頁-221頁，2013.
- 桜井愛子・徳山英理子・村山良之・佐藤健：石巻市における『復興マップづくり』プログラム—平成25年度の実践—，日本安全教育学会第14回浦安大会，46頁-47頁，2013.
- SAKURAI, A., Takeshi SATO, Yoshiyuki MURAYAMA, Eriko TOKUYAMA(Proceedings) : Development of a School-Based Disaster Education Program, A Case of a “Reconstruction Map Making” Program in Ishinomaki-City,



- the 9th APRU Research Symposium on Multi-Hazards on the Pacific Rim at National Taiwan University, 2013, 128 頁-129 頁, 2013 年.
- SAKURAI, A., Takeshi SATO, Yoshiyuki MURAYAMA, Eriko TOKUYAMA(ポスター) : Development of Disaster Education Program in the Affected Community by the Great East Japan Earthquake: “Reconstruction Map Making” by the Fourth Grade Students at Kazuma Elementary School, 国際復興フォーラム 2014, 128 頁-129 頁, 2014 年.
- 佐藤 剛・八木浩司・今泉文寿・杉本宏之, 1930 年北伊豆地震で発生した伊豆市城地区の川越え地すべり, 地すべり学会誌, Vol. 50, No. 5, 19-22, 2013.
- Sato, H., Suzuki, K., Sato, E., Sano, K., Wada, K., Imura, R. Viscosity of andesitic lava and its implications for possible drain-back processes in the 2011 eruption of the Shinmoedake volcano, Japan. *Earth, Planets and Space*, 65, 623-631. 2013
- 佐藤健・村山良之 : 津波災害に対する学校の防災管理, 防災教育と東日本大震災時における実際の対応 : 地域安全学会東日本大震災特別論文集, 2 号, 85 頁~88 頁, 2013.
- 佐藤健 : 東日本大震災被災地の小学校における災害復興教育プログラムの実践, 日本建築学会技術報告集, Vol. 20, No. 44, 417 頁~422 頁, 2014.
- 佐藤健・村山良之 : 津波に対する緊急避難施設としての学校校舎, 日本建築学会東北支部 2011 年東日本大震災災害調査報告, 214 頁-217 頁, 2013.
- 佐藤健 : 横浜市立北綱島小学校における学校と家庭・地域との連携に基づく防災訓練, 無, いいえ, 日本安全教育学会第 14 回浦安大会, 52 頁-53 頁, 2013.
- 門廻 充侍, 高橋 智幸, 林 能成, GPS 波浪計を用いた南海トラフでの津波警報の過小評価の判定指標, 土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol.69, No.2, p.I\_406-I\_410, 2013.
- 島田千亜紀・岩崎一孝 : 沼津市戸田地区の小中学生を対象とした津波に関する防災意識の実態調査. 情報学ワークショップ 2012 (WiNF2012) 論文集, pp.45~50, 2012.
- Sun, Y., Yamori, K. & Kondo, S. : Disaster education based on community of practice: A case study in Okitsu, Kochi Prefecture *Journal of Integrated Disaster Risk Management*, 3(1) [DOI10.5595/idrim.2013.0056], 2013.
- 孫 英英・矢守克也・谷澤亮也・近藤誠司 : 南海トラフの巨大地震・津波を想定した防災意識と避難行動に関する住民意識調査, 災害情報, 11, 69-81., 2013.
- 孫 英英・矢守克也・近藤誠司・谷澤亮也 : 実践共同体論に基づいた地域防災実践に関する考察-高知県四万十町興津地区を事例として-, 自然災害科学, 31, 217-232, 2012.
- 鈴木清史 「3 つの試みからの学び-環境教育ツール開発の経験から-」 『Asian Studies(アジア研究)』 静岡大学人文学部アジア研究センター 2013(8)45-53.
- Tadokoro, K., R. Ikuta, T. Watanabe, M. Ando, T. Okuda, S. Nagai, K. Yasuda, and T. Sakata, Interseismic seafloor crustal deformation immediately above the source region of anticipated megathrust earthquake along the Nankai Trough, Japan,

- Geophys. Res. Lett., 39, L10306, doi:10.1029/2012GL051696, 2012
- Takanashi, M., Ayato Kato, Junzo Kasahara, Yoko Hasada, Kayoko Tsuruga, Shinji Ito and Tomohiro Fujiwara, Field observation and numerical study of seismic ACROSS towards hydrocarbon reservoir monitoring, Proc. of #128 Exploration Geophysicists of Japan, pp. 99-102, 2013.
- 高岡宏之・津村紀子・高橋福助・野崎謙治・加藤愛太郎・飯高 隆・岩崎貴哉・酒井慎一・平田 直・生田領野・國友孝洋・吉田康宏・勝俣 啓・山岡耕春・渡辺俊樹・山崎文人・大久保慎人・鈴木貞臣：東海地域下の三次元地震波減衰構造—微小地震スペクトルを用いた推定—, 地震第 2 輯, 65, 2, 175-187, 2012.
- 高瀬陽彦、糠澤桂、風間聡、渡辺幸三, 分布型水文モデルと確率密度関数を用いた底生動物の生息環境および種多様性評価, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.70, No.4, pp. I\_1297-I\_1302, 2013.3.6.
- 竹之内健介・島田真吾・河田慈人・中西千尋・矢守克也：地域気象情報の共有による減災の取組～伊勢市辻久留地区におけるアンケート調査を通じて～, 災害情報, 11, 102-114. 2013.
- 田中勢子・山英理子・佐藤健：楽しく学ぶ防災・減災教室—ゲームシミュレーションによる防災教育—, 日本安全教育学会第 14 回浦安大会, 40 頁-41 頁, 2013.
- 谷口綾子・林真一郎・矢守克也・伊藤英之・菊池輝・西真佐人・小山内信智・藤井聡：小学校における土砂災害避難行動誘発のための授業プログラム構築とその効果分析, 災害情報, 11, 43-55., 2013.
- 谷端勇紀・佐藤健：東日本大震災における避難者の地域特性評価に関する研究, 2013 年度日本建築学会大会 (北海道大学), 653 頁-654 頁, 2013.
- 手塚翔也、小野桂介、風間聡、小森大輔, 極値降雨, 流出量に基づく洪水被害推定およびその将来変化, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.70, No.4, pp. I\_439-I\_444, 2013.3.5.
- Terakawa, T., Yamanaka, Y., Nakamichi, H., Watanabe, T., Yamazaki, F., Horikawa, S. and Okuda, T.: Effects of pore fluid pressure and tectonic stress on diverse seismic activities around Ontake volcano, central Japan, Tectonophysics, 608, 138-148, 2013.
- 徳山英理子・桜井愛子・村山良之・佐藤 健：石巻鹿妻小学校における災害復興教育の実践—『復興マップづくり』プログラム—, 東北地域災害科学研究, Vol. 50, 287 頁～290 頁, 2014.
- 徳山英理子・桜井愛子・村山良之・佐藤健：石巻市における『復興マップづくり』プログラム—平成 24 年度の活動報告—, 日本安全教育学会第 14 回浦安大会, 44 頁-45 頁, 2013.
- Tsuchiya, S., Sassa, K., Nagai, O. : Simulation of the largest landslide caused by the 2008 Wenchuan earthquake, Proceedings of the international symposium on earthquake-induced landslides, Kiryu, Japan, 575-590, 2012
- Tsuruga, K., Junzo Kasahara, Daiki Makino, Taiki Honjo, Yoko Hasada, Hayato Kondo

- and Masaki Kondo, Development of low frequency acoustic transducer for the submarine natural resources and their field test at the shallow water bottom, Proc. of #128 Exploration Geophysicists of Japan, pp. 110-113, 2013.
- 坪内暁子・内藤俊夫・大槻公一・佐藤健：二次災害としての感染症に重点をおいた災害教育：避難所シミュレーション，日本安全教育学会第14回浦安大会，42頁-43頁，2013.
- 上野健一・磯野純平・今泉文寿・井波明宏・金井隆治・鈴木啓助・小林 元・玉川一郎・斎藤琢・近藤裕昭，大学間連携事業を通じた中部山岳域の気象データアーカイブ，地学雑誌，122，638-650，2013.
- 牛山素行・横幕早季：タイムスタンプデータによる津波到達直前の陸前高田市内の状況推定，自然災害科学，Vol.31，No.1，pp.47-58，2012.
- 牛山素行・横幕早季：発生場所別に見た近年の豪雨災害による犠牲者の特徴，災害情報，No.11，pp.81-89，2013.
- 牛山素行：レベル化された気象警報に対する情報利用者の認識，土木学会論文集 B1(水工学)，Vol.70，No.4，pp.I\_1513-I\_1518，2014.
- 牛山素行・横幕早季：平成23年7月新潟・福島豪雨による災害の特徴，自然災害科学，Vol.30，No.4，pp.455-462，2012.
- 牛山素行：平成25年7月山口・島根の豪雨による災害の特徴，自然災害科学，Vol.32，No.2，pp.207-215，2013.
- 牛山素行：平成25年8月秋田・岩手の豪雨による災害の特徴，自然災害科学，Vol.32，No.3，pp.279-288，2013.
- Vetere, F., Sato, H., Ishibashi, H., De Rosa, R., Donato, P. Viscosity changes during crystallization of shoshonitic magmas: new insights on the lava flow emplacement. *J. Mineral. Petrol. Sci.*, 108, 144-160. 2013
- Vetere, F. P., Hiroaki Sato, Hidemi Ishibashi, Rosanna De Rosa, Paola Donato (2013) Viscosity changes during crystallization of shoshonitic magmas: new insights on the lava flows emplacement. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, 108, 144-160.
- Wang, G., Huang, R., Chigira, M., Wu, X., Louren\_o, S.D.N., Landslide Amplification by Liquefaction of Runout-Path Material after the 2008 Wenchuan (M 8\_0) Earthquake, China. *Earth Surface Processes and Landforms*, 38(3), 265-274, 2013.
- 渡部豪，田所敬一，生田領野，杉本信吾，奥田隆，永井悟，江藤周平，久野正博，衛星軌道暦の違いに基づくキネマティック GPS 解析の精度評価，測地学会誌，58巻，2号，61-76頁，2012
- Watanabe, K., So Kazama, Tatsuo Omura, Michael T. Monaghan, Adaptive Genetic Divergence along Narrow Environmental Gradients in Four Stream Insects, *PLoS ONE*, 9(3), e93055, 2014.3.28. DOI:10.1371/journal.pone.0093055

- シャオケーティアー アジ・近藤昭彦：1949年～2008年における新疆の食糧生産の時空間的な変化とその要因解析．*沙漠研究*、23(2)、51-57,2013
- Yamada, M., Hashimoto, M., Fukushima, Y., Matsushi, Y., Chigira, M., Automatic detection of landslides from SAR images: Application to the 2011 Kii landslides. 245-248, 2013.
- 山本裕之, 前堀洋子, 石塚泰世, 浅井園子, 竹村美紀, 加治由記, 山本こず恵, 野上愛里子, 太田裕一, 森田純仁, 古橋裕子, 「教職員の一般定期検診時メンタルチェックの試行」, *CAMPUS HEALTH* 51(1):328-330, 2014.
- 山本裕之, 前堀洋子, 石塚泰世, 浅井園子, 竹村美紀, 加治由記, 山本こず恵, 野上愛里子, 太田裕一, 古橋裕子, 「診断に10年を要した自他覚症状に乏しい自己免疫性委縮性甲状腺炎の1若年女性例」, *CAMPUS HEALTH* 50(1):305-307, 2013.
- Yamamoto, j., Koshi Nishimura, Hidemi Ishibashi, Hiroyuki Kagi, Shoji Arai, Vladimir S.Prikho'ko (2012) Thermal structure beneath Far Eastern Russia inferred from geothermobarometric analyses of mantle xenoliths: a direct evidence for high geothermal gradient in backarc lithosphere. *Tectonophysics*, 554-557, 74-82.
- 山本こず恵, 古橋裕子, 森田純仁, 太田裕一, 松元百合子, 加治由記, 野上愛里子, 前堀洋子, 浅井園子, 山本裕之, 「静岡大学静岡キャンパスにおける外傷の傾向と有効な保健指導に向けて」, *CAMPUS HEALTH* 50(1):319, 2013.
- 山本修治・阿部信太郎・佐藤比呂志・古屋 裕・荒井良祐・津村紀子・伊藤谷生, 房総半島南部太平洋側浅海域における海溝斜面盆地群の構造, 2005・2007 房総南部浅海域高分解能反射法地震探査の成果. *活断層・古地震研究報告*, 13, 75-110, 査読有, 2013.
- Yamane, N., Kanagawa, K., and Ito, T., Contrasting seismic reflectivity of the lower crust and uppermost mantle between NE Japan and SW Japan as illustrated by petrophysical analyses of mafic and ultramafic xenoliths. *Journal of Geophysical Research, Solid Earth*, DOI: 10.1029/2011JB009008, 査読有, 2012.
- Yamori, K. and Motoyuki Ushiyama: Reversibility Between "Nature" and "Society" Recognized in Extreme Meteorological Phenomenon: Taking an Example of the Flood Disaster in the Toga River in Kobe City, *Journal of Disaster Research*, Vol.8, No.1, pp.103-113, 2013.
- 矢守克也: 想定をうそにするために-〈チェンジ〉を支援する, *災害情報*, 11, 14-19, 2013.
- Yamori, K. & Ushiyama M: Reversibility between "Nature" and "Society" Recognized River. *Journal of Disaster Research*, 8, 10-113. 2013.
- 矢守克也: "海啸来时各自飞"蕴藏的四层实践性意义, 孫英英(訳) *教育学報*(北京師範大学), 2012(5), 65-72. 2012.
- Yamori, K: A historical overview of earthquake perception in Japan: Fatalism, social reform, scientific control, and collaborative risk management. (In) T, Rossetto, H,

Joffe, and J, Adams (eds.). *Cities at risk: Living with perils in the 21st century.* Springer Verlag. pp.73-91. 2013.

矢守克也：津波てんでんこの4つの意味，自然災害科学，31，35-46.，2012.

吉田明夫・原田昌武・小田原 啓・宮岡一樹・小林昭夫・野口伸一，関東地震は'characteristic earthquake' か？. 温泉地学研究所報告，44，1-7，2012.

吉田明夫・原田昌武・小田原 啓，大正関東地震の際の海底地殻変動，温泉地学研究所報告，44，17-28，2012.

吉田明夫・高山博之・細野耕司，中央構造線は熱いか？，日本水文科学会誌，43，111-117，2013.

行竹洋平・武田哲也・吉田明夫，応力情報を用いた断層評価の試み，温泉地学研究所報告，45，49-62，2013.

### 2.2.3 学会口頭発表

阿部信太郎・伊藤谷生・狩野謙一・池田安隆・津村紀子・武田哲也・岩崎貴哉・佐藤比呂志・加藤潔・佐藤剛・小森次郎・渡辺俊樹・山北聡・小田原啓・松浦芳樹・他2名，2012FIST 富士川河口断層帯～糸魚川静岡構造線の深部地殻構造，日本地震学会，神奈川県民センター，2013年10月8日.

阿部信太郎・伊藤谷生・狩野謙一・池田安隆・津村紀子・藤原 明・武田哲也・岩崎貴哉・佐藤比呂志・加藤 潔・佐藤 剛・小森次郎・渡辺俊樹・阿部 進・山北 聡・小田原啓・松浦芳樹：富士川河口断層帯～糸魚川～静岡構造線の深部地殻構造. 日本地震学会秋季大会，2013年10月.

荒川修平・牛山素行：テレビ放送における防災情報の伝達状況に関する調査，平成24年度自然災害科学中部地区研究集会，2013年3月2日.

荒川修平・牛山素行：テレビ放送における防災情報の伝達状況 -テレビ局アンケート調査およびweb調査から-，日本災害情報学会第15回研究発表大会，2013年10月26日.

布和宝音・近藤昭彦：内モンゴル自治区における近年の植生変動とその要因解析. 日本地理学会秋期学術大会（福島大学），2013.9.28.

Chigira, M., Geological and geomorphological characteristics of catastrophic landslides induced by recent earthquakes (Invited paper), The International Symposium in Commemoration of the 5th Anniversary of the 2008 Wenchuan Earthquake., Chengdu. May, 2013.

Chigira, M., Geological precursors of catastrophic landslides induced by earthquakes, Japan Geoscience Union Meeting 2013, Makuhari, pp. HDS06-06. May, 2013.

Chigira, M., Recent landslide hazards induced by earthquakes and rainfalls in Asia (Invited paper), International Symposium & 9th Asian Regional Conference of IAEG (International Association of Engineering Geology and Environment), Beijing.

- September, 2013.
- Chigira, M., Kamai, T., Landslides in tectonically active countries, 2nd G-EVER International Symposium and the 1st IUGS&SCJ International Workshop on Natural Hazards, Sendai, pp. 37-38. October, 2013.
- Chigira, M., Matsushi, Y., Tsou, C.-Y., Precursory landforms and geologic structures of catastrophic landslides induced by typhoon Talas 2011 Japan (Invited paper), American Geophysical Union. American Geophysical Union, San Francisco, pp. NH31C-07. December, 2013.
- Chigira, M., Tsou, C.-Y., Matsushi, Y., Topographic precursors and geological structures of deep-seated catastrophic landslides caused by typhoon Talas, determined from the analysis of high-resolution DEMs, European Geosciences Union, Vienna, pp. EGU2013-3604. May, 2013.
- Chigira, M., Tsou, C.-Y., Yokoyama, R., Shirasawa, M., Funakoshi, K., Sakurai, Y., Extracting small scarps to predict potential sites of deep-seated landslides, Japan Geoscience Union Meeting 2013, Makuhari, pp. HDS27-P03. May, 2013.
- 千木良雅弘, 2011 年東北地方太平洋沖地震などの地震による降下火砕物の崩壊, 砂防学会研究発表会, 静岡, 2013 年 5 月.
- 江元智子・津村紀子・藤原 明・阿部 進・小嶋 智・狩野謙一・小村健太郎・武田哲也・浅野陽一・小原一成・伊藤谷生: 反射法地震探査による北美濃地域の地下構造の推定. 日本地震学会秋季大会, 2013 年 10 月.
- 遠藤好和・今泉文寿・藤岡正博, 静岡市井川地区での狩猟時におけるニホンジカの運動能力, 中部森林学会第 2 回発表要旨集, p.37, 長野県南箕輪村, 2012 年 10 月.
- 藤井聡・羽鳥剛史・出口康夫・矢守克也: 社会哲学の心理学的実証の可能性 日本グループ・ダイナミックス第 59 回大会 京都大学 2012 年 9 月 23 日.
- 藤田通孝・牛山素行: 静岡県における防災行政組織の変遷, 平成 25 年度自然災害科学中部地区研究集会プログラム, 2014 年 3 月 1 日.
- Furuhashi, Y., Hikikomori in Japanese University Students: A case study of 38 hikikomori patients, the first International Congress of Psychiatry and Related Sciences (Athens), 2012.
- 古橋裕子, その他, 長期不登校学生の調査 2, 第 50 回全国大学保健管理研究集会, 2012(神戸).
- Furuhashi, Y., Social withdrawal in Japanese university students. -A case study of 45 university students with social withdrawal, 21th World congress of Social psychiatry (Lisbon), 2013.
- 古橋裕子, その他, 第 51 回全国大学保健管理研究集会, 大学入学後自閉症スペクトラムと診断された自験例の検討, 2013 (岐阜).

- 秦康範, 太田晃史: 東北地方太平洋沖地震前後における非被災住民の防災意識と対策, 第 15 回日本災害情報学会研究発表大会予稿集, pp.236-239, 2013
- 原田賢治, 瀬尾直樹, 津波の河川遡上における河川水位条件の影響に関する研究, 土木学会中部支部平成 25 年度研究発表会, pp.71-72, 2014.3.
- 原田賢治, 小山真人, 富士山の山体崩壊による駿河湾における津波シミュレーションの検討, 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, H-DS26-19, 千葉, 2013 年 5 月.
- Harada, K., Study on the damage conditions of coastal tree by tsunami – the case study in Shin-Maiko coast, Fukushima Prefecture, International Tsunami Symposium, Turkey, pp57, September 2013
- Harada, K., Tsuyoshi Nagasawa, Takayoshi Higuchi, Kiyohiro Okada, Tatsuya Niwa, Yoshihito Tanaka, Kazumasa Hashi, Field survey on coastal forest damage by 2011 Tohoku Tsunami; In the case of Noda and Yotsukura coast, AOGS2012, Singapore, August 2012.
- 原田悠平, 秦康範: 2011 年東北地方太平洋沖地震における従来型火災の特徴, I-156, 第 68 回土木学会年次学術講演概要集, 2013
- Hashimoto, T., Satoshi Kimura, András Rövid: INTRODUCTION OF HIGH-PRECISE 3D MEASUREMENT FOR APPLICATION ON DISASTER PREVENTATION, inter-Academia 2013, 9 月 23-27 日.
- Hayakawa, Y.S., Imaizumi, F., Hotta, N., Tsunetaka, H., Time-series analysis on bed morphology affected by debris flows along a headwater steep channel in Ohya-kuzure landslide, central Japan. American Geophysical Union 2013 Fall Meeting, G33A-0981, San Francisco, 2013 年 12 月.
- Hayakawa, Y. S., Imaizumi, F., Hotta, N., Tsunetaka, H., High-resolution morphological analysis of debris-flow affected channel bed in Ohya-kuzure landslide, central Japan, IGU 2013 Kyoto Regional Conference, JS106-2, Kyoto, 2013 年 8 月.
- Hayakawa, Y., Imaizumi, F., Hotta, N., Tsunetaka, H., Temporal changes in erosion rates and patterns in Ichinosawa subwatershed of Ohya-kuzure landslide, central Japan, 日本地球惑星科学連合 2013 年度連合大会, HTT09-02, 2013 年 5 月
- 林拙郎・山田孝: 豪雨の地域特性を考慮した土砂災害の発生降雨と避難, 砂防学会研究発表会, T3-04, 2012 年 5 月.
- 林拙郎・山田孝: 土砂災害に関する実効雨量の地域特性と 豪雨について, 砂防学会研究発表会, T2-04, 2013 年 5 月.
- 林真一郎・西真佐人・小山内信智・谷口綾子・伊藤英之・菊池輝・矢守克也・藤井聡・鴨志田毅、内柴良和: 土砂災害避難行動誘発のための高知県四万十町興津小学校における教育プログラムの検討と効果分析 平成 24 年度砂防学会研究発表会 高知県立県民文化ホール 2012 年 5 月 23 日.

- 林能成・Munasri・中村衛・Didik Sugiyant, 津波地震からの避難過程の調査と教材化～2010年インドネシア・メンタワイ地震～, 日本地震学会秋季大会, D31-13, 2012年10月19日.
- 林能成, 即時地震情報は使いこなせるのか?～東日本大震災前後の動向から考える～, 関西地震観測研究協議会第27回総会・特別講演, 常翔学園大阪センター, 2012年7月13日.
- 林能成, 緊急地震速報や津波警報を使いこなせないのは、なぜか?, IT強震計研究会第17回定例会, 東京大学地震研究所・会議室, 2012年12月25日.
- Hayashi, Y., Overview on Earthquake, ITESS2013, Syiah Kuala Univ., Banda Aceh, Indonesia, 21 Aug., 2013.
- Hayashi, Y., Overview on Tsunami, ITESS2013, Syiah Kuala Univ., Banda Aceh, Indonesia, 22 Aug., 2013.
- 林能成, 地震動体験としての列車振動利用の検討, 日本地震学会秋季大会, P1-38, 2013年10月7日.
- 樋口 慈・土屋 智・逢坂興宏・今泉文寿, ALOS PALSAR を用いた四川大地震による土砂移動箇所の抽出, 平成25年度砂防学会研究発表会概要集, A204-205, 静岡市, 2013年5月
- 平岡 直祈, 吉野 真之, 橋本 岳, András Rövid: ラウンドエッジ誤差低減法を用いた車両事故記録の簡略化に向けた基礎研究, 平成25年度電気関係学会東海支部連合大会, 2013年9月26, 27日.
- 池田恵子, 災害時(後)の女性のニーズをいかに支援につなげるか— 東日本大震災女性支援ネットワーク調査チームの調査から(1)—, 国際ジェンダー学会2012年大会2012年9月2日.
- 池田恵子, 災害・復興の経験を『災害に強い社会の構築』に活かす～大津波からインドネシアは何を学んだか、日本は何を学ぶのか～, 『災害、復興におけるジェンダー公平性を問う』(お茶の水女子大学ジェンダー研修センター主催『災害、復興とジェンダー公平な国際共生社会の構築』プロジェクト 国際ワークショップ, 2013年1月14日.
- 池田恵子, 東日本大震災の経験を『災害に強い社会の構築』に活かす～地域の防災体制とジェンダー・多様性配慮の視点から～, 東海心理学会第62回大会、シンポジウム「防災・減災教育と心理学」, 2013年06月1日.
- Ikeda, K., “Gendering vulnerability reduction - Women and recovery from the 2011 East Japan Disaster”, International Geographical Union Kyoto Conference, CS10-3 Gender and geography: gender, risk and global change, Aug. 6, 2013.
- 池田恵子, 災害時における女性と子どもへの暴力, 国際ジェンダー学会2013年大会シンポジウムII, 2013年9月8日.
- 生田領野, ACROSSによる淡路島野島断層近傍の長期地震波モニタリング, 日本地震学会,



2012年10月

生田領野, 地震カタログによるすべり欠損分布図の作成, 地球惑星科学連合大会, 2013年5月

生田領野, 地震カタログによる巨大地震リスクの検討—すべり欠損の視点から—, 日本地震学会, 2013年10月

今井健太郎, 原田賢治, 川口誠史, 野口宏典, 坂本知己, 南幸弘, 二宮栄一, 今村文彦, 海岸クロマツの倒伏耐力評価手法について, 平成25年度日本海岸林学会大会研究発表会, No.08, 2013.10.26.

Imaizumi F., Nishii R., Ueno K., Kurobe K., Effect of forest harvesting on microclimate and sediment, American Geophysical Union 2013 Fall Meeting, H33A-1342, San Francisco, 2013年12月

今泉文寿・伊藤 広・土屋 智・逢坂興宏, 砂礫堆積面における表面流出と砂礫の流動化, 平成25年度砂防学会研究発表会概要集 B280-281, 静岡市, 2013年5月

今泉文寿・西井稜子・上野健一・黒部皓生, 山岳域における森林伐採が微気象・土砂移動へ及ぼす影響, 日本地球惑星科学連合2013年度連合大会, ACG35-P05, 千葉市, 2013年5月

今泉文寿・西井稜子・村上 亘・小川泰浩・宮前 崇・大丸裕武, 大規模崩壊地内部での地質構造が土砂生産量, 地形へ及ぼす影響, 日本地球惑星科学連合2013年度連合大会, HDS27-06, 千葉市, 2013年5月

今泉文寿・西井稜子・村上 亘・宮前 崇・小川泰浩・大丸裕武, 気象要素が大規模崩壊地における土砂生産へ及ぼす影響, 平成24年度砂防学会研究発表会概要集, 426-427, 高知市, 2012年5月

今泉文寿・諏訪 大, 山岳域における樹木根系の斜面安定効果, 日本地球惑星科学連合2012年度連合大会, AHW28-08, 千葉市, 2012年5月

石橋秀巳, 小竹翔子, 金山恭子, 浜田盛久, 鍵裕之 (2012) 小笠原諸島の火山ガラスの酸化還元状態: Fe-K 端 XANES 微小領域分析による推定. 日本地球惑星科学連合大会2012年大会.

石橋秀巳, 小竹翔子, 金山恭子, 浜田盛久, 鍵裕之 (2012) 小笠原弧形成初期のマグマの酸化還元状態: Fe-K 端 XANES 分析による推定. 日本鉱物科学会2012年年会.

石橋秀巳, 鍵裕之, 阿部なつ江, 平野直人 (2013) プチスポット Site-B の玄武岩質マグマの酸素フュガシティ. 日本鉱物科学会2013年年会.

石川怜志・堀田紀文・今泉文寿・岩田知之・土屋 智, 溪流源頭部の微地形条件が土石流の発生・流動過程に与える影響, 平成24年度砂防学会研究発表会概要集, 94-95, 高知市, 2012年5月

Ishikawa, Y., Summary of the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake, 第29回台日工程技術研討会, 台湾・台北と台南, 2011/11/22

- Ishikawa, Y., Re-evaluation of Mw of the 1707 Hiei earthquake, Seminar on East-Asia Earthquakes Studies - Earthquakes, Tsunamis and Volcanoes in Northeast Asia:International Collaboration and Regional Capacity Building for the Forecast, Preparedness and Early Warning, Beijing, Oct.20, 2011.
- Ishikawa, Y., Re-evaluation of Mw of the 1707 Hiei earthquake, G-EVER1, Tsukuba, 2012/2/24.
- Ishikawa, Y., Abnormal locations of some hypocenters in JMA and the Centennial catalogs, the 9th ASC, Ulaanbaatar, Mongolia, Sep 21, 2012.
- Ishikawa, Y., and Cheng-Horng Lin, Seismicity and tectonics in and around Taiwan, Proceedings of the 11-th Japan-Taiwan International Workshop on Hydrological and Geochemical Research for Earthquake Prediction, 2012.
- Ishikawa, Y., Seismo-tectonics around Dunhuang and observation of micro tremor at Mogao, International workshop on seismism at Dunhunag for the preservation of Mogao gtottoes, 中国・敦煌, Oct. 11, 2012.
- 石川有三, 震源カタログの一部再評価,日本地震学会秋季大会予稿集 A22-01,p26,Oct.18, 函館, 2012/10/18.
- 石川有三,東アジア地震データベース その2,日本地球惑星科学連合大会,HDS07-02,千葉市,2013/5/23.
- Ishikawa, Y., Earthquake catalog in East Aisa including historical events, IASPEI, スウェーデン・ヨーテボリ,7/23,2013.
- 石川有三, ISC-GEM 震源カタログの問題点と改善の試み,日本地震学会秋季大会予稿集 A32-01,2013/10/9.
- Ishikawa, Y., Proposals to revise ISC-GEM earthquake catalog, The 2nd G-EVER International Symposium and the 1st IUGS & SCJ International Workshop on Natural Hazards, Sendai, 2013/10/19.
- Ishikawa, Y., The earthquake catalog of large events in Asia, CCOP, 仙台, 2013/10/22.
- Ishikawa, Y., Proposal to revise ISC-GEM earthquake catalog, AGU fall meeting, サンフランシスコ, 2013/12/12.
- 石川有三, 地震学から伝えたい情報,安全学研究会, 京都,2014/01/26.
- 石川有三,環太平洋地域で発生した巨大地震の震源域データの作成,日本地球惑星科学連合大会,H-DS28-02,横浜,2014/5/1.
- 伊藤哲司・李勇昕・引地達也・鮫島輝美・矢守克也・八ッ塚一郎:ポスト 3.11 震災社会の現在・未来—今から私たちがなすべきことは?— 日本質的心理学会第 10 回大会, 2013/9/1
- 伊藤純一・佐藤博明・白木敬一、琉球弧久米島ピクライトの生成条件. 日本鉱物科学会、2012.9.

- 伊藤谷生・狩野謙一・池田安隆・野崎謙治・山北聡・武田哲也・阿部信太郎・岩崎貴哉・加藤潔・佐藤剛・佐藤比呂志・渡辺俊樹・小田原啓・松浦芳樹・他 2 名, 富士川河口断層帯～糸魚川－静岡構造線井横断地下構造探査 (2012FIST) 報告 (2): 深部構造一, 日本地球惑星科学連合, 幕張メッセ国際会議場, 2013 年 5 月 23 日.
- 伊藤谷生・狩野謙一・池田安隆・津村紀子・武田哲也・阿部信太郎・岩崎貴哉・佐藤比呂志・加藤潔・佐藤剛・小森次郎・渡辺俊樹・山北聡・小田原啓・松浦芳樹・他 2 名, 富士川河口断層帯～糸魚川－静岡構造線地下構造探査 (2012FIST) 報告一その 1: 深部構造一, 日本地質学会, 東北大学, 2013 年 9 月 14 日.
- 伊藤谷生・狩野謙一・池田安隆・津村紀子・阿部信太郎・野崎謙治・山北 聡・武田哲也・加藤 潔・佐藤 剛・小森次郎・岩崎貴哉・佐藤比呂志・渡辺俊樹・藤原 明・阿部 進・小田原 啓・松浦好樹: 富士川河口断層帯－糸魚川静岡構造線横断地下構造探査(FIST) 報告(その 2), 日本地球惑星科学連合大会 (2013. 5)
- 伊藤谷生・狩野謙一・池田安隆・津村紀子・藤原 明・武田哲也・阿部信太郎・岩崎貴哉・佐藤比呂志・加藤 潔・佐藤 剛・小森次郎・渡辺俊樹・阿部 進・山北 聡・小田原啓・松浦芳樹: 富士川河口断層帯～糸魚川－静岡構造線横断地下構造探査 (2012FIST) 報告--その 1: 深部構造--日本地質学会 (2013. 9)
- 伊藤哲司・矢守克也・八ッ塚一郎・近藤誠司・山崎一希・石井盛志・今村和章: 「被災地」からみた風評被害～茨城県大洗町の取り組みを軸に～ 日本質的心理学会第 9 回大会 東京都市大学 2012 年 9 月 1 日.
- 鍵裕之, 小竹翔子, 石橋秀巳, 三河内岳, 小豆川勝見, 松尾基之(2012) フェロペリクレースに取り込まれる  $Cr^{2+}$  の生成機構. 日本鉱物科学会 2012 年年会.
- 神村典浩・牛山素行, 原子力災害時の住民避難に関する教訓の分類・整理, 平成 24 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2013 年 3 月 2 日.
- Kamimura, A., Kei Murase, Eiichiro Nishiyama, Ryuji Kubota, Oshie Tazawa, Osamu Fujimoto, Takeshi Oomura, Junzo Kasahara, A simulation of seismic wave propagation to evaluate heterogeneous structure and near surface effects for time-lapse studies, 第 129 回物理探査学会秋期大会講演, 高知, 2013 年.
- 矢守克也: アクションリサーチの魅力と責任 情報処理学会 FIT2012 シンポジウム「情報学研究における質的アプローチの可能性を探る」 法政大学 2012 年 9 月 5 日
- 狩野謙一・池田安隆・伊藤谷生・野崎謙治・山北聡・武田哲也・阿部信太郎・岩崎貴哉・加藤潔・佐藤剛・佐藤比呂志・渡辺俊樹・小田原啓・松浦芳樹・他 2 名, 富士川河口断層帯～糸魚川－静岡構造線井横断地下構造探査 (2012FIST) 報告 (1) 富士川河口断層帯浅部構造, 日本地球惑星科学連合, 幕張メッセ国際会議場, 2013 年 5 月 23 日.
- 狩野謙一・伊藤谷生・小田原啓・池田安隆・津村紀子・武田哲也・阿部信太郎・岩崎貴哉・佐藤比呂志・加藤潔・佐藤剛・小森次郎・他 2 名, 富士川河口断層帯～糸魚川－静岡構造線地下構造探査 (2012FIST) 報告一その 2: 浅部構造一, 日本地質学会, 東北大学,

2013年9月14日.

狩野謙一・池田安隆・伊藤谷生・野崎謙治・山北 聡・武田哲也・阿部信太郎・岩崎貴哉・加藤 潔・佐藤 剛・佐藤比呂志・渡辺俊樹・藤原 明・阿部 進・小田原 啓・松浦芳樹: 富士川河口断層帯-糸魚川静岡構造線横断地下構造探査(2012FIST)報告(その1)--富士川河口断層帯浅部構造, 日本地球惑星科学連合大会 (2013. 5)

狩野謙一・伊藤谷生・小田原 啓・池田安隆・山北 聡・武田哲也・阿部信太郎・加藤 潔・佐藤 剛・小森次郎・藤原 明・阿部 進・松浦芳樹: 富士川河口断層帯~糸魚川-静岡構造線横断地下構造探査 (2012FIST) 報告—その 2: 浅部構造--. 日本地質学会 (2013. 9)

狩野謙一: 基盤地質に規制された赤石山地の斜面崩壊. 自然災害科学中部地区研究集会 (2014. 3)

狩野謙一: リニア中央新幹線, 南アルプス地下のトンネル掘削に伴う発生土置き場の防災面から見た問題点. 自然災害科学中部地区研究集会 (2014. 3)

狩野謙一・伊藤谷生・渡辺俊樹・小田原 啓・松浦芳樹・池田安隆・山北 聡・武田哲也・阿部信太郎・加藤 潔・佐藤 剛・小森次郎・藤原 明・阿部 進: 富士川河口断層帯の地下構造探査. 自然災害科学中部地区研究集会 (2014. 3)

笠原順三・加藤文人・高梨将・羽佐田葉子: JACOS (Japan Canada Oil Sands) の SAGD (Steam-Assisted Gravity Drainage) フィールドにおける Time Lapse シミュレーション, 第128回物理探査学会, 2013年6月5日.

笠原順三・鶴我佳代子・高梨将・加藤文人・勝間田明男・吉田康宏・羽佐田葉子: 気象研森町の低周波(3.5-7.5Hz) アクロス震源を用いた試験観測, 第128回物理探査学会, 2013年6月5日.

Kasahara, J., Khalid Aldamegh, Khaled AlYousef, Ghunaim T. Alanezi, Omar Lafouza, Abdullah Alhumaizi, Fahad Almalki, Shinji Ito, Andre Guidi and Kiyoshi Ito, Continuous observation of seismic time lapse by every two hours in Saudi Arabia using a seismic ACROSS source intending for EOR and CCS applications, Extended abstract of SEG Geophysical Monitoring workshop for oil exploration, Pittsburg, 2013.

Kasahara, J., A. Kato, M. Takanashi, Y. Hasada, S. Lüth C. Juhlin, Simulation of time-lapse for the Ketzin) CO2 storage site assuming a single seismic ACROSS and multi-seismic receivers, EAGE extended abstract. London, 2013.

Kasahara, J., Mamoru Takanashi, Ayato Kato, Yoko Hasada, Stefan Lueth, Christopher Juhlin, Time-lapse simulation for the Ketzin (Germany) CCS site assuming a single seismic ACROSS and multi-seismic receivers, 地球惑星連合大会, 2013年5月.

Kasahara, J., Khalid Aldamegh, Yoko Hasada, Andre Guidi, Ghunaim T. Al-Anezi,

- Omar Lafouza, Abdullah Alhumaizi, Fahad Almalki, Masamitsu Takano, Initiation of time lapse measurement to monitor the change of water table in water pumping at Al Wasee field, Saudi Arabia using a seismic ACROSS source and multi-receivers (Preliminary report), ASEG, Melbourne , 2013.
- Kasahara, J., Khalid Aldamegh, Ghunaim T. Alanezi, Khaled AlYousef, Omar Lafouza, Abdullah Alhumaizi, Fahad Almalki(KACST), and R. Kubota, The interpretation of time lapse data obtained by seismic ACROSS source operated in Al Wasse water pumping field in Saudi Arabia, 第 129 回物理探査学会秋期大会, 高知, 2013 年.
- Kasahara, J., Kubota, R., Kanai, Y., Tazawa, O., Fujimoto, O., Nishiyama, E., Kamimura, A., Murase, K., Noguchi, S., Ohmura T., and Hasada, Y., A time lapse test of seismic waveform changes during several days at a tuff area in Japan using a seismic vibrator, Proceedings of “KACST-KCUST-JCCP international workshop on Surface and Subsurface 4D Monitoring”, KAUST Feb. 2014.
- Kasahara, J., Aldamegh K., Alanezi, G. T., AlYousef, K., Lafouza, O., Alhumaizi, A., Almalki, F., and Kubota, R., The interpretation of time lapse data obtained by seismic ACROSS source operated in Al Wasse water pumping field in Saudi Arabia, Proceedings of “KACST-KCUST-JCCP international workshop on Surface and Subsurface 4D Monitoring”, KAUST Feb. 2014.
- Kasahara, J., Khaled S. Al Damegh, Ghunaim Al-Anezi, Omar Lafouza, Khaled AlYousef, Abdullah Alhumaizi, Ryuichi Kubota, The time Lapse test in Al Wasse water pumping field in Kingdom of Saudi Arabia to detect the movement of aquifer using the seismic ultra-stable seismic source called ACROSS, GEO, Bahrain, 2014.
- 笠原順三・伊藤慎司・羽佐田葉子・藤井直之・生田領野・鶴我佳代子・藤原友宏・山岡耕春・西上欽也・伊藤潔：淡路島野島断層付近におけるアクロス・タイムラプス試験-空気注入による変化のイメージングと走時変化と降雨による変化，第 126 回物理探査学会，2012 年 5 月 31 日。
- 河越隼人・矢守克也：この人をたずねて 心理学ワールド, 58, 34-35.2012.
- 川崎悠介・渡辺俊樹・伊藤谷生・狩野謙一・池田安隆・津村紀子・野崎謙治・阿部信太郎・武田哲也・阿部 進・藤原 明・白石和也：富士川河口断層帯一糸静横断深部地殻反射法探査で観測された地震記録の地震波干渉法イメージング，日本地球惑星科学連合 2013 年大会, 2013 年 5 月。
- 川崎悠介・渡辺俊樹・伊藤谷生・狩野謙一・阿部 進・白石和也：反射法探査で観測された自然地震記録の地震波干渉法を用いた地下構造イメージング，平成 25 年度東京大学地震研究所共同利用研究集会「不均質媒質における波動伝播の物理学の基礎と応用」，2013 年 9 月。
- 川崎悠介・渡辺俊樹・伊藤谷生・狩野謙一・阿部 進・藤原 明・白石和也，2012FIST 研究

- グループ: 反射法探査で観測された自然地震記録の地震波干渉法を用いた地下構造イメージング, 物理探査学会第 129 回 (平成 25 年度秋季) 学術講演会, 2013 年 10 月.
- 川崎悠介・渡辺俊樹・伊藤谷生・狩野謙一・池田安隆・津村紀子・野崎謙治・阿部信太郎・武田哲也・阿部 進・藤原 明・白石和也, 富士川河口断層帯一糸静横断深部地殻反射法探査で観測された地震記録の地震波干渉法イメージング. 日本地球惑星科学連合大会 (2013. 5)
- 河田慈人・矢守克也: ポスト・東日本大震災における津波防災の課題の体系化ー「クロスロード・津波編」の作成を通じてー 災害情報学会第 14 回研究発表大会 東京大学 2012/10/28
- 風間聡, ゴロカ・サファー他, 数値計算によるメコン河氾濫原の栄養塩の時空間変化, 土木学会東北支部技術発表会, 八戸, 2014 年 3 月 8 日.
- Kazama, S., Reflection of activities in the 2nd phase of WEPA, 9th WEPA annual meeting, Hayama, Japan, 2014.1.21.
- Kazama, S., LCM application for the Mekong inundation water, Water Environmental Group meeting, Davis, USA, 2013.8.23.
- 木村浩之, プロテオロドプシンを有する海洋細菌の光エネルギー利用と代謝メカニズム, 日本地球惑星科学連合 2012 年大会シンポジウム, 2012 年 5 月.
- Kimura. H., Bioenergy production using microbial communities in anaerobic groundwater associated with accretionary prism in Shizuoka Prefecture, Japan. The 3rd Shizuoka University Internatinal Conference "Directions of Interdisciplinary Domain Research in Japan-Europe Partnership". Shizuoka, Japan. 2013. 11.
- 木村浩之, 南西日本付加体の地下圏微生物を利用した新規エネルギー生産システム (招待講演). 日本地球惑星科学連合 2013 年大会. 2013 年 5 月.
- 木村浩之, 静岡流!! 地下圏微生物を利用した地産地消エネルギーの生産 (招待講演). 第 14 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 2013 年 3 月.
- 木村浩之, 深部地下水の微生物群集を使ったエネルギー生産システム. BIO tech 2012 第 11 回国際バイオテクノロジー展/技術会議, 2012 年 4 月.
- 木村浩之, 次世代シーケンサーによる small RNA の解析と水圏複合微生物系への展開. 日本農芸化学会 2012 年度京都大会シンポジウム, 2012 年 3 月.
- 木村克己・今泉文寿・西井稜子・大八木規夫・井口 隆・池田 宏, 大井川上流域の「赤崩」の付加体地質学, 日本地質学会学術大会講演要旨, R20-O-10, 仙台市, 2013 年 9 月.
- 木村 諭史, 高村 修平, 橋本 岳: 防災への応用を目指したブロック擁壁の変位計測に関する実験的研究, 平成 24 年度計測自動制御学会 中部支部 静岡地区計測制御研究会 終了企画, 2012 年 12 月 22 日.
- 木村 諭史, 高柳 翔平, 橋本 岳, 土屋 智, 竹林 洋一, András Rövid: 複数カメラを用

- いた堆積土砂の三次元計測に関する基礎実験, 平成 25 年度電気関係学会東海支部連合大会, 2013 年 9 月 26, 27 日.
- 北村晃寿・小山真人・板坂孝司: 隆起貝層に基づく伊豆半島南端の地殻変動. 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, S-SS32, 千葉, 2013 年 5 月
- 北村晃寿・大橋陽子・小倉一輝・内田絢也・斉藤亜妃・小山真人・篠原和大・宮入陽介・板坂孝司: 化石記録に基づく伊豆半島南部の古津波・古地震. 日本古生物学会 2013 年年会, B01w, 熊本, 2013 年 6 月
- 北村晃寿・小林小夏・小山真人・小倉一輝・大橋陽子・内田絢也・斉藤亜妃・森 英樹・藤原 治・板坂孝司・宮入陽介: 静岡・清水平野と伊豆半島南部の古地震・古津波の履歴. 日本第四紀学会 2013 年大会, O-08, 弘前, 2013 年 8 月
- 北村晃寿・小林小夏・藤原 治, 静岡平野・清水平野の完新統における津波堆積物. 日本地質学会第 119 年学術大会講演要旨, 170, 2012.
- 北村晃寿・小林小夏・玉置周子・藤原 治, 静岡平野大谷地区の完新統における津波堆積物の調査. 日本地球惑星科学連合大会予稿集, MIS25-10, 2012.
- 北村和輝・篠崎智至・今泉文寿・佐藤 剛・林 一成・若井明彦, 伊豆大島近海地震(1978)により発生した斜面災害の広域的再現, 地盤工学会関東支部研究発表会, 防災 7-3, 東京都江東区, 2013 年 10 月
- 小林小夏・北村晃寿, 静岡県清水平野の完新世内湾堆積物における津波堆積物の調査, 日本古生物学会年会講演予稿集, 59, 2012.
- 小林小夏・北村晃寿・玉置周子, 静岡県清水平野の完新世内湾堆積物における津波堆積物の調査 日本地球惑星科学連合大会予稿集, MIS25-P19, 2012.
- 近藤昭彦: 広域放射能汚染の圧倒的な現実を前に、地理学はどう動くか. 日本地理学会秋期学術大会 (福島大学), 2013.9.29.
- Kondoh, A., Kobayashi, T., Matsuoka, N., Suzuki, H., Tang, C.: Current situation and future perspective on Radioactive Contamination in Fukushima Evacuation Zone. International Geographical Union, Kyoto Regional Conference. (Kyoto International Conference Center), 2013.8.7.
- Kondoh, A., Hongo, C.: PROGRAM 3: Advanced Application of Satellite Remote Sensing. CERE International Symposium in ISRS2013 (Makuhari Seminar House), 2013.5.
- 近藤誠司・矢守克也・宮本匠: 防災対策をめぐる時間の感覚の検討～“物象化のドライブ”に関する一考察～, 日本グループ・ダイナミックス学会第 60 回大会, 2013/7/15
- 近藤誠司・孫英英・宮本匠・矢守克也: 「コンサマトリーな防災」と「インストゥルメンタルな防災」～高知県四万十町興津地区におけるアクション・リサーチから～ 社会貢献学会第 3 回大会 東北福祉大学 2012 年 11 月 16 日
- 近藤誠司・孫英英・宮本匠・谷澤亮也・鈴木進吾・矢守克也: 高知県興津地区における津波避難に関するアクション・リサーチ (2) ～避難訓練の充実化を目指した“動画カルテ”

- の開発と展望～ 災害情報学会第 14 回研究発表大会 東京大学 2012/10/28
- 近藤誠司・矢守克也・李 勇昕：災害報道における「知」と「信」の乖離－東日本大震災の津波避難を巡る社会的なリアリティー 日本グループ・ダイナミックス第 59 回大会 京都大学 2012 年 9 月 23 日
- 近藤誠司・矢守克也：“無常”をめぐる社会的なリアリティー－3.11 に関する災害報道の内容分析と基礎的な考察－ 第 31 回 日本自然災害学会学術講演会 弘前大学 2012 年 9 月 18 日
- 小山真人：静岡県周辺の地上放射線量分布と福島原発起源の汚染状況. 日本地球惑星科学連合 2012 年大会, MAG34-P10, 千葉, 2012 年 5 月
- 小山真人：福島原発事故にともなう静岡県周辺の放射能汚染の詳細地図化とその意義. 日本災害情報学会第 14 回研究発表大会, 東京, 2012 年 10 月
- 小山真人：東日本大震災を起こした地震と東海地域への影響. プラスチック成形加工学会 2012 年秋季大会, 名古屋, 2012 年 11 月 (招待講演)
- 小山真人：低頻度大規模災害の定量的リスク評価・比較手法の一試案. 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, U06-04, 千葉, 2013 年 5 月
- 小山真人・鈴木雄介：噴火とともに消滅した伊東市小川沢の化石湖の謎と「赤牛」伝説：伊豆半島ジオパークの新たなジオストーリー. 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, M-IS32, 千葉, 2013 年 5 月
- 小山真人・鈴木雄介：伊豆半島ジオパーク-南から来た火山の贈りもの. 日本火山学会 2013 年秋季大会ジオパーク・シンポジウム, 猪苗代, 2013 年 9 月 (招待講演)
- 小山真人：富士山のハザードマップと避難計画：残された課題. 火山災害軽減のための方策に関する国際ワークショップ 2013 ー大規模噴火 富士山のその時と広域避難-, 2013 年 11 月 29 日, 富士吉田市 (招待講演)
- Kubota, R., Y. Kanai, A. Uchiyama, O. Tazawa, O. Fujimoto, E. Nishiyama, A. Kamimura, T. Kato, S. Noguchi and J. Kasahara, Seismic ACROSS using electro-magnetic vibrator, 第 129 回物理探査学会秋期大会, 高知, 2013 年。
- Kubota, R., Yutaka Kanai, Akinori Uchiyama, Oshie Tazawa, Osamu Fujimoto, Eiichiro Nishiyama, Kei Murase, Aya Kamimura, Shizuo Noguchi, Takeshi Ohmura and Junzo Kasahara, Development of the Seismic ACROSS using electro-magnetic vibrator, Proceedings of “KACST-KCUST-JCCP international workshop on Surface and Subsurface 4D monitoring”, KAUST Feb. 2014.
- 久保友春・堀田紀文・今泉文寿・宮本邦明・蔡 元融・李 心平・謝 正倫, 角埔渓流域での崩壊発生履歴が台風 Morakot による災害に与えた影響, 平成 25 年度砂防学会研究発表会概要集, B44-45, 静岡市, 2013 年 5 月
- Lee, F. and Yamori, K. : A crisis or a turning point?: The relationship between local residents and media during recovery processes: The concept of Star Disaster-Affected



Areas” in Taiwan. The 9th APRU Research Symposium on Multi-Hazards around the Pacific Rim. National Taiwan University, Taipei, Taiwan. Oct., 29, 2013

李 勇昕・近藤誠司・矢守克也：台湾の「明星災区」の意義と課題ーマスメディアと被災地住民の関係性を中心にー 災害情報学会第 14 回研究発表大会 東京大学 2012/10/28

李 勇昕・矢守克也・近藤誠司：「明星災区」とは何か？ー台湾における災害復興事例を通じてー 日本グループ・ダイナミックス第 59 回大会 京都大学 2012 年 9 月 23 日

李 勇昕・近藤誠司・矢守克也：災害復興過程における“社会的リアリティ”の共同構築～台湾古坑郷華山村の事例をもとに～ 日本質的心理学会第 9 回大会 東京都市大学 2012 年 9 月 2 日

Maeda, Y., R. Marui, H. Yamauchi, N. Yamaki: Comparative study of risk with nursing work in Japan and China, Society for Risk Analysis 2013 Annual meeting, December, 2013.

丸井良輔・前田恭伸・八巻直一：ヒヤリ・ハット事例調査による看護業務におけるリスクの発見, 日本リスク研究学会第 26 回年次大会, .2013 年 11 月.

増田俊明・大森康智, 石英のマイヤー硬度：結晶方位依存症について, 日本地質学会第 120 年学術大会, 2013 年 9 月.

増澤武弘・冨田美紀・徳岡徹・増田俊明：海辺の松原を考える 一人を守る防災林か「白砂青松」かー, 平成 23 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2012 年 2 月.

松井魁図・前田恭伸・濱田（佐藤）奈保子：リスクシナリオ発見支援システムの有用性の検証, 日本リスク研究学会第 26 回年次大会, .2013 年 11 月.

松村太郎次郎, 増田 俊明, 貫入岩体周辺の面構造ダイヤグラムに基づく東ピルバラの花崗岩複合岩体の貫入様式について, 日本地球惑星科学連合大会, 2012 年 5 月.

松村太郎次郎, 木村希生, 岡本敦, 増田俊明, East Pilbara, Mt Edger 花崗岩複合岩体周辺に産するメタチャート中の電気石を用いた古差応力解析, 日本地質学会第 119 年学術大会, 2012 年 9 月.

松村太郎次郎・岡本敦・木村希生・増田俊明, 東部ピルバラにおけるメタチャート中の電気石のマイクロブーディン構造を用いた古差応力解析, 日本地球惑星科学連合大会, 2013 年 5 月.

松村太郎次郎・増田俊明, 数値モデルによりマントルドポーフィロクラストの再現：単純剪断下でのポーフィロクラストの回転非回転の変化による影響, 日本地質学会第 120 年学術大会, 2013 年 9 月.

松岡英俊・石川有三・藤井直之, 静岡県周辺における東北地方太平洋沖地震後の地殻変動パターンの変化, 日本地球惑星科学連合大会, SCG66-P09, 千葉市, 2013/5/24.

松岡英俊・石川有三・藤井直之, 静岡県周辺における東北地方太平洋沖地震後の地殻変動パターンの変化, S-CG66, 日本地球惑星科学連合 2013 年合同大会, 幕張（千葉県）, 2013 年 5 月.

- 松下 慎, 津島一平, 木村浩之. 静岡県中西部付加体の地下圏微生物の活性と深部物質循環, 第 29 回日本微生物生態学会大会, 2013 年 11 月.
- 松下 慎, 津島一平, 木村浩之. 静岡県中西部の付加帯の深部地下圏に生息するメタン生成菌と発酵細菌の活性特性. 第 14 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 2013 年 3 月.
- 三井雄太・日置幸介, 水平/鉛直スペクトル比で見る東北地震発生直後の(超)長周期地震動, 日本測地学会第 120 回講演会, 2013/10/30
- Mitsui, Y., Nonlinear effect of absolute stress level on earthquake growth: Numerical experiment on a dynamic rupture model for the 2011 Tohoku earthquake, 6th International Symposium on In-Situ Rock Stress, 2013/8/20
- Mitsui, Y., Earthquake cycle on a (Tohoku-like) fluid-infiltrated weak fault: What point is affected by lower limit of hydraulic diffusivity?, 6th International Symposium on In-Situ Rock Stress, 2013/8/19
- Mitsui, Y., Kosuke Heki, Earth's free oscillation detected by dense GPS array: A case study of the 2011 Tohoku earthquake, AGU 2012 Fall Meeting, 2012/12/3
- 三井雄太・日置幸介, GEONET で捉えた地球自由振動: 2011 年東北地震後, 日本測地学会第 118 回講演会, 2012/11/1
- 三井雄太・八木勇治, 津波地震は浅部巨大地震のなりそこないか? —運動学インバージョンと動力学計算から示唆されること—, 日本地震学会 2012 年度秋季大会, 2012/10/17
- Mitsui, Y., Kosuke Heki, Earth's free oscillation following the 2011 Tohoku earthquake detected by dense GPS array in Japan, The XVI General Assembly of WEGENER, 2012/09/19
- Mitsui, Y., Yoshihisa Iio, Yukitoshi Fukahata, On the occurrence of the 2011 Tohoku earthquake: role of preseismic stress accumulation and coseismic absolute stress release on a weak fault, The XVI General Assembly of WEGENER, 2012/09/18
- Mitsui, Y., Naoyuki Kato, Yukitoshi Fukahata, Kazuro Hirahara, A model for megaquake cycle at the Tohoku subduction zone with thermal fluid pressurization near the surface, AOGS 2012, 2012/08/17
- 三井雄太・飯尾能久・深畑幸俊, 動力学シミュレーションに基づいた東北地震の発生過程に関する 1 つのシナリオ: M7 級地震による応力集中と間隙流体の摩擦発熱, 日本地球惑星科学連合 2012 年大会, 2012/5/25
- 三輪光司・坂井有紀子・富田美紀・増田俊明・増澤武弘: 平成 25 年度ウバメガシを主とする海岸防災林の構造, 自然災害科学中部地区研究集会, 2014 年 3 月.
- 宮町宏樹・八木原 寛・山岡耕春・渡辺俊樹・國友孝洋・井口正人・為栗 健・三ヶ田 均・清水 洋・松島 健・竹中博士: ACROSS 用いた桜島における能動監視, 日本火山学会 2012 年秋季大会, 2012 年 10 月.
- 宮町宏樹・八木原 寛・山岡耕春・渡辺俊樹・國友孝洋・井口正人・為栗 健・三ヶ田 均・

- 清水 洋・竹中博士・生田領野: 桜島火山におけるアクロスを用いた能動的モニタリング—観測報告 2—, 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, 2013 年 5 月.
- 宮本匠・鮫島輝美・竹内みちる・矢守克也: アクションリサーチの時間論—〈めざす〉かわりと〈すごす〉かわり— 日本質的心理学会第 10 回大会, 2013/8/31
- 森浩二, 細山 啓, 山副敦司, 黄地祥子, 木村浩之, 石橋純一郎, 鈴木健一郎. 全ゲノム解析を用いた新種提案—温泉環境から分離した新規 *Thermotoga*—, 第 29 回日本微生物生態学会大会, 2013 年 11 月.
- 中林功德, 前田恭伸: 小型 On-site Visualization を用いた建設業向け災害警戒システムの研究, 日本リスク研究学会第 26 回年次大会, .2013 年 11 月.
- 中川和之, ジオパークの活動と火山防災 2013 年地球惑星科学連合大会 S-VC49・火山防災の基礎と応用, 2013 年 5 月.
- Nakagawa, M., Shohei Hattori, Ken Kurokawa, Hiroyuki Kimura, Naohiro Yoshida. Thermophilic community diversity and isotopic composition of microbial mats in Nakabusa hot spring, Nagano. The International Biogeoscience Conference 2013. Nagoya, Japan. 2013. 11.
- 中居楓子・畑山満則・矢守克也: 住民インタビューに基づいた災害リスク・コミュニケーション支援システムの要求分析, 災害情報学会第 15 回研究発表大会, 2013/10/26
- Nakai, F., Hatayama, M., and Yamori, K. : Risk communication with tsunami evacuation evaluation system: A case study of Kuroshio-Town, Kouchi Prefecture, Japan. The 4th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management (IDRiM), 2013/9/5
- 中居楓子・畑山満則・矢守克也: 避難計画作成支援を目的とした津波避難評価システムの構築 第 124 回情報システムと社会環境研究発表会 東海大学, 2013/6/7
- 中村譲治, 原田賢治, 被災後 3 年以降の企業による東日本大震災被災地支援について, 平成 25 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.34-35, 2014.3.
- 中村譲治, 原田賢治, ふじのくに防災士養成講座受講者の受講動機に認められた特徴, 平成 25 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.26-27, 2014.3.
- Nakano, M., Chigira, M., Lim, C.-S., 2013. Landslides of pumice fall deposits induced by the 2009 Padang earthquake and the formation of halloysite, Japan Geoscience Union Meeting 2013, Makuhari. May, 2013.
- Nishii, R., Imaizumi, F., Ueno, K., Kurobe, K., Monitoring of sediment movement in an artificial forest, Japanese steep mountain, 8th IAG International Conference on Geomorphology, Paris, 2013 年 8 月
- 西井 稜子・今泉文寿・村上 亘・大丸裕武・宮前 崇・小川泰浩, 山岳地における大規模崩壊地の削剥速度, 日本地球惑星科学連合 2012 年度連合大会, AHW28-P04, 千葉市, 2012 年 5 月

- Nishii, R., Imaizumi, F., Murakami, W., Daimaru, H., Miyamae, T., Ogawa, Y., LiDAR monitoring of retrogressive processes on the steep rockslope of a large landslide in the Japanese Alps, EGU General Assembly 2012, Geophysical Research Abstracts, Vol. 14, EGU2012-6867, Vienna, 2012年5月
- 西脇伸・大森康智・木村希生・岡本敦・佐津川貴子・道林克禎・増田俊明, マイクロブーディン解析による主応力軸方向の検証, 日本地質学会第119年学術大会, 2012年9月.
- 野田顕・石田糸絵・小柳知代・小山明日香・近藤昭彦・西廣淳: 千葉県北部における過去120年間の草原の変遷と現存植生の状態, 日本生態学会(広島), 2014.3.17.
- Notsu, K., Sohrin, R., Wada, H., Tsuboi, T., Sumino, H., Mori, T., Tsunogai, U., Hernandez, P. A., Suzuki, Y., Ikuta, R., Oorui, K., Koyama, M., Masuda, T. and Fujii, N., Volatile Leakage from the Crater Bottom of Teishi Knoll, Japan, Formed by a Submarine Eruption in 1989, 1st Anniversary International Conference Commemorating the 2011-2012 El Hierro Submarine Eruption, October 12, 2012, El Hierro, Canary Islands, Spain.
- Notsu, K., Sohrin, R., Wada, H., Tsuboi, T., Sumino, H., Mori, T., Tsunogai, U., Hernandez, P. A., Suzuki, Y., Ikuta, R., Oorui, K., Koyama, M., Masuda, T. and Fujii, N., Volatile leakage from the crater bottom of Teishi Knoll of Izu-Tobu Volcanoes, Japan, 23 years after the 1989 submarine eruption, IAVCEI 2013 Scientific Assembly, July 20-24, 2013, Kagoshima, Japan.
- 野崎謙治・狩野謙一・池田安隆・加藤潔・山北聡・大橋聖和・伊藤谷生, 南部フォッサマグナ, 糸静線-富士川河口断層帯間断層群の断層岩解析に基づく運動センス解明, 日本地質学会, 大阪府立大学, 2012年9月17日.
- 大場義貴・森川すいめい・川野健治・矢守克也・西村ユミ・松本光太郎: 「割り切れない心」と「研究の出口」をつなげる: 社会精神医学と質的心理学の対話(2)(質的心理学会研究交流委員会・日本社会精神医学会総務企画委員会共同企画シンポジウム), 日本質的心理学会第10回大会, 2013/8/31
- 小田原啓・狩野謙一・伊藤谷生, 富士川河口断層帯～糸魚川-静岡構造線地下構造探査(2012FIST) 報告-その3: 沼久保断層ならびに大宮断層による撓曲構造-, 日本地質学会, 東北大学, 2013年9月14日.
- 太田晃史, 秦康範: 2011年東北地方太平洋沖地震の前後に着目した防災意識と防災行動の経年変化, IV-087, 第68回土木学会年次学術講演概要集, 2013
- 仲田慶枝・小山真人・鈴木雄介: 2013年7月18日西伊豆町豪雨災害での災害ボランティアコーディネーター活動の課題. 平成25年度自然災害科学中部地区研究集会, 2014年3月1日, 静岡市.
- 大谷実来, 木村浩之. 付加体の地下圏微生物を利用したバイオガス生産システムの開発と有機基質検証, 第29回日本微生物生態学会大会, 2013年11月.

- 坂井有紀子・富田美紀・徳岡徹・増田俊明・増沢武弘：伊豆半島における潜在自然植生からなる海岸防災林，富士学会，2014年5月。
- 坂井有紀子・富田美紀・増沢武弘：静岡県伊豆半島における防災林としてのハマボウ群落の構造，平成25年度自然災害科学中部地区研究集会，2014年3月。
- 崎山恵理・渡辺俊樹・山岡耕春・生田領野：地震波ノイズ干渉法を使用した2009年駿河湾の地震前後の地震波伝播特性変化の検出平成25年度東京大学地震研究所共同利用研究集会「不均質媒質における波動伝播の物理学の基礎と応用」，2013年9月。
- 佐藤博明他、火口埋積溶岩のドレインバック過程に対する火口形状の効果：アナログ実験結果、日本火山学会秋季大会、2013.9
- Sato, H. et al., Some notes on the viscosity measurements in crystallization experiments at one atmosphere. IAVCEI, 2013.7.
- Sato, H. et al., Viscosity of andesitic lava and its implications for possible drain-back processes in 2011 eruption of Shinmoedake, Japan. IAVCEI, 2013.7
- 佐藤博明他、霧島火山群新燃岳2011年噴出安山岩溶岩の粘性とドレインバックの可能性、日本地質学会西日本支部例会、2013.6.
- 佐藤博明他、霧島新燃岳2011年噴出物中の高MgOと低MgO斜長石、日本地球惑星科学連合、2013.5.
- 佐藤博明他、霧島新燃岳2011年噴火、火口溶岩のドレインバックの可能性評価：安山岩噴出物の岩石学的性質から、日本火山学会秋季大会、2012.10.
- 佐藤博明他、新富士火山最近3000年間の噴火様式とマグマ含水量の関係。日本火山学会秋季大会、2012.10.
- 佐藤博明、鈴木桂子、石橋秀巳、新富士火山最近3000年間の噴火様式とマグマ含水量の関係。日本火山学会2012年度秋期大会。
- 佐藤健：横浜市立北綱島小学校における学校と家庭、地域との連携に基づく防災訓練，日本安全教育学会 第14回浦安大会，2013年09月。
- 佐藤健・村山良之：津波災害に対する学校の防災管理，防災教育と東日本大震災時における実際の対応，地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ in 大船渡 2013，2013年09月。
- 佐藤 悠，木村浩之。好塩性古細菌は環境温度によりG+C含量の異なる16S rRNA遺伝子を選択的に転写する，第29回日本微生物生態学会大会，2013年11月。
- 佐藤 悠，木村浩之。好塩性古細菌 *Haloarcula* の多様な16S rRNA遺伝子と生育温度。第14回静岡ライフサイエンスシンポジウム，2013年3月。
- 澤原勇貴・土屋 智・逢坂興宏・今泉文寿，胸高直径を用いたヒノキの水平根分布の推定，平成25年度砂防学会研究発表会概要集 B392-393，静岡市，2013年5月
- 瀬尾直樹，金原剛，原田賢治，盛土式津波避難施設『命山』の設計手法の検討，土木学会

- 中部支部平成 25 年度研究発表会, pp.73-74, 2014.3.
- 塩崎竜哉・牛山素行:内水氾濫に対して設定した避難勧告発令基準の検証,平成 24 年度自然災害科学中部地区研究集会,2013 年 3 月 2 日.
- 塩崎竜哉・牛山素行:豪雨時の行政機関への電話通報を基にした災害危険度の推定,日本災害情報学会第 15 回研究発表大会,2013 年 10 月 26 日.
- 白濱吉起・池田安隆・何 宏林・傅 碧宏・狩野謙一・越後智雄・宮入陽介・横山祐典:チベット高原北縁 Kumkol Basin の変動地形と表面照射年代. 日本地球惑星科学連合大会 (2012. 5)
- 城下英行・岩堀卓弥・米田格・平林英二・飯尾能久・矢守克也: 満点計画を活用した防災共育 地震工学会 国立オリンピック記念青少年総合センター 2012 年 11 月 9 日
- 宍倉正展・行谷佑一・金子浩之・小山真人 : 伊豆半島北東部沿岸の隆起痕跡が示す間欠的隆起. 日本地震学会 2012 年秋季大会, D21-11, 函館, 2012 年 10 月
- 杉村晃一・牛山素行・本間基寛・横幕早季,避難猶予時間に着目した三陸海岸における東日本大震災津波犠牲者の特徴,平成 24 年度自然災害科学中部地区研究集会,2013 年 3 月 2 日.
- 孫バイ・近藤昭彦・開発一郎: 中国山西省における AMSR-E 土壌水分量の時空間変動と降水量および NDVI との関係について.2013 土壌水分 WS (キャンパスイノベーションセンター) , 2013.12.21.
- 末岡 茂・KOHN B.P.・池田安隆・狩野謙一・堤 浩之・田上高広・長谷部徳子・田村明弘・荒井章司: 低温領域の熱年代学的手法に基づいた赤石山脈の隆起・削剥史の検討. 日本地球惑星科学連合大会 (2012. 5)
- 杉村晃一・牛山素行・横幕早季・本間基寛:岩手県山田町における東日本大震災による人的被害の特徴,第 31 回日本自然災害学会学術講演会,2012 年 9 月 19 日.
- 杉村晃一・牛山素行・横幕早季・本間基寛:避難猶予時間に着目した三陸海岸における東日本大震災津波犠牲者の特徴 -道路網データを用いた解析から-,日本災害情報学会第 15 回研究発表大会,2013 年 10 月 26 日.
- 杉山高志・矢守克也: 東日本大震災発生直後のテレビ広告に関する先行研究への一検討, 災害情報学会第 15 回研究発表大会、2013/10/26
- 孫英英・近藤誠司・宮本匠・矢守克也: 津波防災のアクションリサーチ～避難訓練と防災教育の充実化を目指して～, 災害情報学会第 15 回研究発表大会, 2013/10/26
- Sun, Y., Yamori, K., Kondo, S., and Miyamoto, T. : Doing single-person drill in local community for risk management and disaster education. The 4th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management (IDRiM), 2013/9/5
- 孫英英・近藤誠司・宮本匠・矢守克也: 「平均化」と「極限化」からみる個別訓練タイムトライアル 日本グループ・ダイナミックス学会第 60 回大会, 2013/7/15
- 孫英英・近藤誠司・谷澤亮也・矢守克也: 高知県興津地区における津波避難に関するアク

- ジョン・リサーチ (1) ～災害意識と避難行動パターンに着目～ 災害情報学会第 14 回  
研究発表大会 東京大学 2012/10/28
- 孫英英・矢守克也：「実践共同体」が支える防災対策を目指してー地域社会における防災取  
組みにおける事例からー 日本グループ・ダイナミックス第 59 回大会 京都大学 2012  
年 9 月 23 日
- Sun, Y., and Yamori, K. : Disaster risk education based on the theory of community of  
practice. The 3rd Conference of the Internatinoal Society for Integrated Disaster  
Risk Managemnet. Beijing Normal University, Beijing, 2012/9/8
- Sun, Y., Yamori, K., and Kondo, S. : “Single-person drill” for tsunami evacuation in a  
local community:A new approach to communicative survey. International Conference  
on Disaster Management 2012, Kumamoto University, Aug 24-26, 2012.
- Suzuki, Y., Ishii, C., Takahashi, M., and Koyama, M.: Volcano gifts from the south:  
conception and preparation for the Izu Peninsula Geopark Project. The 5th  
International UNESCO Conference on Geoparks, 5-P-08, Shimabara, May 12-15,  
2012
- 鈴木雄介・上西智紀・小山真人：伊豆半島全体を素材とした火山を楽しみ学ぶ取り組みの  
展開. 日本火山学会 2013 年秋季大会, 猪苗代, 2013 年 9 月
- 高村 修平, 木村 諭史, 鈴木 崇之, 平岡 直祈, 橋本 岳：ステレオ計測による遠距離計  
測の建築物測量への応用, DIA2013 動的画像処理実利用化, 2013 年 3 月 7, 8 日.
- 高梨将・加藤文人・笠原順三・羽佐田葉子・鶴我佳代子・伊藤慎司・藤原友宏：炭化水素  
貯留層の流体モニタリングに向けたアクロス震源の柏崎テストフィールドにおける試験  
観測ならびに数値シミュレーション, 第 128 回物理探査学会, 2013 年 6 月 5 日.
- Takanashi, M., Ayato Kato, and Junzo Kasahara, Field data observation and numerical  
study using a permanent seismic source ACROSS towards hydrocarbon reservoir  
monitoring, SEGJ, International symposium, Yokohama, 2013.
- 竹之内健介・河田慈人・中西千尋・矢守克也：気象情報の共同構築に向けて～地域気象情  
報の取組を通じて, 災害情報学会第 15 回研究発表大会, 2013/10/26
- 竹之内健介・河田慈人・島田真吾・中西千尋・矢守克也：地域性を考慮した気象情報の共  
有による減災可能性ー伊勢市宮川中学校区における取組を通じてー 災害情報学会第  
14 回研究発表大会 東京大学 2012/10/27
- 竹之内健介・河田慈人・矢守克也：地域気象情報による社会日常性への挑戦 日本グルー  
プ・ダイナミックス第 59 回大会 京都大学 2012 年 9 月 23 日
- 寺川寿子・中道治久・山中佳子・渡辺俊樹・奥田 隆・堀川信一郎・山崎文人：地震メカニ  
ズムトモグラフィ法による御嶽山周辺域の 3D 間隙流体圧分布, 日本地震学会 2012 年  
秋季大会, 2012 年 10 月.
- 戸谷真亜久・渡辺俊樹・山岡耕春・加藤愛太郎・飯高 隆・生田領野・津村紀子・大久保慎

- 人・鈴木貞臣, 深発地震を用いた東海地域の地殻構造の地震波干渉法イメージング, 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, 2013 年 5 月.
- 戸谷真亜久・渡辺俊樹・山岡耕春・加藤愛太郎・飯高 隆・生田領野・津村紀子・大久保慎人・鈴木貞臣: 深発地震を用いた東海地域のフィリピン海プレート及び地殻構造の地震波干渉法イメージング, 物理探査学会第 129 回 (平成 25 年度秋季) 学術講演会, 2013 年 10 月.
- 戸谷真亜久・渡辺俊樹・山岡耕春・加藤愛太郎・飯高 隆・生田領野・津村紀子・大久保慎人・鈴木貞臣, 深発地震を用いた東海地域の地殻構造のイメージング, 日本地震学会 2013 年秋季大会, 2013 年 10 月.
- Totani, M., Watanabe, T., Yamaoka, K., Kato, A., Iidaka, T., Ikuta, R., Tsumura, R., Okubo, M., and Suzuki, S.: Seismic interferometry imaging of subducting Philippine Sea plate and crustal structure in Tokai region, central Japan using natural earthquakes, American Geophysical Union 2013 Fall Meeting, 2013 年 12 月
- Tsou, C.-Y., Chigira, M., Yokoyama, R., Shirasawa, M., 2013. Visualization of precursory features of Typhoon-induced Shiaolin landslide by ALOS pan-sharpened stereoscopic imagery, Japan Geosciences Union Meeting 2013, Makuhari, pp. HDS06-P09. May, 2013.
- Tsou, C.-Y., Chigira, M., Matsushi, Y., Chen, S.-C., 2013. Landscape evolution in relation with occurrence of gravitational slope deformation and catastrophic landslides, European Geosciences Union, Vienna, pp. EGU2013-1646. May, 2013.
- Tsou, C.-Y., Chigira, M., Matsushi, Y., Chen, S.-C., 2013. Large scale gravitational slope deformation related to fluvial dissection of a paleosurface, Japan Geoscience Union Meeting 2013, Makuhari, pp. HDS06-17. May., 2013.
- 辻 琢允・渡辺 俊樹: 近地震記録の相互相関による地殻構造イメージング ―震源分布と偽像に関する数値シミュレーション―, 日本地球惑星科学連合 2012 年大会, 2012 年 5 月.
- 経隆 悠・堀田紀文・今泉文寿・早川裕弐・伊藤 広・土屋 智, 大規模崩壊地における土石流の流下と微地形条件の相互作用, 平成 25 年度砂防学会研究発表会概要集, B112-113, 静岡市, 2013 年 5 月
- 鶴我佳代子・笠原順三・牧野大樹・本城泰樹・羽佐田葉子・近藤逸人・近藤正樹: 海底資源探査のための低周波音源の開発と浅海底での試験, 第 128 回物理探査学会, 2013 年 6 月 5 日.
- Tsuruga, K., Junzo Kasahara, Yoko Hasada, and Hayato Kondo Developments and field tests of low-frequency portable le acoustic transducers for a mobile exploration and time lapse experiment of a sea-bottom reservoir, AGU fall meeting abstract, San Francisco, 2013.



内山敬介・岩田孝仁・牛山素行・横幕早季,静岡県における災害時情報共有システムの開発と検証,日本災害情報学会第14回研究発表大会,2012年10月27日.

上田真由美,岩田いづみ,木村浩之,本多大輔. 外洋調査航海におけるラビリントウ類の分離. 日本藻類学会第37回大会, 2013年3月.

梅藤恭平,今井里弥,木村浩之. 付加体の深部地下水とそこに含まれる微生物群集を利用したメタン生成・水素ガス生成, 第29回日本微生物生態学会大会, 2013年11月.

梅藤恭平,今井里弥,大谷実来,木村浩之. 付加帯の深部地下水とそこに含まれる微生物群集を利用したメタン生成・水素ガス生成システムの開発. 第14回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 2013年3月.

牛山素行,情報による土砂災害犠牲者の軽減可能性について,平成24年度砂防学会研究発表会,2012年5月23日.

牛山素行,東日本大震災による人的被害に関する検討,日本災害情報学会東日本大震災に関する調査中間報告会,2012年7月28日.

牛山素行・本間基寛・横幕早季・杉村晃一,陸前高田市・気仙沼市における東日本大震災による人的被害の特徴,第31回日本自然災害学会学術講演会,2012年9月19日.

牛山素行・横幕早季・弟子丸卓也・松村崇行・向井利明,竜巻関連の気象情報に対する利用者の認識,日本災害情報学会第14回研究発表大会,2012年10月27日.

牛山素行・本間基寛・横幕早季・杉村晃一,「三陸地方における東日本大震災津波犠牲者の特徴・序報」,平成24年度東北地域災害科学研究集会,2012年12月27日.

牛山素行・横幕早季,平成24年7月九州北部豪雨による人的被害の特徴,平成24年度自然災害科学西部地区部会研究発表会,2013年2月1日.

牛山素行・横幕早季:豪雨防災情報に対するインターネット利用者の認識 -2004~2013年の4調査の比較から-,第32回日本自然災害学会学術講演会,2013年9月25日.

牛山素行:災害情動的視点から見た2013年7月山口・島根豪雨災害および2013年8月秋田・岩手豪雨災害の特徴,日本災害情報学会第15回研究発表大会,2013年10月26日.

牛山素行,陸前高田市における東日本大震災津波犠牲者の特徴・続報,平成25年度東北地域災害科学研究集会,2014年1月7日.

内海明・増田俊明・増沢武弘:潜在自然植生からなる海岸防災林の構造と機能,平成24年度自然災害科学中部地区研究集会, 2013年3月.

和久田均・増沢武弘・増田俊明:照葉樹を取り入れた防災林の課題,平成25年度自然災害科学中部地区研究集会, 2014年3月.

渡邊耐三・前田恭伸:自主防災組織を対象にした図上訓練手法の開発について,平成25年度自然災害科学中部地区研究集会, 2014年3月

渡辺俊樹・清水英彦・白石和也・阿部進・飛田潤:強震動記録の地震波干渉法解析によるS波反射法記録合成の問題点,物理探査学会第127回(平成24年度秋季)学術講演会,2012年5月.

Xiaokaiti Aji, Akihiko Kondoh: Study on the Secular Changes of Agricultural Structure in Xinjiang Using Satellite Remote Sensing, International Geographical Union 2013 Kyoto Regional Conference, 2013.8.7.

シャオケーティー アジ, 近藤昭彦: 衛星リモートセンシングデータにより新疆における農作物構造の経年変化に関する研究, 日本地球惑星科学連合大会 2013(幕張メッセ), 2013.5.19.

八木浩司・佐藤剛・今泉文寿・林一成, 重力性山体変形現象の発生時間スケールと地震-静岡県口坂本地すべり上部～山伏にかけての稜線での掘削調査-, 日本地理学会 2014 年春季学術大会, 東京都世田谷区, 2014 年 3 月

やまだようこ・矢守克也・秦野悦子・宮本匠・井上孝之: 震災の語りーことばとナラティブの力ー (日本発達心理学会・日本質的心理学会共催シンポジウム) 日本発達心理学会 第 24 回大会, 2013/3/15

山岡耕春, 渡辺俊樹, 井口正人, 為栗 健, 八木原 寛, 三ヶ田 均, 竹中博士, 清水 洋, 宮町宏樹: 活火山における能動監視ー桜島火山へのアクロス設置ー, 日本地球惑星科学連合 2012 年大会, 2012 年 5 月.

山崎新太郎, 千木良雅弘, Petley, D., 2013. 泥質片岩における萌芽的滑り層の形成条件, 日本地球惑星科学連合大会 2013, 幕張, pp. HDS 0618. 2013 年 5 月

矢守克也: 巨大災害のリスク・コミュニケーション: 災害情報の新しいかたち, 日本災害情報学会第 15 回研究発表大会, 2013/10/26

矢守克也・畑山満則・鈴木進吾・宮本匠・近藤誠司・孫英英・中居楓子・谷澤亮也: 津波避難訓練の新しいかたち, 第 32 回日本自然災害学会学術講演会, 2013

矢守克也: 災害と人間について考えるための 4 つのフレーズ(1), 日本グループ・ダイナミックス学会第 60 回大会, 2013/7/14

Yamori, K: Using games in participatory community disaster risk management. DPRI International Forum -. 2013/3/13

矢守克也: 防災・減災のアクションリサーチ 第 7 回全国看護管理・教育・地域ケアシステム学会学術大会記念講演 福山平成大学 2012 年 11 月 10 日

矢守克也: 災害情報と防災教育～これまでとこれから～ 災害情報学会第 14 回研究発表大会 大会記念シンポジウム 東京大学 2012/10/28

矢守克也: 社会実践を見ることに関する考察 日本グループ・ダイナミックス第 59 回大会 京都大学 2012 年 9 月 23 日

矢守克也・近藤誠司・八ッ塚一郎・杉万俊夫: “報道する” / “研究する”: フィールドにおける真のベターメントを目指して 日本グループ・ダイナミックス第 59 回大会 京都大学 2012 年 9 月 22 日

Yamori, K.: Revisiting the concept of “Tsunami Tendenko.” The 3rd Conference of the Internatioal Society for Integrated Disaster Risk Managemnet. Beijing Normal

University, Beijing, 2012/9/9

Yamori, K. : Revisiting the concept of tsunami tendenko: Tsunami evacuation behavior in the Great East Japan Earthquake. Kyoto University Global OE Program 2009-2014 International symposium on sustainability/survivability science for a resilient society adaptable to extreme weather conditions. Kyoto University Obaku Plaza. 2012/8/3.

矢守克也：「津波てんでんこ」の4つの意味 地球惑星科学連合 2012年大会パブリックセッション「防災教育－災害を乗り越えるために私たちが子どもたちに教えること」 幕張メッセ国際会議場 2012年5月20日

矢守克也：〈生活防災〉の思想：日常と異常をつなぐ 大会委員会主催公募シンポジウム「災害との出会い方と日常の営み方～日常が支える非日常・非日常が鍛える日常～」(企画：當眞千賀子) 名古屋国際会議場 2012年3月10日

矢守克也：東日本大震災の質的心理学／質的心理学の東日本大震災，質的心理学フォーラム, 5, 129-131. 2013

矢守克也：「減災社会プロジェクト進行中！」，京都大学防災研究所ニュースレター (DPRI Newsletter) , 70, 2-3 2013

矢守克也：「想定」を活かすために 矢守克也 ひょうご震災記念 21世紀研究機構 HATコラム (2013年9月30日) <http://www.hemri21.jp/columns/columns041.html>

矢守克也：地動儀「特別警報を経験して」，災害情報学会ニュースレター, 55, 1. , 2013

矢守克也：リレーエッセー：真ん中の端っこ 広報とよなか, 759, 45, 2013

矢守克也：阿武山観測所サイエンス・ミュージアム化構想 地震本部ニュース 2013年5月 p.8

矢守克也：17年前と17年後 特集「質的心理学の東日本大震災 (第2回)」，質的心理学フォーラム, 4, 105-106. 2013

矢守克也：防災教育における理科教育の役割, Rimse, 4, 2-8., 2013

矢守克也：「志縁×大学教授：東日本大震災から学ぶ防災論」 志縁, 2013年3月11日号, 15-17. 2013

矢守克也：新しい津波防災のかたち：個別訓練タイムトライアル 消防研修, 93, 18-24. 2013

矢守克也：京都大学防災研究所公開講座「巨大災害にどう立ち向かうかー東の復興・西の備えー」 京都大学防災研究所ニュースレター (DPRI Newsletter) , 66, 12.2012

矢守克也：防災研究所のアウトリーチ活動 京都大学防災研究所ニュースレター (DPRI Newsletter) , 65, 3 2012

矢守克也：「減災社会プロジェクト」始まる 京都大学防災研究所ニュースレター (DPRI Newsletter) , 65, 11. 2012

矢守克也：「動画カルテ」がつなぐ避難訓練～高知県興津地区でのとりくみから ウォロ

(Volo) , 478,14-15.2012

矢守克也：復興の時間／復興の空間 WEBRONZA×SYNODOS：復興アリーナ，  
[<http://fukkou-arena.jp/academic/?p=498/>], 2012

矢守克也：東日本大震災と〈生活防災〉 Re (建築保全センター広報誌) , 175. 22-25.2012

矢守克也：北から 緊急特集「質的心理学の東日本大震災」 質的心理学フォーラム, 3,  
99-100. 2012

矢守克也：CEL への期待 CEL, 99, 51.2012

矢守克也：助かること＝助けること 中学校, 704, 8-11. 2012

矢守克也：経験があるから、3.11 を想いはかれる／「津波てんでんこ」の意味を読み解く  
と… 東日本大震災復興支援企画「3.11 の声、1.17 からの手紙」人と防災未来センター  
2012

矢守克也：(財)WNI 気象文化創造センター第 1 回気象文化対象研究成果報告書「減災文化  
の普及に関わる実践的研究」2012

矢守克也：プロスペクティブとレトロスペクティブ特集「東日本大震災と災害情報」の  
企画にあたってー 災害情報, 10, 1. 2012

矢守克也：東日本大震災と防災教育 「災害と向き合った高校生たちー阪神・淡路大震災  
から 17 年／東日本大震災から 1 年ー」 兵庫県立舞子高等学校 p.30-37. 2012

矢守克也：書評：「噴火のこだま」(清水展著) 質的心理学研究, 11, 201.2012

矢守克也：ゲーミング手法を活用した土砂災害リスク・コミュニケーション Sabo, 109,  
33-34.2012

横幕早季・牛山素行・大森康智・佐津川貴子・増田俊明,防災実務者を対象とした人材育成  
講座の構築～ふじのくに防災フェロー養成講座第一期を終えて～,第 31 回日本自然災害  
学会学術講演会,2012 年 9 月 18 日.

横幕早季・牛山素行,日本自然災害学会災害情報委員会によるツイッターー活用の試み,第 31  
回日本自然災害学会学術講演会,2012 年 9 月 18 日.

横幕早季・牛山素行・大森康智・増田俊明・内山敬介・岩田孝仁,静岡県における防災情報  
共有システム利用者の意見集約手法の開発,日本災害情報学会第 14 回研究発表大会,2012  
年 10 月 27 日.

横幕早季・牛山素行・大森康智・増田俊明:防災実務者を対象とした人材育成講座の構築 (そ  
の 2),第 32 回日本自然災害学会学術講演会,2013 年 9 月 24 日.

横幕 早季・牛山 素行・大森 康智・増田 俊明:防災実務者を対象とした人材育成講座の構  
築 ~1・2 期修了生を対象としたアンケート調査を踏まえて~,日本災害情報学会第 15 回  
研究発表大会,2013 年 10 月 26 日.

米田 格・矢守克也・飯尾能久・城下英行・平林英二：阿武山観測所サイエンスミュージア  
ム化構想 日本地球惑星科学連合 2012 年度連合大会 幕張メッセ国際会議場 2012  
年 5 月 21 日

Yoshikawa, K., Koyama, M., Ishii, C., and Suzuki, Y.: "Volcano gifts" from the south: concept and activities for the Izu Peninsula Geopark. The 3rd Asia-Pacific Geoparks Network Jeju Symposium, Jeju, Korea, September 2013.

#### 2.2.4 その他の著作物

浅野幸子・池田恵子, 『男女共同参画の視点で実践する災害対策：テキスト災害とジェンダー—基礎編—』 東日本大震災女性支援ネットワーク発行, 2013.

千木良雅弘, 近年の斜面災害が与えた教訓. 地盤工学会誌, 61(9), 1-5, 2013.

千木良雅弘, 地質災害. 地質と調査, 137, 32-38, 2013.

藤井基貴, 「3.11 後のサイエンスコミュニケーション」(インタビュー記事)『哲楽』第 5 号, 16-19 頁.

藤井基貴, 「図書紹介：マルティン・H・ユング著／菱刈晃夫訳『メランヒトンとその時代—ドイツの教師の生涯』, 『近代教育フォーラム』 22, 313-315 頁, 2013 年 9 月.

藤井基貴, 「地域活性化支援に基づくキャリア教育—中高生の夢を育てるノンフォーマル教育— 「白川町ユースカレッジ」の展開と課題」, 『新たなキャリア教育の展開とモデル教材』, 静岡大学, 51-59 頁, 2013 年 5 月.

藤井基貴, 「『防災道徳』授業の取り組み(2)」, 『道徳教育』, 明治図書, 659 号, 84-85 頁, 2013 年 4 月.

藤井基貴, 「『防災道徳』授業の取り組み(1)」, 『道徳教育』, 明治図書, 658 号, 84-85 頁, 2013 年 3 月.

秦康範: 山梨県の大雪災害を山梨日日新聞から読み解く, シノドス, 2014.

秦康範: 防災教育の最前線——「自ら考える」訓練試み,  $\alpha$ -Synodos, Vol.144, 2014.

林能成, 母さんカレーで大やけど! 父さん棚の下敷きに!! , 日本地震学会広報誌ないふる, 89 号, p.4-5, 2012.

林能成, 近代地震学の歩みを記録する～金森博雄先生と地震学～, 地震本部ニュース, 2014 年 1 月号, p.8, 2014.

池田恵子, 災害・復興の経験を「災害に強い社会の構築」に活かす～大津波からインドネシアは何を学んだか、日本は何を学ぶのか～, ジェンダー研究, Vol.17, 1-12, 2014.

池田恵子・柘植あづみ・ゆのまえ知子・吉浜美恵子・正井礼子 (東日本大震災女性支援ネットワーク調査チーム編), 『東日本大震災における支援活動の経験に関する調査 報告書』, 東日本大震災女性支援ネットワーク, 2012.

石川有三, 第 9 回アジア地震学会報告, 日本地震学会ニュースレター, 24 巻, 4 号, 11-12, 2012.

石川有三, ASC2012 参加報告, 日本地震学会ニュースレター, 24 巻, 5 号, 22, 2012.

岩松 暉: 桜島大正噴火の経過と災害, 内閣府広報誌「ぼうさい」, No.69, 18-19, 2012.

岩松 暉: 桜島大正噴火の救援と復興, 内閣府広報誌「ぼうさい」, No.70, 20-21, 2013.

岩松 暉: 桜島大正噴火記念碑にみる災害伝承, 九州大学自然災害資料センターニュース,

No.49, 15-24.

- 狩野謙一, (書評)紀州四万十団体研究グループ・編著, 2012: 紀伊半島における四万十付加体研究の新展開. 日本地質学会 News, 15-11, 24-25, 2012, 11.
- 木村浩之, 付加体の深部地下圏に生息する微生物群集を利用した自立分散型エネルギー生産システム. ケミカルエンジニアリング Vol. 58, No. 5, pp. 8-13, 2013.
- 木村浩之, 南西日本の地下圏微生物を利用した付加体エネルギー生産システム. クリーンエネルギー Vol. 22, No. 5, pp. 27-32, 2013.
- 木村浩之, 付加帯エネルギー生産システム ~地下圏微生物を利用した新たな創エネ技術~. 配管技術 Vol. 55, No. 1, pp. 31-36, 2013.
- 木村浩之, 付加帯の地下圏微生物を使ったエネルギー生産システム. 太陽エネルギー Vol. 39, No. 1, pp. 15-20, 2013.
- 木村浩之, 地下圏微生物利用の新エネルギー生産システム -発電システムへの応用-. 特集:新エネルギー最前線. 化学装置 Vol. 54, No. 10, pp. 38-41, 2012.
- 木村浩之, 小澤邦雄, 増田俊明, 地下圏微生物を利用した付加帯エネルギー生産システム. 特集:エネルギー利用のライセンス新技術. ケミカルエンジニアリング Vol. 57, No. 7, pp. 38-41, 2012.
- 木村浩之, 微生物分子温度計による地下圏の温度プロファイリング. 総特集:モホ点描-超深部掘削で何が分かるのか? 月刊地球 Vol. 34, No. 4, pp. 201-206, 2012.
- 北村晃寿, 温暖化予測・巨大津波減災のための古環境研究. 月刊海洋, 44, 「地球生命科学の夢ロードマップ-古環境研究から未来環境を予測する-」, 264-271, 2012.
- 近藤昭彦:放射能汚染の実態評価と生活再建の課題-川俣町山木屋地区の場合-. 農村計画学会誌, 32(4), 459-461, 2014.
- 近藤昭彦:広域放射能汚染の圧倒的な現実を前に地理学はどう動くか. 月刊地理, 59-1, 42-49, 2014.
- 近藤昭彦:里山流域単位の除染を目指した GIS 整備. 日本緑化工学会誌, 38(22), 274-277, 2013.
- 小山真人 (2012):火山と地震がつくった静岡県の風景. 静岡地理, no.54, 4-7.
- 小山真人 (2013):富士山には世界自然遺産の価値がないのか. 科学, 83, no.9, 1.
- 小山真人 (2013):ジオパークが変える地域の教育. 楷樹, no.53, 9-10.
- 小山真人 (2013):東日本大震災を起こした地震と東海地域への影響-大地動乱の時代をどう生きるか-. 成形加工, 25, 204-205.
- 小山真人 (2013):附小・附中で受けた授業の思い出. 楷樹, no.54, 1.
- 小山真人 (2014):富士山をよむ. 科学, 84, no.1, 46-47
- 小山真人 (2014):低頻度巨大災害のリスクを定量評価する-合理的な「想定外」対策へ向けて. 科学, 84, no.2, 191-194.
- 三井 雄太, 16th General Assembly of WEGENER 参加報告, 測地学会誌, 58(3), 125-126,

2012

- 村越真, 景色を読み、知識を総動員する, 岳人, No.795,26-32, 2013.
- 村越真, リスクマネジメント, 岳人, No.798,47-51, 2013.
- 村越真, 登山・アウトドア利用からみた新しい2万5千分1地形図, 地図中心 2014年1月号, p12-15, 2014.
- 中川和之, シリーズ「つながる力で地域防災力向上」その2 ジオパークとの連携術(前) ~観光やまちづくりとつながる, 月刊フェスク, 2013年10月号.
- 中川和之, 事前復興計画としての首都機能移転計画を, 関東大震災90年首都防災ウィーク記念冊子, 2013年9月.
- 中川和之, シリーズ「つながる力で地域防災力向上」その1 地元気象台との連携術~ハザードを知るプロ集団とつながる, 月刊フェスク, 2013年6月号.
- 野津憲治:読書のすすめ, 化学, 68(8月号), 56(2013).
- 尾内隆之・小山真人・平川秀幸・山岡耕春(2014):"安全宣言"事例から考える科学者の役割(前編). 科学, 84, no.2, 177-184.
- 尾内隆之・小山真人・平川秀幸・山岡耕春(2014):"安全宣言"事例から考える科学者の役割(後編). 科学, 84, no.3, 270-278.
- 佐藤博明、久野久著『火山及び火山岩』の勧め, 火山, 59, 25-29
- 牛山素行・横幕早季:特集 東日本大震災と災害情報 人的被害の特徴, 災害情報, No.10, pp.7-13, 2012.
- 牛山素行:豪雨災害による人的被害, 2013年度水工学に関する夏季研修会講義集 A コース, pp.A-4-1~A-4-20, 2013.
- 牛山素行:平成23年の豪雨災害について, 消防科学と情報, 2012年夏号 (No.109), pp.38-44, 2012.
- 山本順司、石橋秀巳(2012) マントルウェッジ炭素の起源を考える. 地球化学, 46, 243-255.
- 吉田明夫, 2011年東北地方太平洋沖地震から一年経過して, 神奈川県温泉地学研究所観測だより, 62, 1-2, 2012.
- 吉田明夫, 地震予知について, 神奈川県温泉地学研究所観測だより, 63, 1-7, 2013.

### 2.2.5 受賞

- 生田領野(18名の共同受賞), 2013年日本地震学会論文賞, 2014年4月30日
- 石橋秀巳, 日本火山学会研究奨励賞, 2012年5月24日.
- 岩松暉, 日本ジオパークネットワーク功労賞, 2013年10月15日.
- 狩野謙一・村田明広, 日本地質学会表彰: 教科書の発行と構造地質学の普及への貢献, 本地質学会, 2012年9月.
- 風間聡, 東北大学工学研究科長特別教育賞, 2014年3月25日.

### 2.2.6 特許等

木村浩之・増田俊明，特願 2013-537517 (PCT/JP2012/075535) ， Self-generating water/gas/electricity supply system. 2012年10月2日.



### 3 学内教育活動

#### 3.1 新入生セミナー

静岡大学では新入生全員を対象として、「大学生活における健康管理に関する啓発」、「キャンパスや学外での安全な過ごし方の習得」、「防災意識の涵養と防災教育に関する啓発」、及び「ハラスメントに関する啓発」を目的として、「健康・安全・安心・快適な大学生活講座」を実施している。同講座は、全新入生が受講する「新入生セミナー」という科目の一部として実施されている。

当センターでは、同講座の一部として、「地震防災のすすめ」というタイトルで、1回45分の講義を分担している。主な内容は下記の通りである。

防災のすすめ	地震とは
地震と震災	東北地方太平洋沖地震（地震）
震度と揺れの状態	日本付近のプレート
プレート境界地震と内陸地震	東海地震・南海地震の発生史
静岡県第四次地震被害想定	パソコン上で見られる第4次被害想定
津波発生のメカニズム	南海トラフ巨大地震による想定津波高
南海トラフ巨大地震想定津波到達時間	静岡・浜松の津波浸水予測
東海地震の予知	緊急地震速報
自然災害の分類	洪水ハザードマップ
土砂災害	大災害発生時に一番大事なこと
地震で死なないために	静岡大学安否情報システム
「万能な備え」なんてない	「備え」は自分で考える
これだけは記憶にとどめて	

図 3-1 平成 26 年度新入生セミナーで使用した主なスライドのタイトル

平成 26 年度の受講者は、静岡キャンパス 1,262 名、浜松キャンパス 749 名だった。講義は、静岡地区 5 回、浜松地区 4 回で、生田講師(兼務)、牛山教授、原田准教授の 3 名で分担実施した。各日とも、45 分×2 回を担当している。

### 3.2 学際科目「地震防災」

地震防災は、さまざまな分野にまたがる総合科学であり、東海地震の発生が危惧されている静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは必要不可欠である。地震に備えて普段から何をしておくべきなのか、また地震発生時には何をすべきなのか、地震発生時に生き延びるための基礎知識など地震防災科学を総合的に学ぶことを目標にかかげ2004年度から本講義が開講されている。全学部の学生が受講可能な「学際科目」の一つとなっている。講師陣は大学の研究者ばかりでなく、行政やメディア関係者など幅広い分野で地震防災に関係している人が担当している。2009年度からは浜松キャンパスでの開講も始まり、2014年度は前期に静岡と浜松で各1講座、後期に静岡（昼間および夜間）の2講座、年間合計4講座が開講された。受講者は計約550人におよんでいる。

以下に一例として2014年度・静岡地区（前期）の講義内容一覧を掲げる。

	開講日	タイトル	担当者(所属)
1	2014/4/11	地震学と東海地震の基礎 1	生田領野(静大)
2	2014/4/18	地震学と東海地震の基礎 2	藤井直之(静大)
3	2014/4/25	地震予知	長尾年恭(東海大)
4	2014/5/9	活断層と地震発生長期予測	狩野謙一(静大)
5	2014/5/16	地震による災害：津波災害	原田賢治(静大)
6	2014/5/23	地震による災害：土砂災害	土屋智(静大)
7	2014/5/30	地震による災害：建物災害	安村基(静大)
8	2014/6/6	地震災害史	武村雅之(名大)
9	2014/6/13	地震防災行政	岩田孝仁(静岡県庁)
10	2014/6/20	災害報道	荒川修平(テレビ東京)
11	2014/6/27	地震災害のリスク認知	村越真(静大)
12	2014/7/4	災害時の心のケア	小林朋子(静大)
13	2014/7/11	市民防災	横幕早季(静大)
14	2014/7/18	災害時の医療	安田清(県立総合病院)
15	2014/7/25	防災を学ぶ(講義のおわりに)	牛山素行(静大)

### 3.3 学際科目「地域社会と災害」

学際科目「地震防災」は、科目立ち上げ時の経緯や、静岡において特に地震災害に対する関心が高いこともあり、内容が地震関係に偏ってしまっていることが課題となっていた。静岡県においても災害は地震だけではなく、また、学生が卒業後に全国、全世界に活躍の場を移すことを考えれば、地震以外の災害に対する教育が必要であることは当然のことである。そこで、地震災害については「地震防災」で学ぶこととして、地震以外の様々な災害を対象に、災害を考えるための基礎的な考え方や、災害をもたらす現象のメカニズム、災害による被害を軽減するための技術や制度について理解し、社会の一員として、当事者意識を持って災害に備える事ができる人材の育成を目的として、2010年度から静岡キャンパスで新科目「地域社会と災害」を開講した。「地震防災」と同様、全学部の学生が受講可能な学際科目の一つとしての開講である。2013年度の受講者は約170人だった。「地震防災」は15回すべてで担当者が代わるオムニバス形式だが、「地域社会と災害」では、防災総合センター専任教員、兼務教員、客員教員を中心に、7名(2014年)が分担する形式としている。

以下に2014年度の講義内容一覧を掲げる。

	開講日	タイトル	担当者(所属)
1	2014/10/6	自然災害科学概論1	牛山素行(静大)
2	2014/10/15	地震災害	原田賢治(静大)
3	2014/10/20	自然災害科学概論2	牛山素行(静大)
4	2014/10/27	火山災害	石橋秀巳(静大)
5	2014/11/10	津波・高潮災害	原田賢治(静大)
6	2014/11/17	豪雨災害	牛山素行(静大)
7	2014/11/25	洪水・土砂災害	牛山素行(静大)
8	2014/12/1	緊急被ばく医療	山岡泰治(浜松医科大)
9	2014/12/8	地域社会と災害	矢守克也(京大)
10	2014/12/15	災害情報	牛山素行(静大)
11	2014/12/22	警報と避難	牛山素行(静大)
12	2015/1/5	行政と災害対応	牛山素行(静大)
13	2015/1/19	防災行政実務	杉村晃一(静岡市)
14	2015/1/26	ハザードマップ	牛山素行(静大)
15	2015/2/2	災害と身近な暮らし	横幕早季(静大)

### 3.4 静岡大学防災マイスター制度

#### (1)防災マイスター称号認定とは

地震その他の天災による被害を減じるためには、ハード面のみならずソフト面の充実が欠かせず、教育機関が果たす役割は大きい。そこで、本学では地域の防災力向上に貢献するため、「防災マイスター称号付与制度」を平成23年度より立ちあげ、一定レベルの防災知識を備えた学生を養成して社会に送り出すこととした。これまでも全学を対象に地震防災の授業や新入生セミナーにおける防災についての講演会を実施してきた。本制度は、こうした防災に関する授業を有機的に結びつけることを狙ったものである。初年度となる2011年度は、波及効果が高いと考えられる防災力を持った教員養成を念頭におき、教育学部で試行的に実施した。おりしも、2011年は東日本大震災が発生し、防災に対する教育の有効性が強く意識された。本制度は、防災についての大学の取り組みの先進的事例として、全国的にも関心を集めた。

さらに2012年度からは、静岡キャンパスの人文社会科学部、理学部、農学部にも対象を広げ現在に至っている。

#### (2)防災マイスター称号付与の条件

防災マイスター称号取得のためには、必修7単位、選択5単位以上の計12単位以上の履修が求められている。必修は共通科目の「地震防災」「地域社会と防災」「災害のリスク危機マネジメント」に加えて、教育学部で開講している「学校におけるリスク管理」「防災科学実習」が指定されている。このうち「学校におけるリスク管理」「防災科学実習」は必修、その他の科目は4単位の選択必修となっている。これらの科目では、地震発生に関する自然科学的な知識のみでなく、自然災害のリスクや防災について広く考えるための人文社会系の授業も含まれている。

選択科目(例)は以下の表のとおりで、教育学部の自然科学、地理学、心理学などの科目が広く指定され、2012年からは農学部、理学部の科目も指定されている。また、修了時には、受講した授業などを踏まえ、卒業後の職場や地域で、得た知識やスキルをどう生かすかをまとめたレポートを義務づけ、学習内容の整理を促している。

表 3-1 称号取得のための選択科目一覧

科目名	科目名
選択	選択
健康体育 II	学校心理学
進化と地球環境	認知心理学
地球科学	地誌学
自然災害と現代社会	地理学研究法
自然災害学	社会調査法 I

地球システム	視聴覚教育メディア論
心理学入門	

### (3)平成23年度の実施状況と今後

23年度は、1年から4年まで計31名が申請をしたが、残すところあと1年である4年生から4名の申請があったことは、学生の関心が高いことを物語っている。実際にはこのうちの3名が修了レポートを提出し、審査の上、防災マイスターの称号を授与された。24年度は9名、25年度は14名がマイスター称号を取得した。なお授与は卒業式時に学長より行われている。

また懸案であった浜松キャンパスでの実施は27年度以降に予定している。

### (4)県知事認証について

静岡県では、これまでも一定の受講条件を満たす市民に対して、「静岡県ふじのくに防災マイスター」の称号を与えてきた。静岡大学防災マイスターも概ねこの条件を満たすので、本学防災マイスター取得後、県が主催する1日の講習を受講することで、上記の認証も受けられることとなった。25年度までに20名が県知事認証を受けた。

## 4 プロジェクト・関連行事

### 4.1 科学技術振興調整費「ふじのくに防災フェロー養成事業」

#### 4.1.1 事業の概要

##### (1)はじめに

近年、様々な形での防災関係の人材育成の取り組みが各地で行われつつある。静岡県では、平成8年から防災士養成講座を実施し、平成25年度時点静岡県ふじのくに防災士（平成22年度に「静岡県防災士」を改名）を1,806名輩出している。この講座の受講生は自治体・企業等での防災に関する実務に従事している防災実務者が多いことが特徴で、ふじのくに防災士取得者は相当数が実務にあたっている。

一方、同講座では講師による講義を聴く座学が中心で「広く浅い」基礎知識の習得にとどまる。防災実務の現場では地域特性・時代特性等、個々の状況にあわせた科学的・技術的知見の応用力が要求されるが、対応できる人材もその育成の場も少ない。そこで、静岡大学は静岡県と連携して平成22(2010)年度より、文部科学省の科学技術戦略推進費(平成25年度からは「社会的システム改革と研究開発の一体的推進事業」)による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」として「ふじのくに防災フェロー養成講座」構築に着手した。

##### (2)講座の概要

この講座では自治体や企業等で災害・防災に関する実務に従事している者を対象にする。災害発生後の危機管理ノウハウにとどまらず、災害の事前予防を目指して、地域の特性を理解し、科学的専門知識とその情報を読み解ける実践的応用力の習得を目標とする。

それぞれ原則1科目1日の形で開講される22科目の「講義・実習」と、担当教員による指導により個別の研究テーマの結果をとりまとめる「修了研修」を本講座のカリキュラムの主軸とした。講座修了は、(1)10科目以上の講義・実習の履修、(2)学会等の専門的な研究発表の場で修了研修の内容を発表すること、(3)講座全体の「ゼミ」である地域防災セミナーに1回以上出席することの3条件を満たすことで判定する。講義・実習はインターネット経由で視聴できるシステムを用意し、開講日に出席できない場合、3科目まではネット経由の受講を出席と認めた。

募集人数は10名程度で、応募資格として「静岡県ふじのくに防災士」、日本防災士機構「防災士」またはそれに準ずる資格を持ち、防災に関わる業務に従事していることとした。受講者の選考は提出された出願書類の内容を元にした一次選考、口頭試問及び面接を行う二次選考による。なお、入学料及び受講料は無料としている。毎年12月下旬～1月上旬に応募を受け付け、2月中旬に選考、3月より講座開始のスケジュールとしている。

講義・実習は、下表のような科目をほぼ隔週土曜日の終日に開講している。話を聞くだけの形式ではなく、計算・作図等数値や物理的・質的データを用いた作業を伴い、毎回課

題提出をもとめている。

表 4-1 防災フェロー養成講座講義・実習科目開講スケジュール(2013～2014 年度)

科目名	担当者	開講日
自然災害科学概論	牛山素行	2014/3/8
統計学演習	村越 真	2014/4/5
災害社会学	矢守克也	2014/4/19
河川工学	風間 聡	2014/5/3
地震計測実習	林 能成	2014/5/17
リスク論	鈴木清史	2014/5/31
水理学	林 拙郎	2014/6/7
火山学	小山真人・鶴川元雄	2014/6/14
建築防災学	佐藤 健	2014/6/28
地球化学	野津憲治	2014/7/12
地震工学	秦 康範	2014/7/26
地震学	笠原順三	2014/8/9
治山砂防工学	林 拙郎	2014/8/23
強震動・地震災害史	武村雅之	2014/9/6
社会調査演習	柄谷友香	2014/9/27
地理学演習	近藤昭彦	2014/10/4
地質学演習	狩野謙一	2014/10/18
防災気象学	(気象専門家)	2014/11/1
気候学(浜松開催)	岩崎一孝	2014/11/15
津波工学	原田賢治	2014/11/29
防災法制度	中川和之	2014/12/13
地域調査演習	牛山素行	2014/12/20
防災実務実習	牛山素行・岩田孝仁	(開講日未定)

修了研修では、受講生と担当教員とのディスカッションにより、特定の研究テーマを決めて取り組む。これまでに発表されたテーマを下記に列挙する。受講生の居住地や実務に関連したものが多い。

2012年3月修了者

- 日本海溝における過去10年間の余震系列解析
- 富士川河口断層帯の地下構造に関する考察
- 2009年8月11日駿河湾沖地震により牧之原市で発生した液状化

- 2009年8月11日駿河湾沖地震前後における地殻活動の変化
- 静岡市清水区巴川を遡上した東北地方太平洋沖地震に伴う津波
- 西伊豆（土肥周辺）における津波史跡とその活用について
- 巴川水系長尾川上流域における大規模崩壊危険箇所地形解析
- 静岡県気象災害小史からみる大雨災害の特徴
- 2010年9月8日の大雨による静岡県小山町での災害について
- 実災害記録に基づく豪雨災害対応行政危機管理演習の構築
- 危機対策における防災システムの導入とあり方
- 家具・冷蔵庫などを固定するためのキッカケについての一考察
- ジオパーク教育の実践と防災教育としての可能性の検証

2013年3月修了者

- GISを用いた汎用性の高い 高校地理教育教材の開発・特に防災教育を視野に-
- 広域避難地としての現状と避難者支援の可能性
- 伊豆東部火山群の噴出物の産状と化学組成
- 岩手県山田町における東日本大震災による人的被害の特徴
- レーザープロファイラを用いた富士川右岸白鳥山で発生した大規模崩壊の特定
- 屈折法による富士宮市、星山丘陵の表層および浅部地質構造解析
- 潜在自然植生からなる海岸防災林の構造と機能
- 津波避難行動の改善に向けた住民意識の基礎調査
- テレビ放送における防災情報の伝達状況に関する調査
- 内水氾濫に対して設定した避難勧告発令基準の検証
- 遠州灘海岸（五島海岸、篠原海岸）における海岸林の津波に対する効果について
- 肢体不自由のある子どものいる家庭での防災対策
- 静岡県周辺における東北地方太平洋沖地震後の地殻変動パターンの変化
- 製造業の地震被害想定に関する一考察
- 明治44年（1911）豪雨に伴う天竜川の河道閉塞
- 1944年東南海地震直前の地殻変動に関する考察
- 原子力災害時の住民避難に関する教訓の分類・整理

2014年3月修了者

- 自主防災組織を対象にした図上訓練手法の開発について
- リスクコミュニケーター養成に伴う災害救助ゲームの開発
- 静岡におけるジオをテーマにした教材及び授業の紹介と高校生の防災認知について
- 富士川河口断層帯～糸魚川-静岡構造線横断地下構造探査(2012FIST)報告ーその3: 沼久保断層ならびに大宮断層による撓曲構造
- 静岡平野大谷地区のイベント(津波)堆積物の分布と堆積環境の推定
- 2013年7月18日西伊豆町豪雨災害での災害ボランティアコーディネーター活動の課



題

- ふじのくに防災士養成講座受講者の受講動機に認められた特徴被災後 3 年以降の企業による東日本大震災被災地支援について
- 静岡県における防災行政組織の変遷
- 『命を守る』防災教育の実践～専門機関との連携を含めて～
- ウバメガシを主とする海岸防災林の構造
- 防災キャンプ前後における児童の意識変化と保護者への影響調査
- 照葉樹を取り入れた防災林の課題

(3)応募者の傾向

2013 年 8 月末現在で、3 期生までの募集・選考が終了している。1 期は 53 名、2 期は 43 名、3 期は 35 名の応募者があり、それぞれ 22 名、20 名、21 名を受講生として受け入れた。応募者の年齢は 40 代を中心に 20 代から 60 代以上まで幅広い年齢層である (図 4-1)。居住地は、静岡大学静岡キャンパスが位置する静岡県中部が最も多い (静岡大学静岡キャンパスには実施主体があり、講義・実習を主に行う)。県内からの応募者が大多数を占める一方で、東海・関東・東北と県外からの応募も 3 期とも続いている (図 4-2)。所属をみると、約 3 分の 1 が行政関係、半数が民間企業となっている (図 4-3)。

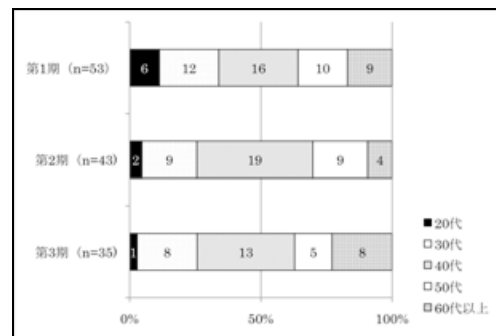


図 4-1 応募者の年代構成

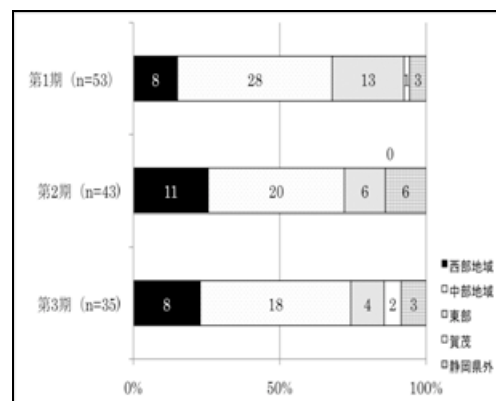


図 4-2 応募者の居住地分類

(4)受講生対象アンケート結果

受講生を対象としたアンケートを実施している。メールで配信・回収する形をとり、1 期受講生は 2012 年 1 月下旬～2 月上旬に実施し、対象 22 名中 20 名から回収。2 期受講生は 2013 年 3 月下旬～4 月上旬に実施し、対象 20 名中 15 名から回収した。どちらも同内容のアンケート調査を行っている。

受講の決め手を問う設問では「防災についてさらに学びたかった」が約半数を占め、

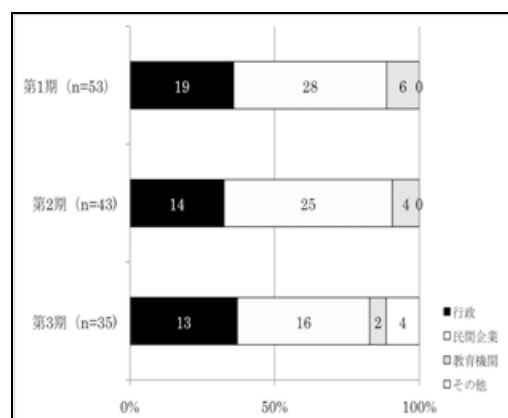


図 4-3 応募者の所属分類

基礎的な知識を持つ実務者への応用的な講座に対する潜在的なニーズがあることが読み取れた。

講義・実習に関する設問(実施した曜日, 1科目1日の実施形態, 必修科目数, 受講人数)については, いずれも「ちょうどよい」(曜日については土曜でよい)という回答が多くを占め, 講義・実習におおむね好評であった。講義・実習の難易度についてはちょうどよかったという回答が多くを占めた。また, 修了研修についての難易度に関する設問では「難しかった」「ちょうどよかった」がほぼ半々となった(図4-4)。個々に研究テーマを決めて取り組み, 学会で発表するのはやや高いハードルのようだ(図4-5)。しかし, 講座全体の満足度に関する設問では「期待はずれ」という回答はほとんどなく, 全員が期待通りか期待以上という回答だった。講座全体としては, 高い評価が得られた(図4-6)。この傾向は1期も2期も同様である。

本講座において改善した方がよいと思うことには, 「事前準備のいる講義・実習では, 早めに連絡が欲しい」「講義・実習のレポートの評価などフィードバックが欲しい」「受講生同士や講師を交えた交流会があると良い」「複数の講師を交えた特定テーマに関する議論の機会が必要」「修了研修の成果については, 学会等での発表のみならず, 論文として提出を義務付けることについて検討することが望ましい」等があげられた。これらの一部については, 第3期の実施に当たり, 改善事項として取り入れた。

#### (5)修了1年後アンケート

2012年3月末に15名, 2013年3月末に17名が本講座を修了し, 静岡県知事認証「ふじのくに防災フェロー」を授与している。2012年3月末に修了した15名に対して, 修了からおよそ1年が経過した2013年5月上旬～中旬に修了後1年間の取り組みや変化などを

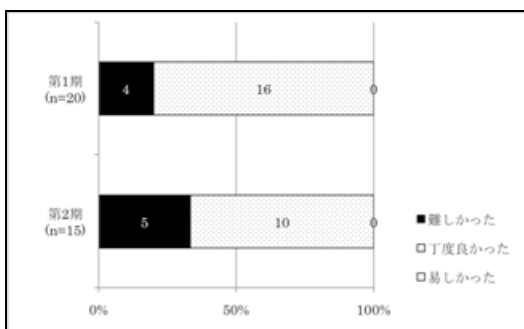


図 4-4 講義・実習の難易度について

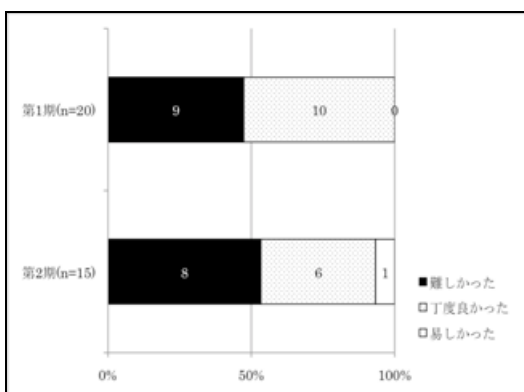


図 4-5 本講座を知るきっかけ

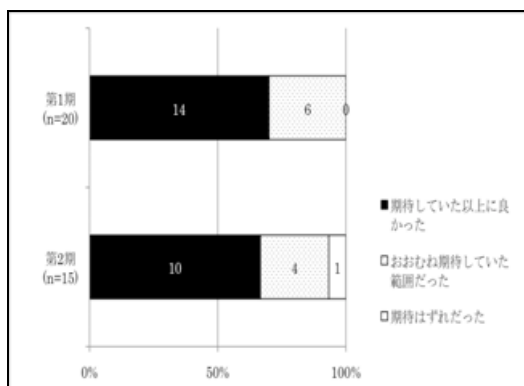


図 4-6 受講中の勤務先からの扱い

アンケート調査した。15名中14名から回答を得た。14名のうち4名からは上司へのアンケート調査回答も得られた。

表 4-2 本講座修了1年間の取り組みや変化

修了後1年間にあった成果や取り組み例	回答者数
学んだことを学会、所属組織内の研究会・会議、各種の講演会などで発表した	9
学んだことを学会で発表した	4
学んだことをいかして一般向け講演会や教育機関の授業をした	4
業務の質を高めるのに役立った	11
講義・実習で学んだ内容を業務にいかした	6
関係する教員に業務へのアドバイスを求めた	7
教員や受講生・修了生との連携があった	12
教員や受講生・修了生らの企画するゼミ・研究会などに参加した	8
巡検・実習を企画したり成果を共著者として発表した	7
教員に各種委員会等の委員や講演会の講師を依頼した	2
修了後、防災実務に従事しなくなった（部署移動・退職）	3

※回答者の総数は14名

修了生へのアンケートでは、本講座を受講したことによる効果の具体例を尋ねた。挙げられた効果を類型化して整理したのが表 4-2 である。「防災に対する意識が高まった」「防災に関心がある者と知り合えた・刺激を受けた」といった抽象的な回答もあったが、具体的な（追跡確認可能な）効果・成果の記述も確認された。以下にまとめる。

「学んだことを学会、所属組織内の研究会・会議、各種の講演会などで発表した」との回答が8名いた。そのうち、学会での発表を行ったが確認できたのは4名である。また、一般向けの講演会や高等学校などの授業をおこなった者も4名確認できた。修了後も引き続き防災関係の知見を深め、これを所属し組織や社会に向けて発信し続けている修了者が多いことが確認された。

業務の質を高めるのに役立ったという主旨の回答も多かった。「統計基礎の理解が、事業評価や質問紙作成に役立った」「津波の発生メカニズムの理解が、津波避難評価に役立った」「地震規模、震度の理解が、構造設計に役立った」というような技術的な面での効果を挙げる者もいれば、「主観的な判断から客観的な判断が多少できるようになった」「公共事業の効果ばかりを伝えるのではなく、事業の限界や住民の避難についても積極的に発言するよう心がけ」るようになったなど考え方の変化を挙げる回答者もいた。

教員や受講生・修了生との連携があったことはほとんどの修了者が挙げていた。中には、実際に起きた災害で「崩壊メカニズムと対策検討のための基礎知識として」対策が与える崩壊部への影響について論理的に検討することができた（略）考えの一つに対して、（教員に）意見を伺った」。その結果、教員は提供された資料を教材として活用したというような

例も確認できた。このような、どちらか一方が教えを請う関係でなく、教員・受講者双方向に良い効果をもたらす事例も確認された。

3名は受講開始時の勤務先を退職したり、部署を異動したりすることによって防災実務から離れていた。また、本講座で得たこと（最先端の知識や科学的・合理的な考え方）と現実（所属組織の考え方や社会の問題）のギャップに苦しむ意見もみられた。

#### (6)今後の展望

本講座の実施により、修了者自身とその周辺に様々な効果を生んでいることが確認された。これは本講座が意図した、「中核的人材の育成により関連する多くの人に波及効果を期待する」ことが実現しつつあると言ってもいい。平成24年度から静岡県がはじめた「地域防災人材バンク」へも6名が登録して、地域での活躍の機会も今後増えていくことが期待される。修了後の反復的、継続的な教育の場を求める声もあり、今後、修了者のリカレント教育などの方法論を検討していきたい。

#### 4.1.2 受講生の活動成果

##### (1)個人研究成果

氏名： 青島 晃

所属： 静岡県立磐田南高等学校

県立高等学校の地学の教員として理科教育，防災教育に取り組んでいます．1981年から中遠行政センターの委託を受け，「昭和19年東南海地震に学ぶ」（1981）を始め，「昭和19年東南海地震の記録」（1982），「写真で見る東南海地震」（1994）などの冊子の編集を中心になって行いました．

また，磐田北高校では静岡県地震予知観測学習モデル校，浜松北高校，磐田南高校では地学部顧問として地震観測や歴史地震の研究を指導し，日本学生科学賞で内閣総理大臣賞を受賞するなど，指導力を発揮しました．研究活動では東南海地震の約40,000件にも及ぶアンケート調査を静岡県西部地域や三重県南部地域で実施したり，歴史地震の液状化や津波の痕跡を地質学的手法により研究を行ってきました．また，2011～2012年には袋井市の液状化対策委員として，ハザードマップ作成のために，昭和東南海地震で発生した液状化の記録を提供しました．

現在，太田川河口で発見された歴史地震による津波堆積物の礫や砂の起源について，岩石学的，鉱物学的手法を用いて解明しています．

氏名：荒川修平

所属：株式会社テレビ東京 報道局 気象・災害担当

防災情報に関して、情報発信者がどんな情報を出し、受信者はどういう手段で受けて、どのように活用したかと言う類の調査は過去にも実施されているが、中間的な立場で情報を伝達している報道機関が、あらゆる防災情報が存在する中で、何を、どんな方法で報道しているかを調べた調査は、今まで見たことはなかった。そのため、我々報道機関がどのような情報を、どのような方法で入手し、どうやって伝えているかを牛山素行先生のご指導の下、全国のテレビ局を対象にして調査した。

気象関連の情報は回答のあったテレビ局では、ほぼ一様で放送していると回答があったが、地震津波関連の情報は各々が取捨選択していることがうかがえた。また、伝達する手段については、テロップを表示するスーパー速報に加えて、データ放送を使っていると回答したテレビ局が多く、デジタル放送の普及で防災情報の伝達にも変化がみられたことが分かった。避難勧告、避難指示の情報は、世の中でいわれているほど、テレビでは即時的には放送されていないことも今回の調査で分かった。

それから、私と同じような立場の人が回答することが想定された今回の調査では、私のような悩みを持つ人がいないかを調査してみた。例えば、防災情報の空振りに対して積極的か消極的か、空振りしやすい情報でも放送した方が良いか否かを議論したことがあるかと言った、どちらかと言うと内情的な内容を調査した。その結果、空振りでも積極的に放送すべきと言う回答が多かったが、情報によっては消極的意見の回答をするテレビ局が増えて、誤差がある情報が一様に認められていない訳ではなく、情報の種類により見解が分かれる結果が得られた。

**氏名：有友春樹**

**所属：日本ミクニヤ株式会社**

私は、民間の建設コンサルタント会社に勤務し、主にソフト防災の分野である計画策定（災害時の行動計画、避難計画、事業継続計画等）支援業務に従事しています。民間企業の事業継続計画（BCP）策定支援業務では、作成手順の提案からワークショップの実施、訓練支援までトータルで行っています。

そんな中、東日本大震災の影響を受けて、津波避難対策計画が次々と改定されています。現在の研究テーマは、「地域の津波避難対策計画の課題と改善策の検討」として取り組んでいます。地域における津波避難対策計画に関する資料を収集し、現状の計画を科学的分析に基づいて分析して具体的な問題点・改善点を検討します。

氏名：藤田通孝

所属：静岡県中部危機管理局危機管理課 主査

静岡県は防災行政組織を災害対策基本法第4条の地域防災計画の策定、市町村等の防災に関する事務または業務の実施の補佐及び総合調整、同法第46条の災害予防について取り組む部署と定義すると、他県では地域によって防災機関の体制は異なるものの、消防学校や消防航空隊のための出先機関等は有しているが、こうした防災行政のための出先機関が設置されている組織はほとんど見当たらないものと思われる。また、静岡県においても、危機管理組織の発達史は従来とりまとめられていない。そこで本研究では、東海地震が発表されてから38年が経過する中、現在の危機管理部という組織が出来上がるまでの変遷を調査した。調査方法としては静岡県経営管理部総務課が発行されている静岡県職員録の東海地震説が発表された昭和51年度から平成25年度までの各年のものから、現在の危機管理部に相当する部局の組織及び職員を抽出した。



氏名：早川哲也

所属：静岡県沼津土木事務所 御殿場支所工事班主査

私は静岡県職員として土木行政に携わってきましたが、自身の技術力向上を目的に 2012 年に「ふじのくに防災フェロー」を受講し、前田恭伸先生のご指導の下、リスクマネジメントの観点からリスクコミュニケーターの育成を目的とした体験型の教材を作成しました。

氏名：桑原雅典

所属：株式会社建設コンサルタントセンター

私は普段、民間建設コンサルタントの土木技術者として、社会基盤施設の計画・設計を行っております。ふじのくに防災フェロー養成講座には、1期に参加させていただきました。当講座の修了研修では、静岡大学理学部地球科学科の地震学・固体地球物理学研究室において、生田助教の指導の下、日本海溝の余震活動について研究しました。

研究は、講座修了後の現在も継続しております。その間、生田助教の他に、里村教授(現在は退官)や三井助教、並びに研究室の院生・学部生と交流し、貴重な経験をさせてもらっています。お世話になっている多くの方に報いるため、研究成果を論文として形にしておくことが現在の目標です。

当講座で得た知識等は、実務で大変役に立っています。例えば、防災対策関連業務の場合、予め想定・予測された外力・被害を基に計画・設計を施す時があります。その際には、想定・予測のモデリング手法並びに入力条件及びデータの理解や検証、他事例の分析を行い、工学上妥当な結論を導けるように努めています。また、私が経験不足である際には、講座で知り合えた先生・フェローの皆様に相談させていただく時もあります。これらは、受講前には出来なかったことです。

今後も、研究および実務成果を出すことに努め、静岡県の防災機能の向上に微力ながら貢献していきたい所存です。

氏名 : 諸橋 良  
所属 : 静岡県静岡土木事務所 河川改良課

私は、静岡市南部の巴川流域で治水や津波対策の業務に従事している。

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う津波は、巴川を河口から6km以上も遡上し、その様子が画像や水位計に記録された。これらの記録について、原田賢治先生のご指導のもと巴川を遡上した津波の到達状況や波形を解析し、地形を考慮した適切な津波避難行動などを検討した。

また、小・中学生の防災意識の向上を図るため、「しぞ〜か防災かるた」を使用した防災教育に取り組んだ。「しぞ〜か防災かるた」とは、300人近い市民の協力を得て句を集め、上の句に静岡の歴史や文化などの郷土の特色、下の句に防災心得を詠んだ優れた防災教育のツールである。受講者が居住する地域性を踏まえて絵札を選定し、地形の特徴から予想される災害などを解説した。



図 4-7 防災教育ツール「しぞ〜か防災かるた」

氏名：小田原 啓

所属：神奈川県温泉地学研究所

ふじのくに防災フェロー2期生として、2012年～2013年度に狩野謙一特任教授、伊藤谷生客員教授のご指導のもと、富士川河口断層帯の地下構造探査に併せて地表地質調査を行いました。その成果は2013年9月に東北大学で開催された日本地質学会第120年学術大会において発表しました。防災フェローは修了しましたが、引き続き富士川河口断層帯をはじめとする伊豆衝突帯の地質構造に関する調査研究を進めていきたいと思っています。

氏名：柴田達哉

所属：(株)ジーベック

静岡県内で営業する地質調査会社の技術職として軟弱地盤や地すべり解析などの社会インフラ整備のための地盤調査を行っています。防災関係では、袋井市液状化マップの作成に携わる他、公共施設の耐震照査業務の地質データの取得を担当しています。また、静岡県地質調査業協会活動として、県職員への技術研修や講習会の企画等を行っており、技術士（総合技術監理・建設・応用理学部門）活動として、理科支援活動等の社会活動も行っていきます。

ふじのくに防災フェローでは、北村晃寿先生のご指導のもと「静岡平野大谷地区のイベント(津波)堆積物の分布と堆積環境の推定」を行いました。また、先生と共に清水・下田地域での津波堆積物調査のためのボーリングコア採取を行いました。

氏名：塩崎竜哉

所属：多治見市役所 企画防災課

本市が経験した豪雨災害時の降水量や河川水位の状況、被害記録などから、避難勧告などに利用できる指標についての研究を行うとともに、その結果を活用して実運用に役立てるためのマニュアル作成などに取り組んでいます。

特に、2011年9月に台風第15号が接近することで発生した豪雨災害時の記録からは、行政機関への電話通報数と降水量にはある程度のある関係があることが判明したことから、災害危険度を示す指標として利用できるものと考えています。こうしたことから、気象情報などと電話通報数の集計を組み合わせることで、避難勧告などの基準として運用していく予定をしております。

## (2)研究業績リスト

### ●学会口頭発表

- 青島晃,学校側からの産学連携の事例紹介,日本化学会第94春季大会第21回化学教育フォーラム講演要旨,6-9,2014.
- 青島晃・藤原治・北村晃寿・佐藤善輝・鈴木慧・森敬太・杉山知希,静岡県磐田市の太田川下流で見られる津波堆積物中の礫と砂の組成(演旨),日本地質学会第120年学術大会講演要旨,R11-P-10,2013.
- 青島晃・辻本敬斗・池田郁也・伊藤有羽・柿澤文也・梅野禎彦・池田純一,エルブスに見られる縞構造の発見と電離圏擾乱との関係,名古屋大学太陽地球環境研究所研究集会「雷・超高層放電の科学」プログラム,2013年3月.
- 青島晃・柴田達哉,アンケート調査による1944年東南海地震の静岡県太田川低地の液状化発生地点,第29回歴史地震研究会講演要旨集,2012年9月.
- 青島晃・藤原治・北村晃寿・佐藤善輝・小野映介・谷川晃一朗・石上朗・下谷豪史・檜垣聡太・鈴木拓貴・檜垣北斗,静岡県磐田市の太田川下流で見られる津波堆積物中の礫と砂の組成(演旨),地球惑星科学関連学会合同大会予稿集,MIS25-P20,2012.
- 荒川修平・牛山素行,テレビ放送における防災情報の伝達状況に関する調査,平成24年度自然災害科学中部地区研究集会,2013年3月2日.
- 有友春樹・原田智也・峯浩二:下水道BCP訓練における評価方法の有効性の考察,地域安全学会梗概集, No.34, p89-90, 2014年5月.
- 藤田通孝・牛山素行:静岡県における防災行政組織の変遷,平成25年度自然災害科学中部地区研究集会プログラム,2014年3月1日.
- 藤原 治・青島 晃・佐藤善輝・北村晃寿・小野映介・谷川晃一朗,篠原和(2012),元島遺跡周辺(静岡県磐田市)で見られる4世紀から中世にかけての津波堆積物,第29回歴史地震研究会講演要旨集,2012年3月.
- 早川哲也:リスクコミュニケーター養成に伴う災害救助ゲームの開発,日本リスク研究学会第26回年次大会,2013年11月16日.
- 藤原 治・青島 晃・佐藤善輝・北村晃寿・小野映介・谷川晃一朗,静岡県磐田市の太田川低地で見られる歴史津波堆積物(演旨),第四紀学会予稿集,2012.
- 藤原治・青島晃・北村晃寿・佐藤善輝・小野映介・谷川晃一朗・篠原和,静岡県磐田市の元島遺跡とその周辺で見られる2枚の歴史津波堆積物,(演旨),地球惑星科学関連学会合同大会予稿集,MIS25-09,2012.
- 生田領野・桑原雅典・村上裕紀,日本海溝における余震減衰特性の空間分析,日本地球惑星科学連合2014年大会,2014年5月.
- 桑原雅典・生田領野,日本海溝における過去10年間の余震系列解析,日本地球惑星科学連合2012年大会,2012年5月.
- 諸橋良,原田賢治:静岡市清水区における巴川を遡上した東北地方太平洋沖地震に伴う津

- 波, 平成 24 年度自然災害科学中部地区研究集会、2013 年 3 月.
- 中村譲治・原田賢治, ふじのくに防災士養成講座受講者の受講動機に認められた特徴, 平成 25 年度 自然災害科学中部地区研究集会, 2014 年 3 月
- 中村譲治・原田賢治, 被災後 3 年以降の企業による東日本大震災被災地支援について, 平成 25 年度 自然災害科学中部地区研究集会, 2014 年 3 月
- 小田原 啓・狩野謙一・伊藤谷生, 富士川河口断層帯～糸魚川－静岡構造線横断地下構造探査 (2012FIST) 報告－その 3 : 沼久保断層ならびに大宮断層による撓曲構造, 日本地質学会第 120 年学術大会, 2013 年 9 月 14 日
- 佐藤善輝・藤原治・青島晃・北村晃寿・小野映介・谷川晃一郎, 静岡県磐田市の太田川下流低地で見られる津波堆積物中の珪藻化石組成, (演旨), 地球惑星科学関連学会合同大会予稿集, MIS25-P25, 2012.
- 塩崎竜哉・牛山素行, 内水氾濫に対して設定した避難勧告発令基準の検証, 平成 24 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2013 年 3 月 2 日.
- 塩崎竜哉・牛山素行, 豪雨時の行政機関への電話通報を基にした災害危険度の推定, 日本災害情報学会第 15 回研究発表大会, 2013 年 10 月 26 日.
- 杉村晃一・牛山素行・横幕早季・本間基寛, 岩手県山田町における東日本大震災による人的被害の特徴, 第 31 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.129-130, 2012 年 9 月 19 日.
- 杉村晃一・牛山素行・本間基寛・横幕早季, 避難猶予時間に着目した三陸海岸における東日本大震災津波犠牲者の特徴, 平成 24 年度自然災害科学中部地区研究集会, pp.38-39, 2013 年 3 月 2 日.
- 杉村晃一・牛山素行・横幕早季・本間基寛: 避難猶予時間に着目した三陸海岸における東日本大震災津波犠牲者の特徴 – 道路網データを用いた解析から –, 日本災害情報学会第 15 回研究発表大会予稿集, pp.214-217, 2013 年 10 月 26 日.

### ●その他の著作物

- 小田原 啓: かながわ露頭マップ「二宮町梅沢海岸の谷戸層」, 温泉地学研究所観測だより, No. 63, 33-34, 2013 年.
- 上西智紀: ジオパーク教育で地域の「語り部」を育てる, E ジャーナルしずおか, No.99, 3 ページ, 2012 年.
- 上西智紀: やさしい知識～ジオパークにおける地学教育活動～「伊豆総合高校におけるジオパーク教育」, 地質と調査, Vol.133, No.3, 39-40, 2012 年 9 月 10 日発行.
- 上西智紀: 伊豆総合高校におけるジオパーク教育, 静岡大学教育学部附属浜松小学校研究紀要「楷樹」, 第 53 号 (ISSN 1883-9827), 11-12 ページ, 2013 年 5 月発行.

### ●受賞



有友春樹, 地域安全学会研究会 優秀発表賞, 2014 年 5 月.

## (2)社会的活動

### ●外部・公開講演会等

青島晃, 第 1 回液状化対策工法等講習会, 過去に発生した大地震における液状化被害の状況, 袋井市役所東分庁舎, 袋井市, 2012 年 10 月 5 日.

諸橋良, 高山みほ, 平成 25 年度観山中学校区青少年健全育成大会 防災講話:「巴川と麻機遊水地の地形」, 主催: 観山中学校区青少年健全育成会, 会場: 静岡市立観山中学校体育館, 平成 25 年 11 月 2 日.

諸橋良, 小野寺郷子, 五味響子, 高山みほ, いざに備えて楽しく学ぶ「しぞ〜か防災かるた」で防災学習出前授業, 共催: しぞ〜か防災かるた委員会, 静岡市, 会場: 静岡市立清水区不二見小学校 4 年 2 組, 平成 25 年 11 月 25 日.

諸橋良, 加畑勝之, 鈴木エリ, 第 13 回しぞおか川自慢大賞「しぞ〜か防災かるた」を使用した河川に係る防災意識の啓発, 主催: しぞおか川自慢大賞実行委員会, しぞおか流域ネットワーク, 会場: 静岡科学館る・く・る, 平成 26 年 2 月 22 日.

小田原 啓, 平成 25 年度環境セミナー「丹沢山地・秦野盆地の生い立ち」, 秦野市, 秦野市文化会館, 2013 年 6 月 26 日.

柴田達哉, 第 1 回理科実験授業研究会, 公益社団法人日本技術士会中部本部, 日本技術士会中部本部会議室, 2014 年 4 月 27 日.

塩崎竜哉, パネルディスカッションパネリスト, 科学技術戦略推進費「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」(ふじのくに防災フェロー養成講座) シンポジウム「防災フェロー講座折り返し点を迎えて」, 静岡大学防災総合センター・静岡県, 静岡市, 2013 年 3 月 16 日.

島田千亜紀, パネルディスカッションパネリスト, 科学技術戦略推進費「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」(ふじのくに防災フェロー養成講座) シンポジウム「防災フェロー講座折り返し点を迎えて」, 静岡大学防災総合センター・静岡県, 静岡市, 2013 年 3 月 16 日.

杉村晃一, 日本水道協会静岡県支部防災担当者連絡会議, 公益社団法人日本水道協会静岡県支部, 静岡市葵区, 静岡県, 2013 年 9 月 6 日

杉村晃一, 全国さく井協会第 2 回研究発表会, 社団法人全国さく井協会, 静岡市葵区, 静岡県, 2013 年 9 月 19 日

杉村晃一, 平成 25 年度ふじのくに防災士養成講座, 静岡県, 静岡市駿河区, 静岡県, 2013 年 9 月 27 日

上西智紀, 伊豆市ジオパーク市民講座, 伊豆市, 伊豆市, 2012 年 7 月 23 日.

上西智紀, 沼津 RC 定例会, 沼津 RC, 沼津市, 2012 年 8 月 24 日.

上西智紀, 伊豆市ジオパーク市民講座, 伊豆市, 伊豆市, 2012 年 9 月 14 日.

上西智紀,伊豆市ジオパーク市民講座,伊豆市,伊豆市,2012年10月12日.

上西智紀,「伊豆半島ジオパーク誕生記念イベント 不思議発見ジオツアー」,伊豆市,伊豆市,2012年12月23日.

上西智紀,「伊豆半島ジオパーク」講演会,大滝温泉天城荘,河津町,2013年1月28日.

上西智紀,伊豆市ジオパーク市民講座,伊豆市,伊豆市,2013年9月21日.

渡邊耐三, パネルディスカッションパネリスト, 科学技術戦略推進費「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」(ふじのくに防災フェロー養成講座) シンポジウム「防災フェロー講座折り返し点を迎えて」, 静岡大学防災総合センター・静岡県, 静岡市, 2013年3月16日.

### ●マスメディア・新聞等への掲載

青島晃, 静岡県袋井土木事務所広報誌, てくてく太田川 No13, てくてく地質学講座, 東南海地震による橋の被害, 2014年4月1日.

青島晃, 朝日小学生新聞, 1300年前の津波跡, 高校生が発見, 静岡, 2014年1月15日.

青島晃, 朝日新聞全国版, 1300年前の津波, 高校生が発見, 2014年1月12日.

青島晃, 中日新聞, 天竜川産のざくろ石分布, 磐田南高生徒, 謎解明に光, 2013年9月25日.

青島晃, 朝日新聞静岡県版, ガチンコ文化系, 磐田南高校地学部, 海岸線守る砂集め実験, 2013年7月5日.

青島晃, 静岡県袋井土木事務所広報誌, てくてく太田川 No12, てくてく地質学講座, 太田川河口で津波堆積物発見!, 2013年4月1日.

青島晃, 静岡新聞, 科学欄, 高校理系部活ラボ探訪, 遠州灘砂の動き分析, 2013年1月28日.

青島晃, 静岡第一テレビ, 静岡まるごとワイド! news every. しずおか, 太田川河口の津波堆積物, 2012年7月20日.

青島晃, NHK総合ニュース・全国放送, 昭和東南海地震による袋井市の液状化とハザードマップ作成, 2012年3月11日.

諸橋良, 中日新聞朝刊, 「建築専門職員ら20人被災地派遣」, 平成26年3月29日.

塩崎竜哉, 中日新聞, 台風早めに行動を 防災を考える講演会, 2013年10月18日.

塩崎竜哉, 岩手日報, 電話通報数から被害を予測 風水害で迅速対応可能 多治見市職員が研究, 2013年10月27日.

塩崎竜哉, NHK総合テレビ「おはよう日本(全国)」, 避難勧告早くするには 素早い呼びかけ カギは「住民の通報数」, 2013年12月16日.

塩崎竜哉, 毎日新聞(中部朝刊), 大雨時の危険地区 市民通報数で推測 多治見市が考案 早期対応に活用, 2014年1月7日.

塩崎竜哉, 山陰中央新報, 市民の通報数で災害危険度推定 11年台風教訓に, 2014年1月

7日.

塩崎竜哉, 岐阜新聞 (夕刊), 大雨危険度 通報数で推測 多治見市がシステム考案, 2014年1月7日.

塩崎竜哉, 朝日新聞 (岐阜), 豪雨被害 通報分析し推定 多治見市職員の塩崎さん考案, 2014年1月16日.

塩崎竜哉, 読売新聞 (岐阜), 通報分析し災害予測 多治見市職員が研究 避難勧告判断材料に, 2014年2月10日.

杉村晃一, 朝日新聞, 東日本大震災から2年 被災地で見えたもの, 2013年3月10日.

上西智紀, 伊豆日日新聞, ジオユネスコ会議参加, 2012年5月1日.

上西智紀, 伊豆日日新聞, 伊豆市ジオ市民講座, 2012年7月25日.

上西智紀, 静岡新聞, ジオ推進の活動紹介, 2012年7月25日.

上西智紀, NHK 番組, 「あなたの街から」伊豆総合高校におけるジオパーク教育, 2012年9月26日.

上西智紀, 伊豆日日新聞, 伊東で移動知事室 ジオ推進協と意見交換, 2012年10月16日.

上西智紀, 伊豆新聞, 河津・天城荘 旅館初のジオ講演会, 2013年1月30日.

上西智紀, 静岡新聞, ゲームで特徴紹介 伊豆総合高生が出前授業, 2013年2月24日.

上西智紀, 伊豆日日新聞, ジオ学習で特別賞, 2013年5月14日.

上西智紀, 伊豆日日新聞, 遊びながらジオ学習, 2012年5月21日.

上西智紀, 東京新聞, スゴロクでジオパーク学ぶ 伊豆総合高生が作製, 2013年7月3日.

上西智紀, 中日新聞, スゴロクでジオパーク学ぶ 伊豆総合高生が作製, 2013年7月6日.

上西智紀, コースト FM (FM 沼津、76.7MHz), ジオパークと教育, 2013年7月25日.

上西智紀, FM 伊豆の国 (87.7MHz), ジオツアー生中継, 2013年8月7日.

上西智紀, FM 伊豆の国 (87.7MHz), 教育現場におけるジオパーク, 2013年8月9日.

上西智紀, ボイスキュー (FM みしまかなみ、77.7MHz), ジオスゴロクについて, 2013年8月28日.

上西智紀, FM IS (87.2MHz), ジオパーク活動について, 2013年8月30日.

上西智紀, 伊豆日日新聞, プロ顔負け? 名ガイド 大河君、萩島君 (伊豆総合高2年) ジオ解説, 2013年9月26日.

上西智紀, 朝日新聞, ガチンコ文科系 ジオツアーでガイド役 伊豆総合高校自然科学部, 2013年9月27日.

上西智紀, FM IS (87.2MHz), 伊豆市ジオパークマスター講座におけるジオツアーについて, 2013年9月27日.

上西智紀, FM IS (87.2MHz), 11月のジオパーク活動について, 2013年11月29日.

上西智紀, 朝日新聞 (静岡伊豆岳南版), 自然との共存学ぶ 命を守る教育 2014 (下), 2014年3月10日.

●公的な委員会等

青島晃, 袋井市液状化被害軽減対策検討会対策委員 (2012)

上西智紀, ニュートン・アース実行委員会委員, 2012年4月～8月.

上西智紀, ニュートン・アース実行委員会委員, 2013年4月～8月.

●学会活動

小田原 啓, 日本地質学会代議員, 2012～13年度.

小田原 啓, 日本地質学会関東支部幹事, 2012～13年度.

#### 4.1.3 シンポジウム

本事業の成果や今後の展望について議論するため、定期的にシンポジウムを開催している。2012～2013年度の間には、下記2回のシンポジウムを実施した。

##### (1)2012年度 シンポジウム「防災フェロー講座折り返し点を迎えて」

日時：2013年3月16日(土) 13:30～16:00

場所：静岡県地震防災センター ないふるホール

内容：

- 基調講演「究極の減災？ーそれは見果てぬ夢ー」  
静岡大学 防災総合センター 特任教授 藤井直之
- パネルディスカッション「ふじのくに防災フェロー養成講座から生まれたもの」  
コーディネータ：牛山素行(静岡大学防災総合センター准教授)  
パネリスト： 藤井直之(静岡大学防災総合センター特任教授)  
原田賢治(静岡大学防災総合センター准教授)  
岩田孝仁(静岡県危機管理部危機報道監)  
島田千亜紀(第一期受講生)  
塩崎竜哉(第二期受講生)  
渡邊耐三(第二期受講生)

##### (2)2013年度 シンポジウム「防災フェローのこれから」

日時：2014年3月15日(土) 13:30～16:00

場所：静岡県地震防災センター ないふるホール

内容：

- 事業実施者からの挨拶  
伊東幸宏 (静岡大学学長)
- 基調講演「中核的防災人材育成がなぜ必要か？ー近年の災害の教訓からー」  
静岡大学 防災総合センター 教授 牛山素行
- パネルディスカッション「ふじのくに防災フェローのこれから」  
コーディネータ：牛山素行 (静岡大学防災総合センター教授)  
パネリスト： 柳橋則夫 (内閣府政策統括官[防災担当]付参事官)  
岩田孝仁 (静岡県危機管理監代理兼危機管理部部長代理)  
諸橋 良 (第一期受講生)  
松永直志 (浜松市危機管理監代理兼危機管理課長)  
前田恭伸 (静岡大学大学院工学研究科教授)  
横幕早季 (元・静岡大学防災総合センター学術研究員)
- 共同事業者からの挨拶  
森山誠二 (静岡県副知事)

## 4.2 静岡県委託業務防災学創出事業

静岡県は、県が持つ防災に関する知と経験と、国内外からの知見との協働により、しずおか防災コンソーシアム中心とし、静岡県における新たな学「防災学」として体系化を行い、地域住民等の防災活動へ反映し、東海地震等大規模災害から減災を促進することを目指している。本業務は、防災行政、教育等に反映を目的として、防災に関する学問分野領域の整理、「防災学」の領域の定義化、「防災学」関連教材等の提案を行うもので、静岡大学防災総合センターが静岡県より同事業の実施業務を、平成23～25年度の3年度に渡り受託したものである。以下に、平成24年度および平成25年度の報告書目次を挙げる。

### 平成24年度防災学創出事業 防災の体系化に関する調査 報告書

1. はじめに
  - 1.1. 本調査の背景および目的
  - 1.2. 調査方法
2. 防災施策に影響を与えた災害の歴史
  - 2.1. 東海地震説発表前の災害史
  - 2.2. 東海地震説の発表
  - 2.3. 阪神大震災
  - 2.4. 東日本大震災
3. 危機管理部の成り立ち
  - 3.1. 地震対策課の創設
  - 3.2. 防災局の誕生
  - 3.3. 緊急防災支援室(SPECT)の創設
  - 3.4. 地域防災局の設置
  - 3.5. 危機管理部の発足へ
4. 静岡県の地震被害想定
  - 4.1. 第1次地震被害想定（「東海地震の危険度の試算」）
  - 4.2. 第2次地震被害想定
  - 4.3. 第3次地震被害想定
  - 4.4. 第4次地震被害想定に向けて
5. 静岡県における主な防災施策
  - 5.1. 防災施策の経年傾向
  - 5.2. 施策の形態分類
  - 5.3. 「訓練」について
    - 5.3.1. 現在実施されている各種訓練
    - 5.3.2. 防災訓練の「劇場型訓練」化

5.3.3.	訓練関係者のモチベーション低下
5.4.	「自主防災組織」について
5.4.1.	自主防災組織とは
5.4.2.	自主防災組織率の推移から考える
5.4.3.	自主防災組織に関わる課題
5.5.	「人材育成」について
5.5.1.	静岡県における防災人材育成の現状
5.5.2.	防災人材育成に関する課題
6.	おわりに

平成 25 年度防災学創出事業 県民向け防災教育カリキュラム構築 報告書	
県民向け防災教育科目概要（シラバス） 目次	
科目大分類	1 災害科学
科目小分類	
	11 地震の基礎
	12 地震災害史
	13 津波の基礎
	14 火山の基礎
	15 風水害の基礎
	16 土砂災害の基礎
	17 原子力防災
科目大分類	2 防災対策・自然災害事例
科目小分類	
	21 最近の自然災害事例から
	22 静岡県の地震対策
科目大分類	3 災害情報
科目小分類	
	31 災害と情報
	32 災害心理
	33 予報・警報
	34 被害想定
	35 防災の法制度

科目大分類 4 災害とライフライン・社会インフラ

科目小分類

- 41-1 ライフライン防災（光熱水関係）
- 41-2 ライフライン防災（道路・鉄道関係）
- 42 建築物の耐震化
- 43 都市防災

科目大分類 5 災害医療・消火・救出救助

科目小分類

- 51 災害医療
- 52 消火・救出・救助
- 53 救護技術

科目大分類 6 身近な防災対策

科目小分類

- 61 家庭内対策
- 62 地域の防災活動
- 63 企業防災
- 64 災害と保険
- 65 防災啓発手法

科目大分類 7 災害対応（発災後の対応）

科目小分類

- 71 避難行動
- 72 災害時の福祉
- 73 災害時の男女共同参画
- 74 健康支援
- 75 心のケア
- 76 避難所運営
- 77 災害ボランティア
- 78 復旧・復興



### 4.3 しずおか防災コンソーシアム・土曜セミナー

静岡県では県危機管理部，教育委員会および静岡大学，浜松医科大学，静岡県立大学，静岡文化芸術大学，東海大学，常葉大学の県内 6 大学，气象台，報道機関各社を加えた「しずおか防災コンソーシアム」が平成 21 年 4 月に発足した。

このコンソーシアムは，県内の防災に携わる研究者と専門家等の多面的な交流や情報発信を目的としており，その一環として，静岡県地震防災センターを会場として，市民向け公開講座「しずおか防災コンソーシアム地域連携土曜セミナー」を，おおむね 1 ヶ月に 1 回のペースで定期的で開催している。コンソーシアムの準備段階からこのセミナーは始まり，平成 20 年度から平成 25 年度までに 66 回開催し，平成 23 年度からは「ふじのくに防災学講座」と名称を変え，今後も継続の予定である。防災総合センターでは，静岡県地震防災センターと連携してこのセミナーの運営に当たっている。平成 22 年度からは，参加 6 大学と静岡県がそれぞれ持ち回りで担当回を持つ形で運営している。静岡県の防災研究者，防災行政関係者，市民の定期的な交流の場として定着しつつある。

#### ●平成 24 年度～平成 25 年度までのセミナー一覧

第 46 回「東日本大震災から 1 年を経て津波防災を考える」H24.4.21

第 47 回「東日本大震災からコミュニティについて考える」H24.5.19

第 48 回「減災社会を築く南海トラフの巨大地震への対応と第 4 次地震被害想定」H24.6.16

第 49 回「市民が行う災害救護について」H24.7.21

第 50 回「浜岡原子力発電所の地震・津波対策について（第 1 部），津波の性質と対策について（第 2 部）」H24.8.25

第 51 回「最近数年の日本列島の地殻変動と現在の日本人に必要な防災教育」H24.9.15

第 52 回「災害医療における薬剤師の役割とお薬手帳の重要性～かかりつけ薬局の活用で災害への対応を～」H24.10.20

第 53 回「非常食・災害食への米粉(こめこ)の活用」H24.11.17

第 54 回「"コンピュータの眼" を防災研究へ応用～高精度画像計測からのアプローチ～」H24.12.15

第 55 回「発災時の状況とその後の現状，中越・中越沖地震の経験を活かした被災地への支援」H25.2.16

第 56 回「福島県での食の安全などに関する学外研修について」H25.3.16

第 57 回「静岡県から東日本大震災で被災した自治体に派遣された職員による報告会」H25.5.18

第 58 回「南海トラフ巨大地震を踏まえた自主防向け実践的 D I G プログラムの提案」

H25.6.15

第 59 回「静岡県第 4 次地震被害想定（第一次報告）について」 H25.7.20

第 60 回「南海トラフ巨大地震の予測可能性について」 H25.9.21

第 61 回「災害時に備える栄養と食事～食べることがいのちを守る～」 H25.10.19

第 62 回「市民が行う災害救護について」 H25.12.21

第 63 回「東北沖津波被災者から聞いた避難の様子」 H26.1.25

第 64 回「地震・津波に関する情報とその技術的基盤」 H26.2.15

第 65 回「歴史に学ぶ地震と津波」 H26.2.22

第 66 回「2013 年 4 月の春野町大規模崩落と台風 26 号による伊豆大島の土石流災害について」 H26.3.15

#### 4.4 東海圏減災研究コンソーシアム

東海圏減災研究コンソーシアムは、南海トラフ巨大地震等による災害の危険性が指摘されている東海圏の 6 大学（岐阜大学，静岡大学，名古屋大学，名古屋工業大学，豊橋技術科学大学，三重大学）の防災関係のセンターが互いに連携し災害軽減に向けた研究を推進することで地域社会の減災を実現する事を目的として，平成 25 年 3 月に発足した。

防災・減災の研究推進には，災害に関する様々な専門的知見に基づいて総合的に検討して行く必要がある。東海圏減災研究コンソーシアムでは，それぞれ得意とする研究分野に特色を持つ 6 大学間で連携する事で，幅広い専門的知見にもとづいた地域社会における防災・減災研究を総合的に推進することが可能となる。

防災総合センターでは，東海圏減災研究コンソーシアムに参画し，地域社会における防災・減災について大学の枠を越えて各大学と連携して研究を推進している。

##### ●コンソーシアム参加の各大学センター

岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター

静岡大学防災総合センター

名古屋大学減災連携研究センター

名古屋工業大学高度防災工学センター

豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター

三重大学地域圏防災・減災研究センター

## 5 社会的活動

### 5.1 外部・公開講演会等

安藤雅孝, 琉球海溝研究のすすめ, 日本地震学会夏の学校, 愛知県一宮市・アイプラザ一宮, 2013年9月8日.

安藤雅孝, 地震研究観測は東北沖地震の被害軽減に役立ったか, 連続研究会「新しい防災の考え方を求めて」, 名古屋大学, 2013年12月27日.

安藤雅孝, 東北沖津波被災者から聞いた避難の様子, ふじのくに防災学講座, 静岡県地震防災センター, 2014年1月25日.

安藤雅孝, 代々伝えられた体験談に基づく台湾東海岸の津波 (The generation-to-generation transmitted eyewitness of a tsunami on the east coast of Taiwan), 台湾中央気象局 (The Central Weather Bureau, R.O.C.), 2014年5月12日.

安藤雅孝, 地震の危険度とマグニチュードとは, ふじのくに防災学講座, 富士市役所, 2014年5月25日.

Chigira, M., 2013. Prediction of potential sites of deep-seated catastrophic landslide, 第30回台日工程技术研討会, 台南. 2013年11月27日.

千木良雅弘, 2013. さまざまな地すべりと崩壊, 西宮市防災講演会, 西宮. 2013年6月8日.

千木良雅弘, 2013. 応用地質学の使命, 中国四国支部設立20周年記念行事「地域の自然・人・産業・文化を護る応用地質学」, 高松. 平成25年10月4日.

千木良雅弘, 2013. 国内外の深層崩壊事情. 地盤工学会中国支部 岡山地域セミナー, 岡山大学. 平成25年6月3日.

千木良雅弘, 2013. 国内外の深層崩壊事情, 日本応用地質学会九州支部特別講演会. 2013年5月31日.

千木良雅弘, 2013. 山地斜面の崩壊準備過程 物理的変形と化学的風化, 地震災害や風水害による山地斜面の崩壊や施設の性能について. 日本応用地質学会. 平成24年1月29日.

千木良雅弘, 2013. 深層崩壊はどこで起こるのか, 深田地質研究所 談話会, 大阪. 2013年11月1日.

千木良雅弘, 2013. 地質と地形から見た深層崩壊の発生場, 地すべり防止工事士 研修会, 大阪. 2013年7月8日.

千木良雅弘, 2013. 地質災害軽減への新たな見方・考え方, 全地連フォーラム長野「地質技術者の新たな挑戦」, 長野. 2013年9月19日.

藤井基貴, 「災害道德の教育—「防災道德」授業の実践と哲学教育への可能性」, 静岡大学哲学会, 於静岡大学, 2013年11月3日.

藤井基貴, 「防災道德の授業開発と実践から」, 東海心理学会第62回大会, 公開シンポジウム, 於静岡大学, 2013年6月1日.

藤井基貴，「防災教育の実践と地域との連携について」，可茂特別支援学校防災教育シンポジウム，於岐阜県立可茂特別支援学校，2013年8月8日。

藤井基貴，「特別支援学校における道徳教育」，岐阜県立可茂特別支援学校校内研修会，2014年1月30日。

藤井基貴，「防災講座：いざという時に正しい判断力を」，岐阜県美濃加茂市社会福祉協議会，2014年3月1日。

藤井基貴，「『防災道徳』の取り組み―学校における防災教育」，愛媛県教育委員会，2013年10月3日。

藤井直之：『災害の正しい評価とは？ --究極の減災？--』，地球科学研究会，放送大学（自然の理解研究室），幕張（千葉県），2013年6月16日。

藤井直之：「富士山噴火とプレート境界地震 ～連動性のメカニズム～」，放送大学目黒区公開講演会，目黒区総合庁舎2F大会議室，2013年11月7日。

秦康範，総合養育研修講座，甲府市教育委員会，甲府市，2013年5月21日。

秦康範，高大連携講座，甲府昭和高等学校，昭和町，2013年6月15日。

秦康範，防災リーダー講習，南アルプス市消防本部，南アルプス市，2013年7月14日。

秦康範，長野県防災訓練，長野県，長野市，2013年9月1日。

秦康範，放課後子どもプラン推進事業指導研修会，山梨県教育委員会，2013年10月8日。

秦康範，現代的課題講座，山梨県生涯学習センター，2013年10月23日。

秦康範，下部小中学校保護者会，下部中学校，2013年11月15日。

秦康範，災害情報研究会，東京大学総合防災情報研究センター，2014年2月4日。

原田賢治，南海トラフ巨大地震と復興を考えるシンポジウム，科学研究費補助金基盤 B 東日本大震災におけるCFWの実態調査と災害対応技術としての確立，「東海地震、南海トラフ地震について」，静岡グランドホテル中島屋，2014年3月7日。

原田賢治，浜松特別支援学校PTA防災シンポジウム，地震津波から大切な命を守ろう～私たちにできる事は～，シンポジスト，静岡県立浜松特別支援学校，2014年2月21日。

原田賢治，静岡大学・ユークラブ連携講座「災害を知り、防災を考える」，「静岡の津波防災を考える」，浜松市勤労会館Uホール，2014年2月8日。

原田賢治，静岡大学・ユークラブ連携講座「災害を知り、防災を考える」，「静岡の津波防災を考える」，JR静岡駅パルシェ会議室，2014年2月1日。

原田賢治，大学ネットワーク静岡，“静岡学”出張講座，防災「南海トラフ津波予想最大級の津波に対する防災計画」，静岡県立江之島高校，2014年1月21日。

原田賢治，静岡県学校防災アドバイザー事業，防災計画津波避難への指導助言，牧之原市相良総合センター，2013年12月3日。

原田賢治，防災スペシャリスト養成研修，内閣府，「津波防災」，有明の丘基幹的広域防災施設，2013年11月29日。

原田賢治，静岡県学校防災アドバイザー事業，防災計画津波避難への指導助言，藤枝総合

庁舎， 2013年11月22日。

原田賢治，静岡県学校防災アドバイザー事業，防災計画津波避難への指導助言，伊東市役所土肥支所， 2013年11月7日。

原田賢治，静岡県学校防災アドバイザー事業，防災計画津波避難への指導助言，静岡県立焼津水産高校， 2013年10月29日。

原田賢治，静岡県学校防災アドバイザー事業，防災計画津波避難への指導助言，静岡県立浜松特別支援学校， 2013年10月22日。

原田賢治，吉田町防災・耐震セミナー，NPO 法人防災推進委員会，「東日本大震災後の津波評価と対策について」，吉田町学習ホール， 2013年9月15日。

原田賢治，2013年度静岡大学公開講座「災害を知り、防災を考える」，「静岡の津波防災を考える」，沼津市民文化センター， 2013年9月14日。

原田賢治，サイエンスカフェ in 静岡，「津波、津波災害、津波防災について」，B-nest 静岡市産学交流センター， 2013年9月12日。

原田賢治，平成25年度静岡県ふじのくに防災士養成講座，「津波防災—静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定状況とその対策」，静岡県立大学大講堂， 2013年9月2日。

原田賢治，静岡県公立高等学校防災担当者研修会，「南海トラフ巨大地震の被害想定現状」，静岡県教育委員会，静岡県男女共同参画センターあざれあ， 2013年5月31日。

原田賢治，静岡大学工学部防災講演会，「これからの津波防災対策について～東日本大震災から南海トラフの巨大地震災害に向けて～」，静岡大学工学部， 2013年3月8日。

原田賢治，静岡県学校防災アドバイザー事業，津波避難訓練への指導助言，西伊豆町立賀茂中学校， 2013年2月26日。

原田賢治，全国学校安全教育研究会，「これからの津波防災と防災教育」，東京都台東区立金竜小学校，全国学校安全教育研究会・東京都学校安全教育研究会， 2013年2月15日。

原田賢治，ディスカバリーパーク焼津，「地球の活動としての地震・津波」，ディスカバリーパーク焼津天文館， 2013年2月9日。

原田賢治，静岡県立大学グローバル地域センター，「TSUNAMI」シンポジウム-パネルディスカッション-， 2013年1月30日。

原田賢治，静岡県学校防災アドバイザー事業，津波避難訓練への指導助言，静岡県立沼津西高校， 2012年12月21日。

原田賢治，静岡県学校防災アドバイザー事業，津波避難訓練への指導助言，牧ノ原市立地頭方小学校， 2012年12月20日。

原田賢治，静岡県学校防災アドバイザー事業，津波避難訓練への指導助言，静岡県立相良高校， 2012年12月18日。

原田賢治，静岡県学校防災アドバイザー事業，津波避難訓練への指導助言，焼津市立港小学校， 2012年12月4日。

原田賢治，静岡県学校防災アドバイザー事業，津波避難訓練への指導助言，牧ノ原市立相良中学校，2012年11月27日。

原田賢治，静岡県学校防災アドバイザー事業，津波避難訓練への指導助言，牧ノ原市立相良小学校，2012年11月27日。

原田賢治，函南町防災耐震セミナー，NPO 法人防災推進委員会，「東日本大震災後の津波評価と対策について」，函南町役場，2012年11月25日。

原田賢治，JICA 中米地域防災対策研修，「津波災害について」，人と防災未来センター，2012年11月6日。

原田賢治，人と防災未来センター防災専門リレー講座，「地域レベルでの津波災害の評価と減災に向けた取組み」，兵庫国際交流会館，2012年11月2日。

原田賢治，静岡県立浜松江之島高校，津波防災対策への指導助言，静岡県学校防災アドバイザー，2012年10月23日。

原田賢治，静岡大学・中日新聞連携講座，「東日本大震災から津波防災を考える」，静岡大学浜松キャンパス，2012年10月13日。

原田賢治，浜松工業会沼津支部総会講演会，「東日本大震災をふまえた今後の津波防災対策について」，ホテル沼津キャッスル，2012年7月29日。

原田賢治，酒田商工会議所津波対策セミナー，「津波対策について」，酒田産業会館，2012年7月18日。

原田賢治，松崎町，「南海トラフの巨大地震モデル検討会による第一次報告書の想定津波について」，松崎町役場，2012年6月8日。

原田賢治，平成24年度静岡県河川協会総会・講演会，「東日本大震災をふまえた今後の津波対策について」，静岡グランドホテル中島屋，2012年6月1日。

原田賢治，御前崎相良地区危険物安全協会防災講演会，「津波災害の特徴とその対策」，御前崎市佐倉公民館，2012年5月25日。

原田賢治，静岡県市長会・町村長会浜岡原子力発電所に関する研修意見交換会，「東北地方太平洋沖地震津波による原子力発電所への被害分析状況と南海トラフ巨大地震津波について」，グランディエールブケトウカイ，2012年5月9日。

原田賢治，ふじの国防災セミナー，「東日本大震災から1年を経て津波防災を考える」，静岡県地震防災センター，2012年4月21日。

橋本 岳，ふじのくに防災学講座，静岡県，静岡県地震防災センター，2012年12月15日。

林能成，東海地震の想定内・想定外，シンポジウム東海地震と浜岡原発～今、私たちにできること～，グランシップ，2012年4月7日。

林能成，幼稚園における防災と減災について～子どもの命を守るために～，高槻市幼稚園教員研修会，高槻市教育センター，2012年5月14日。

林能成，東海地震に備えるために東日本大震災から学ぶべきこと，浜松工業会浜松支部総会特別記念講演，グランドホテル浜松，2012年5月19日。

林能成, 地震のメカニズム, 大阪府高齢者大学校市民活動講座, 大阪市教育会館, 2012年5月21日.

林能成, 地震による災害と防災, 大阪府高齢者大学校市民活動講座, 大阪市教育会館, 2012年5月22日.

林能成, 想定地震の見直しと防災対策～家庭・地域・行政は何をすべきか～, 平成24年度藤枝市防災研修会, 藤枝市市民会館, 2012年6月23日.

林能成, 東日本大震災から学ぶ東海地震への備え, 臨床心理士・保健師・養護教諭研修会, 静岡県男女共同参画センター・あざれあ, 2012年6月30日.

林能成, シミュレーション技術演習, ふじのくに防災フェロー養成講座, 静岡大学防災総合センター, 2012年7月7日.

林能成, 名古屋の地震災害に備える～東海地震と南海地震～, 夢ナビライブ 2012 in NAGOYA, ポートメッセ名古屋第2展示館, 2012年7月19日.

林能成, 東海地震の想定内と想定外～東日本大震災に学ぶ備え～, 静岡県西部地区学校防災担当者研修会, 静岡県総合教育センターあすなろ, 2012年7月24日.

林能成, 東海地震の想定内と想定外～東日本大震災に学ぶ備え～, 静岡県東部地区学校防災担当者研修会, 静岡県東部合同庁舎, 2012年7月27日.

林能成, 東日本大震災から学ぶ巨大地震への備え, 尼崎市立花市民大学, 尼崎市立立花公民館, 2012年7月30日.

林能成, 地震・火山研究の成果を防災にいかす, 静岡県教育委員会「ニュートン・アース2012」, 静岡県地震防災センター, 2012年8月10日.

林能成, 緊急地震速報の仕組み～誤作動の例から課題を探る～, 青少年のための科学の祭典2012大阪大会, ハービスホール, 2012年8月18日.

林能成, 地震学は防災に不可欠か?, 地震学夏の学校2012, 筑波ふれあいの里, 2012年9月6日.

林能成, 南海地震で役立たせるための緊急地震速報の課題, 第85回関西大学記者懇談会, 関西大学校友・父母会館, 2012年9月12日.

林能成, 地震発生のメカニズムと被害, 毎日新聞社主催震災危機管理セミナー, 毎日新聞オーバルホール, 2012年10月22日.

林能成, 地震のメカニズムと特性～東日本大震災に学ぶ備え～, ソーシャル・リスクマネジメント学会研修・研究会兼日本リスクマネジメント学会関西支部会, 関西大学千里山キャンパス, 2012年11月17日.

林能成, 地しんにそなえる, 総合学習特別講義, 焼津市立大井川南小学校, 2012年11月19日.

林能成, 地震と津波に備える～自分の身は、自分で守る～, 防災特別講義, 浜松市立舞阪中学校, 2012年11月22日.

林能成, 震災に備えて知っておくこと～阪神・淡路大震災から東日本大震災、そして南海大



地震まで, 日本金属プレス工業会・第4回安全・環境シンポジウム 三宮研修センター, 2012年11月29日.

林能成, 都市の地震災害とハザードマップ, 大阪市阿倍野区防災区民座談会, 阿倍野区役所大会議室, 2013年1月20日.

林能成, 東日本大震災の被害実態と教訓, 市民フォーラム「東日本大震災から2年を経て見えてきた問題」, 茨木市市民会館1階・ドリームホール, 2013年3月2日.

林能成, 都市の地震災害に備える, 阿倍野区阪南連合防災講演会, 阪南小学校講堂, 2013年3月17日. 林能成, 東海・東南海地震に備えて～教職員が今やるべきこと～, 静岡県浜松特別支援学校 職員防災研修会・講演会, 2013年5月29日.

林能成, 地震防災における地震学の活かし方, 九州大学大学院理学府「先端学際科学」九州大学農学部防音103教室, 2013年6月12日.

林能成, 南海トラフ巨大地震への備え方～個人、企業、社会～, 日本金属プレス工業協会総会, 横浜・華正樓, 2013年11月7日.

林能成, 東日本大震災から学ぶ巨大地震への備え, 巨大地震に備える防災講演・講習会, 名古屋市立花公民館, 2013年11月26日.

林能成, 津波からの避難～東海地震と南海トラフ巨大地震～, 静岡県・学校防災アドバイザー事業, 静岡県中遠総合庁舎会議室, 2013年11月28日.

林能成, 津波からの避難～東海地震と南海トラフ巨大地震～, 静岡県・学校防災アドバイザー事業, 静岡県中遠総合庁舎会議室, 2013年11月28日.

林能成, 体験は地震防災教育を身近に感じるアプローチとなるのか?, 京都大学防災研究所「体験からアプローチする地震防災教育」, 大阪市福島区民センター301会議室, 2013年12月27日.

林能成, 南海地震と南海トラフ巨大地震～確実に起こること、起こるかもしれないこと～, 高知県赤十字大会, 高知県民文化ホールグリーンホール, 2014年1月23日.

池田恵子, 男女共同参画の視点に立った地域の防災対策, 磐田市商工会女性部研修会, 磐田市商工会議所, 2012年5月18日.

池田恵子, 女性の視点から見た防災, 富士商工会女性会, 富士商工会議所, 2012年5月29日.

池田恵子, 防災・復興にジェンダーの視点を, 静岡県商工青年同友会会員研修会, 静岡県産業経済会館, 2012年6月13日.

池田恵子, 地域に暮らす多様な人々の視点を活かして地域の防災力を高めよう, 長泉町自主防災会連合会研修会, 駿東郡長泉町地域防災課, 静岡大学, 2012年6月24日.

池田恵子, ジェンダー・多様性配慮の視点で取り組む地域の防災, 浜松市平成24年度女性団体代表者連絡会研修, 浜松市ユニバーサル社会・男女共同参画推進課, クリエイト浜松, 2012年6月26日.

池田恵子, 避難所運営と男女共同参画, 袋井市協働街づくりワークショップ「防災」, 袋井

- 協働まちづくりセンターふらっと，月見の里学遊館，2012年6月30日。
- 池田恵子，「災害と女性」～男女共同参画の視点で災害対応を！，DV等被害者支援専門相談員育成講座2回目，静岡市 Safety Firstst，静岡県男女共同参画センターあざれあ，2012年7月7日。
- 池田恵子，男女共同参画の視点を取り入れた防災～市町村の役割～，福島県市町村等男女共同参画新任担当者研修会，福島県青少年・男女共生課，福島県男女共生センター，2012年7月11日。
- 池田恵子，災害と女性 ～救援・復興に男女共同参画の視点を，富士宮市男女共同参画出前セミナー万野地区，富士宮市社会教育課男女共同参画係，富士宮市万野三区公民館，2012年7月28日。
- 池田恵子，災害と女性 ～救援・復興に男女共同参画の視点を，富士宮市男女共同参画出前セミナー芝川地区，富士宮市社会教育課男女共同参画係，富士宮市芝川公民館，2012年9月14日。
- 池田恵子，地域防災に女性の視点を，静岡県民防災講座，静岡県地震防災センター，静岡県地震防災センター，2012年9月27日。
- 池田恵子，「災害とジェンダー」～防災・復興に男女共同参画の視点を～，焼津市商工会女性部研修会，焼津市商工会議所女性部，焼津公民館，2012年10月16日。
- 池田恵子，防災・復興に男女共同参画の視点を，新潟県女性財団講座企画力養成事業・県男女共同参画推進体制づくり研修会，新潟県女性財団，2012年11月1日。
- 池田恵子，男女共同参画の視点で災害につよい地域づくりを！，日本大震災から学ぶ女性の防災講演会，菊川市総務部地域支援課，菊川市中央公民館，2012年11月15日。
- 池田恵子，女性の視点での地域（まち）づくり～大災害時に商工女性として地域での役割と関わり方，中東遠地区商工会女性部防災講演会，中東遠地区商工会女性部，菊川市商工会館，2012年11月22日。
- 池田恵子，＜東日本大震災の経験に学ぶ＞多様な人々の視点を活かして 災害に備えよう！，掛川市防災研修会，掛川市危機管理部，掛川市生涯学習センター，2012年11月27日。
- 池田恵子，＜東日本大震災の経験に学ぶ＞防災・復興に男女共同参画の視点を，輪之内町人権研修会・男女共同参画研修会，輪之内町，輪之内町文化会館，2012年12月1日。
- 池田恵子，＜災害と女性＞男女共同参画の視点で災害に強い地域づくりを！，平成24年度男女共同参画セミナー，岡崎市文化芸術部文化活動推進課男女共同参画班，岡崎市図書館交流プラザ，2012年12月
- 池田恵子，＜東日本大震災の経験に学ぶ＞防災・復興に男女共同参画の視点を，イコール福山講演会，福山市男女共同参画センター・イコール福山，イコール福山，2013年1月12日。
- 池田恵子，避難所運営と男女共同参画，平成24年度人権研修，袋井市総務課，袋井総合セ

ンター，2013年1月15日。

池田恵子，地域の絆～男女共同参画の視点から地域防災について考える，長泉町地域セミナー合同講演会，駿東郡長泉町生涯学習課，長泉町文化センター，2013年1月16日。

池田恵子，

池田恵子，地域から考える女性と防災，第10期アイセル女性カレッジ，NPO 法人男女共同参画フォーラムしずおか，静岡市女性会館，2013年2月16日。

池田恵子，＜東日本大震災の経験に学ぶ＞女性の視点で取り組む地域の防災，，富士駿東地域商工会女性部研修会，富士駿東地区商工会連絡協議会・御殿場市商工会，ホテルエルムリージェンシー，2013年2月18日。

池田恵子，地域防災に女性の視点を～東日本大震災より学ぶ～，袋井市上石野自治会女性部講演会，上石野自治会，上石野公会堂，2013年2月24日。

池田恵子，＜災害復興と女性＞災害復興の経験を「災害に強い社会づくり」に活かす，平和の文化講演会，創価学会女性平和委員会，世界女性会館，2013年2月26日。

池田恵子，「防災と女性」東日本大震災を通して大災害に備えよう～地域ボランティア活動に必要な視点とは？～，平成24年度浜松市健康づくりボランティアステップアップセミナー，浜松市健康増進課，クリエート浜松，2013年2月28日。

池田恵子，＜災害と女性＞男女共同参画の視点で災害に強いまちづくりを，「スペースゆう」講座～女性の視点で防災を考える～，東京都北区男女共同参画センター，スペースゆう，2013年3月2日。

池田恵子，＜東日本大震災の経験に学ぶ＞男女共同参画・女性の視点から見た防災，御殿場市男女共同参画セミナー，御殿場市男女共同参画課，御殿場市市民交流センター「ふじざくら」，2013年

池田恵子，男性と女性の視点を活かして災害に強い地域を，平成24年度井田学区防災講習会岡崎市井田自治会防災講演会，井田学区防災防犯協会，享成自動車学校，2013年3月10日。

池田恵子，男女共同参画の視点で考える地域防災，静岡県男女共同参画センター交流会議総会，静岡県男女共同参画センター交流会議事務局，静岡県男女共同参画センターあざれあ，2013年5月25日。

池田恵子，地域に暮らす多様な人々の視点で災害に備えよう！～東日本大震災の経験から学ぶ，富士宮市男女共同参画セミナー杉田地区、富士宮市社会教育課男女共同参画係，杉田5区区民館，2013年7月22日。

池田恵子，地域に暮らす多様な人々の視点で実効性ある防災・復興を！，奈良県自治労研究集会，奈良県自治労本部，かしはら万葉ホール，2013年7月27日。

池田恵子，地域に暮らす多様な人々の視点を活かして地域の防災力を高めよう，焼津市 市民防災リーダー育成講座，焼津市危機管理部，焼津市消防防災センター，2013年7月30日。

池田恵子, 多様性に配慮した災害支援, 御殿場市地域保健医療福祉活動研究会, 御殿場保健所医療健康課, 御殿場合同庁舎, 2013年10月09日.

池田恵子, 災害と男女共同参画, 災害対策専門研修マネージメントコース(エキスパートA), 人と防災未来センター, 人と防災未来センター, 2013年10月16日.

池田恵子, 男女共同参画の視点で災害につよい地域づくりを, 静岡市総合学習いきいき塾, するが女性の会, 静岡市南部障害学習センター, 2013年10月17日.

池田恵子, 地域に暮らす多様な人々の視点で災害に強い地域づくりを, 地域防災講座, 浜松市入野地区社会福祉協議会, 入野協働センター, 2013年10月19日.

池田恵子, 地域に暮らす多様な人々の視点で災害につよい地域づくりを, 平成25年度 市町連携地域実践活動推進セミナー・菊川市小笠東地区防災講演会, 菊川市総務部地域支援課, 小笠東地区コミュニティセンター「くすりん」, 2013年10月24日.

池田恵子, 各地における防災活動等の実践と取組ポイント, 平成25年度岡山市男女共同参画大学さんかくカレッジ専門コース\*専門基礎講座「災害とジェンダー」, 岡山市男女共同参画社会推進センター, 岡山市男女共同参画社会推進センター, 2013年10月23日.

池田恵子, 災害支援に必要な視点を知ろう, 平成25年度災害ボランティアコーディネーター養成講座ボランティアリーダーコース, 東京ボランティア・市民活動センター, 東京ボランティア・市民活動センター, 2013年10月26日.

池田恵子, 地域に暮らす多様な人々の視点を活かして地域の防災力を高めよう, 掛川市男女共同参画講座大坂地区防災講演会, 掛川市生涯学習協働推進課, 掛川市大坂コミュニティ防災センター, 2013年11月02日.

池田恵子, 女性の視点とチカラで家族を職場を地域を守る, 静岡県防災パワーアップ講座, 静岡県・NPO法人あざれあ交流会議, 静岡県東部総合庁舎, 2013年11月16日.

池田恵子, 地域に暮らす多様な人々の視点で災害につよい地域づくりを, 平成25年度 市町連携地域実践活動推進セミナー・菊川市六郷地区防災講演会, 菊川市総務部地域支援課, 菊川市六郷地区センター, 2013年11月16日.

池田恵子, 男女・多様な人々の視点で地域の防災力向上を, 2013キャンパスフェスタ in 静岡, 静岡大学人文社会科学部, 静岡大学, 2013年11月17日.

池田恵子, <防災と女性>家庭・地域で実践する防災対策, 富士宮市PTA講演会, 富士宮市社会教育課, 富士宮市芝川文化ホール, 2013年11月22日.

池田恵子, 女性の視点とチカラで家族を職場を地域を守る, 静岡県防災パワーアップ講座, 静岡県・NPO法人あざれあ交流会議, 中遠総合庁舎西館, 2013年11月23日.

池田恵子, 国際基準「スフィア」にみる男女共同参画の視点, 男女共同参画推進せんだいフォーラム2013, (公財)せんだい男女共同参画財団, エル・パーク仙台, 2013年11月24日.

池田恵子, 地域に暮らす多様な人々の視点で災害に強い地域づくりを, 宮城県柴田町男女

共同参画講座「災害弱者の視点による防災ワークショップ」、柴田町まちづくり政策課、柴田町役場保健センター，2013年11月25日。

池田恵子，今みなおそう！防災力～みんなで守る命と暮らし～，平成25年度岡崎市男女共同参画講演会，岡崎市文化活動推進課男女共同参画班，岡崎市図書館交流プラザ，2013年11月30日。

池田恵子，女性の視点とチカラで家族を職場を地域を守る，静岡県防災パワーアップ講座，静岡県・NPO法人あざれあ交流会議，静岡県地震防災センター，2013年12月07日。

池田恵子，男女共同参画の視点を活かした防災対策，平成25年度市町連携地域実践活動推進セミナー，下田市企画財政課，下田市民文化会館，2013年12月12日。

池田恵子，地区に暮らす多様な人々の視点で災害に強い地域づくりを，富士市男女共同参画推進員企画講座，富士市多文化・男女共同参画課，富士市フィランセ西，2014年01月11日。

池田恵子，地域に暮らす多様な人々の視点で災害につよい地域づくりを，平成25年度市町連携地域実践活動推進セミナー・菊川市西方地区防災講演会，菊川市総務部地域支援課，，菊川市西方地区センター，2014年1月24日。

池田恵子，男女双方の視点で 災害に強いまちづくりを，掛川市協働のまちづくり元年記念防災講座・男女共同参画推進企画講座，災害VC掛川，掛川市役所，2014年1月25日。

池田恵子，地域に暮らす多様な人々の視点で災害に強い地域づくりを，吉田町女性フェスティバル防災講演会，吉田町役場企画課，吉田町学習ホール，2014年2月16日。

池田恵子，多様な人々の視点を活かした地域の防災対策，熱海市地震防災講演会，熱海市危機管理課，MOA美術館能楽堂，2014年2月24日。

池田恵子，その時、あなたはどのようにするの!?～災害に強い地域づくりのために～，裾野市男女共同参画講演会，平成25年度裾野市男女共同参画講演会，裾野市地域振興課，2014年2月26日。

池田恵子，地域に暮らす多様な人々の視点で災害につよい地域づくりを，川根本町地域の防災力向上のための講演会，川根町企画課，川根本町山村開発センター，2014年2月28日。

池田恵子，学ぼう防災～市民の声を減災につなげよう～，福岡県飯塚市男女共同参画推進事業 防災セミナー，いづか男女共同参画推進ネットワーク，イイツカコミュニティセンター，2014年03月08日。

生田領野，長泉町地域防災講演会，NPO法人防災推進委員会，長泉町文化センターベルフォーレ，2013年3月20日。

生田領野，長泉町地域防災講演会，NPO法人防災推進委員会，小山町総合文化会館，2012年9月10日

生田領野，サイエンスカフェ，静岡科学館るくる，開催地同じ，2014年1月5日。

今泉文寿，国際シンポジウム「大規模土砂移動と総合土砂対策手法のあり方」での講演，

- 国際砂防協会，東京都，2014年2月24日。
- 石橋秀巳（2012）研究奨励賞受賞講演 結晶作用がマグマの粘性率に及ぼす影響．日本火山学会 2012年度秋期大会（招待講演）
- 石橋秀巳（2012）マグマの結晶作用とそのレオロジーへの影響．鉱物科学会若手の会ショートコース（招待講演）
- 石橋秀巳（2013）マグマその物性と火山噴火について．サイエンスカフェ in 静岡，静岡市，2013年4月18日．
- Ishibashi, H., (2013) High temperature uniaxial deformation experiment of bubble-free highly crystalline magmas; a case study for the high-Mg andesite from Goshiki-dai lava plateau, southwest Japan. American Geophysical Union Fall Meeting 2013 (招待講演)
- 石川有三，韓国放送記者連合会勉強会「日本の防災対策、主に地震・津波・火山対策」，韓国文化院 Korean Cultural Center・四谷，2012/5/29（火）14-16時．
- 伊藤谷生，東京地学協会第278回地学クラブ講演会『地震探査の進捗と伊豆弧衝突帯北西部研究の新局面』，東京都千代田区，2013年2月20日．
- 伊藤谷生，三途川化石資料室リニューアル記念講演会『三途川カルデラから学んだこと』，秋田県湯沢市，2013年7月20日．
- 伊藤谷生，日本学術会議学術フォーラム「地殻災害の軽減と学術・教育」『地殻災害軽減の基礎を担う地質学』，東京都港区，2013年11月16日．
- 岩松 暉：津波被災地を歴訪して，鹿児島県地学会，2012年5月26日．
- 岩松 暉：桜島との共存～想定外と言わないために～，南日カライモ倶楽部，2012年9月19日．
- 岩松 暉：記念碑が語る桜島大正噴火，2013年1月30日，鹿児島南ロータリークラブ週報 vol.55,no.29, p.2.
- 岩松 暉：記念碑に見る桜島大正噴火～鹿児島湾奥部を中心に～，始良市ふるさと歴史講座，2013年5月18日．
- 岩松 暉：日本ジオパークネットワーク功労者講演「日本におけるジオパーク事始め」，2013年10月15日，第4回日本ジオパークネットワーク全国大会報告書，p.12.
- 岩崎一孝、「GIS を利用した浜名湖河口周辺付近の街道変遷の解明」 第15回情報学研究会、静岡大学情報学部、浜松、2012年12月6日（木）
- 狩野謙一：富士川河口断層帯の地下構造を探る—プレート境界の実態解明と地震リスク評価の再検討.ふじのくに防災学講座（静岡県地震防災センター）（2013. 11）
- 笠原順三，砂防学会総会招待講演「地震について」，砂防学会，静岡市，2013年5月29日．
- 笠原順三主催，2nd KACST-KAUST-JCCP international workshop，サウジアラビア Jeddah，2014年3月4～6日．
- 風間聡，気候変動と水問題：影響と適応，気候変動の身近な影響と適応策を考える～IPCC

第 38 回総会に向けて in 仙台～, 環境省, 2014 年 2 月 22 日. (基調)

Kazama, S., Overall concepts of Ecohydrology - Application of Hydrological models to Ecology-, The 23 IHP Training course, 宇治, 2013.12.2. (基調)

Kazama, S., Estimation of water disaster damages after climate change and an adaptation concept in Japan, AIJ-JSCE Joint Workshop on Natural Disaster Mitigation, Tsudanuma, 2013.9.4

木村浩之, 第 21 回静岡フォーラム・第 46 回研究交流セミナー, 静岡化学工学談話会, 化学工学会東海支部, アクトシティ浜松コンgresセンター, 2013 年 12 月 11 日.

木村浩之, ICDP Scientific Conference 2013 国内プレワークショップ, 日本地球掘削科学コンソーシアム, JAMSTEC 東京事務所, 2013 年 9 月 22 日.

木村浩之, 第 14 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 静岡生命科学若手フォーラム, 静岡大学学生会館, 2013 年 3 月 16 日.

木村浩之, 第 1 回島田市役所川根温泉まちづくり協議会, 島田市役所, 川根温泉ふれあいの湯会議室, 2013 年 1 月 17 日.

木村浩之, 第 4 回研究講演会「植物バイオマスのエネルギー変換」, 日本太陽エネルギー学会/太陽光化学・バイオ部会, 東京理科大学森戸記念館, 2012 年 12 月 3 日.

木村浩之, 五年後の会 11 月定例会, B-nest/静岡市産学交流センター, 2012 年 11 月 21 日.

木村浩之, 静岡市清水産業・情報プラザ「静岡大学との産学官交流講演会」, 静岡商工会議所, 2012 年 11 月 2 日.

木村浩之, 産学官連携推進会議第 11 回イノベーション・ジャパン 2012, 東京国際フォーラム, 2012 年 9 月 27-28 日.

木村浩之, 三菱商事株式会社静岡連絡会, B-nest/静岡市産学交流センター, 2012 年 7 月 25 日.

木村浩之, サイエンスカフェ in 静岡 (第 14 シーズン・第 65 話), 静岡大学理学部, B-nest/静岡市産学交流センター, 2012 年 6 月 21 日.

木村浩之, 日本地球惑星科学連合 2012 年大会シンポジウム, プロテオロドプシンを有する海洋細菌の光エネルギー利用と代謝メカニズム, 幕張メッセ国際会議場, 2012 年 5 月 20 日.

木村浩之, 第 11 回国際バイオテクノロジー展/技術会議, 東京ビックサイト, 2012 年 4 月 26-27 日.

木村浩之, 清水法人会第二支部「健康セミナー」, 清水テルサ, 2012 年 3 月 23 日.

木村浩之, 日本農芸化学会 2012 年度京都大会シンポジウム, 京都女子大学, 2012 年 3 月 25 日.

木村浩之, 浜松地域テクノポリス推進機構都田アソシエイツ 1 月定例会, アクトシティ浜松コンgresセンター, 2012 年 1 月 20 日.

北村晃寿, 静岡大学理学部サイエンスカフェ, 静岡市「静岡平野における津波堆積物の調査」, 2012年7月19日.

小山真人, 静岡県防災・原子力学会第2回地震・火山対策部会, 静岡市, 「富士山で起きる大規模現象のリスク試算および他現象との比較」, 2012年8月21日.

小山真人, 伊豆半島ジオパーク推進協議会, 伊豆市, 伊豆半島ジオガイド養成講座第1回「伊豆半島ジオパーク総論1」「伊豆半島ジオパーク総論2」, 2012年10月17日.

小山真人, 静岡県防災・原子力学会第3回地震・火山対策部会, 静岡市, 「富士山で起きる大規模現象のリスク試算および他現象との比較(続報)」, 2012年11月20日.

小山真人, 伊豆東部火山群図上訓練, トークセッションパネリスト, 2012年11月21日.

小山真人, 伊豆半島ジオパーク推進協議会, 伊豆市, 伊豆半島ジオガイド養成講座第1回「伊豆半島ジオパークの楽しみ方」, 2013年9月17日.

小山真人, 伊豆東部火山群図上訓練, 講評, 2014年1月24日.

小山真人, 静岡県不動産鑑定士協会第1回市民講演会, 静岡市, 「東日本大震災を起こした地震とその影響-静岡県民が今後留意すべきこと」, 2012年4月12日.

小山真人, 富士宮市芝川地区区長会主催防災講演会, 富士宮市, 「東日本大震災を起こした地震と富士山への影響」, 2012年4月19日.

小山真人, 静岡大学教育学部同窓会総会記念講演, 富士市, 「東日本大震災を起こした地震と富士山への影響」, 2012年6月10日.

小山真人, 静岡大学教育学部附属浜松小学校 PTA 話の広場, 浜松市, 「東日本大震災を起こした地震と浜松地域への影響」, 2012年6月19日.

小山真人, 静岡大学防災総合センター主催「リスクコミュニケーション集会ー放射能の場合一」, 東京都港区, 「静岡県周辺の放射能汚染地図とリスクコミュニケーションーハザードマップが昔たどった迷走の道ー」, 2012年7月22日.

小山真人, あいち防災協働社会推進協議会主催「防災・減災カレッジ」, 名古屋市, 「地震と火山 とくに東海地震と富士山について」, 2012年8月4日.

小山真人, 静岡地理研究会第48回例会, 静岡市, 「火山と地震がつくった静岡県の風景」, 2012年8月18日.

小山真人, 伊豆半島ジオガイド協会設立総会記念講演・スキルアップ講座, 伊東市, 「ジオサイトをさらに深く読み解くための基礎知識」, 2012年8月25日.

小山真人, 富士宮中小企業大学, 富士宮市, 「巨大地震と富士山噴火」, 2012年10月2日.

小山真人, 静岡大学教育学部附属静岡中学校「附中夢講座」, 静岡市, 「巨大地震と富士山噴火」, 2012年11月23日.

小山真人, 伊豆半島ジオガイド養成講座修了式記念講演, 伊豆市, 「ジオパークがつくる地域の未来と防災」, 2013年2月8日.

小山真人, 静友懇話会, 浜松市, 「巨大地震と富士山の噴火」, 2013年5月28日.

小山真人, 静岡大学教育学部附属浜松小学校 PTA 話の広場, 浜松市, 「富士山大噴火は迫



っているのか?」, 2013年6月3日.

小山真人, 中村組安全衛生協会, 浜松市, 「巨大地震と富士山の噴火」, 2013年6月5日.

小山真人, ふじのくに防災フェロー講座 2013年度講義, 静岡市, 「火山学」, 2013年6月29日.

小山真人, 磐周教育研究集会理科実験実技講座, 磐田市, 「巨大地震と富士山噴火」, 2013年7月31日.

小山真人, 日本地震学会・火山学会・地質学会主催フォーラム「南から来た大地のものがたり」, 下田市, 「南から来た大地のものがたり」, 2013年8月4日.

小山真人, 八重洲ブックセンター, 東京都中央区, 「富士山 大自然への道案内」, 2013年8月5日.

小山真人, 伊豆半島ジオガイド協会・スキルアップ講座, 伊豆市, 「ジオサイトをさらに深く読み解くための基礎知識2」, 2013年9月23日.

小山真人, 静岡大学・中日新聞連携講座「世界遺産富士山を考える」第1回, 浜松市, 「富士山 大自然への道案内」, 2013年10月12日.

小山真人, 伊豆半島ジオパーク「地域研究会」, 長泉町, 「火山がつくった長泉の風景-伊豆半島ジオパークの魅力-」(講演と野外見学), 2013年10月19日.

小山真人, NPO法人「まちこん伊東」主催:まちづくり講座「ジオパークを歩く」、伊東市, 「伊豆半島ジオパークの魅力と今後」, 2013年11月17日.

小山真人, 静岡県主催講演会、静岡市, 「富士山一火山防災対策の現状と課題」, 2013年11月23日.

小山真人, 平成25年度富士山県民講座第4回、静岡市, 「富士山の風景 防災とジオパークの視点から」, 2013年11月24日.

小山真人, 計画・交通研究会第3回イブニングセミナー、東京都港区, 「火山学と防災の視点からみた世界遺産・富士山」, 2013年12月4日.

小山真人, 伊豆半島ジオガイド養成講座修了式記念講演, 伊豆市, 「伊豆半島ジオパークの魅力と今後」, 2013年12月17日.

小山真人, 伊豆半島7市6町首長会議, 伊豆の国市, 「伊豆半島ジオパーク 世界認定への現状と課題」, 2013年12月17日.

小山真人, 富士山火山防災対策協議会, 富士市, 富士山火山防災シンポジウムパネリスト, 2014年2月6日.

小山真人, 理科あけぼの会, 浜松市, 「火山学と防災の視点からみた世界遺産・富士山」, 2014年2月7日.

小山真人, 遠州学士会, 浜松市, 「富士山 大自然への道案内」, 2014年2月11日.

前田恭伸, シンポジウム「防災フェローのこれから」, 静岡大学防災総合センター, 静岡, 2014年3月15日

村越真, 山岳遭難研修, 日本山岳協会(大阪、2013/6/29)

村越真, 防災サマースクール, 甲府昭和高校 (山梨、2013/8/9)

村越真, 防災教育講演会, 御前崎市 (静岡、2013/9/6)

村越真, 山岳遭難講演会, 三重県 (三重、2013/9/15)

村越真, 安全登山中央研修会 (東日本), 国立登山研修所 (愛知、2013/9/27)

中川和之, 災害と危機管理=自治体職員に求められていること-伝え手の経験から分かって  
おいて欲しいこと, 山形市管理職研修, 2012年5月.

中川和之, 災害と危機管理=自治体職員に求められていること-伝え手の経験から分かって  
おいて欲しいこと, 山形県村山総合支庁「村山地域行政連絡協議会」, 2012年5月.

中川和之, 東日本大震災の時の官邸中川和之, 政府の対応から学ぶ想定外大規模噴火災害  
への備え=超巨大/破局噴火を未整理で政治家に任せる科学者は無責任, 日本火山学会  
火山防災委員会, 2012年5月.

中川和之, 生徒の「生きる力」引き出し, 大地動乱時代を乗り越えよう, 山形県高等学校  
教頭中川和之, 副校長会, 2012年5月.

中川和之, 「想定外」と言わせない! =ジャーナリストの目から見た東日本大震災, 神奈川  
大学2012年度連続講演会・大規模災害と減災講座, 2012年6月.

中川和之, 心の復興ストーリー~大切にしたいこと, 経済産業省麗水世界博覧会・復興関  
連イベント「日本元気祭」パネル・モデレーター, 2012年6月.

中川和之, 防災記者から見た震災から考える選挙=ニュースに振り回されず, 判断する眼  
を持つ, 山形市選挙管理委員会選挙啓発リーダー研修会, 2012年6月.

中川和之, キーワードは「当事者感」, 自分事感=記者の目から見た防災とこれからの社会  
安全, 警察政策学会シンポジウム「東日本大震災とこれからの警察」, 2012年7月.

中川和之, 災害時の情報収集・提供の在り方, 市町村アカデミー専門実務研修課程大災害  
と自治体~東日本大震災からの教訓と実践, 2012年7月.

中川和之, 研究室, ムラに立てこもるな, 社会をもっと信じて, 外に出よう! =伝え手の  
立場から, 地震及び火山噴火研究将来構想シンポジウム招待講演, 2012年7月.

中川和之, 火山の情報を, いつ, だれに, どう伝えるか, 気象大学校火山防災業務研修,  
2012年7月.

中川和之, ジオパークで山形の魅力を再発見!, 朝日町ジオパーク研究会, 2012年7月.

中川和之, 市民と一緒にリスク社会に立ち向かう=大地動乱の時代に警察が目指すべき協  
働社会=専門家はどこまで頼られるべきなのか, みなさんの責任感をどう生かすのか,  
例外的災害記者から皆さんへのお願い, 山形県警警察学校初任科研修講師, 2012年7月.

中川和之, 座談会「復興ツーリズムとジオパーク」, 三陸ジオキャラバン・地域学習会コー  
ディネーター, 2012年8月.

中川和之, 日本の防災教育, 日本地震学会主催教員免許状更新講習「地震・津波を学校で  
どう教えるか-三陸地方の地球科学的特徴と理科教育」, 2012年8月.

中川和之, 防災・減災のために, ジオパークは何ができるか, 東北ジオパークフォーラム・

ジオの営みと上手に付き合うためにパネルコーディネーター，2012年9月。

中川和之，キーワードは「当事者感」＝地震防災とセーフコミュニティ，豊島区制施行80周年記念セーフコミュニティ・サミット分科会・地震災害の防止，2012年10月。

中川和之，災害と危機管理＝自治体トップに求められていること-伝え手の経験からのお願い，平成24年度山形県防災トップセミナー，2012年10月。

中川和之，普段から自分がメディアになる，第4回宇部市防災人づくり講座，2012年10月。

中川和之，ワークショップ「語ろう！悔しい経験の我が市町での活かし方」，兵庫県市町長防災危機管理ラボコーディネーター，2012年10月。

中川和之，日本ジオパーク高校生宣言を作ろう！，第3回日本ジオパーク全国大会分科会2高校生セッションコーディネーター，2012年11月。

中川和之，メディアの情報に惑わされず，自分で考えられる力を持つ！，みえ防災コーディネーター育成講座，2012年11月。

中川和之，災害と危機管理＝伝え手の経験から語る自治体幹部に求められること，行財政調査会近畿懇談会，2012年11月。

中川和之，八峰白神ジオパークが始まった！，八峰白神・日本ジオパーク認定記念セレモニー・パネルディスカッションコーディネーター，2012年12月。

中川和之，ようこそ，ジオパークのお仲間に，三陸ジオパーク推進協議会市町村別ワークショップ・宮古市，住田町，2012年12月。

中川和之，身近なリスクを読み解いて「いざ」その時に「いま」から備えよう＝地域防災力の向上を目指して，山形市楯山公民館たてやま安心中川和之，安全講座，2012年12月。

中川和之，ようこそ，ジオパークのお仲間に＝地域の誇り，骨太な観光、防災へ，鹿児島市まちづくりセミナー，2013年1月。

中川和之，ゆざわジオパーク，スタート!ドキドキ，ワクワクを継続させよう!!，ゆざわジオパーク日本ジオパーク認定記念フォーラム・パネルディスカッション・コーディネーター，2013年2月。

中川和之，ジオパーク＝地域の持続可能性のために，第2回栗駒山麓ジオパーク講演会，2013年2月。

中川和之，みんなが主役＝セーフコミュニティ，長井市豊田地区公民館「地区を語る会」，2013年2月。

中川和之，地域防災力アップ支援プロジェクト中川和之，ミーティング，気象庁，2013年2月。

中川和之，地象中川和之，気象の変化を読み解き伝える係から読み解ける人を育む係に＝気象庁は総力戦の最前線，気象大学校気象技術総合研修専門職級，2013年2月。

中川和之，月山の意味＝月山マイスター地形・景観・防災G，月山志津温泉雪旅籠の灯り，

- 2013年2月.
- 中川和之, 第3回「e 防災マップコンテスト」「防災ラジオドラマコンテスト」シンポジウム, 表彰式プレゼンター・パネラー, 2013年2月.
- 中川和之, 住民・マスコミから見たクライシス・コミュニケーション=行政は誰に対して何を伝える責務があるのか, 「緊急時における情報発信のあり方~クライシス・コミュニケーション~」, 全国市町村国際文化研修所, 2013年2月.
- 中川和之, 災害時の情報発信のあり方=地方整備局の事務所は, 誰に, 何を, 伝える係なのかをイメージし, 平時から備えを, 九州地方整備局広報官研修講師・WSコーディネーター, 2013年5月.
- 中川和之, クロスロード, 山形市防災リーダー研修会, 2013年5月.
- 中川和之, 市民と一緒にリスク社会に立ち向かう=大地動乱の時代に警察が目指すべき協働社会-専門家はどこまで頼られるべきなのか, みなさんの責任感をどう生かすのか, 例外的災害記者から皆さんへのお願い, 山形県警察学校初任科, 2013年6月.
- 中川和之, みんなで進めよう山形のジオパーク, 内外情勢調査会山形支部会員フォーラム, 2013年5月.
- 中川和之, ジオパーク=それは, 持続可能な=地域の誇り, 骨太な観光、防災, 伊豆大島ジオパーク・ガイドセミナー, 2013年6月.
- 中川和之, 地域を元気にする新たな可能性を求めて=ジオパークで山形の魅力を再発見!, 白鷹町ジオパーク学習会, 2013年6月.
- 中川和之, 災害と危機管理=自治体トップに求められること-伝え手の経験からのお願い, 香川縣市町長防災危機管理ラボ, 2013年6月.
- 中川和之, 大規模災害時, 企業に求められる情報発信=いざのために, いまからできること, 財大阪府タウン管理財団クラブ臨海研修, 2013年6月.
- 中川和之, ネット選挙運動の解禁, 山形市選挙管理委員会選挙啓発リーダー研修会, 2013年6月.
- 中川和之, 地震の正体を見極める目を持つ=防災教育に参加した子供の発見に学ぶ, 平成25年度関西大学高槻ミューズキャンパス公開講座・災害との付き合い方, 2013年7月.
- 中川和之, 火山の情報を, いつ, だれに, どう伝えるか, 気象大学校火山防災業務研修, 2013年7月.
- 中川和之, 勇気と感動, そして悔しさを伝えるために=復興と国立公園をつなぐジオパーク活動, 三陸復興国立公園指定記念フェスタ指定記念セミナー, 2013年7月.
- 中川和之, ジオパークとは?=人がいきいきと輝く持続可能な地域を作り続ける活動, 蔵王, ZAO広域振興協議会「ジオパーク」に関する学習会, 2013年7月.
- 中川和之, なぜ, 多くの自治体がジオパークを目指すのか?, 蔵王町議員・区長ジオパーク学習会, 2013年8月.
- 中川和之, 日本の防災教育, JICA トルコ防災教育プロジェクト, 2013年8月.

中川和之、地域を元気にする新たな可能性を求めて＝ジオパークで魅力を再発見！、静岡  
大学防災総合センター教授会研修会，2013年9月。

中川和之、ジオパーク＝地域の持続可能性のために、西川町月山ジオパーク構想学習会，  
2013年10月。

中川和之、ジオパーク首長セッション，日本ジオパーク全国大会分科会コーディネーター，  
2103年10月。

中川和之、悔しさと勇気と知恵を語り継ぎ，ジオを読み解き，備えにつなげる，山陰海岸  
ジオパーク国際学術会議「城崎会議」国内招待講演，2013年10月。

中川和之、ジオパーク＝地域の持続可能性のために，孀恋村(浅間山)ジオパーク構想 ジオ  
パーク勉強会，2013年10月。

中川和之、大災害や危機管理時の首長の役割，兵庫県市町長防災危機管理ラボ中川和之，  
ワークショップ・コーディネーター，2013年10月。

中川和之、普段から自分がメディアになる，第5回宇部市防災人づくり講座，2013年10  
月。

中川和之、災害時の情報提供における現状と課題，市町村アカデミー管理職防災特別講座，  
2013年10月。

中川和之、受け手に合わせてメディアを使い分け＝マスコミも使って上手に情報発信，久  
留米市広報研修，2013年11月。

中川和之、「鶴見区における福祉避難所開設に向けての現状と課題」，大阪市鶴見区社協訓  
練報告講評・シンポジウムパネラー，2013年11月。

中川和之、桜島ジオパークを活かしたこれからの安全安心な地域づくり＝「地元の誇り」  
と「おもてなしの心」で「ここだけ」の鹿児島に，鹿児島市安心安全アカデミー，2013  
年11月中川和之，お客様に「気付く喜び」を提供するために＝阿蘇の自慢話より，阿蘇  
を誉めてもらうガイドを・ASO4パフォーマンス大会，阿蘇ジオパーク世界ジオパー  
ク国内候補地推薦決定記念プログラム，2013年11月。

中川和之、台風第26号による土砂災害，「分かっていたこと」「分かったこと」「分からな  
いこと」，第1回伊豆大島住民セミナーコーディネーター，2013年11月。

中川和之、ジオパークってなに？ 観光にどう生かせばいいの？，第2回桜島・錦江湾ジ  
オパークセミナー，2013年11月。

中川和之、ジオパークって？鼎談コーディネーター，平成25年度三陸ジオパーク学術シン  
ポジウム～宮沢賢治が歩いた三陸ジオパーク，2013年12月。

中川和之、「日本のジオパーク（ネットワーク）運動 課題と今後の展望」，霧島ジオパー  
ク推進連絡協議会臨時総会，2014年1月。

中川和之、「日本のジオパーク運動」，月山ジオパーク構想学習会 in 羽黒山，2014年1月。

中川和之、「日本のジオパーク運動と月山ジオパーク構想」，ゆうキャンパス・ステーショ  
ン・やまがた夜話，2014年1月。

中川和之, パネルディスカッションコーディネーター, ジオパークフォーラム「魅力ある観光地の再建へ向けて」, 2014年2月.

中川和之, 「地震や火山の恵みと子供たち」, 第4回震災予防講演会・人と自然と歴史に学ぶ防災論ー楽しく学び賢く防ぐ, 2014年2月.

中川和之, 「日本のジオパーク(ネットワーク)運動 課題と今後の展望」, 銚子ジオパーク推進協議会講演会, 2014年2月.

中川和之, パネルディスカッション「白神山地の価値 ~大地の恵みと私たちの暮らし」コーディネーター, 白神山地・ジオパークフォーラム, 2014年2月.

中川和之, 災害時の情報提供における現状と課題, 市町村アカデミー・防災と危機管理(実践的防災講座), 2014年2月.

中川和之, 地域振興セッションコンピナー, おおいたジオ国際フォーラム, 2014年2月.

中川和之, 「いざ」に備え、情報の「受け手」から「つなぎ手」へ=身近なリスクを読み解く力を, 郡山地方消防防災協会防災講演会, 2014年2月.

中川和之, 「日本のジオパーク運動」, 月山ジオパーク構想学習会 in 戸沢村, 2014年2月.

中川和之, パネル・コーディネーター, シンポジウム「この島で生きるために・ジオパークと防災 IN 大島」, 2014年2月.

中川和之, 助言・講評, 気象庁地域防災力アップ支援プロジェクト, 2014年2月.

中川和之, 日本のジオパーク運動, セミナー「この島で生きるために・ジオパークと防災 IN 三宅島」, 2014年2月.

中川和之, 地象・気象の変化を読み解き伝える係から読み解ける人を育む係に=総力戦の最前線は气象台, 気象大学校気象技術総合研修(専門職級), 2014年2月.

中川和之, パネルディスカッション司会「備えよう! これからの神奈川の災害に向けて」, これから起こりうる神奈川県地震と火山災害, 2014年3月.

中川和之, パネル・コーディネーター, 月山ジオパーク構想学習会 in 肘折, 2014年3月.

中川和之, 「復興とは時間がかかるものだ」地域の誇りを取り戻すために!, 時事通信社社友会雑談会, 2014年3月.

中川和之, パネラー, シンポジウム・第4回地域の絆を作る防災コンテスト, 2014年3月.

中川和之, コメンテーター, 公開シンポジウム「リスク社会のイノベーション 2014-災害リスク情報を活用した協働型防災を目指して」, 2014年3月.

野津憲治, 基調講演「東日本大震災が起きて見えてきたこと:3.11の悲劇を明日に生かす」, シンポジウム「第一期から第二期に向けて」, 静岡大学防災総合センター, 静岡県地震防災センターないふるホール(静岡市), 2012年2月19日.

野津憲治, 手石海丘火口からの揮発性物質放出調査, 伊豆半島・日本ジオパーク認定記念連続講演会第0回「伊東沖海底噴火から23年:海底火口の今」, 静岡大学防災総合センター・伊豆半島ジオパーク推進協議会, 伊東市役所8階会議室(伊東市), 2012年12月16日.

佐藤健, 柴田町防災研究会「東日本大震災の教訓と今後の防災活動 ~ 学校安全と地域安全の融合による災害に強い持続可能な地域づくりに向けて ~ 」と題して講演, 柴田町防災研究会, 柴田町集会所 (仙台市若林区), 2013 年 06 月 22 日.

佐藤健, 防災講演「生きる力を身に着けるために自ら進んで考え行動することの大切さ」第一学年地震防災教育:「災害に強い持続可能な地域づくりのための学校と地域との連携」について 講演, 宮城県仙台三桜高等学校, 宮城県仙台三桜高等学校(仙台市太白区), 2013 年 06 月 25 日.

佐藤健, 「災害に強い持続可能な地域づくりに向けて」, 仙台市貝ヶ森地区連合町内会, 仙台市 貝ヶ森市民センター, 2013 年 06 月 29 日.

佐藤健, 塩釜市防災教育推進協議会 (第一回)「学校と家庭・地域との連携による防災教育の推進に向けて」, 塩釜市防災教育推進協議会, 塩釜市立第一中学校 (塩釜市), 2013 年 07 月 09 日.

佐藤健, 教頭・中堅教員研修会, 石巻市教育委員会, 桃生公民館 (石巻市), 2013 年 08 月 06 日.

佐藤健, 地域ぐるみの防災教育フォーラム in ながまちにおいて「防災教育, 学校と家庭・地域との連携」と題して講演, 仙台市長町中学校, 仙台市長町「楽楽楽ホール」, 2013 年 08 月 06 日.

佐藤健, 教職員研修会において「東日本大震災から学ぶ学校の対応と防災教育」をテーマに講演, 秋田市教育研究所, 秋田市教育研究所 (秋田県秋田市), 2013 年 08 月 19 日.

佐藤健, 学校教育研究会において「これからの防災教育について」をテーマに講演, 石川県白山市学校教育研究会, 白山市鶴来総合文化会館クレイン (石川県白山市), 2013 年 08 月 22 日.

佐藤健, SOLUTION Japan 2013 仙台において「東日本大震災の津波を踏まえた防災教育はどうあるべきか」をテーマに講演, パナソニックシステムネットワークス株式会社, 仙台国際センター, 2013 年 09 月 04 日.

佐藤健, 仙台市地域防災リーダー養成講習会「自分の住んでいる地域の特性の理解」, 仙台市消防局減災推進課, 泉消防署, 2013 年 09 月 12 日.

佐藤健, 仙台市地域防災リーダー養成講習会「自分の住んでいる地域の特性の理解」, 仙台市消防局減災推進課, 若林消防署, 2013 年 09 月 18 日.

佐藤健, 仙台市地域防災リーダー養成講習会「自分の住んでいる地域の特性の理解」, 仙台市消防局減災推進課, 宮城消防署, 2013 年 09 月 24 日.

佐藤健, 仙台市地域防災リーダー養成講習会「自分の住んでいる地域の特性の理解」, 仙台市消防局減災推進課, 宮城野消防署, 2013 年 09 月 25 日.

佐藤健, 仙台市地域防災リーダー養成講習会「自分の住んでいる地域の特性の理解」, 仙台市消防局減災推進課, 太白消防署, 2013 年 09 月 26 日.

佐藤健, 仙台市地域防災リーダー養成講習会「自分の住んでいる地域の特性の理解」, 仙台

- 市消防局減災推進課，青葉消防署，2013年09月27日。
- 佐藤健，宮城県教育委員会平成25年度学校安全指導者研修会「災害安全—防災管理・防災教育のレッスンとヒント—」，宮城県教育委員会スポーツ健康課，本吉公民館，2013年10月24日。
- 佐藤健，宮城県教育委員会平成25年度学校安全指導者研修会「災害安全—防災管理・防災教育のレッスンとヒント—」，宮城県教育委員会スポーツ健康課，登米合同庁舎，2013年10月30日。
- 佐藤健，宮城県教育委員会平成25年度学校安全指導者研修会「災害安全—防災管理・防災教育のレッスンとヒント—」宮城県教育委員会スポーツ健康課，大河原合同庁舎，2013年10月31日。
- 佐藤健，石巻市教育委員会平成25年度「実践的防災教育総合支援事業」実践委員会並びに研修会「防災教育の推進課題」，石巻市教育委員会，石巻市教育委員会，2013年11月15日。
- 佐藤健，仙台市立将監西小学校東北大学出前授業「地震危険予知アンテナを持っていますか？（室内編）」，仙台市立将監西小学校，仙台市立将監西小学校，2013年11月20日。
- 佐藤健，神戸大学震災復興支援・災害科学研究推進室第2回シンポジウム「東北大学による災害科学研究と国内外連携の推進」，神戸大学，神戸大学統合研究拠点コンベンションホール，2013年11月22日。
- 佐藤健，仙台市立八本松小学校出前授業「地震危険予知アンテナを持っていますか？（室内編）」「地震危険予知アンテナを持っていますか？（室外編）」，仙台市立八本松小学校，仙台市立八本松小学校，2013年12月02日。
- 佐藤健，「-AER で学ぼう-宮教大防災 Week」講座講師・パネリスト（テーマ「学校防災と地域防災の連携推進者 SBL」，「東北から語り継ぐ未来へのメッセージ-3.11 の経験から」，宮城教育大学教育復興支援センター，仙台アエル（仙台市青葉区），2014年01月25日。
- 土屋智：安倍川から始まる総合土砂管理計画，国交省静岡河川事務所，静岡，2013年12月
- 土屋智：地すべり防止工事士技術講習会，（社）斜面防災対策技術協会，静岡，2013年7月
- 牛山素行，新人社員研修防災講話，静岡新聞社・静岡放送，静岡市，2012年4月18日。
- 牛山素行，東海四県三市・国立四大学連携シンポジウム・パネルディスカッション，東海四県三市防災・危機管理に関する連絡会議，名古屋市，2012年5月12日。
- 牛山素行，袋井市防災対策特別委員会，袋井市，静岡県袋井市，2012年5月8日。
- 牛山素行，裾野市防火協会定期総会，裾野市消防本部・裾野市防火協会，静岡県裾野市，2012年5月18日。
- 牛山素行，沼津市PTA連絡協議会定期総会，沼津市PTA連絡協議会，静岡県沼津市，2012年



5月19日.

牛山素行,東北地方整備局危機管理セミナー,東北地方整備局,宮城県多賀城市,2012年6月4日.

牛山素行,とよはし防災リーダー養成講座,豊橋市,豊橋市,2012年6月23日.

牛山素行,(岩手県)災害情報協議会,東北地方整備局岩手河川国道事務所,盛岡市,2012年7月4日.

牛山素行,(島根県)防災安全講演会ー,島根県・益田市・消防科学総合センター,島根県益田市,2012年7月21日.

牛山素行,平成24年度東日本高等学校土木教育研究会,東日本高等学校土木教育研究会,静岡市,2012年7月26日.

牛山素行,かわさき市民アカデミー,かわさき市民アカデミー,神奈川県川崎市,2012年7月26日.

牛山素行,日本国際地図学会平成24年度定期大会《シンポジウム》「減災のための地図のあり方を考える」,日本国際地図学会,川崎市多摩区,2012年8月23日.

牛山素行,富士見市立中央図書館講演会,富士見市立中央図書館,埼玉県富士見市,2012年8月26日.

牛山素行,高知市防災ひとづくり塾,高知市,2012年10月17日.

牛山素行,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県大村市,2012年10月20日.

牛山素行,西脇市防災講演会,兵庫県西脇市,兵庫県西脇市,2012年10月21日.

牛山素行,静岡大学防災シンポジウム「地域連携を通じて静岡地域の防災を考える」パネルディスカッション,静岡大学,浜松市,2012年11月3日.

牛山素行,沼津市第三地区防災講演会,静岡県沼津市,,2012年11月10日.

牛山素行,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県壱岐市,2012年11月18日.

牛山素行,静岡県消防職員幹部教育中級幹部科,静岡県消防学校,静岡県静岡市,2012年11月22日.

牛山素行,雪国防災フェスタ,社団法人雪国青年会議所,新潟県南魚沼市,2012年11月24日.

牛山素行,大阪府防災啓発研修,大阪府・大阪府消防協会・消防科学総合センター,大阪府天王寺区,2012年11月29日.

牛山素行,砥川流域協議会,長野県諏訪建設事務所,長野県下諏訪町,2012年11月30日.

牛山素行,岐阜県防災気象講演会,岐阜地方気象台・多治見市,岐阜県多治見市,2012年12月1日.

牛山素行,静岡県科学技術高校講演,静岡県科学技術高校,静岡市,2012年12月13日.

牛山素行,国土交通大学校 専門課程ダム管理技術研修,国土交通大学校,小平市,2012年12月14日.

牛山素行,漁港漁場漁村技術研究所第6回調査研究成果発表会パネルディスカッション「災害から身を守る ～漁業地域の被害軽減に向けて～」,(財)漁港漁場漁村技術研究所,東京

都港区,2012年12月14日.

牛山素行,消防団幹部特別研修,日本消防協会,東京都港区,2013年1月17日.

牛山素行,国土交通大学校 専門課程危機管理(サブリーダー)研修,国土交通大学校,小平市,2013年1月22日.

牛山素行,近畿河川技術研修,国土交通省近畿地方整備局,大阪市,2013年1月24日.

牛山素行,東京海上日動 自然災害セミナー,東京海上日動火災保険株式会社,東京都千代田区,2013年2月4日.

牛山素行,消防団幹部中央特別研修,日本消防協会,東京都港区,2013年2月7日.

牛山素行,3.11東日本大震災から高知は学ぶシンポジウム,高知県自治研究センター,高知市,2013年2月9日.

牛山素行,国土交通大学校 緊急災害対策派遣隊研修,国土交通大学校,小平市,2013年2月20日.

牛山素行,静岡防災情報連絡会,静岡地方气象台,静岡市,2013年2月26日.

牛山素行,地震災害対策セミナー,日本損害保険協会 静岡支部,静岡市,2013年3月5日.

牛山素行,科学技術戦略推進費「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」シンポジウム「防災フェロー講座折り返し点を迎えて」,静岡大学,静岡市,2013年3月16日.

牛山素行,静岡財務事務所 教養講話,静岡財務事務所,静岡市,2013年3月29日.

牛山素行,可児市自治会長研修会,岐阜県可児市,岐阜県可児市,2013年5月11日.

牛山素行,災害時の避難に関する講演会,高知県,高知市,2013年5月13日.

牛山素行,佐賀県総合防災訓練講演会,佐賀県・佐賀県白石町,佐賀県白石町,2013年5月26日.

牛山素行,第23回防衛問題セミナー,防衛省九州防衛局,熊本市,2013年6月5日.

牛山素行,地域防災推進講演会,大分県,大分県豊後竹田市,2013年6月8日.

牛山素行,地域防災推進フォーラム,大分県,大分県日田市,2013年6月9日.

牛山素行,鳥居薬品外部講師講演会,(株)鳥居薬品,東京都,2013年6月18日.

牛山素行,気象予報士会講演会,気象予報士会,東京都千代田区,2013年6月22日.

牛山素行,とよはし防災リーダー養成講座,豊橋市,2013年7月6日.

牛山素行,高知市職員研修,高知市,2013年7月17日.

牛山素行,高知市防災ひとづくり塾,高知市,2013年7月17日.

牛山素行,袋井市防災講演会(高尾),袋井市,2013年7月20日.

牛山素行,袋井市防災講演会(上山梨),袋井市,2013年7月26日.

牛山素行,袋井市防災講演会(浅名),袋井市,2013年7月27日.

牛山素行,(岩手県)災害情報協議会,東北地方整備局岩手河川国道事務所,盛岡市,2013年7月22日.

牛山素行,陸前高田市東日本大震災検証委員会,陸前高田市,陸前高田市,2013年7月23日.

牛山素行,地盤技術講習会,静岡県地質調査業協会,静岡市,2013年8月9日.

牛山素行,佐賀県市町長防災危機管理ラボ,佐賀県・消防科学総合センター,佐賀市,2013年8月21日.

牛山素行,第18回水シンポジウム2013 in こうち,土木学会,高知市,2013年8月22日.

牛山素行,水工学に関する夏期研修会,土木学会,名古屋市,2013年8月26日.

牛山素行,気象庁防災講演会「特別警報」,気象庁,東京都千代田区,2013年8月28日.

牛山素行,静岡県ふじのくに防災士養成講座,静岡県,静岡市,2013年9月10日.

牛山素行,平成25年度災害時要援護者支援研修会,静岡県西部健康福祉センター,静岡県磐田市,2013年9月20日.

牛山素行,女性のための防災・減災リーダー養成講座,御前崎災害支援ネットワーク,静岡県御前崎市,2013年9月29日.

牛山素行,平成25年度研修「地域の防災対策(大災害に備えて)」,市町村職員中央研修所(市町村アカデミー),千葉市,2013年10月9日.

牛山素行,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県五島市,2013年10月12日.

牛山素行,静岡県ふじのくに防災士養成講座,静岡県,静岡市,2013年10月13日.

牛山素行,宮古市津波防災の日講演会,岩手県宮古市,岩手県宮古市,2013年11月3日.

牛山素行,専門訴訟事件等の特殊事件のための研究会,静岡地方裁判所,静岡市,2013年11月6日.

牛山素行,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県佐世保市,2013年11月9日.

牛山素行,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2013年11月12日.

牛山素行,豊川市防災講演会,豊川市,豊川市,2013年11月17日.

牛山素行,岐阜県防災気象講演会,岐阜地方気象台・岐阜県,岐阜市,2013年12月1日.

牛山素行,静岡県建設業協会合同研修,静岡県建設業協会,静岡市,2013年12月2日.

牛山素行,国土交通大学校 専門課程ダム管理技術研修,国土交通大学校,小平市,2013年12月13日.

牛山素行,国土交通大学校 危機管理研修,国土交通大学校,小平市,2013年12月13日.

牛山素行,島根県自主防災リーダー研修会,島根県,島根県出雲市,2013年12月14日.

牛山素行,牧之原市防災講演会,牧之原市,牧之原市,2013年12月17日.

牛山素行,大分県危機管理研修会,大分県,大分市,2013年12月18日.

牛山素行,静岡新聞社・静岡放送局部長連絡会,静岡新聞社,静岡市,2013年12月26日.

牛山素行,地域再生人材創出拠点の形成プログラム実施機関連絡会議公開シンポジウム 創り出すデザイン-知縁コミュニティの創出へむけて-,東北大学,仙台市,2014年1月11日.

牛山素行,消防団幹部特別研修,日本消防協会,東京都港区,2014年1月16日.

牛山素行,名古屋大学防災アカデミー,名古屋大学減災連携研究センター,名古屋市,2014年1月20日.

牛山素行,和歌山県防災気象講演会,和歌山地方気象台,和歌山県田辺市,2014年1月26日.

牛山素行,気象庁気象講演会,気象庁,東京都千代田区,2014年1月29日.

牛山素行,危機管理士講座,明治大学,東京都千代田区,2014年1月30日.

牛山素行,藤枝市防災研修会,藤枝市,藤枝市,2014年2月1日.

牛山素行,愛知縣市町長防災危機管理ラボ,愛知県・消防科学総合センター,名古屋市,2014年2月4日.

牛山素行,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2014年2月5日.

牛山素行,消防団幹部候補特別研修,日本消防協会,東京都港区,2014年2月7日.

牛山素行,焼津市災害時ボランティアコーディネーターステップアップ講座,焼津市社会福祉協議会,焼津市,2014年2月15日.

牛山素行,広島縣市町長防災危機管理ラボ,広島県・消防科学総合センター,広島市,2014年2月19日.

牛山素行,みんなで防災 in 津山,岡山県・津山市,津山市,2014年2月22日.

牛山素行,防災のまちづくりフォーラム in 勝央,岡山県・勝央町,勝央町,2014年2月22日.

牛山素行,岐阜県総合防災リーダー育成講座,岐阜県,岐阜県関市,2014年2月23日.

矢守克也, 南海トラフ地震を生き抜く～かけがえのない命を守るために、いま何ができるか～, 高知県「震災に強い人・地域・ネットワークづくり講演会」, 高知 RKC ホール, 2013.12.21

矢守克也, 「クロスロード」についてのコメント, 第5回「クロスロード研究会」, マッセ OSAKA 2013.12.17

矢守克也, 津波防災について考えよう, 大阪府津波高潮ステーション, 2013.12.17

矢守克也・吉椿雅道・山崎水紀夫・頼政良太・田代恵・孫英英, チリからの津波, 高知県四万十町立興津小学校, 2013.12.10

矢守克也, 防災学習ゲーム「クロスロード」, 平成25年度津市民防災大学, 津市公民館アストプラザ, 2013.12.9

矢守克也, 真陽小学校区自治会・防災福祉コミュニティ・京都大学防災研究所矢守研究室・NHK神戸放送局・大阪放送局, 津波防災・勉強会, 神戸市長田区真陽地区 2013.12.18

矢守克也・佐藤翔輔・山崎麻里子・阪本真由美, 災害の記憶の忘却を防ぐことはできるのかー3つの災害のかたりつぎからみえることー, 災害ミュージアム研究塾2013, 神戸市立地域人材支援センター, 2013.12.8

矢守克也, 巨大災害のリスク・コミュニケーション, ATI公開フォーラム(第36回(公財)新世代研究所 公開講座), 明治大学紫紺館, 2013.12.5

矢守克也, 住民主役の新しい津波避難対策, 関西学院大学災害復興制度研究所「事起こし研究会」, 関西学院大学, 2013.12.4

矢守克也, 津波災害の話, NVNAD「防災ウォークラリーin西宮」, 武庫川女子大学, 2013.12.1

矢守克也, 小学生プレゼンテーション講評, 高知県四万十町立十川小学校「防災教育シンポジウム:土砂災害を知る・備える・行動する」, 十川小学校, 2013.11.29

矢守克也, イメージトレーニング, 内閣府主催事業平成25年度防災スペシャリスト養成研

- 修第 3 四半期研修, 有明の丘基幹的広域防災拠点施設 2013.11.27
- 矢守克也, 防災教育講演会「楽しく! 真剣に! 学ぼう BOUSAI」, 大阪府貝塚市立第五中学校 2013.11.19
- 矢守克也, 真陽小学校区防災福祉コミュニティ・京都大学防災研究所矢守研究室 NHK 神戸放送局・大阪放送局, 津波防災・勉強会, 神戸市長田区真陽地区, 2013.11.18
- 矢守克也, 「クロスロード」を活用した防災・減災ワークショップ, 和歌山県紀宝町まなびの郷, 2013.11.17
- Yamori, K. Disaster prevention and reduction workshop using gaming methods. JICA Training “Community Disaster Prevention (A). JICA Kansai. 2013.11.14
- 矢守克也, 地域での防災活動について 「こうべまちづくり学校」分野別講座 B コース こうべまちづくり会館 2013.11.14
- 矢守克也, 「クロスロード」についてのコメント 第 4 回「クロスロード研究会」 マッセ OSAKA 2013.11.13
- 矢守克也, 地域防災力を高めるための新しい手法, 平成 25 年度静岡県自主防災活動推進大会, 静岡県菊川文化会館アエル, 2013.11.10
- 矢守克也, パネルディスカッション「南海トラフ巨大地震対策に向けて何が変わったか?」, 大規模災害対策研究機構第 7 回 CDR セミナー, 大阪市立北区区民センター, 2013.11.7
- 矢守克也, 地震からこどもの命を守る! ~家庭や地域でできる防災対策~, 大阪市教育委員会平成 25 年度 PTA・社会教育関係団体対象人権学習会促進事業講演会, 大阪市立総合生涯学習センター, 2013.11.6
- 矢守克也, 防災ゲーム「クロスロード」で学ぶ地震防災, 平成 25 年度宇治事業場安全衛生講習会, 京都大学宇治キャンパスおうぼくホール, 2013.11.6
- 矢守克也, 宇城市台風災害低減準備手順書策定研修会, 宇城市市役所, 2013.10.30
- 矢守克也, 「クロスロード」についてのコメント, 第 3 回「クロスロード研究会」, マッセ OSAKA, 2013.10.23
- 矢守克也, 市民が主役: 津波避難訓練の新しい姿 公開講座・施設見学ツアー付き, 阿武山観測所オープンラボ「京大ウィークス 2013 特別プログラム」, 京都大学阿武山観測所, 2013.10.21
- 矢守克也・城下英行, Abuyama Science Café vol.2 「アブヤマ・ミステリー: 地震学だけじゃない阿武山の魅力」, 阿武山観測所オープンラボ「京大ウィークス 2013 特別プログラム」, 京都大学阿武山観測所, 2013.10.21
- 矢守克也, Abuyama Science Café vol.1 「地震学者に質問あり!: 心理学者が抱いた素朴な疑問」, 阿武山観測所オープンラボ「京大ウィークス 2013 特別プログラム」 京都大学阿武山観測所, 2013.10.20
- 矢守克也, ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ, 人と防災未来センター 平成 25 年度秋期「災害対策専門研修」 人と防災未来センター 2013.10.18

矢守克也，総括とコメント 高知県南海地震対策課「津波避難計画の点検に関する現地研修」(西部会場)，高知県中土佐町立文化館，2013.10.17

矢守克也，総括とコメント 高知県南海地震対策課「津波避難計画の点検に関する現地研修」(東部会場)，高知県安芸市消防防災センター，2013.10.16

矢守克也，総括とコメント 高知県南海地震対策課「津波避難計画の点検に関する現地研修」(中部会場)，高知県南国市日章福祉交流センター，2013.10.15

矢守克也，「地域と学校が一体となった防災教育をめざして」，東京消防庁「防災シンポジウム 2013」，東京ビッグサイト，2013.10.5

矢守克也・藤山秀章・田嶋勝正・佐藤仁・毛利聡子，パネルディスカッション「巨大地震から人命を守るために」，よみうり防災フォーラム 2013，大阪国際会議場 2013.9.30

矢守克也，防災・減災に果たすメディアの役割，平成 25 年度マスコミ倫理懇談会全国協議会，仙台国際ホテル，2013.9.26

矢守克也，阿武山観測所の紹介とサイエンスミュージアム構想について、第 19 回関西なまずの会，京都大学阿武山観測所，2013.9.22

矢守克也，南海トラフ地震に備える～生活防災のススメ～ 神戸市平成 25 年度減災講話シリーズ 神戸市危機管理センター 2013.8.28

矢守克也，「クロスロード」の深層－〈選択・判断〉or 〈運命・覚悟〉－ 第 1 回「クロスロード研究会」，マッセ OSAKA，2013.8.12

矢守克也，満点計画防災教育プログラム 日本地震学会主催教員免許状更新講習「地震観測所を体験しよう」，阿武山観測所 2013.8.9

矢守克也，NHK 高知放送局・万行地区自主防災会，巨大地震・津波から命を守るには～，第 2 回万行地区防災勉強会，高知県黒潮町万行町民館 2013.7.28

矢守克也，地域コミュニティにおける防災活動について，京都市消防局自主防災上級研修，京都市消防活動総合センター 2013.7.27

矢守克也，地域コミュニティにおける防災活動について，京都市消防局自主防災上級研修 京都市消防活動総合センター 2013.7.25

矢守克也，避難する人が「主役」になる津波避難訓練づくり，+クリエイティブゼミ vol.7 特別 レクチャー，デザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO 2013.7.22

矢守克也，防災ゲームクロスロード，高知県本山町立吉野小学校 平成 25 年度第 1 回防災学習会，吉野小学校 2013.7.10

矢守克也・孫英英・谷澤亮也，個別訓練タイムトライアル・防災ゲームクロスロード，興津地域平成 25 年度第 1 回防災学習会，興津小学校 2013.7.9

矢守克也・近藤誠司，防災教育の推進のために－防災教育の実践事例から学ぶ－，大阪府教育センター平成 25 年度防災教育研修，大阪府教育センター 2013.7.8

矢守克也・近藤誠司，より効果的な防災学習を進めるにあたって－防災学習教材・コンテンツの活用方法について－，大阪府教育センター平成 25 年度防災教育研修，大阪府

教育センター 2013.7.8  
矢守克也, 矢守克也先生と楽しく!真剣に!学ぼう BOSAI, 三重県紀北町立東小学校  
2013.7.4  
矢守克也, 地震災害のお話, 岩手県野田小学校 2013.6.26  
矢守克也, 「阿武山サイエンス・ミュージアム構想」について, 阿武山地震観測 サポーター  
養成講座 京都大学阿武山観測所 2013.6.22  
矢守克也, ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ, 人と防災未来センタ  
ー平成 25 年度春期「災害対策専門研修」, 人と防災未来センター 2013.6.21  
矢守克也, 最新ぼうさい教育事情, 第 4 回草津市減災シンポジウム, 草津市役所  
2013.6.15  
矢守克也, 防災ゲームクロスロードを体験しよう, 兵庫県立舞子高校 2013.6.6  
矢守克也, 防災ゲームクロスロードを体験しよう, 高槻市けやきの森市民講座, 高槻市生  
涯学習センター 2013.6.4  
矢守克也, 〈生活防災〉で地域防災力を高めよう～生活防災から自助・共助を考える～, 平  
成 25 年度 自主防災組織防災リーダーセミナー, 杜のホールはしもと 2013.5.25  
矢守克也, スペシャルゲスト・トークセッション 83rd Anniversaryー京都大学 阿武山観  
測所開所記念日交流会, 京都大学阿武山観測所 2013.5.11  
矢守克也, クロスロード最新報告, クロスロードファシリテータのつどい 呉ビュー・  
ポートくれ, 2013.4.28  
矢守克也, 個別避難訓練タイムトライアル, 名古屋工業大学高度防災工学センター講演会  
名古屋工業大学 2013.4.17  
矢守克也, 3.14 NHK 放送文化研究所シンポジウム「3.11 震災アーカイブ活用の可能性～  
防災・減災、復興にいかすために～」, 千代田放送会館 2013.3.14  
矢守克也, 防災ゲーム:クロスロード 第 2 回「あつまる、まじわる、つながる一地域の  
サステナ活動をつなぐポスター発表ワークショップ」, 茨城大学 2013.3.10  
矢守克也, 参加型ワークショップ「防災ゲーム:クロスロード」ー大洗町の防災と復興に  
ついて考えるー, 大洗町ほげほげカフェ 2013.3.9  
矢守克也・孫英英, 高知県四万十町立興津小学校第 3 回防災学習会 (登校時避難訓練の検  
証会), 興津小学校 2013.3.7  
矢守克也, NHK 高知放送局・万行地区自主防災会, 巨大地震・津波から命を守るには～,  
万行地区防災勉強会, 高知県黒潮町万行町民館 2013.2.24  
矢守克也, 矢守克也先生と楽しく!真剣に!学ぼう BOSAI, 三重県紀北町立東小学校  
2012.2.5  
矢守克也・鈴木進吾・近藤誠司・孫英英・谷澤亮也, 津波避難個別訓練タイムトライアル  
ー動画カルテの制作ー, 高知県四万十町立興津小学校第 2 回防災学習発表会, 興津小学  
校 2013.2.3

矢守克也、高知県の防災教育に求められること、平成 24 年度高知県防災教育推進フォーラム基調講演、高知県立追手前高校 2013.1.27

矢守克也、夢みる防災教育をめざして、平成 24 年度滋賀県防災教室指導者講習会Ⅱ、ピアザ淡海、2013.1.24

矢守克也、情報交換「日本の社会・文化と自殺」、イメージスキーマ研究会「日本の社会・文化に、自殺はどのように位置づけられているのか」、フクラシア品川 2012.12.25

矢守克也、津波避難の最新動向～「てんでんこ」・「クロスロード」・「個別訓練」～、鳥居薬品(株)第 30 回外部講師講演会、鳥居薬品(株) 2012.12.17

矢守克也、夢みる防災教育、京都府立高等学校長会講演、ルビノ京都堀川 2012.12.6

矢守克也、東日本大震災を振り返って、堺市浜寺中学校を避難目標とした津波避難訓練～浜寺 4 校区合同津波避難訓練～、堺市浜寺中学校 2012.12.2

矢守克也、神戸学院大学船木ゼミ・語り部 KOBE、阪神・淡路大震災を語り継ぐ防災教材作成の取り組み、神戸学院大学 2012.1.2.1

矢守克也、地域での防災活動について話し合おう！、こうべまちづくり学校、こうべまちづくり会館 2012.11.22

矢守克也、ゲームで学ぶ減災術、大阪府防災通信協会防災講演会、NHK 大阪ホール 2012.11.21

矢守克也、台湾の「明星災区」と「明星社区」第 1 回「あつまる、まじわる、つながるー地域のサステナ活動をつなぐポスター発表ワークショップ」、茨城大学 2012.11.17

矢守克也、津波防災の新しいかたち～「クロスロード」と「ビデオカルテ」の活用～、平成 24 年度 21 世紀文明研究セミナー、人と防災未来センター 2012.11.7

矢守克也、ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ、人と防災未来センター平成 24 年度秋期「災害対策専門研修」、人と防災未来センター 2012.10.25

矢守克也、防災ゲーム「クロスロード」を体験しよう、京都大学宇治キャンパス公開京都大学 2012.10.20

矢守克也、防災ゲーム「クロスロード」を体験しよう、尼崎市「地域における防災力向上講座」、尼崎市立中央公民館 2012.10.14

矢守克也、防災ゲーム「クロスロード」を体験しよう、尼崎市「地域における防災力向上講座」、尼崎市立立花公民館 2012.10.13

矢守克也、満点計画防災教育プログラム、日本地震学会主催教員免許状更新講習「地震観測所を体験しよう」、阿武山観測所 2012.8.10

矢守克也、災害に立ち向かおう！ 宮中クロスロードに挑戦、伊勢市立立宮川中学校 2012.8.4

矢守克也、個別訓練の報告、高知県四万十町立興津小学校第 1 回防災学習発表会、興津小学校 2012.7.10

矢守克也、防災教育の推進のためにー防災教育の実践事例から学ぶー、大阪府教育セン



ター平成 24 年度防災教育研修，大阪府教育センター 2012.7.5  
矢守克也，より効果的な防災学習を進めるにあたってー防災学習教材・コンテンツの活用方法についてー，大阪府教育センター平成 24 年度防災教育研修，大阪府教育センター 2012.7.5  
矢守克也・孫英英，高知県四万十町立興津小学校個別訓練フォロー授業，興津小学校 2012.7.3.  
矢守克也・近藤誠司・宮本匠・孫英英，高知県四万十町立興津小学校個別訓練，興津小学校，2012.6.26  
矢守克也・西川彰一・福住美壽，パネルディスカッション：地域防災の実践活動とその課題 平成 24 年度阪神地域ひょうご防災リーダー講座，尼崎市立労働センター 2012.6.23  
矢守克也，ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ，人と防災未来センター 平成 24 年度春期「災害対策専門研修」，人と防災未来センター 2012.6.15  
矢守克也，これからの防災教育のあり方を考える，北海道大学高等教育推進機構 CoSTEP 講義，北海道大学 2012.6.6  
矢守克也，阿武山サイエンス・ミュージアム構想について，サイエンス・ミュージアム セミナー2012「阿武山地震観測所サポーター養成講座」，京都大学防災研究所阿武山地震観測所 2012.6.2  
矢守克也，after1.17&3.11ー対談：私たちはこれから何を学び、どう行動するか サイエンス・ミュージアムセミナー2012「阿武山地震観測所サポーター養成講座」，京都大学防災研究所阿武山地震観測所 2012.6.2  
矢守克也，災害社会学，静岡大学「平成 24 年度ふじのくに防災フェロー養成講座」 静岡大学 2012.5.26  
矢守克也，東日本大震災における地域間連携に思う神戸隣接市・町地域における危機管理研修，神戸商工貿易センタービル 2012.5.18  
矢守克也，巨大災害に備える／巨大災害から立ち直る，大阪府立北野高等学校同窓会六稜トークリレー，北野高校六稜会館 2012.5.12  
矢守克也，「津波てんでんこ」の 4 つの意味，京都大学防災研究所総合防災セミナー，京都大学宇治キャンパスおうぼくプラザ 2012.4.27  
矢守克也，シンポジウム「命を救う情報・メディアを考える ～東日本大震災で見た緊急情報伝達の課題～」，イイノホール 2012.3.7  
矢守克也，参加型ワークショップ ー大洗町の防災と復興について考えるー，日本質的心理学会東日本大震災ワーキンググループ企画，大洗町商工会議所会議室 2012.3.5  
矢守克也・岩堀卓弥，満点計画フォローアップ授業，鳥取県日野町立根雨小学校，2012.3.1  
矢守克也，アクションリサーチとしての質的研究：災害と言葉，やまだようこ教授退官記念事業多声対話シンポジウム「質的研究の来し方と未来ーナラティブを巡ってー」，

京都大学 2012.2.18

矢守克也・賀沢秀人・八木浩一・中神武志・近藤誠司・畑山満則, パネルディスカッション「災害と情報学」, 京都大学大学院情報学研究科第13回情報学シンポジウム, 京都大学 2012.2.17

矢守克也, 小野寺勝さんとわたし, 千歳地区連合自治会講演会「東日本大震災の話を聞いて欲しい!」, 神戸市須磨区千歳地区センター 2012.2.13

矢守克也, 興津地区: 津波避難に関するアンケート調査の結果 高知県四万十町立興津小学校, 2012.2.12

矢守克也, 基調講演: 災害に備える 高校生による全国防災ミーティング 2012, 国立淡路青少年交流の家 2012.2.4

矢守克也, 小学校に地震計を置いてみたらー「満点計画」と学習プログラムー, 物理教育学会近畿支部阿武山講演, 京都大学防災研究所阿武山地震観測所 2012.1.28

矢守克也, インタビュー・ゲーミング・アクションリサーチ, NHK 放送文化研究所勉強会 NHK 放送文化研究所 2012.1.18

矢守克也, これまでの防災教育/これからの防災教育, 高知市平成23年度防災人づくり塾 第7回講義 2012.1.11

矢守克也, 大規模災害に備える防災教育, (株)損害保険ジャパン 2013 企業リスクマネジメントセミナー, 日本興亜損害保険 肥後橋ビル 2013.11.18

吉田明夫, 地質の日記念講演会「箱根の火山活動と地震」, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 2013年5月12日.

吉田明夫, 防災・耐震セミナー「大規模地震と富士火山噴火に対する防災」, 長泉町, 2014年3月23日.

## 5.2 マスメディア・新聞等への掲載

安藤雅孝, 静岡新聞, いのちを守る防災しずおか: 減災「枯れた技術」の大切さ, 2014年5月11日.

千木良雅弘, 斜面に三日月「深層崩壊に注意」, 朝日新聞 .2013年2月19日.

藤井基貴, 毎日新聞「もしもに備える」2013年4月2日.

藤井基貴, 静岡新聞「被害時のジレンマ議論」2013年11月12日.

藤井基貴, 朝日新聞(神奈川県)「いざ! 考える防災教育」2013年11月12日.

藤井基貴, 朝日新聞(静岡県)「自らで判断を教える」2013年11月15日.

藤井基貴, 毎日新聞「もしもに備える」2014年2月4日.

藤井基貴, 中日新聞「考える力を養う」2014年2月17日.

藤井基貴, 朝日新聞(静岡県)「自分で考える防災」2014年3月9日.

藤井基貴, TBS「防災道德」2014年3月11日.

藤井基貴, 静岡だいいちテレビ「防災紙芝居」2014年3月17日.

秦康範，山梨日日新聞，「自ら考える」防災教育充実を，2013年10月6日。

秦康範，知るしん，NHK長野放送局，2014年3月14日。

原田賢治，相模トラフにも注目を，特集：いのちを守る-防災しずおか，提言「減災」，静岡新聞（朝刊），2014.3.23

原田賢治，津波河川遡上で浸水域増か，NHK静岡，ニュース845，2014.3.5

原田賢治，障害ある生徒どう守る，津波懸念の浜松特別支援学校PTAがシンポ，中日新聞（朝刊）県内総合，2014.2.22.

原田賢治，津波への心構え伝授，原田静岡大准教授講演，一人一人行動を，浜松江之島高，中日新聞（朝刊），2014.1.22.

原田賢治，避難訓練の大切さ説く，浜松江之島高で防講話，静岡新聞（朝刊），2014.1.22.

原田賢治，住民参加し想定生かせ，特集：いのちを守る—防災しずおか，提言：「減災」，静岡新聞（朝刊），2013.12.8

原田賢治，防災特集・高潮災害を考える，たっぷり静岡，NHK静岡，2013.11.19

原田賢治，津波からの避難，地震ひと言ボイス，NHK静岡，2013.11.10

原田賢治，特定避難困難地域:浜松・防潮堤整備後、5カ所 道路寸断など，毎日新聞，2013.11.9

原田賢治，被災地を歩く／下田—安政東海地震／津波—1キロ内陸まで，朝日新聞（朝刊）静岡，2013.11.4

原田賢治，津波対策で30年計画／防潮堤「効果」も—浜松市防災推進協、初会合，静岡新聞（朝刊），2013.9.28

原田賢治，浜松市 津波防災計画策定へ 有識者ら20人 月内に推進協，中日新聞（朝刊）浜松・遠州，2013.9.13

原田賢治，津波防災軸にまちづくり 年度内に計画策定「多重防御」で強化，静岡新聞，2013.9.13

原田賢治，富士山で大規模山崩れ発生の場合、最大3メートルの津波おそれ，ニュースJAPAN，フジテレビ，2013.5.21

原田賢治，富士山「山体崩壊」で津波も／駿河湾西岸に最大3メートル／静岡大・原田准教授試算，静岡新聞（朝刊），2013.5.18

原田賢治，富士山／巨大山崩れなら津波3メートル／駿河湾に流入想定，朝日新聞（朝刊），2013.5.17

原田賢治，津波2想定／意味認識を，特集：いのちを守る—防災しずおか，提言：「減災」，静岡新聞（朝刊），2013.5.12

原田賢治，下田市役所高台移転／浸水5.5メートル、2階も大破，朝日新聞（朝刊）静岡，2013.5.12

原田賢治，「自助」考える避難訓，特集：いのちを守る—防災しずおか，提言：「減災」，静岡新聞（朝刊），2013.1.27

原田賢治，天文科学講演会「科学館で考える東南海地震—地球の活動としての地震・津波」，

ウィークリーガイド, 静岡新聞 (朝刊), 2013.1.31

原田賢治, 天文科学講演会・科学館で考える東南海地震「地球の活動としての地震・津波」, 朝日新聞, 2013.1

原田賢治, 公開シンポジウム「TSUNAMI」行政、工学、危機管理など各分野から多角的な切り口で震災対応を考察, 静岡新聞, 2013.1

原田賢治, 天文科学講演会「地球の活動としての地震・津波」2013年2月9日(土)科学館で考える東南海地震, 静岡新聞, 2013.1

原田賢治, 津波で専門家の意見聞く 車での避難など検討, NHK たっぷり静岡, 2012.11.29

原田賢治, 津波: 南海トラフ巨大地震試算、20センチでも転倒 早い避難が安全策, 毎日新聞 (夕刊) 大阪, 2012.11.13

原田賢治, 津波からどう逃げる/訓練の積み重ね重要, 備える 3.11 から (第55回), 中日新聞 (朝刊), 2012.10.22

原田賢治, 学校防災—専門家が検証/浜松江之島高—避難場所など助言, 静岡新聞 (朝刊), 2012.10.24

原田賢治, 高校津波対策—専門家が検証/海から1キロの浜松江之島高—入試前に“お墨付き”発信, 中日新聞 (朝刊), 2012.10.24

原田賢治, 被災—具体的に想像を/静大連携講座初回「津波防災」原田賢治准教授に聞く/命自分で守りたい, 中日新聞 (朝刊), 2012.10.7

原田賢治, 静大・中日新聞連携講座開講「津波防災を考える」大きな揺れ、即避難/原田准教授「対応考えること、最初的一步」, 中日新聞 (朝刊), 2012.10.14

原田賢治, 「浜松の危険性高い」静大連携講座初回—津波防災テーマに, 中日新聞 (朝刊), 2012.10.14

原田賢治, 津波避難/事前に備えを, 特集: いのちを守る—防災しずおか, 提言 「減災」, 静岡新聞 (朝刊), 2012.10.14

原田賢治, 海拔学んで津波対策 震災後各地で 危険な場所知って避難を, 読売新聞 (朝刊), 2012.9.19

原田賢治, 県教委が学校防災アドバイザー 津波浸水域25校派遣へ, 静岡新聞 (朝刊), 2012.9.14

原田賢治, 【南海トラフ巨大地震】識者コメント 住民自ら避難行動 静岡大の原田賢治准教授 (津波工学) の話, 静岡新聞 (朝刊), 2012.8.30

原田賢治, 【南海トラフ地震 被害想定】東京・島しょ部「犠牲1500人」「高台へ」対策急ぐ ハード整備に時間, 東京新聞, 2012.8.30

原田賢治, 想定は一つの参考値に, 特集: いのちを守る—防災しずおか, 提言: 「減災」, 静岡新聞 (朝刊), 2012.5.27

原田賢治, 浜岡設計者、市町長らに講演, 朝日新聞 (朝刊), 2012.5.10

原田賢治, 浜岡原発と津波「設計 断層を想定せず」葵区で県内首長勉強会 専門家が危

険性指摘, 中日新聞 (朝刊), 2012.5.10

原田賢治, 浜岡原発の耐震設計「活断層想定なし」指摘 静岡 県内首長が研修会, 静岡新聞 (朝刊), 2012.5.10

原田賢治, 勉強会: 県内首長「浜岡原発と津波」テーマに, 毎日新聞, 2012.5.10

原田賢治, 「地域の危険性知って」静岡で防災学講座 静大准教授が講演, 静岡新聞 (朝刊), 2012.4.22

原田賢治, 津波対策が重要 葵区で防災学講座 静大准教授が講演, 中日新聞 (朝刊), 2012.4.22

原田賢治, 講演会: 津波災害対策考える 140人参加, 毎日新聞, 2012.4.22

原田賢治, 津波防災で講座 21日に静岡, 静岡新聞 (朝刊), 2012.4.11

林能成, 紀伊民報, 和歌山県が独自で被害想定 南海トラフ巨大地震, 2012年6月4日.

林能成, 静岡新聞, 日ごろの備え説く 地震テーマに防災研修会 藤枝, 2012年6月29日.

林能成, 静岡新聞, 防災教育 改善訴え 日本地震学会 最終日セッション, 2012年10月20日.

林能成, 朝日新聞, ニッポン 人・脈・記 大地に聞く5 地震学 防災に不可欠か, 2012年11月5日.

林能成, 静岡新聞, 電車の揺れは震度5弱程度 関西大・林准教授「避難のイメージに」, 2013年10月4日.

林能成, 静岡新聞, いのちを守る防災しずおか: 減災「枯れた技術」の大切さ, 2014年5月11日.

林能成, 静岡新聞, 防災まちづくり 25日に座談会 葵区, 2014年1月10日.

生田領野, 朝日新聞朝刊 33面, 『M9級地震 沖縄・小笠原も? 地中エネルギー分析 世界17か所に可能性』2013.10.5

生田領野, 朝日新聞朝刊 31面, 『大地震の定説, 本当? 「慶長, 南海トラフではない」』2013.10.31

生田領野, テレビ朝日 スーパーJチャンネル, 『伊豆小笠原・沖縄でもマグニチュード9 巨大地震の可能性』, インタビュー報道 2013.10.8

生田領野, テレビ朝日 ワイドスクランブル, 『伊豆小笠原・沖縄でもマグニチュード9 巨大地震の可能性』, インタビュー報道 2013.10.9

生田領野, TBS テレビ朝ズバッ, 『小笠原 西ノ島新島と巨大地震』, 解説 2013.10.9

石橋秀巳, JST サイエンスチャンネル ニュースミニ, マグマ その物性と火山噴火について, 2013年5月14日. (URL <http://sc-smn.jst.go.jp/M130011/detail/M130011022.html>)

石川有三, 別冊宝島, 巨大地震はいつくるか?, 56-61 2014年3月号.

石川有三, 新潟日報, 置き去りの日本海 2, 2014年3月20日.

石川有三, 新潟日報, 置き去りの日本海 4, 2014年3月22日.

岩松 暉，南日本新聞，事業所アンケートに寄せて「想定外」桜島には使えず，2013年3月10日。

岩松 暉，朝日新聞，桜島惨禍 記念碑に学ぶ，2013年4月10日。

岩松 暉，共同通信（岐阜新聞等々），桜島噴火 教訓生かせ，2013年。

岩松 暉，讀賣新聞，噴火の猛威後世に，2014年1月22日。

岩松 暉，NHK，鹿児島防災シンポジウム「桜島大正噴火から学ぶ」，2013年2月3日。

岩松 暉，南日本放送，鹿児島防災シンポジウム「桜島大正噴火から学ぶ」，2013年2月8日

岩松 暉，NHK鹿児島放送局，「石碑は語る」シリーズ1年間，2012-2013。

岩松 暉，NHK福岡放送局，九州沖縄特集「石に刻まれた巨大災害」，2014年2月1日。

岩松 暉，NHK，地方発ドキュメンタリー「石に刻まれた巨大災害」，2014年3月4日。

岩松 暉，鹿児島放送，そのとき山が割れたー大正大噴火100年桜島からの警鐘ー，2014年1月4日。

岩松 暉，南日本放送，桜島大正噴火から100年，2014年1月8日。

狩野謙一，静岡新聞（朝刊），断層データ基に議論 富士川河口地下構造調査 地震との関連解析，2012年4月7日。

狩野謙一，読売新聞（朝刊），富士川河口断層帯 構造解明 2大学調査 フィリピン海プレートと関連か，2012年3月27日。

狩野謙一，静岡新聞（朝刊），浜松・春野の地滑り 崩落 地質も要因か，2013年4月27日。

狩野謙一，静岡新聞（朝刊），津波調査を解説 県地学会 第50回総会で記念講演，2013年6月24日。

狩野謙一，静岡新聞（朝刊），県内関係者「議論ここから」 リニア準備書 残土処理が焦点，2013年9月19日。

狩野謙一，静岡新聞（朝刊），富士川河口断層帯 従来評価より動き活発？ 地下構造を分析，2013年10月5日。

狩野謙一，中日新聞（朝刊），リニア工事 環境影響は 県内のアセス説明会終了，2013年10月10日。

狩野謙一，静岡新聞（朝刊），リニア環境影響「数字なく評価しにくい」 専門家、情報不足を批判，2013年10月19日。

狩野謙一，NHK静岡 たっぷり静岡，リニア建設予定地を現地視察，2013年11月6日。

笠原順三，フジテレビ ニュース Japan，2012年4月11日。

笠原順三，フジテレビ とくダネ！，2012年4月12日。

笠原順三，フジテレビ ノンストップ，2012年4月12日。

笠原順三，フジテレビ めざましテレビ，2012年4月26日。

笠原順三，フジテレビ ニュース Japan，2012年8月31日。

笠原順三, フジテレビ FNN スピーク, 2012 年 10 月 23 日.  
笠原順三, フジテレビ とくダネ!, 2012 年 10 月 24 日.  
笠原順三, フジテレビ スーパーニュース, 2012 年 10 月 26 日.  
笠原順三, フジテレビ Mr サンデー, 2012 年 11 月 25 日.  
笠原順三, フジテレビ スーパーニュース, 2012 年 12 月 7 日.  
笠原順三, フジテレビ ニュース Japan, 2012 年 12 月 7 日.  
笠原順三, TBS みのもんたの朝ズバツツ, 2013 年 4 月 5 日.  
笠原順三, TBS 噂の! 東京マガジン, 2013 年 4 月 7 日.  
笠原順三, フジテレビ めざまし土曜日, 2013 年 4 月 13 日.  
笠原順三, フジテレビ スーパーニュース, 2013 年 4 月 13 日.  
笠原順三, TBS ひるおび, 2013 年 4 月 15 日.  
笠原順三, フジテレビ スーパーニュース, 2013 年 4 月 17 日.  
笠原順三, フジテレビ めざましテレビ, 2013 年 4 月 18 日.  
笠原順三, フジテレビ 特ダネ, 2013 年 4 月 18 日.  
笠原順三, フジテレビ スーパーニュース, 2013 年 4 月 18 日.  
笠原順三, TBS N スタ, 2013 年 4 月 18 日.  
笠原順三, TBS NEWS23, 2013 年 4 月 18 日.  
笠原順三, TBS みのもんたの朝ズバツツ, 2013 年 4 月 19 日.  
笠原順三, TBS ひるおび, 2013 年 4 月 19 日.  
笠原順三, TBS サンデーモーニング, 2013 年 4 月 21 日.  
笠原順三, テレビ朝日 サンデースクランブル, 2013 年 4 月 21 日.  
笠原順三, フジテレビ スーパーニュース, 2013 年 4 月 24 日.  
笠原順三, テレビ朝日 サンデースクランブル, 2013 年 4 月 28 日.  
笠原順三, TBS ひるおび, 2013 年 4 月 29 日.  
笠原順三, テレビ朝日 ワイド! スクランブル, 2013 年 5 月 9 日.  
笠原順三, TBS ひるおび, 2013 年 5 月 20 日.  
笠原順三, フジテレビ とくダネ!, 2013 年 8 月 5 日.  
笠原順三, Friday, 2013 年 9 月 6 日号.  
笠原順三, フジテレビ スーパーニュース, 2014 年 1 月 14 日.  
笠原順三, フジテレビ スーパーニュース, 2014 年 3 月 14 日.  
風間聡, 科学の泉, モンスーン域の大陸河川, 河北新報, 2014 年 3 月 11-16 日.  
木村浩之, 静岡新聞, 温泉ガス 細菌群が生成 培養で量産可能 地産地消エネルギーに, 2012 年 5 月 28 日.  
木村浩之, 静岡新聞, 地域の地下資源に脚光, 2012 年 5 月 29 日.  
木村浩之, 静岡新聞, この人 温泉ガスと微生物の関係を研究している, 2012 年 8 月 2 日.  
木村浩之, 静岡新聞, 島田市と NPO きょう初会合, 2013 年 1 月 17 日.

木村浩之, 静岡新聞, 温泉ガスで 340 軒分発電, 2013 年 1 月 18 日.

木村浩之, 静岡新聞, 微生物パワーゲームにシンポ, 2013 年 3 月 15 日.

木村浩之, 静岡新聞, 微生物で燃料生産 研究者が成果発表, 2013 年 3 月 18 日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P 2 7 「清水平野に大津波痕跡」, 2012 年 5 月 18 日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P 2 8 「津波堆積層確認されず」, 2012 年 5 月 29 日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P 1 「大津波, 堆積物を探れ, 県, 初調査 来月 南伊豆  
で」, 2012 年 9 月 29 日

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P 2 8 「15 日まで 4 か所 南伊豆で掘削調査 津波堆積物」,  
2012 年 10 月 13 日.

北村晃寿, 毎日新聞 朝刊 P 2 1 「南伊豆で津波堆積物調査」, 2012 年 10 月 13 日.

北村晃寿, 中日新聞 朝刊 P 2 4 「過去の堆積物から津波の痕跡を調査 南伊豆町」,  
2012 年 10 月 14 日.

北村晃寿, 読売新聞 朝刊 P 3 4 「津波堆積物調査 県が掘削現場公開」, 2012 年 10  
月 14 日.

北村晃寿, 朝日新聞 朝刊 P 2 9 「過去の津波の規模を探る」, 2012 年 10 月 23 日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P 3 0 「津波堆積物 下田で調査 県と静大」, 2012 年 11  
月 30 日.

北村晃寿, 読売新聞 朝刊 P 3 2 「津波堆積物調査現場 下田で静大が公開」, 2012  
年 11 月 30 日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P 3 1 「巨大津波の形跡「なし」南伊豆・下田の津波堆積  
物調査」, 2013 年 2 月 14 日.

北村晃寿, 読売新聞 朝刊 P 3 3 「数千年 下田に大津波なかった? 堆積物分析調  
査, 南伊豆も」, 2013 年 2 月 19 日.

北村晃寿, 朝日新聞 朝刊 P 35 「過去の巨大津波記録」, 2013 年 3 月 3 日.

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (94) 大地の公園 15: アイスランドの火山公  
園 (6), 2012 年 4 月 1 日.

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (95) 大地の公園 16: アイスランドの火山公  
園 (7), 2012 年 4 月 8 日.

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (96) 大地の公園 17: アイスランドの火山公  
園 (8), 2012 年 4 月 15 日.

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (97) 大地の公園 18: アイスランドの火山公  
園 (9), 2012 年 4 月 15 日.

小山真人, 静岡新聞, 伊豆半島、ジオパークへ 推進協 日本委に認定申請, 2012 年 4 月  
24 日.

小山真人, 伊豆新聞, 小山静大教授 海底火山の観光ガイド ジオマップ第 3 弾「西伊豆  
の風景」発売, 2012 年 4 月 25 日.



小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (98) 大地の公園 19: 伊豆半島ジオパークへ向けて, 2012年4月29日.

小山真人, 中日新聞, 県内版 来月に火山分科会 県、傍聴者募る, 2012年5月27日.

小山真人, 毎日新聞, 富士山噴火:「シナリオの検討必要」初の地震・火山分科会 / 静岡, 2012年6月6日.

小山真人, 読売新聞, 地域 巨大地震リスク洗い出しへ 県の地震・火山対策分科会, 2012年6月6日.

小山真人, 静岡新聞, 広域避難計画策定へ 富士山防災協が発足, 2012年6月9日.

小山真人, 朝日新聞, 静岡版 噴火に備え広域連携, 2012年6月9日.

小山真人, 毎日新聞, 静岡版・山梨版 富士山火山防災対策協:今年度中に広域避難計画を策定 14年度は3県合同訓練, 2012年6月9日.

小山真人, 朝日新聞, 山梨版 富士噴火 備えの一步, 2012年6月9日.

小山真人, 静岡新聞, 時評: 県内の放射能汚染地図 除染や避難のヒントに, 2012年6月22日.

小山真人, 毎日新聞, 防災 先人に学ぶ 歴史を転換させた主な巨大災害, 2012年7月23日.

小山真人, 中日新聞, 核心 富士山噴火 備え強化, 2012年8月6日.

小山真人, 静岡新聞, 富士山の山体崩壊考慮を 県防災学術会議, 2012年8月22日.

小山真人, 東京新聞, 首都直下地震に富士山噴火「最悪の事態想定を」 / 静岡, 2012年8月22日.

小山真人, 中日新聞, 県防災分科会「支援なし」対策検討へ 地震と噴火「同時」想定, 2012年8月22日.

小山真人, 毎日新聞, 富士山: 山体崩壊なら40万人被災 静岡大教授が試算, 2012年8月22日.

小山真人, 毎日新聞, 県防災会議: 火山分科会、噴火想定し活発議論 富士山の山体崩壊も / 静岡, 2012年8月22日.

小山真人, 産経新聞, 地震で富士山噴火 山体崩壊も想定を 静岡, 2012年8月22日.

小山真人, 静岡新聞, 伊豆半島「大地の魅力」発信 ジオパーク後押し 地元にガイド協会 25日に設立総会, 2012年8月23日.

小山真人, 伊豆新聞, あす伊東で協会設立総会 小山氏が記念講演, 2012年8月24日.

小山真人, 中日新聞, ジオパーク認定へ結束 伊東で総会 伊豆半島ガイド協設立, 2012年8月26日.

小山真人, 女性セブン 2012年9月13日号 地震や噴火による富士山の山体崩壊 想定被災者は最大40万人, 2012年9月1日.

小山真人, 静岡新聞, 伊豆半島、ジオパーク認定へ審査始まる 西伊豆, 2012年9月5日.

小山真人, 伊豆新聞, 日本ジオパーク委 24日に可否決定, 2012年9月5日.

小山真人, 中日新聞, ジオパーク審査始まる 伊豆半島, 2012年9月5日.

小山真人, 朝日新聞静岡版 日本ジオパーク委員、伊豆半島入り, 2012年9月5日.

小山真人, 読売新聞静岡版 ジオパーク認定へ 伊豆で現地審査始まる, 2012年9月5日.

小山真人, 読売新聞, 地震・噴火…富士山崩壊「最大40万人が犠牲」, 2012年9月6日.

小山真人, 静岡新聞, 伊豆半島「資産が豊富」 ジオパーク審査終了, 2012年9月6日.

小山真人, 伊豆新聞, 日本ジオパーク委の現地審査終了、24日に合否, 2012年9月6日.

小山真人, 日本経済新聞, 巨大地震、噴火を誘発するか 日本に110の活火山 長期警戒、防災見直しを, 2012年9月23日.

小山真人, 中日新聞, 震災再耕 富士山宝永噴火図(上) 火柱 天を突き上げ, 2012年9月23日.

小山真人, 読売新聞静岡版 「伊豆」日本ジオパーク認定, 2012年9月25日.

小山真人, 中日新聞, 伊豆半島がジオパークに認定, 2012年9月25日.

小山真人, 朝日新聞静岡版 伊豆半島 県内初 日本ジオパーク認定, 2012年9月25日.

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆が日本ジオパーク認定「世界発信へ研究」箱根、銚子など4地域も, 2012年9月25日.

小山真人, 伊豆新聞, 潮の響(日本ジオパーク認定関連), 2012年9月25日.

小山真人, 静岡新聞, 社説 ジオパーク認定 世界へ向けた進化必要だ, 2012年9月26日.

小山真人, 静岡新聞, 時評: 富士山の山体崩壊 「想定外」なき避難計画を, 2012年9月27日.

小山真人, 中日新聞, 南海の贈り物 伊豆半島ジオパーク(下), 2012年9月27日.

小山真人, 静岡新聞, 講師は静大教授陣 中小企業大学スタート 富士宮、11月まで

小山真人, 伊豆新聞, 移動知事室関連ニュース, 2012年10月16日.

小山真人, 東京新聞, 談論誘発 富士山の山体崩壊 首都圏影響、「北東」が最大, 2012年10月31日.

小山真人, 月刊「都市問題」11月号(第103巻11号) インタビュー 小山真人「地震と噴火、いま富士山を考える」, 2012年11月1日.

小山真人, 朝日新聞, ニッポン人脈記 大地に聞く(10) 沈まぬ国にするために, 2012年11月14日.

小山真人, 毎日新聞, これが言いたい: 正確な知識をふまえて警戒すべき「富士山噴火」, 2012年11月22日.

小山真人, 季刊SORA 2012年冬号 減災の探求者[火山学]いつか起こる富士山噴火に備える, 2012年12月1日.

小山真人, ふじのくに 11号 県政特集 伊豆半島ジオパーク "知的財産"を未来に活かす地域発展の新たなかたち, 2012年12月.

小山真人, 日経新聞, ART REVIEW うつろう富士山, 2013年1月10日.

小山真人, 静岡新聞, 時評: 防災の数値予測 ゆがんだ対策招く恐れ, 2013年1月16日.

小山真人, ビッグイシュー日本語版 210号 特集 動く大地を生きる, 2013年3月1日.

小山真人, 中日新聞静岡版夕刊 静岡わたしの"世界"遺産 自然の二面性教える 今切口  
浜名湖の民 守る要, 2013年3月16日.

小山真人, 東京新聞, 3.11後を生きる ニッポン火山紀行 伊豆東部火山群(上) まるで  
噴火の標本箱 岩の珠 閉じこめた海岸も, 2013年4月20日.

小山真人, 静岡新聞, 時評: 下田市の津波防災 港町発展へ百年の計を, 2013年4月25  
日.

小山真人, 東京新聞, 3.11後を生きる ニッポン火山紀行 伊豆東部火山群(下) 海底の  
噴火口見えた 地質学ぶ観光クルーズ, 2013年4月27日.

小山真人, しんぶん赤旗 富士山噴火する? 古文書 防災に生かす, 2013年5月6日.

小山真人, 中日新聞, 噴火の危険度 難しい予知 原発新基準に対策義務化 全基 160キ  
ロ圏内に火山, 2013年5月8日.

小山真人, 中日新聞, 富士山火山防災対策協 積雪時の噴火対策に重点 年度内に避難計  
画を公表 「融雪型泥流」時速60キロ超, 2013年5月10日.

小山真人, 静岡新聞, 清水平野5度の津波 550~5600年前 堆積物で確認, 2013年5月  
17日.

小山真人, 中日新聞, 富士山と私 噴火可能性 常に備えを, 2013年5月26日.

小山真人, 静岡新聞, 中伊豆の大地 分かりやすく 小山静大教授がジオマップ第4弾,  
2013年6月11日.

小山真人, 朝日新聞, 週末 be 磯田道史の備える歴史学 富士山の噴火と地震 4割前後  
の確率で連動性, 2013年6月15日.

小山真人, 産経新聞, 増える富士山登山者、どう守る 噴火対策も…抵抗強い「入山料徴  
収」, 2013年6月23日.

小山真人, 伊豆新聞, 火山観光ジオマップ第4弾「中伊豆の風景」発売, 2013年6月19  
日.

小山真人, 朝日新聞静岡版 浜松城公園の芝生広場 セシウムで汚染の疑い 震災後、茨  
城から納入 住民グループが調査, 2013年6月26日.

小山真人, 男の隠れ家8月号増刊 旅人 vol.1 富士山を旅する人 「富士山」の火山活動  
の歴史, 2013年6月26日.

小山真人, 朝日新聞静岡版 浜松城公園の芝生汚染関連, 2013年7月13日.

小山真人, 東京新聞, 記者の目 核のごみの最終処分地 適地「広く存在」再考せよ, 2013  
年7月16日.

小山真人, 静岡新聞, 伊豆ジオの夏学校 南伊豆地域で開催 21日まで募る, 2013年7  
月18日.

小山真人, 伊豆新聞, ジオ舞台、こども夏スクール 8月に1泊2日、研究者と解説, 2013

- 年 7 月 18 日.
- 小山真人, N Drive (中日本高速) ていねいを探す旅 4 ふじさんのまこと (真) 多くの恵みをもたらす日本最大の陸上火山, 2013 年 7 月 20 日.
- 小山真人, N Drive (中日本高速) ていねいを探す旅 4 伊豆スカイラインから「伊豆半島ジオパーク」を楽しむ, 2013 年 7 月 20 日.
- 小山真人, 静岡新聞夕刊 歴史、恩恵…富士山 “案内、 独自 7 コース紹介, 2013 年 7 月 23 日.
- 小山真人, 伊豆新聞, 研究者から地震、火山学ぶ 下田・南伊豆でこどもスクール, 2013 年 8 月 5 日.
- 小山真人, 中日新聞, 備える 3.11 から 歴史・理工系研究者連携を 静岡大 小山真人教授, 2013 年 8 月 5 日.
- 小山真人, 毎日新聞, 今週の本棚 富士山 大自然への道案内 小山真人 (岩波新書), 2013 年 8 月 11 日.
- 小山真人, プレジデント 9.2 号 本の時間 新刊書評「富士山 大自然への道案内」小山真人著, 2013 年 8 月 12 日.
- 小山真人, 朝日新聞, 読書欄 新書「富士山 大自然への道案内」小山真人著, 2013 年 8 月 18 日.
- 小山真人, 中日新聞・東京新聞, 読書欄 新書「富士山 大自然への道案内」小山真人著, 2013 年 8 月 18 日.
- 小山真人, 週刊ポスト 8.31 号 POST BOOK REVIEW 「富士山 大自然への道案内」小山真人著, 2013 年 8 月 19 日.
- 小山真人, 静岡新聞, 時評：世界遺産・富士山守るため ジオパークの認定も, 2013 年 8 月 22 日.
- 小山真人, 読売新聞, 減災 ジオパークで防災教育 大地が教えてくれる, 2013 年 8 月 25 日.
- 小山真人, 科学 巻頭エッセイ 富士山には世界自然遺産の価値がないのか, 2013 年 9 月 1 日.
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオ広く PR 17 日からジオガイド養成講座 第 1 回は一般公開, 2013 年 9 月 4 日.
- 小山真人, ニューズウィーク日本版 9.17 号, 日本の象徴に静かに迫る大噴火の X デー, 2013 年 9 月 10 日.
- 小山真人, 静岡新聞, 伊豆半島の魅力、国際会議で発信 ジオパーク推進協, 2013 年 9 月 11 日.
- 小山真人, 伊豆新聞, 海外に伊豆ジオ PR 韓国・済州島のシンポ参加, 2013 年 9 月 11 日.
- 小山真人, 中日新聞, 備える 3.11 から 富士山噴火防災 融雪型火山泥流は 30 分で市街地到達, 2013 年 9 月 16 日.

小山真人, 伊豆日日新聞, 認定試験へ知識深める 伊豆市でジオガイド養成講座開講, 2013年9月18日.

小山真人, 毎日新聞大阪版 15歳のニュース:急げ、火山の大噴火対策 「東日本」引き金、頻発の恐れ, 2013年9月21日.

小山真人, トランヴェール (JR 東日本) 2013年10月号, なんと、最長40キロ!水を蓄え、水を運ぶ富士の溶岩流, 2013年10月1日.

小山真人, 中日新聞, 静岡大・中日新聞連携講座 12日「富士山 大自然への道案内」「火山の遺産」考える 小山教授に聞く, 2013年10月9日.

小山真人, 読売新聞, 溶岩・軽石層崩壊か, 2013年10月17日.

小山真人, 読売新聞, 伊豆大島土石流被害、東西2km・南北400m, 2013年10月17日.

小山真人, 中日新聞, 伊豆大島土砂崩れメカニズムは 火山灰の層滑り落ちる 溶岩上に堆積「大雨で崩壊 他火山でも」, 2013年10月18日.

小山真人, AERA 10月28日号 伊豆大島を襲った斜面崩壊 重なった「まさか」の教訓 小山真人・静岡大学防災総合センター教授に聞く 「想定外」乗り越えるには自らの判断で命を守る, 2013年10月21日.

小山真人, 蛍雪時代 12月号 大学での学びを知ろう!先端研究編 静岡大学防災総合センター小山真人研究室 富士山噴火と防災研究, 2013年11月14日.

小山真人, 週刊現代, リレー読書日記「富士山 大自然への道案内」, 2013年11月16日.

小山真人, 伊豆新聞, 「住民の意識改革必要」小山静大教授、ジオパークの魅力・問題点語る, 2013年11月18日.

小山真人, 共同通信配信 福島民報 (火山、原発にどう影響? 国内4施設 火砕流到達範囲の恐れ)、宮崎日日新聞 (原発脅かす火砕流 火山影響評価ガイド施行 規制委), 2013年11月24日.

小山真人, 静岡新聞, 自然現象理解し、富士山の保全を 静岡大・小山教授, 2013年11月25日.

小山真人, 山梨日日新聞, 市街地近くに富士山噴火口 富士吉田・雁ノ穴 専門家「避難エリア見直しを」, 2013年11月30日.

小山真人, 静岡新聞, 52人が巣立ち ジオガイド養成講座 伊豆, 2013年12月18日.

小山真人, 伊豆新聞, 事務局の強化課題 ジオ世界認定へ小山氏訴え-首長会議, 2013年12月18日.

小山真人, 静岡新聞, 時評:富士山への誤解 自然遺産の価値も大, 2013年12月18日.

小山真人, 中日新聞, 東京新聞, 「噴火が原発の脅威に」土砂崩れ、火砕流到達も 火山学者が警告論文 「活断層より深刻」指摘, 2013年12月22日.

小山真人, 日経コンストラクション 12月23日号, "記録的豪雨"の恐怖, 2013年12月23日.

小山真人, 毎日新聞, 鹿児島版 原発:火山学者アンケート 審査・判断、慎重に 「石油危機の方が確率高い」「リスクの高低計算できぬ」, 2013年12月24日.

小山真人, 静岡新聞, 富士山噴火 広域避難計画 来月、シンポで説明, 2014年1月15日.

小山真人, 毎日新聞, メディア時評:原発の火山リスク、判断の論理を, 2014年1月25日.

小山真人, 朝日新聞静岡版 インタビューQ 富士山噴火に備えるには 藤井敏嗣さん どう危険 自分で学んで, 2014年3月8日.

小山真人, 静岡新聞, 伊豆半島ジオパーク 国内審査突破へ正念場 世界認定挑戦 が本格化 インタビュー小山真人氏(推進協議会顧問) 今回が最大のチャンス, 2014年3月18日.

小山真人, NHKニュース, 富士山噴火に備え協議会発足, 2012年6月8日.

小山真人, SBS(静岡放送)テレビ, イブニング eye 富士山火山防災対策協議会関連, 2012年6月9日.

小山真人, 静岡第一テレビ, ニュース 富士山火山防災で3県協議会設立, 2012年6月8日.

小山真人, オペレーションコードモタチ Presents 「早川由紀夫トークライブ ～火山学者が語る放射能汚染の現状と未来～」, 2012年6月23日.

小山真人, NHKテレビ(たっぷり静岡), 富士山噴火対策 “厳しいシナリオを”, 2012年8月21日.

小山真人, SBS(静岡放送)ニュース, 県防災会議 地震・火山分科会 富士山噴火の対策範囲で意見, 2012年8月21日.

小山真人, テレビ朝日 ANN ニュース, 大地震も・・・富士山の山体崩壊で40万人被災の試算, 2012年8月22日.

小山真人, SBS(静岡放送)テレビ, イブニング eye 「富士山が噴火したらどうなる?」, 2012年8月30日.

小山真人, NHKテレビ(たっぷり静岡), 伊豆でジオパーク調査始まる, 2012年9月4日.

小山真人, SBS(静岡放送)テレビ, イブニング eye ジオパーク目指し伊豆で調査, 2012年9月4日.

小山真人, SBS(静岡放送)テレビ, イブニング eye ジオパーク現地調査終わる 伊豆半島, 2012年9月4日.

小山真人, 静岡第一テレビ, ニュース 伊豆半島 ジオパーク認定に向け現地審査, 2012年9月4日.

小山真人, NHKテレビ(たっぷり静岡), 伊豆半島ジオパーク国内加盟, 2012年9月24日.

小山真人, SBS(静岡放送)テレビ, イブニング eye 伊豆半島、日本ジオパークに認定,

2012年9月24日.  
小山真人, NHKテレビ (たっぷり静岡), 日本ジオパーク認定で横断幕, 2012年9月25日.  
小山真人, SBS (静岡放送) ラジオ, 情報三枚おろし 伊豆半島ジオパークって何だ?, 2012年10月5日.  
小山真人, NHKテレビ (総合), 情報ライブ ただいま! 富士山噴火の真相, 2012年10月5日.  
小山真人, テレビ朝日スーパーJチャンネル いま起これば首都壊滅!? 富士山 宝永大噴火の“実像”, 2012年11月14日.  
小山真人, NHKテレビ (総合), あさイチ 地震に火山の大噴火 備えは大丈夫?, 2012年12月10日.  
小山真人, NHKテレビ (総合), 歴史秘話ヒストリア, 江戸の復興代官 奇跡の4年 巨大地震・富士山噴火からの再生, 2013年3月6日.  
小山真人, TBSテレビ 報道の魂 3・11大震災2年 記者たちの眼差し 震災報道で問われたメディアのあり方, 2013年4月7日.  
小山真人, NHKテレビ (たっぷり静岡), 富士山 溶岩流の避難計画, 2013年5月9日.  
小山真人, SBS (静岡放送) テレビ, イブニング eye 富士山が山体崩壊を起こしたら, 2013年6月19日.  
小山真人, NHKテレビ (たっぷり静岡), 伊豆半島の地質学ぶ教室, 2013年8月4日.  
小山真人, 静岡第一テレビ, ニュース 第14回地震火山こどもサマースクール, 2013年8月5日.  
小山真人, NHKテレビ (Eテレ) TVシンポジウム「世界遺産 富士山 その未来を語ろう」, 2013年9月14日.  
小山真人, テレビ朝日特番 たけしの富士山大研究 大噴火20XX, 2013年9月22日.  
小山真人, SBS (静岡放送) テレビ, イブニング eye 伊豆半島ジオパーク認定1年, 2013年9月23日.  
小山真人, ラジオNIKKEI チャンネル2 Groovin' × Groovin' 「火山としての富士山の歴史や恵み」第1回~第4回, 2013年10月15~18日.  
小山真人, ラジオ日本 岩瀬恵子のスマートNEWS 伊豆大島土石流災害関連, 2013年10月28日.  
小山真人, 山梨放送 富士山噴火テーマに研究者が課題探る, 2013年11月29日.  
小山真人, NHKテレビ (山梨県ローカルニュース) 富士山噴火のワークショップ, 2013年11月29日.  
小山真人, SBS (静岡放送) ラジオ, 情報三枚おろし 富士山の噴火に備える, 2014年1月31日.  
小山真人, TBS JNN ニュース, 富士山の広域避難計画, 2014年2月6日.

小山真人, テレビ静岡, スーパーニュース 富士山噴火への備え 逃げ切るための知識は,  
2014年3月14日.

小山真人, テレビ静岡, 特番, 徹底再現! 富士山が噴火する日, 2014年3月16日.

小山真人, テレビ静岡, スーパーニュース 富士山に潜む危険! 居住地に火口が存在!?,  
2014年3月17日.

増田俊明, 静岡新聞, 11月3日 静岡大防災シンポ in 浜松 災害に強い街 地域連携から  
防災フェローや学生マイスター 実務者育成に力, 2012年10月31日.

増田俊明, 静岡新聞, 東海圏 防災力向上へ連携 静大など6大学 研究組織設立 産・  
官・民と協力, 2013年3月4日.

増田俊明, 中日新聞, 減災へ連携 6大学調印 静岡大など, 2013年3月4日.

増田俊明, 静岡新聞, 市の津波対策計画案 避難タワー増設地提示 経路確認地図も作成,  
2013年10月30日.

増田俊明, 静岡新聞, ゲーム形式で防災チェック 静岡大で「ロゲイニング」, 2013年12  
月16日.

村越真, SBS ラジオ 情報三枚おろし, 「登山遭難」, 2013年6月24日.

村越真, NIKKEI ラジオ, 「ナビゲーション」, 2014年2月18~21日.

村越真, トレランに「待った」に有識者としてコメント, 2014年1月22日.

村越真, 信濃毎日新聞, 「あんぜん登山の最前線」(地図とコンパスを確認をとコメント),  
2014年3月11日.

村越真, 朝日新聞土曜版 Be b1面, 「感覚補うスキル」(あなたは方向音痴ですか?へのコ  
メント), 2014年5月10日.

中川和之, 政府インターネットテレビ「徳光&木佐の知りたいニッポン! ~もし自分が災  
害にあったら~想像から始める“防災減災”」, 2013年8月.

中川和之, ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」関東大震災90年, 2013年9月13  
日.

中川和之, ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」伊豆大島の土砂災害, 2013年11  
月1日.

中川和之, NHK福岡「はっけんラジオ」ライフネットワーク「災害の体験を防災に生か  
す 1日前プロジェクト」, 2013年12月9日.

野津憲治, 「広報いとう」平成24年12月号, インフォメーション 日本ジオパーク認定記  
念 講演会開催-伊東沖海底噴火から23年 海底火口の今-, 2012年12月.

野津憲治, 静岡新聞, 伊東沖海底噴火の現状調査を報告 16日 伊東, 2012年12月7日.

野津憲治, 伊豆新聞, 伊東沖海底火口の今 静大とジオ推進協 16日に講演会 市役所,  
2012年12月14日.

佐藤健, ラジオ, エフエム仙台, 東北大学防災 UPDATES, 持続可能な地域づくりのため  
の防災教育, 2013年04月09日.



佐藤健, ラジオ, エフエム仙台, 東北大学防災 UPDATES, 地域とともにある安全・安心な学校づくり, 2013年04月21日.

佐藤健, テレビ, FNN Local, FNN Local ニュース「検討会議、広域防災拠点の中間案報 10月下旬までにまとめへ」, 2013年09月06日.

佐藤健, 新聞, 河北新報, KoLnet(KAHOKU ONLINE NETWORK)「宮城野原公園防災拠点化 宮城県、後方支援機能を想定」, 2013年09月07日.

佐藤健, 新聞, 神戸新聞, つながりを力に(中)神戸大の被災地活動から, 2014年02月28日.

土屋智, 静岡新聞, 「春野町で発生した斜面崩落」, 2013年7月7日朝刊.

土屋智, 静岡新聞, 「台風26号による伊豆大島土砂災害の要因や県内被害への警戒を呼び掛ける」, 2013年10月19日朝刊.

土屋智, 静岡新聞(朝刊), 浜松・春野の地滑り 崩落 地質も要因か, 2013年4月27日.

土屋智, 読売新聞, 浜松地滑り、西側斜面が新たに崩落…けが人なし, 2013年4月26日.

土屋智, 毎日新聞, 浜松・春野の大規模地滑り:再び崩落、5回目に 住民落胆、避難長期化も, 2013年4月27日.

土屋智, 朝日新聞(朝刊), 浜松の地滑り 避難勧告1週間 県「大部分の土砂、崩落」, 2013年4月28日.

土屋智, 静岡新聞(朝刊), 春野・地滑り 避難勧告、一部解除 検討委初会合 農作業きょう再開, 2013年5月2日.

牛山素行, 静岡新聞, 最大津波どう防ぐ 県内市町に衝撃-南海トラフ地震推計値, 2012年4月1日.

牛山素行, 秋田魁新報ほか(共同通信配信), 東日本大震災 海拔表示、全国で急増 形式ばらばら、誤解も 専門家「シンプルに統一を」, 2012年4月22日.

牛山素行, 静岡新聞, 時評=災害は忘れられるもの-共通の教訓探り残そう, 2012年5月2日.

牛山素行, 岩手日報, ★論説★ 高校教科書と大震災 防災教育は継続こそ命 2012年5月8日, 2012年5月8日.

牛山素行, 岩手日報, 津波犠牲者率 20%超 陸前高田の中心市街地 牛山准教授(静岡大)分析 襲来気付かず被害か 建物が障壁に, 2012年5月15日.

牛山素行, 読売新聞(静岡), 「防災メール」30市町導入 生活情報伝達に有効 13市町は震災後開始=静岡, 2012年5月18日.

牛山素行, 静岡新聞, いのち守る・防災しずおか=県内沿岸部、対策急ぐ 市町独自で 津波被害想定 浜松市 住民と「危険認識」共有, 2012年5月27日.

牛山素行, 朝日新聞, (防災 復興)危険、分かりやすく発信 気象庁、注意情報を見直し, 2012年6月25日.

牛山素行, 朝日新聞, 「地域絞り込みを」「細分化は難しい」 気象庁検討会、竜巻注意情報で議論 /茨城県, 2012年7月4日.

牛山素行,河北新報,東日本大震災/整備の意義話し合う/陸前高田に復興祈念公園/専門家ら、盛岡で初会合,2012年7月4日.

牛山素行,岩手日報,★論説★大雨情報の改善 身を守るために活用を,2012年7月14日.

牛山素行,毎日新聞,竜巻情報改善検討会:「起きやすい」通報をつくば市長、気象庁に要請 / 茨城,2012年7月18日.

牛山素行,読売新聞,袋井市 園児向け津波タワー建設 県内最大級、11月末完成=静岡,2012年7月28日.

牛山素行,毎日新聞,週刊茨城ニュース:竜巻予測情報の改善へ 気象庁の検討会が提言 / 茨城,2012年8月4日.

牛山素行,静岡新聞,時評=竜巻などの災害情報-実態踏まえ改善議論を,2012年8月9日.

牛山素行,埼玉新聞,地域を知って備え 災害テーマに講演 富士見,2012年8月29日.

牛山素行,静岡新聞,南海トラフ巨大地震=県、「減災」導く一歩に 3次想定上回る数値 対策見直しに反映,2012年8月30日.

牛山素行,毎日新聞(全国),個々人の判断材料に(南海トラフ巨大地震特集面),2012年8月30日.

牛山素行,中日新聞(東海本社版),早めの避難で結果は変わる,2012年8月30日.

牛山素行,埼玉新聞,流れる水に近づかない,2012年8月31日.

牛山素行,読売新聞,豪雨孤立 無線生かせず 宇治の山間部 市、1時間応答なし=京都,2012年9月1日.

牛山素行,静岡新聞,住民自ら津波防災プラン 市計画に反映へ、専門家の視点必要との指摘も-牧之原市沿岸各地区,2012年9月6日.

牛山素行,朝日新聞,(想定被災地を歩く:6)御前崎 津波避難タワー 高台あり、逃げ場所どっち/静岡県,2012年9月11日.

牛山素行,朝日新聞,(想定被災地を歩く:7)袋井 人工の高台「命山」 先人の知恵生かし建設へ/静岡県,2012年9月12日.

牛山素行,静岡新聞,警戒宣言時避難地 低地でも海拔表示なし 津波対策に遅れ 住民「危険性示して」-県内各地,2012年9月14日.

牛山素行,朝日新聞,震災の死者半数は自宅から 500m 以内 牛山・静大准教授ら、気仙沼を調査 /静岡県,2012年9月19日.

牛山素行,岩手日報,9割が浸水域内に在住 陸前高田など被災地 4市町の犠牲者 牛山准教授(静岡大防災総合センター)調査 高台居住 被害避ける 「さまざまな対策重要」,2012年9月26日.

牛山素行,朝日新聞,(記者有論)巨大地震 想定被災地、歩いて点検を,2012年10月2日.

牛山素行,朝日新聞,(繰り返し 熊本と災害:上)阿蘇、太古から崩落の跡 地中にながれき /熊本県,2012年10月12日.

牛山素行,朝日新聞,(繰り返し 熊本と災害:下)静岡大学防災総合センター・牛山准教授に聞

く /熊本県,2012年10月14日.

牛山素行,静岡新聞,県内、相次ぐ突風被害 予測困難、注意情報活用を,2012年10月25日.

牛山素行,静岡新聞,「市町村の意見重視を」 委員から注文、ハード面施策も-中部圏地震戦略,2012年11月6日.

牛山素行,岩手日報,遺物、津波痕跡保存も重要 陸前高田・復興公園構想会議 伝承の方策議論,2012年11月13日.

牛山素行,読売新聞,紀伊水害 心に残す写真集 住民1万枚提供 遺族会、来月出版,2012年11月28日.

牛山素行,朝日新聞,(想定被災地を歩く:26)地域防災 土地の特性知る 平時に時間かけ理解を/静岡県,2012年11月28日.

牛山素行,毎日新聞,地震:三陸沖 M7.4 津波警報、宮城・石巻で大渋滞 津波災害に詳しい静岡大学防災総合センターの牛山素行准教授の話,2012年12月20日.

牛山素行,静岡新聞,防災フェロー養成、3期目に 市町職員、受講広がらず-静大総合センターと県、呼び掛けを強化,2013年1月7日.

牛山素行,岩手日報,市内各地に海拔表示 大船渡市方針 避難誘導効果を期待,2013年1月8日.

牛山素行,静岡新聞,減災へ東海 6 大学連携 成果共有や人材育成-静大など来月研究組織設立,2013年2月5日.

牛山素行,毎日新聞,講演会:静岡大の牛山准教授「地域災害、特性知って」--高知 /高知,2013年2月11日.

牛山素行,朝日新聞,最大津波、国とほぼ一致 県の第4次被害想定、中間報告 /静岡県,2013年2月14日.

牛山素行,高知新聞,地域特性熟知し防災を 牛山素行・静岡大准教授(災害情報学)高知市で講演 「効果的な対策考えて」 「最悪」津波想定 思考停止に警鐘,2013年2月22日.

牛山素行,保険毎日新聞,東京海上日動・東京海上研究所、自然災害セミナーを開催[2013年2月4日],2013年2月22日.

牛山素行,岩手日報,陸前高田の3・11検証 委員会初会合 市、13年度に報告書,2013年2月28日.

牛山素行,朝日新聞,(災害大国 迫る危機)静岡、津波が揺れの最中にも 新潟、標高ゼロ地帯続く/静岡県,2013年3月3日.

牛山素行,静岡新聞,「防災フェロー」受講生成果発表-静岡で学術集会,2013年3月3日.

牛山素行,静岡新聞,時評=「災害情報」の不足-利用者側も探索努力を,2013年3月6日.

牛山素行,読売新聞,津波避難 あきらめない 高知でシンポ 黒潮町担当者ら講演=高知,2013年3月7日.

牛山素行,朝日新聞,気象災害に特別警報 住民への伝達義務化 改正案閣議決定,2013年3月8日.

牛山素行,岩手日報,★特集★ 東日本大震災 犠牲者再調査 命の「伝言」受け止め 未来へつ  
なぐ備えを,2013年3月10日.

牛山素行,朝日新聞,(被災地で見えたもの 東日本大震災から2年:5)津波避難、無念の思い /  
静岡県,2013年3月10日.

牛山素行,静岡新聞,津波避難タワー 大震災後に建設急増 自治体安全、維持に苦心 「命山」  
など別の選択も,2013年3月10日.

牛山素行,静岡新聞,地域防災けん引役に マイスター231人/フェロー32人・県、静岡大の養成  
講座,2013年3月17日.

牛山素行,中日新聞,優先対策見極める材料 牛山素行・静岡大准教授に聞く,2013年3月19  
日.

牛山素行,静岡新聞,防災施策「有効性検証を」 充実度は高評価・県が委託、静大調査,2013  
年3月22日.

牛山素行,東京新聞,35年で109件 県の防災対策事業 充実度裏付けも「集約や工夫必要」 静  
岡大調査,2013年3月25日.

牛山素行,保険毎日新聞,損保協会静岡支部、地震対策でセミナー開く[2013年3月5日],2013  
年3月28日.

牛山素行,毎日新聞,49万人のリスク:検証・原子力防災/2国の指針「要援護者へ十分な配  
慮」,2013年4月1日.

牛山素行,朝日新聞,避難勧告、遅れたか争点 佐用豪雨訴訟、あす判決 【大阪】,2013年4  
月23日.

牛山素行,静岡新聞,「注意レベル」甘い認識 気象警報誤解 5割・静岡大牛山准教授まと  
め,2013年4月23日.

牛山素行,岩手日報,気象警報の理解 4割 静岡大・牛山准教授調査 盛岡など3市 運用、伝  
達に課題,2013年4月23日.

牛山素行,静岡新聞,斜面下の崩落発端…亀裂に雨バランス悪化 県内多くの危険箇所 専門  
家指摘-浜松・春野地滑り,2013年4月26日.

牛山素行,静岡新聞,行政側に重い課題 対象戸数多い場合は?/斜面が不安定なままなら?-浜  
松・春野地滑り,2013年5月22日.

牛山素行,岩手日報,震災2年 防災意識に薄れ 県の県民調査 「普段から準備」42% 前年よ  
り14ポイント低下,2013年6月6日.

牛山素行,熊本日日新聞,「無理な避難は危険」 熊本市で地域防災セミナー,2013年6月7  
日.

牛山素行,静岡新聞,特別警報今夏から 「大雨」など6種類-「数十年に一度」へ気象庁導  
入,2013年6月8日.

牛山素行,毎日新聞,九州北部豪雨:1年 「避難」の意義問う 日田で訓練・講話「まず身の安  
全を」 /大分,2013年6月11日.

牛山素行,西日本新聞,大分県/日田 災害時の対応学ぶ フォーラム 300 人が参加 我が身守る梅雨の備え/日田玖珠,2013年6月11日.

牛山素行,大分合同新聞,きめ細かい情報提供重要 日田でフォーラム,2013年6月11日.

牛山素行,読売新聞,台風の田畑 見回りやめて 農水省呼びかけ 8年で死者75人,2013年6月20日.

牛山素行,静岡新聞,時評=災害は防げるか-事前の対策が効果的,2013年6月20日.

牛山素行,熊本日新聞社,6・26水害から60年(下)=情報伝達と避難、今も課題 「自分の身を守る」意識を [連載] 白川大水害,2013年6月23日.

牛山素行,産経新聞,第4次地震被害想定 津波被害大幅見直し 静岡,2013年6月28日.

牛山素行,静岡新聞,いのちを守る・防災しずおか=巨大地震 2段階想定 備え全力立ち向かう-県第4次被害想定,2013年6月29日.

牛山素行,信濃毎日新聞,針路選択(15)=地方から問う(5) 全国平均下回る県内住宅耐震化率 内陸部では対策の柱に,2013年6月29日.

牛山素行,神奈川新聞,「特別警報」8月30日運用開始、重大災害の予想時に発表/神奈川,2013年6月30日.

牛山素行,岩手日報,震災「詳細な検証を」 陸前高田の委員会 報告書案など見直し 直後の対応記録に意見,2013年7月24日.

牛山素行,毎日新聞,豪雨:山口・島根「経験ない大雨」 特別警報並み、1人死亡2人不明,2013年7月29日.

牛山素行,朝日新聞,警報・注意報を「レベル」に 気象庁、災害危険度5段階で,2013年8月1日.

牛山素行,読売新聞,[スキャナー]雨「二極化」 局地豪雨と異常少雨 各地で,2013年8月1日.

牛山素行,朝日新聞,避難勧告、土石流の後 雨脚激変、間に合わず 秋田・岩手豪雨,2013年8月11日.

牛山素行,毎日新聞,南海トラフ巨大地震:津波浸水域2割拡大 大阪・京橋、最大2メートル 府が最終想定図,2013年8月11日.

牛山素行,朝日新聞,仙北の土石流、不明女性発見できず 被災住民、疲労色濃く /秋田県,2013年8月13日.

牛山素行,秋田魁新報,検証・仙北市土石流 追い付かぬ被害把握 市、現場との連絡に時間,2013年8月13日.

牛山素行,岩手日報,室内でも崖地側が危険 2階避難有効の場合も 県央豪雨 牛山准教授(静岡大)調査同行ルポ,2013年8月14日.

牛山素行,毎日新聞,秋田豪雨:1週間 復旧作業が本格化 大量の土砂、回復見通し立たず /秋田,2013年8月16日.

牛山素行,秋田魁新報,<県内豪雨・仙北市土石流から1週間>(下) 集落再生へ模索 災害発生

に備え住民たちも思案,2013年8月17日.

牛山素行,佐賀新聞,首長災害対応学ぶ 防災トップセミナー 「思考演習」で実践的に,2013年8月22日.

牛山素行,共同通信(四国新聞他),多様な情報どう生かす 5段階のレベル化検討,2013年8月29日.

牛山素行,産経新聞,「特別警報」運用を開始 多様な情報、生かせるか,2013年8月30日.

牛山素行,朝日新聞,特別警報、想定は きょうから運用 /静岡県,2013年8月30日.

牛山素行,毎日新聞,爪痕:紀伊半島豪雨2年/1 深層崩壊の解明 リスク低減目指して,2013年9月4日.

牛山素行,朝日新聞,竜巻予測、活用に温度差 精度低く悩む自治体,2013年9月4日.

牛山素行,読売新聞,陸前高田の震災検証 追加調査実施決める=岩手,2013年9月6日.

牛山素行,岩手日報,「避難」を追加調査 陸前高田市震災検証委 市民らの指摘受け,2013年9月6日.

牛山素行,毎日新聞,東日本大震災:日和幼稚園児津波被害訴訟 津波犠牲者に賠償命令 識者の話,2013年9月17日.

牛山素行,毎日新聞,クローズアップ 2013:宮城・石巻の幼稚園に賠償命令 大災害下でも命守る義務 「1000年に1度」免責されず,2013年9月18日.

牛山素行,中国新聞,石巻の幼稚園バス津波訴訟判決(要旨),2013年9月18日.

牛山素行,四国新聞,予見可能性が争点 同様の訴訟ほかに8件,2013年9月18日.

牛山素行,朝日新聞,特別警報、周知せず 京都・滋賀3市町 台風18号 【大阪】,2013年9月18日.

牛山素行,読売新聞,台風18号 特別警報伝達「冷静に」 自治体担当「警戒意識向上に効果」=福井,2013年9月19日.

牛山素行,共同通信,風評被害の懸念も 特別警報、周知に課題,2013年9月22日.

牛山素行,中日新聞,台風一過 ほど遠く… 18号大雨から1週間,2013年9月23日.

牛山素行,読売新聞,土砂災害 情報提供に不備 通報システム 15府県で利用不能 検査院調べ,2013年9月27日.

牛山素行,洛南タイムス,「特別警報」周知に課題多く,2013年9月29日.

牛山素行,朝日新聞,津波避難に「命山」 先人の知恵、人工高台に脚光 静岡で整備続々,2013年9月30日.

牛山素行,京都新聞,◎もっと やましろ 避難準備追われ後回し 京田辺市 台風18号で特別警報伝えず,2013年10月7日.

牛山素行,読売新聞,[スキャナー]伊豆大島 深夜豪雨 避難二の足 勧告せず 町長「甘かった」,2013年10月17日.

牛山素行,毎日新聞,クローズアップ 2013:伊豆大島土石流 2度の「要請」生きず,2013年10月17日.

牛山素行,北海道新聞他地方紙各紙,台風 26 号 土石流被害\*危機感 島に届かず\*特別警報見  
送り「反省」\*気象庁,2013 年 10 月 17 日.

牛山素行,朝日新聞,死者 17 人、不明 43 人 台風 26 号、伊豆大島で土石流,2013 年 10 月 17  
日.

牛山素行,読売新聞,伊豆大島 72 時間経過 迫る大雨 捜索に焦り 避難勧告へ,2013 年 10 月  
19 日.

牛山素行,朝日新聞(静岡),県内の溪流 4247 カ所、土石流発生の恐れ 「危険箇所、日頃から  
知って」 /静岡県,2013 年 10 月 19 日.

牛山素行,長崎新聞他地方紙各紙,避難勧告 その時/見極め難しいタイミング/「普段と違う」  
が鍵,2013 年 10 月 20 日.

牛山素行,産経新聞,防災無線 雨音で聞こえず 伊豆大島「情報伝達 複数の手段重要」,2013  
年 10 月 21 日.

牛山素行,毎日新聞,伊豆大島:大島町、避難勧告一度も出さず 牛山素行・静岡大防災総合セ  
ンター教授(災害情報学)の話,2013 年 10 月 22 日.

牛山素行,南日本新聞,奄美豪雨 “対象外”/広範囲想定の特別警報=専門家「早期避難徹底  
を」,2013 年 10 月 23 日.

牛山素行,産経新聞,伊豆大島災害 「首長判断に雨量数値を」 特別警報、避難勧告運用で専  
門家提言,2013 年 10 月 23 日.

牛山素行,中日新聞,核心 不備が噴出特別警報 局地的豪雨、離島は対象外 防災情報乱立、  
周知に時間,2013 年 10 月 25 日.

牛山素行,中日新聞,台風 27 号・伊豆大島厳戒 住民受け入れ準備急ぐ 避難所増設 毛布や水、  
授乳室,2013 年 10 月 25 日.

牛山素行,毎日新聞,豪雨:通報数で深刻度把握 避難の目安に--静岡大教授調査,2013 年 10 月  
26 日.

牛山素行,河北新報,気象・防災情報の課題を議論 日本災害学会が群馬で開幕,2013 年 10 月  
27 日.

牛山素行,週刊朝日,深夜の土石流、紙一重の生死 死者・行方不明者約 50 人 伊豆大島大災  
害・現地ルポ,2013 年 11 月 1 日.

牛山素行,中日新聞,守る 東北が教えてくれること 静岡大防災総合センター副センター長  
牛山素行・准教授に聞く 避難の鉄則肝に ハード面の整備も基本,2013 年 11 月 2 日.

牛山素行,岩手日報,災害への備えしっかり理解 宮古で講演会,2013 年 11 月 5 日.

牛山素行,読売新聞,[クローズアップ]検証 代行バス立ち往生 通行止め情報 伝わらず=岩  
手,2013 年 11 月 6 日.

牛山素行,プレジデント,頻発する豪雨。「避難勧告」は役に立つか,2013 年 12.2 号.

牛山素行,読売新聞,[伊豆大島災害]土石流の傷痕(下)危険指定 手つかず(連載)=東京,2013 年  
11 月 8 日.

牛山素行,静岡新聞,NEWS 交差点=県内 35 市町「避難勧告・指示」調査-現場の不安浮き彫り 時機、地域設定「難しい」,2013 年 11 月 16 日.

牛山素行,毎日新聞,記者の目:伊豆大島、土石流災害 1 カ月=神足俊輔(東京社会部),2013 年 11 月 22 日.

牛山素行,朝日新聞,(想定被災地を歩く:51)各地で自主防が訓練 地域で防災、66 万人確認 / 静岡県,2013 年 12 月 2 日.

牛山素行,建設通信新聞,静岡・清水・島田青年部会 初めての合同研修会開く,2013 年 12 月 11 日.

牛山素行,静岡新聞,9 月の大雨特別警報 3 府県 住民 9 割具体的行動せず 静岡県民「確実に行動」わずか 7%-静岡大アンケート,2013 年 12 月 12 日.

牛山素行,毎日新聞,大雨特別警報:理解 4 割 緊迫性浸透せず--静岡大 4 府県調査,2013 年 12 月 13 日.

牛山素行,岩手日報・東奥日報・長崎新聞・愛媛新聞・京都新聞など,特別警報理解は 40% 静岡大アンケート調査 9 月大雨で 4 府県民 災害危険度認識低く,2013 年 12 月 13 日.

牛山素行,毎日新聞,防災専門家講座:4 期目募集 「危機管理意識が向上」 県と静岡大、27 日から受け付け 対象者は「現役」職員ら /静岡,2013 年 12 月 17 日.

牛山素行,大分合同新聞,災害対応など学ぶ 大分県危機管理研修会,2013 年 12 月 19 日.

牛山素行,日経コンストラクション,特集 “記録的豪雨”の恐怖~猛烈な雨の発生確率は将来約 2 倍に,2013 年 12 月 28 日(第 582 号 38~39 頁).

牛山素行,岩手日報,全世帯の避難行動を調査 陸前高田市と静岡大研究室 市報告書に反映,2013 年 12 月 28 日.

牛山素行,静岡新聞,県と静大「フェロー講座」4 年目に 防災プロ広がる人脈 修了者累計 50 人 官民で情報交換,2014 年 1 月 8 日.

牛山素行,静岡新聞,広がる命山 袋井に全国から視察 用地確保、協議不可欠-低コスト、耐久性高い津波避難施設,2014 年 1 月 20 日.

牛山素行,河北新報,東日本大震災/陸前高田の復興祈念公園/「克災」理念に批判/国の構想案、有識者委で異論相次ぐ,2014 年 1 月 24 日.

牛山素行,岩手日報,復興公園構想案 見直しへ 陸前高田市・有識者委 「克災」に異論続出,2014 年 1 月 24 日.

牛山素行,静岡新聞,災害備え知識吸収-焼津でボランティアコーディネーター講座,2014 年 2 月 16 日.

牛山素行,朝日新聞,津波、避難所で犠牲 3 割 陸前高田、生存者は高台に,2014 年 2 月 18 日.

牛山素行,朝日新聞(岩手),生死分けた積極的避難 避難所、詳細検証なし /岩手県,2014 年 2 月 19 日.

牛山素行,毎日新聞(岩手),東日本大震災:避難所は絶対ではない すぐに、より高台へ 陸前高田が検証最終案 /岩手,2014 年 2 月 19 日.



牛山素行,読売新聞(岩手),市避難所で犠牲 200 人以上 陸前高田 震災検証報告案=岩手,2014年2月19日.

牛山素行,朝日新聞,東日本大雪 1 週間 孤立なお 483 世帯/農業被害 255 億円/受験急きょ追試,2014年2月21日.

牛山素行,毎日新聞(埼玉),災害情報:SNS で収集「#和光市災害」被災発信、迅速対応 /埼玉,2014年2月25日.

牛山素行,朝日新聞,(ニュースのおさらい ジュニア向け)東日本に 2 週連続の大雪,2014年3月1日.

牛山素行,岩手日報,★忘れない 東日本大震災から 3 年★心の復興 なお遠く 遺族 500 人 本紙アンケート 強い悲嘆抱える 34% 仕事や生活に影響 18%,2014年3月9日.

牛山素行,沖縄タイムス,[ニュースのおさらい]/関東に 2 週連続の大雪/急発達の低気圧とどまる[ニュースのおさらい],2014年3月9日.

牛山素行,北海道新聞,災害時は電話が殺到\*安否 伝言ダイヤルで\*役立つスマホの防災アプリ,2014年3月11日.

牛山素行,静岡新聞,防災フェロー成果発信必要-静岡でシンポ,2014年3月16日.

牛山素行,静岡新聞,防災教育県が体系化 33 科目に分類概要を公表へ 主体部署異なる講座・研修を整理,2014年3月17日.

牛山素行,朝日新聞,(災害大国 あすへの備え)津波対策、思わぬ反発 「区域指定、地価下げる」,2014年3月17日.

牛山素行,毎日新聞(静岡),浜松市:津波に強い地域づくり 焼津市に次ぎ、推進計画策定 /静岡,2014年3月18日.

矢守克也,「防災の専門家が講演」NHK 高知ニュース (2013年12月22日)

矢守克也,「南海地震から67年…京都大の矢守教授が講演」 高知 SUNSUN テレビニュース (2013年12月21日)

矢守克也,「許容する思考へ転換を」 産経新聞 (2013年12月17日)

矢守克也,「流行語に見る災害」(連載コラム:現代のことば) 京都新聞 (2013年12月18日)

矢守克也,「災害ミュージアム研究塾と語り継ぎ」 NHK ラジオ「関西ラジオワイド」(2013年12月12日放送)

矢守克也,「正解のない問題」 毎日新聞 (2013年12月5日付)

矢守克也,「被害の大小は行動次第」 産経新聞 (2013年11月19日)

矢守克也,「災害からどう身を守るか:避難時の人間心理と行動(後編)」 「一柳良雄が問う日本の未来」 BS ジャパン 2013年11月16日(再放送23日)

矢守克也,「警戒情報、多い『空振り』」 山形新聞 (2013年11月3日付)

矢守克也,「『空振り』許容を」 神戸新聞 (2013年11月3日付)

矢守克也,「勧告対象の避難1.4%」 東京新聞、信濃毎日新聞 (2013年11月3日付ほか)

矢守克也,「災害からどう身を守るか:避難時の人間心理と行動(前編)」 「一柳良雄が問う日本の未来」 BS ジャパン 2013年11月2日(再放送9日)

矢守克也,「避難情報どう伝える 危険知る住民」 朝日新聞(2013年11月1日付)

矢守克也,「シリーズ:南海地震に備える~共助の避難計画をどう作るか」 NHK ニューステラス関西(2013年10月28日)

矢守克也,「備え どうしたら」 朝日新聞(2013年10月25日付)

矢守克也,「『情報依存による待機』の危険性」 産経新聞(2013年10月23日)

矢守克也,「特別警報を経験して」(連載コラム:現代のことば) 京都新聞(2013年10月22日)

矢守克也,「偶然と機転 命救う」 朝日新聞(2013年10月19日付)

矢守克也,「その時命守る 子どもの何を伝えるか」 BOSAI フォーラム 読売新聞(2013年10月18日付)

矢守克也,「きみならどうする? 判断の分かれ道」 NHK「シンサイミライ学校」 2013年10月9日(再放送10月13日、16日、20日)

矢守克也,「特別警報」 NHK ラジオ「関西ラジオワイド」 2013年10月3日放送

矢守克也,「避難開始2分の差」 中日新聞(2013年9月16日付)

矢守克也,「『阪神・淡路』機に神戸で誕生~災害対応ゲーム高まる注目度」 神戸新聞(2013年9月1日付)

矢守克也,「南海トラフ巨大地震:減災再現のためのシナリオ~大都市特有の混乱想定」 産経新聞(2013年9月1日付)

矢守克也,「現代への警句:関東大震災90年/上 天災は忘れた頃にやってくる一寺田寅彦」 毎日新聞(2013年08月29日付)

矢守克也,「防災の心構え」に関する講演会 NHK ニュース KOBE 発(2013年8月28日)

矢守克也,緊急地震情報「誤報」でも即避難を 情報の価値は受ける側の準備次第 産経新聞(2013年8月20日付)

矢守克也,「『空振り』は空振りなのか(連載コラム:現代のことば)」 京都新聞(2013年8月20日付)

矢守克也,「巨大津波から全員が避難」 NHK おはよう日本 2013年7月31日放送

矢守克也,「巨大津波から全員が避難」 NHK 高知放送局 2013年7月27日

矢守克也,「在宅者対策が前進」 朝日新聞(2013年7月25日付)

矢守克也,「個別事情に合わせた対策を」 産経新聞(2013年7月23日付)

矢守克也,「日常と災害時 落差最小に」 産経新聞(2013年7月16日付)

矢守克也,「『津波てんでんこ』の教え」 東京新聞(2013年6月28日付)

矢守克也,「『津波てんでんこ』の教え」 河北新報(2013年6月24日付)

矢守克也,「事故の季節感(連載コラム:現代のことば)」 京都新聞(2013年6月25日付)

矢守克也、「自主的な避難（連載コラム：災害の心理学 7）」 産経新聞（2013年6月18日付）

矢守克也、「津波避難 一人ひとりに合わせて」 NHK「おはよう日本」 2013年6月3日放送

矢守克也、「巨大津波・避難の処方箋 ～一人一人の命を守るには～」 NHK「四国羅針盤」 2013年5月24日放送

矢守克也、「防災こらむ：津波避難新3原則」 NHK ラジオ「関西ラジオワイド」 2013年5月30日放送

矢守克也、「南海トラフ地震対策『先取り』：個別に訓練、カルテ作成」 北國新聞（2013年5月29日付）

矢守克也、「地震避難の課題さぐれ」 京都新聞（2013年5月29日付）

矢守克也、「南海トラフ地震対策 小学生中心に「個別訓練」 四国新聞（2013年5月29日付）

矢守克也、「避難開始2分の差」 中日新聞（2013年9月16日付）

矢守克也、「『阪神・淡路』機に神戸で誕生～災害対応ゲーム高まる注目度」 神戸新聞（2013年9月1日付）

矢守克也、「南海トラフ巨大地震：減災再現のためのシナリオ～大都市特有の混乱想定」 産経新聞（2013年9月1日付）

矢守克也、「現代への警句：関東大震災90年／上 天災は忘れた頃にやってくる一寺田寅彦」 毎日新聞（2013年8月29日付）

矢守克也、「防災の心構え」に関する講演会 NHK ニュース KOBЕ 発（2013年8月28日）

矢守克也、「緊急地震情報「誤報」でも即避難を 情報の価値は受ける側の準備次第」 産経新聞（2013年8月20日付）

矢守克也、「『空振り』は空振りなのか（連載コラム：現代のことば）」 京都新聞（2013年8月20日付）

矢守克也、「巨大津波から全員が避難」 NHK おはよう日本 2013年7月31日放送

矢守克也、「巨大津波から全員が避難」 NHK 高知放送局 2013年7月27日

矢守克也、「在宅者対策が前進」 朝日新聞（2013年7月25日付）

矢守克也、「個別事情に合わせた対策を」 産経新聞（2013年7月23日付）

矢守克也、「日常と災害時 落差最小に」 産経新聞（2013年7月16日付）

矢守克也、「『津波てんでんこ』の教え」 東京新聞（2013年6月28日付）

矢守克也、「『津波てんでんこ』の教え」 河北新報（2013年6月24日付）

矢守克也、「事故の季節感（連載コラム：現代のことば）」 京都新聞（2013年6月25日付）

矢守克也、「自主的な避難（連載コラム：災害の心理学 7）」 産経新聞（2013年6月18日付）

矢守克也,「津波避難 一人ひとりに合わせて」 NHK「おはよう日本」 2013年6月3日放送

矢守克也,「巨大津波・避難の処方箋 ～一人一人の命を守るには～」 NHK「四国羅針盤」 2013年5月24日放送

矢守克也,「防災こらむ:津波避難新3原則」 NHKラジオ「関西ラジオワイド」 2013年5月30日放送

矢守克也,「南海トラフ地震対策『先取り』:個別に訓練、カルテ作成」 北國新聞 (2013年5月29日付)

矢守克也,「地震避難の課題さぐれ」 京都新聞 (2013年5月29日付)

矢守克也,南海トラフ地震対策 小学生中心に「個別訓練」 四国新聞 (2013年5月29日付)

矢守克也,「情報の発信者に(連載コラム:災害の心理学6)」 産経新聞 (2013年5月28日付)

矢守克也,「数字と経験つなぐ道模索」 読売新聞 (2013年5月27日付)

矢守克也,「偶然を呼び寄せた日頃の準備(連載コラム:災害の心理学5)」 産経新聞 (2013年4月30日付)

矢守克也,「津波避難の指針 最終案を提示」 NHK「こうち情報いちばん」 (2013年4月24日)

矢守克也,「千分の一/万分の一(連載コラム:現代のことば)」 京都新聞 (2013年4月19日付)

矢守克也,「最速で避難した臨機応変さ(連載コラム:災害の心理学4)」 産経新聞 (2013年4月9日付)

矢守克也,「個別訓練タイムトライアル(後編)」 FM東京「クロノス」 2013年4月5日放送

矢守克也,「個別訓練タイムトライアル(前編)」 FM東京「クロノス」 2013年4月3日放送

矢守克也,「『津波てんでんこ』のもう一つの意味」 FM東京「クロノス」 2013年4月3日放送

矢守克也,「子ども向けのカードゲーム『ぼうさいダック』」 FM東京「クロノス」 2013年4月2日放送

矢守克也,「防災教育カードゲーム『クロスロード』」 FM東京「クロノス」 2013年4月1日放送

矢守克也,「防災こらむ:ご存知ですか? 震災アーカイブ」 NHKラジオ「関西ラジオワイド」 2013年3月28日放送

矢守克也,「興津小登校時訓練」 NHK高知「こうち情報いちばん」 2013年3月7日放送

矢守克也、「巨大地震備えはどこまで進んだか」 NHK「四国羅針盤スペシャル」 2013年3月2日放送

矢守克也、「津波避難対策手探り」 朝日新聞 2013年3月3日

矢守克也、「個人の努力と行政の支援（連載コラム：災害の心理学3）」 産経新聞 2013年2月26日

矢守克也、「注意報で動くべきか」 朝日新聞（2013年2月18日付）

矢守克也、「正解のない防災ゲーム（連載コラム：現代のことば）」 京都新聞（2013年2月20日付）

矢守克也、「はじめまして！出張教室 小学5年生と考える災害時の対策」 毎日放送ラジオ（2013年2月9日）

矢守克也、「被害想定は変えられる（連載コラム：災害の心理学2）」 産経新聞（2013年2月5日付）

矢守克也、「子どもが提言：避難の問題」 NHK「おはよう高知」（2013年2月4日）

矢守克也、「登校中津波、どう逃げる？ 京大防災研が検証訓練」 高知新聞（2013年1月30日）

矢守克也、「登校時に津波避難訓練」 NHK「こうち情報いちばん」（2013年1月29日）

矢守克也、「みんなで助かる意識を 高知市で防災教育フォーラム 京大教授が講演」 高知新聞（2013年01月28日付）

矢守克也、「巨大津波からどう逃げる」 NHK「かんさい熱視線」（2013年1月25日）

矢守克也、「避難カルテで変わる防災意識」 NHK「おはよう日本」（2013年1月24日）

矢守克也、「避難カルテで変わる防災意識」 NHK「ニューステラス関西」（2013年1月22日）

矢守克也、「避難カルテで変わる防災意識」 NHK「こうち情報いちばん」（2013年1月16日）

矢守克也、「『わが事』意識を高めるには（連載コラム災害の心理学1）」 産経新聞（2013年1月15日付）

矢守克也、「阪神淡路大震災から生まれた防災カードゲーム」 毎日放送ラジオ「夜はラジオを決めています～ネットワーク1.17」（2013年1月15日）

矢守克也、「身近な気象情報詳細に：京大防災研と連携」 伊勢新聞（2013年1月13日付）

矢守克也、「気象最新データモニターを設置」 毎日新聞（2013年1月13日付）

矢守克也、「もしもに備える 迷った時、どうする？」 毎日新聞（2013年1月11日）

矢守克也、「M9地震発生！ その時…：高知市、中土佐町 仮想ドキュメント」 高知新聞（2012年12月21日付）

矢守克也、「個別避難訓練」高知市・四万十町の試み：高齢者誘導 児童ら率先 河北新報

(2012年12月11日付)

矢守克也、「ぼうさい甲子園:受賞校決まる 県内から津波ぼうさい賞に興津小、継続こそ力で賞に愛宕中 /高知」 毎日新聞 (2012年12月12日付)

矢守克也、「スマホ津波避難マップ」 読売新聞 (2012年12月8日)

矢守克也、「地震計が作るつながり (連載コラム:現代のことば)」 京都新聞 (2012年12月13日付)

矢守克也、「興津個別訓練第2回」 NHK「こうち情報いちばん」 (2012年11月29日)

矢守克也、「高知県被害想定委員会開催」 高知さんさんテレビ「スーパーニュース」 2012年11月27日

矢守克也、「津波避難 子どもが主演」 読売新聞 (2012年10月28日)

矢守克也、「二つの想定 (連載コラム:現代のことば)」 京都新聞 (2012年10月17日付)

矢守克也、「防災こらむ:南海トラフの巨大地震 新想定にどう立ち向かうか」 NHK ラジオ「関西ラジオワイド」 2012年10月11日放送

矢守克也、「津波避難:原則徒歩 ガイドライン検討会、中間報告へ意見交換/高知」 (毎日新聞 2012年09月14日付)

矢守克也、「動画カルテ~寄り添う避難訓練 (連載コラム:現代のことば)」 京都新聞 (2012年8月21日付)

矢守克也、「知ってなるほど 学ぶカードゲーム」 毎日新聞(2012年8月17日)

矢守克也、「僕たちがつくる『ふるさとの未来』」 NHK「シンサイミライ学校」 (2012年8月17日)

矢守克也、「減災は前兆見つけ共有を 水害時の危険箇所確認 伊勢・宮川中で京大防災研連携 辻久留地区住民ら図上訓練」 中日新聞 (2012年7月18日付)

矢守克也、「京大と危険箇所を確認:宮川中が防災で連携 地区住民らも参加 伊勢・宮川水位モニター設置」 伊勢新聞 (2012年7月17日付)

矢守克也、「避難カルテ:興津小、防災学習会で動画を発表 地域一体、災害時へ自信一四万十/高知」 毎日新聞 (2012年7月11日付)

矢守克也、「児童が地域に津波防災対策提言」 NHK「こうち情報いちばん」 (2012年7月10日)

矢守克也、「津波高新想定 小学生、高齢者防災に一役」 朝日新聞 (2012年7月5日付)

矢守克也、「津波防災の取り組みを進めるヒント~高知県四万十町興津~」 NHK ラジオ「関西ラジオワイド」 2012年7月5日放送

矢守克也、「巨大津波から命をまもる」 NHK 名古屋「ナビゲーション」 2012年6月29日放送

矢守克也、「GPS持ち住民避難訓練 的確経路探る」 読売新聞 (2012年6月27日付)

矢守克也、「児童がお年寄りと津波避難訓練、高知県四万十町の興津小学校」 NHK「こうち情報いちばん」 2012年6月26日放送

矢守克也,「小さな地震計に大きな力(コラム:風の座標)」 読売新聞(2012年6月24日付)

矢守克也,「【津波高 新想定】車避難 県が容認へ」 朝日新聞(2012年6月13日)

矢守克也,「津波避難対策:地域に応じ対策、県が8月めどにガイドライン 車でのルール作りも/高知」 毎日新聞(2012年6月13日)

矢守克也,「ぼうさいコラム:科学コミュニケーション」 NHK ラジオ「関西ラジオワイド」 2012年6月7日放送

矢守克也,「特集減災:とっさの判断 ゲームで磨く」 読売新聞(2012年4月29日付) 28面

矢守克也,「ぼうさいコラム:津波てんでんこ 4つの意味を考える」 NHK ラジオ「関西ラジオワイド」 2012年4月19日放送

矢守克也,「大津波:届け避難 呼びかけ」 朝日新聞(2012年4月10日付)

矢守克也,「命守るため備えを:津波避難などに質問相次ぐ」 神戸新聞(2012年2月15日付)

矢守克也,「ぼうさいコラム:地域防災力を高める“しかけ”づくり」 NHK ラジオ「関西ラジオワイド」 2012年2月26日放送

矢守克也,「興津小児童が防災学習発表会」 高知新聞(2012年2月14日付)

矢守克也,「津波避難9割が可能と回答、高知県四万十町の住民を対象」 NHK「おはようこうち」 2012年2月13日放送

矢守克也,「南あわじで小中高生防災会議:阪神・淡路の復興学びたい、東北3県から25人参加」 神戸新聞(2012年2月5日付)

矢守克也,「生徒ら、災害への備え討論:南あわじで会議 東北3県など100」 読売新聞(2012年2月5日付)

矢守克也,「市民の防災力:地域の特性に合わせ啓発を」(防災・減災:転換期迎えた防災教育) 産経新聞(2012年1月24日付) 4面

矢守克也,「自責の念 和らげる教え(「防災人づくり塾」から)」 高知新聞(2012年1月20日付)

矢守克也,「文系目線」 高知新聞(2012年1月19日付)

矢守克也,「2012 ニュース探偵局防災スペシャル」 朝日放送 2012年1月15日放送

矢守克也,「京大 新規プロジェクト 概算要求」 京都新聞(2012年1月11日)

矢守克也,「神話なき明日へ3. 11からの警告災害列島に生きる:(7) 情報社会:“正解、自ら考える力を」 神戸新聞(2012年1月7日付)

### 5.3 公的な委員会等

千木良雅弘, 日本学術会議連携会員(地球惑星科学委員会・高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会・放射性廃棄物と人間社会小委員会) 2008年10月1日~2014年9

月 30 日.

千木良雅弘, (独) 日本原子力研究開発機構深地層の研究施設計画検討委員会委員, 深地層の研究施設計画及び関連する研究漢初に対して技術的検討及び助言を行う, 2010 年 8 月 1 日~H2014 年 3 月 31 日.

千木良雅弘, 社団法人資源・素地学会 JSBEE 地球・資源およびその関連分野運営委員会委員長, 2012 年 6 月 1 日~2015 年 5 月 31 日.

藤井基貴, 文部科学省「中央教育審議会」初等中等教育分科会, 専門委員.

藤井基貴, 静岡県教育委員会「道徳教育推進協議会」会長.

藤井基貴, 岐阜県加茂郡白川町教育委員会, 外部評価委員.

秦康範, 長野県地震被害想定策定検討委員会委員, 2013 年~

秦康範, 神奈川県地震被害想定調査委員会委員, 2013 年~

秦康範, 山梨県総合評価委員会委員, 2013 年~

秦康範, 忍野村教育委員会 学校防災アドバイザー, 2013 年~

秦康範, 身延町教育委員会 学校防災アドバイザー, 2013 年~

秦康範, 長野県防災会議委員, 2012 年~

秦康範, 山梨県教育委員会 防災教室講師, 2012 年~

原田賢治, 静岡県津波災害警戒区域指定検討委員会, 委員, 2013-2014

原田賢治, 沼津市地震・津波対策アクションプラン策定, 専門アドバイザー, 2013

原田賢治, 静岡県私立幼稚園防災対策推進事業(津波対策), アドバイザー, 2013

原田賢治, 静岡県学校安全プログラム作成委員会, 委員, 2013

原田賢治, 浜松市津波防災地域づくり推進協議会, 委員, 2013

原田賢治, 浜松市沿岸域防潮堤整備に係る景観デザイン検討委員会, 委員, 2013-2014

原田賢治, 浜松市沿岸域防潮堤整備に係る植栽計画検討会, 委員, 2013-2014

原田賢治, 静岡県海岸保全基本計画検討委員会, 委員, 2013

原田賢治, 静岡県社会資本整備重点計画策定・推進会議, 委員, 2013-2014

原田賢治, 焼津市津波防災地域づくり推進計画策定協議会, 委員, 2012-2013

原田賢治, 静岡市防災会議津波対策検討専門委員会, 委員, 2012-2013

原田賢治, 静岡県学校防災アドバイザー事業, アドバイザー, 2012-2013

原田賢治, 静岡県防災・原子力学術会議津波対策分科会, 委員, 2012-2013

原田賢治, 袋井市津波被害軽減対策検討会, 委員, 2011-2013

林能成, 和歌山県, 和歌山県地震・津波被害想定検討委員会, 委員, 2012-2013.

林能成, 静岡県学校防災アドバイザー, アドバイザー, 2012-2013.

林能成, 日本金属プレス工業協会, 安全環境委員会, 委員, 2013-.

林能成, 中部電力, 原子力安全技術研究所 アドバイザリ・コミッティ 委員, 2013-

池田恵子, 静岡県ふじのくに男女共同参画防災ネットワーク, アドバイザー, 2012 年 - 2013 年.



池田恵子, 掛川市防災会議, 委員, 2013年 - .

池田恵子, 湖西市男女共同参画懇話会, 委員長, 2013年 - .

池田恵子, 日本学術会議東日本大震災復興支援委員会 産業振興・就業支援分科会特任連携委員, 2014年 - .

伊藤潔, 地球環境産業技術研究機構 (RITE) 研究推進委員会委員, H24年度～.

伊藤谷生, 文部科学省地震調査研究推進本部 地震調査委員会長期評価部会活断層分科会委員, 2010年～.

岩松 暉, 霧島ジオパーク推進協議会顧問, 2009年4月～.

岩松 暉, 桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会学術顧問, 2013年4月～.

岩松 暉, 鹿児島県土砂災害防止法検討委員会委員, 2012年4月～.

狩野謙一, 南アルプス世界自然遺産登録推進協議会・総合学術検討委員会委員 2007.4～

狩野謙一, 静岡県環境審議会委員, 同温泉部会副部会長, 同自然公園部会委員 2008.7～

狩野謙一, 環境省・リニア中央新幹線環境影響評価委員会委員 2011.2～

狩野謙一, 静岡市環境影響評価専門家会議委員 2013.9～

狩野謙一, 南アルプスジオパーク登録検討委員会委員 2013.8～

狩野謙一, 伊豆市・伊豆の国市広域一般廃棄物処理施設建設候補地選定委員会委員 2013.12～

狩野謙一, 伊豆半島ジオガイド認定試験 (南伊豆・西伊豆エリア) 審査員 2014.2

風間聡, 最上川水系流域委員会専門小委員会委員長, 2010年～

風間聡, アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクト・フェーズ3国内支援委員会委員, 2013年～

木村浩之, 島田市役所川根温泉まちづくり協議会委員, 新エネルギーシステムの開発と導入, 2013年1月～2014年3月.

木村浩之, 日本地球掘削科学コンソーシアム将来検討委員会委員, 陸上科学掘削の将来展望, 2013年10月～2014年3月.

近藤昭彦, 日本学術会議 地球惑星科学委員 IUGG 分科会 IAHS 小委員会委員, 2012年3月19日～2014年9月30日 .

近藤昭彦, 千葉県環境審議会 水環境部会 部会長

近藤昭彦, 千葉県環境審議会 温泉部会 委員

近藤昭彦, 千葉県印旛沼水循環健全化会議 委員

近藤昭彦, 千葉県環境影響評価委員会 委員, 2013年4月30日～2015年4月29日.

近藤昭彦, 千葉県地質環境対策審議会 委員, 2012年8月1日～2015年7月31日.

小山真人, 火山噴火予知連絡会伊豆部会委員 (平成23年12月～現在)

小山真人, 富士山火山砂防計画検討委員会委員 (平成17年3月～現在)

小山真人, 富士山火山防災対策協議会委員 (平成24年6月～現在)

小山真人, 伊豆半島ジオパーク推進協議会顧問 (平成 23 年 4 月～現在)

小山真人, 伊豆東部火山群防災協議会委員 (平成 24 年 3 月～現在)

小山真人, 静岡県防災・原子力学会議 地震・火山対策分科会委員 (平成 24 年 5 月～現在)

小山真人, 中部圏開発整備地方協議会委員 (平成 21 年 10 月～現在)

小山真人, 静岡県史編さん特別調査委員 (平成 26 年 2 月～現在)

小山真人, 伊東市史編さん委員会編集委員 (平成 12 年 4 月～現在)

小山真人, 静岡新聞社「みんなのふじさんカルタ」選定委員 (平成 23 年 4～7 月)

前田恭伸, 一般社団法人浜松公園緑地協会 評議員, 2013 年 4 月～

増田俊明, 静岡県防災会議委員.

村越真, 国立登山研修所専門調査委員

村越真, 日本体育協会評議員

村越真, 静岡県立三ヶ日少年自然の家外部評価委員

村越真, 静岡県立三ヶ日少年自然の家指定管理者候補選定委員会 委員長

村越真, 静岡市教育委員会・静岡市スポーツ推進審議会委員

村越真, 日本オリンピック委員会総務委員

中川和之, 総務省消防庁「消防力の整備指針及び消防水利の基準に関する検討会」委員(2013 年度)

中川和之, 気象庁「気象業務の評価に関する懇談会」委員(2012 年度、2013 年度)

中川和之, 内閣府「防災教育チャレンジプラン」実行委員会委員(2012 年度、2013 年度)

中川和之, 産業総合研究所活断層・地震研究センター研究ユニット評価委員会委員(2012 年度、2013 年度)

中川和之, 「日本ジオパーク委員会」委員(2012 年度、2013 年度)

中川和之, 「独立行政法人建築研究所国際地震工学センター国際地震工学研修・普及会議」委員(2012 年度、2013 年度)

中川和之, 科学技術戦略推進費「官民協働危機管理クラウドシステム」運営委員会座長(2012 年度、2013 年度)

中川和之, 文部科学省委託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」運営委員会委員(2013 年度)

中川和之, 独立行政法人防災科学技術研究所「e 防災マップ・防災ラジオドラマ」審査委員 (2012 年度、2013 年度)

中川和之, 中央防災会議専門委員「災害時の避難に関する専門調査会」(2012 年度)

中川和之, 内閣府「家具等転倒防止対策の推進に関する検討委員会」委員(2012 年度)

中川和之, 福島県防災計画の見直しにかかる有識者会議・座長(2012 年度)

中川和之, 文部科学省委託研究「東海・東南海・南海地震の連動性評価研究」運営委員(2012 年度)

中川和之,「東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会」委員(2012 年度、2013 年度)

中川和之,東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会外部評価委員(2012 年度、2013 年度)

野津憲治, 科学研究費委員会専門委員 (日本学術振興会) 2012.1.1～2014.12.31.

佐藤健, 文部科学省災害に強い学校施設づくり検討部会委員, 2013-2014.

佐藤健, 河北新報社東日本大震災の教訓を生かした「いのちと地域を守る」ワークショップ・アドバイザー, 2013-2014.

佐藤健, 仙台市教育委員会新たな学校防災教育推進協議会委員 座長, 2013-2014.

佐藤健, 塩竈市教育委員会防災教育推進協議会 委員長, 2013-2014.

佐藤健, 震災対策技術展第 4 回「震災対策技術展」宮城実行委員会委員, 2013-2014.

佐藤健, 宮城県広域防災拠点整備検討会議 委員長, 2013-2014.

佐藤健, 石巻市教育委員会学校防災推進会議委員, 2013-2014.

佐藤健, コンパクトシティいしのまき街なか創生協議会プロジェクトサブリーダー, 2013-2014.

佐藤健, 大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター共同研究員, 2013-2014.

佐藤健, 文部科学省指定研究開発学校運営指導委員委員長, 2013-2017.

佐藤健, 平成 25 年度「実践的防災教育総合支援事業」推進委員会委員, 2013-2014.

佐藤健, 宮城県防災専門教育アドバイザー, 2013-2014.

土屋智, 静岡県環境影響評価審査会委員, 静岡県くらし・環境部, 2013 年

土屋智, 森の力再生事業評価委員会, 静岡県交通基盤部森林局, 2013 年

土屋智, 森林審議会委員, 静岡県交通基盤部森林局, 2013 年

牛山素行,岩手河川国道事務所 災害情報協議会 委員(アドバイザー),2005 年 7 月～

牛山素行,静岡県袋井市 防災対策推進アドバイザー,2011 年 5 月～

牛山素行,静岡県袋井市 津波被害軽減対策検討会 委員長,2011 年 5 月～

牛山素行,国土交通省中部地方整備局 東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議 委員,2011 年 10 月～

牛山素行,愛知県 東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査災害情報 WG 委員,2011 年 12 月～

牛山素行,国土交通省中部地方整備局 地震・津波災害に強いまちづくり検討会 委員,2012 年 2 月～2014 年 3 月

牛山素行,総務省 「多様な通信手段を連携させた多層的な災害情報伝達システムの研究開発」研究開発運営委員会 委員,2012 年 4 月～2013 年 3 月

牛山素行,静岡県 政策研究ゼミナール 指導講師,2012 年 6 月～2013 年 3 月

牛山素行,国土交通省中部地方整備局 防災拠点のネットワーク形成に向けた検討会 委員,2012 年 5 月～2013 年 3 月

牛山素行,国土交通省中部地方整備局 防災意識改革と防災教育の推進に関する検討会 委員,2012年5月～2013年3月

牛山素行,気象庁 竜巻等突風予測情報改善検討会 委員,2012年5月～2012年9月

牛山素行,岩手県・陸前高田市 高田松原地区震災復興祈念公園構想会議 委員,2012年7月～2013年3月

牛山素行,気象庁 土砂災害への警戒呼びかけに関する検討会 委員,2012年7月～2013年3月

牛山素行,国土交通省近畿地方整備局 六甲山系警戒避難対策検討会 委員,2012年8月～2013年3月

牛山素行,気象庁 防災気象情報の改善に関する検討会 委員,2012年9月～2013年12月

牛山素行,国土交通省国土政策局 地理空間情報のデータの一元的な提供のあり方等に関する検討委員会 委員,2012年10月～2013年3月

牛山素行,奈良県 紀伊半島大水害記録誌編纂 アドバイザー,2012年11月～2013年3月

牛山素行,岩手県陸前高田市 東日本大震災検証委員会 委員,2013年1月～2014年3月

牛山素行,国土交通省 津波防災まちづくり計画策定指針検討委員会 委員,2013年2月～2013年3月

牛山素行,静岡県下田市 まちづくり懇話会 委員,2013年2月～2016年3月

牛山素行,静岡県焼津市 津波防災地域づくり推進計画策定協議会 委員,2013年3月～2014年3月

牛山素行,静岡県 地震防災センター展示改修選定委員会 委員長,2013年3月～2014年3月

牛山素行,静岡県牧之原市 津波防災事業化策定委員会 委員,2013年6月～2014年3月

牛山素行,奈良県 奈良県域等における過去の災害記録誌編纂 アドバイザー,2013年7月～2014年3月

牛山素行,静岡県浜松市 津波防災地域づくり推進協議会 委員,2013年8月～2014年3月

牛山素行,林野庁 流域山地災害対策調査(山地防災力調査)委託事業検討委員会 委員,2013年9月～2014年3月

牛山素行,国土交通省東北地方整備局 岩手県における復興祈念公園基本構想検討調査有識者委員会 委員,2013年9月～2014年3月

牛山素行,静岡県浜松市 再生可能エネルギー等導入推進基金事業 外部専門家,2013年10月～2016年3月

牛山素行,国土地理院 避難所地図表現策定検討会 委員,2013年10月～2013年12月

牛山素行,内閣府 防災スペシャリスト養成研修企画検討会 委員,2013年10月～2014年3月

牛山素行,国土交通省 土砂災害対策の強化に向けた検討会 委員,2013年12月～2014年6月

牛山素行,静岡県 津波災害警戒区域指定検討委員会 委員,2013年12月～2015年3月

牛山素行,静岡県牧之原市 ICT街づくり推進検討委員会 委員,2014年1月~2014年3月  
牛山素行,内閣府 避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドラインの検討会議 委員,2014年2月~

渡辺俊樹, Environment Protection and Safety Panel, Science Advisory Structure, Integrated Ocean Drilling Program, 2003年~2013年

渡辺俊樹, 日本掘削科学コンソーシアム, IODP 部会, 環境保護安全専門部会, 委員, 2003年~現在

矢守克也, 京都大学レジリエンス研究ユニットメンバー (2011年~現在)

矢守克也, 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター震災資料研究主幹 (2003年4月~現在)

矢守克也, 近畿地方整備局地球温暖化に伴う大規模水害対策検討会 (2009年~現在)

矢守克也, 滋賀県地域防災計画の見直しにかかる検討委員会委員 (2011年~2012年)

矢守克也, 愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査「教育・啓発合同ワーキンググループ」委員 (2011年~2013年)

矢守克也, 内閣官房東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局政策・技術調査参与 (2011年~2012年7月)

矢守克也, 近畿地方整備局淀川水系流域委員会専門家委員会 (2012年6月~現在)

矢守克也, 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター上級研究員 (2012年4月~現在)

矢守克也, 高知県津波避難を考える検討会委員 (委員長) (2012年6月~2014年3月)

矢守克也, 高知県南海地震対策推進本部アドバイザー (2012年6月~現在)

矢守克也, 大阪府防災会議専門委員 (2012年10月~2014年3月)

矢守克也, 滋賀県実践的防災教育総合支援事業推進委員会委員 (委員長) (2012年9月~2013年3月)

矢守克也, 高知県安全教育プログラム策定委員会委員 (委員長) (2012年10月~2014年3月)

矢守克也, 内閣府避難所における良好な生活環境の確保対策についての検討会委員 (委員長) (2012年10月~2013年3月)

矢守克也, 国土交通省地域力ワーキング委員 (2012年12月~2013年3月)

矢守克也, 京都府実践的防災教育総合支援事業推進委員会委員 (2013年2月~現在)

矢守克也, 文部科学省地震調査研究推進本部専門委員 (2013年3月~現在)

矢守克也, 文部科学省学校施設の在り方に関する調査研究協力者会「災害に強い学校施設づくり検討部会」委員 (2013年3月~現在)

矢守克也, 高知県防災関連製品認定審査会審査委員 (2013年5月~現在)

矢守克也, 長野県地震被害想定策定検討委員会委員 (2013年5月~現在)

矢守克也, 人と防災未来センター将来像検討委員会委員 (2013年5月~現在)

矢守克也, 宮城県教育委員会宮城県防災専門教育アドバイザー (2013年6月~現在)

矢守克也, 大阪府都市計画審議会委員 (2013年10月～現在)  
矢守克也, 高知県南海トラフ地震における応急期対策のあり方懇談会委員 (2013年11月～現在)  
矢守克也, 特定非営利活動法人大規模災害対策研究機構理事 (2006年～現在)  
矢守克也, 「災害メモリアル KOBE 実行委員会」幹事長 (2005年～現在)  
矢守克也, 「減災に向けた研究者と報道関係者との勉強会 (なまずの会)」世話人 (2008年～現在)  
矢守克也, 「KOBE 虹会 (災害報道と減災について考える会)」幹事 (2006年～現在)  
矢守克也, 語り部 KOBE1995 顧問 (2005年～現在)  
矢守克也, NHK 制作局 E テレ「学ぼう BOSAI」番組委員 (2013年～現在)  
矢守克也, 関西学院大学災害復興研究所客員研究員 (2005年～現在)  
矢守克也, 名古屋大学減災連携研究センター社会連携推進会議委員 (2012年1月～現在)  
矢守克也, 京都大学地域研究統合情報センター協議員 (2012年4月～現在)  
矢守克也, 京都大学グローバル COE プログラム「極端気象と適応社会の生存科学」事業推進担当者 (2009年～2014年3月)  
矢守克也, 京都大学心の先端研究ユニット構成員 (2010年12月～現在)  
矢守克也, 京都大学博士課程教育リーディングプログラム「グローバル生存学大学院連携プログラム」プログラム担当者 (2011年～現在)  
矢守克也, 総合地球環境学研究所共同研究員 (2012年～現在)  
矢守克也, 関西学院大学災害復興制度研究所顧問 (2013年～現在)  
吉田明夫, 地震防災対策強化地域判定会委員 2012年4月1日～2014年3月31日.

#### 5.4 学会活動

千木良雅弘, 一般社団法人 日本応用地質学会 会長 2010年5月～2014年5月.  
千木良雅弘, 社団法人日本地すべり学会理事.  
千木良雅弘, 日本自然災害学会評議員.  
千木良雅弘, 日本地形学連合委員.  
秦康範, 地域安全学会 学術委員会 委員, 2009年～  
秦康範, 日本災害情報学会 企画委員会 委員, 2009年～  
秦康範, 日本災害情報学会 編集委員会 委員, 2011年～  
原田賢治, 土木学会 地震工学委員会 運営幹事, 2013-2015年度  
橋本 岳, パワーエレクトロニクス学会評議員, 2012～2013.  
橋本 岳, パワーエレクトロニクス学会 2013年度見学会および第199回定例研究会(8月)の現地委員代表としての開催.  
林能成, 社団法人日本地震学会, 代議員, 2006-.  
林能成, 教員免許状更新講習「東海地震を知る・教える(基礎編)」主担当, 日本地震学会

主催, 静岡大学防災総合センター, 2012年7月31日.  
林能成, 教員免許状更新講習「東海地震を知る・教える(基礎編)」主担当, 日本地震学会  
主催, 静岡大学防災総合センター, 2013年7月30日.  
池田恵子, 国際ジェンダー学会, 理事, 2012-2015年  
生田領野, 日本地震学会大会企画委員, 2011年4月~2013年3月.  
今泉文寿, 平成25年度(社)砂防学会通常総会並びに研究発表会実行委員会委員 (2012  
年8月 - 2013年5月)  
今泉文寿, 砂防学会事業部会委員 (2012年6月~)  
今泉文寿, 中部森林学会理事 (2011年10月 - 2012年11月)  
今泉文寿, 砂防学会英文誌編集委員 (2011年5月~)  
今泉文寿, 土木学会「土砂侵食と運搬、堆積に関する学際小委員会」委員 (2007年7月  
~)  
石川有三, (公社)日本地震学会広報委員会 委員, 2012年5月~2016年5月.  
石川有三, 日本情報地質学会 評議員, 2008年4月~2015年3月.  
伊藤谷生, 日本地質学会関東支部長, 2010~2013年度.  
伊藤谷生, 東京地学協会理事・広報委員長, 2013年度~.  
岩松 暉, 九州応用地質学会顧問, 2000年4月~  
岩松 暉, 日本応用地質学会名誉会員, 2012年6月~  
岩崎一孝: 日本地理学会、地理学評論編集専門委員会、2010年4月~2014年3月  
狩野謙一, 静岡県地学会会長 2009.6~2013.6  
風間聡, 水文水資源学会国際誌編集委員会副委員長, 2012年8月~2014年8月.  
風間聡, 土木学会地球環境委員会委員, 2012年~.  
風間聡, 土木学会水工学委員会幹事, 2006年~.  
木村浩之, 静岡生命科学若手フォーラム 会計委員, 2013年5月.  
木村浩之, 第28回日本微生物生態学会大会 実行委員, 2012年9月.  
木村浩之, 日本微生物生態学会 第15期評議員, 2013年1月~現在.  
木村浩之, 第14回静岡ライフサイエンスシンポジウム実行委員, 2013年3月.  
北村晃寿, 日本地質学会中部地方区代議員(2008年~)  
北村晃寿, 日本地球惑星科学連合代議員(2009年~)  
北村晃寿, 日本古生物学会評議員・常務委員(庶務)(2011年7月~)  
北村晃寿, 日本第四紀学会評議員・幹事(庶務)(2011年8月~)  
北村晃寿, Island Arc 編集委員 (2005年~)  
近藤昭彦, 一般社団法人地理情報システム学会 編集委員, 2012年5月19日~2014年5  
月 (2013年度に関する社員総会終了時まで).  
近藤昭彦, 公益社団法人日本地球惑星科学連合 環境・災害対応委員, 2014年5月31日  
~.

近藤昭彦, 公益社団法人日本地球惑星科学連合 教育問題検討委員, 2014年5月31日～.  
近藤昭彦, 公益社団法人日本地球惑星科学連合 プログラム委員, 2014年5月31日～.  
近藤昭彦, 日本学術会議 環境学委員会・地球惑星科学委員合同 IGBP・WCRP・  
DIVERSITAS 合同分科会 GLP 小委員会委員, 2012年1月10日～2014年9月30日.  
近藤昭彦, 一般社団法人日本リモートセンシング学会 評議員, 2012年5月23日～2014  
年度定時総会まで.  
前田恭伸, 日本リスク研究学会 副会長, 2013年6月～  
三井雄太, 地球惑星科学連合代議員, 2014年-2016年  
村越真, 日本国際地図学会 評議員  
中川和之, 日本地震学会普及行事委員会委員長, 2012年度～2013年度.  
中川和之, 日本災害情報学会広報委員会委員, 2012年度, 同副委員長, 2013年度.  
野津憲治, IUGS 分科会 IAGC 小委員会委員 (日本学術会議) 2012.3.19～2014.9.30.  
佐藤健, 日本建築学会東北支部構造部会委員, 1996年04月～継続中.  
佐藤健, 日本建築学会東北支部災害調査連絡会連絡情報拠点 WG 主査, 2006年04月～  
継続中.  
佐藤健, 震災対策技術展自然災害対策技術展宮城実行委員会実行委員 (シンポジウム・セ  
ミナー担当), 2006年04月～継続中.  
佐藤健, 日本安全教育学会特別委員会委員長, 2010年04月～継続中.  
佐藤健, 日本安全教育学会常任理事, 2011年04月～継続中.  
佐藤健, 日本地震工学会会誌編集委員会委員, 2012年04月～継続中.  
佐藤健, 日本地震工学会役員候補推薦委員会委員, 2012年04月～2014年03月.  
土屋智, (一社) 砂防学会, 理事, 副会長, 2013年  
土屋智, (一社) 日本地すべり会, 理事, 2013年  
土屋智, (社) 斜面防災対策技術協会, 理事, 2013年  
牛山素行, 日本自然災害学会 編集委員会 委員, 2005年5月～  
牛山素行, 日本自然災害学会 災害情報委員会 委員長, 2008年4月～  
牛山素行, 水文・水資源学会 研究調整委員会 委員, 2008年9月～  
牛山素行, 京都大学防災研究所 自然災害研究協議会 委員, 2009年4月～2013年3月  
牛山素行, 日本災害情報学会 学会誌編集委員会 委員, 2009年10月～2013年10月  
牛山素行, 日本自然災害学会 評議員, 2011年4月～2014年3月  
牛山素行, 砂防学会 平成 25 年度砂防学会通常総会並びに研究発表会実行委員会 委員, 2012  
年8月～2013年8月  
牛山素行, 日本災害情報学会 学会誌編集委員会 委員長, 2013年10月～  
渡辺俊樹, (社) 日本地球惑星科学連合広報・アウトリーチ委員会, 委員, 2005年～現在.  
渡辺俊樹, (社) 物理探査学会学会賞審査委員, 2010年5月～2013年5月.  
渡辺俊樹, (社) 物理探査学会理事, 2012年5月～現在.



渡辺俊樹, (社)物理探査学会会誌編集委員会, 2012年5月～現在.

矢守克也, 日本グループ・ダイナミクス学会 常任理事 (1994年10月～1998年9月、  
2003年3月～2005年3月、2007年4月～2011年3月、2013年4月～現在)

矢守克也, 「実験社会心理学研究」副編集長 (2003年3月～2005年3月、2007年4月～  
2011年3月、2013年4月～現在)

矢守克也, “Asian Journal of Social Psychology” Consulting Editor (1996年10月～  
1998年9月、2001年10月～現在)

矢守克也, 自然災害学会理事 (2011年4月～現在)

矢守克也, 自然災害学会「自然災害科学」編集委員会委員 (2003年4月～現在)

矢守克也, 自然災害学会「Journal of Natural Disaster Science」編集委員 (2005年10月  
～現在) (2009年9月～2012年3月は委員長)

矢守克也, 自然災害学会災害情報委員会委員 (2009年4月～現在)

矢守克也, 自然災害学会学会賞審査委員会委員 (2012年9月～現在)

矢守克也, 日本質的心理学会常任理事 (2010年4月～現在)

矢守克也, 日本質的心理学会理事 (2004年3月～現在)

矢守克也, 日本質的心理学会東日本大震災ワーキンググループメンバー (2011年4月～現  
在)

矢守克也, 日本心理学会代議員 (2005年4月～2011年3月、2013年4月～現在)

矢守克也, 日本シミュレーション&ゲーミング学会理事 (2007年4月～現在)

矢守克也, 日本災害復興学会理事 (2011年1月～現在)

矢守克也, 日本災害復興学会「学会誌」編集委員 (～2011年3月)

矢守克也, 日本災害復興学会総務委員会副委員長 (2013年3月～現在)

矢守克也, 日本災害情報学会「災害情報」編集委員 (2009年10月～現在)・同編集委員長  
(2009年10月～2013年10月)

矢守克也, 日本災害情報学会「廣井賞」選考委員会委員 (2009年10月～2014年3月)

矢守克也, 日本災害情報学会理事 (2013年10月～現在)

矢守克也, International Society of Integrated Disaster Risk Management (国際総合防  
災学会) 理事 (2011年12月～現在)

## 5.5 集計資料

本センターでは、最新の研究や人材育成・教育に関する取り組みがマスコミ等でも紹介されている。専任・特任・兼務・客員教員がそれぞれの成果を発信することで、社会への還元も目指す。

当センターに所属する専任・特任・兼務・客員教員に人数内訳を図 5-1 に示す。当センターが独自に集計しているメディアでの報道のうち新聞報道件数が表 5-1 および図 5-2・5-3, テレビ・ラジオ報道件数が表 5-2 および図 5-4・5-5 である。これらの集計対象となった報道内容は、当センターの公式ブログ (<http://sbosai.cocolog-nifty.com/blog/>) にて、毎週掲載してまとめている。

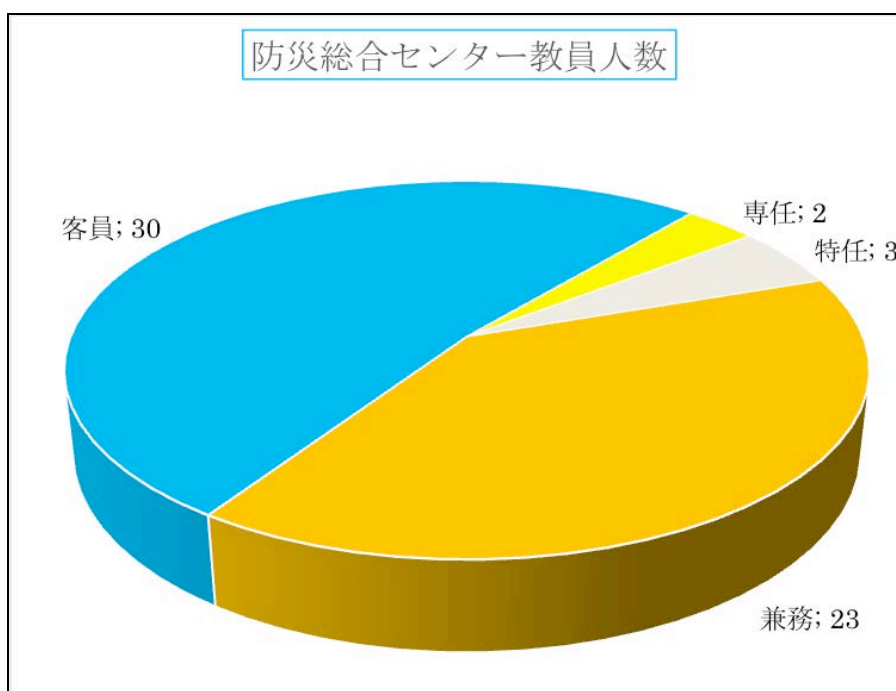


図 5-1 防災総合センター教員人数

表 5-1 新聞報道件数内訳

	専任教員	特任教員	兼務教員	客員教員
静岡新聞	36	13	46	37
朝日新聞	23	1	17	44
毎日新聞	20	1	7	18
読売新聞	10	2	7	33
中日新聞	13	4	17	7
日本経済新聞	4	0	1	3
産経新聞	5	0	1	23
河北日報新聞	1	0	0	8
その他新聞	40	0	7	39
計	152	21	103	212

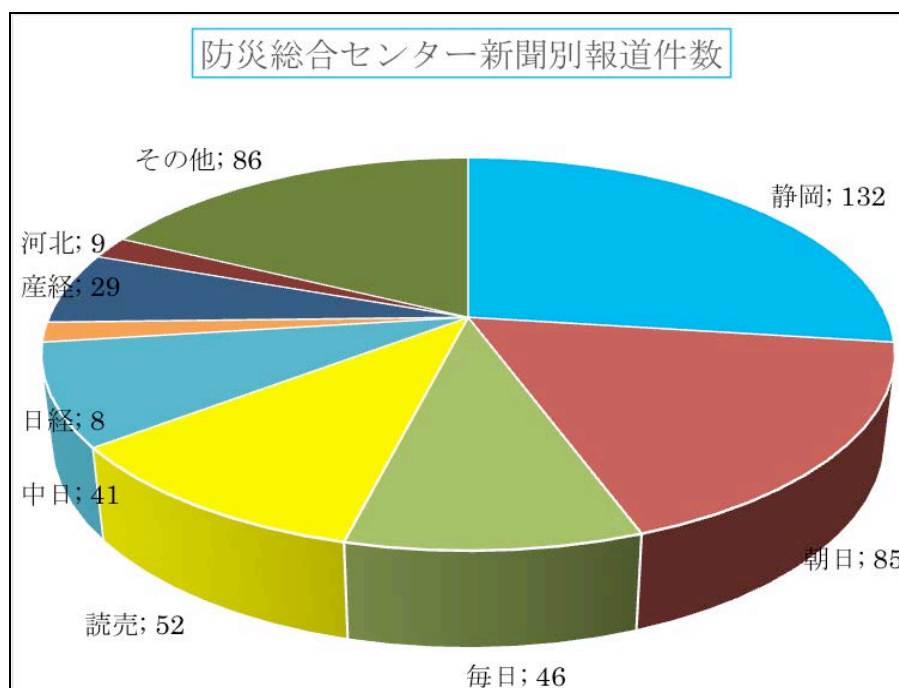


図 5-2 新聞別報道件数

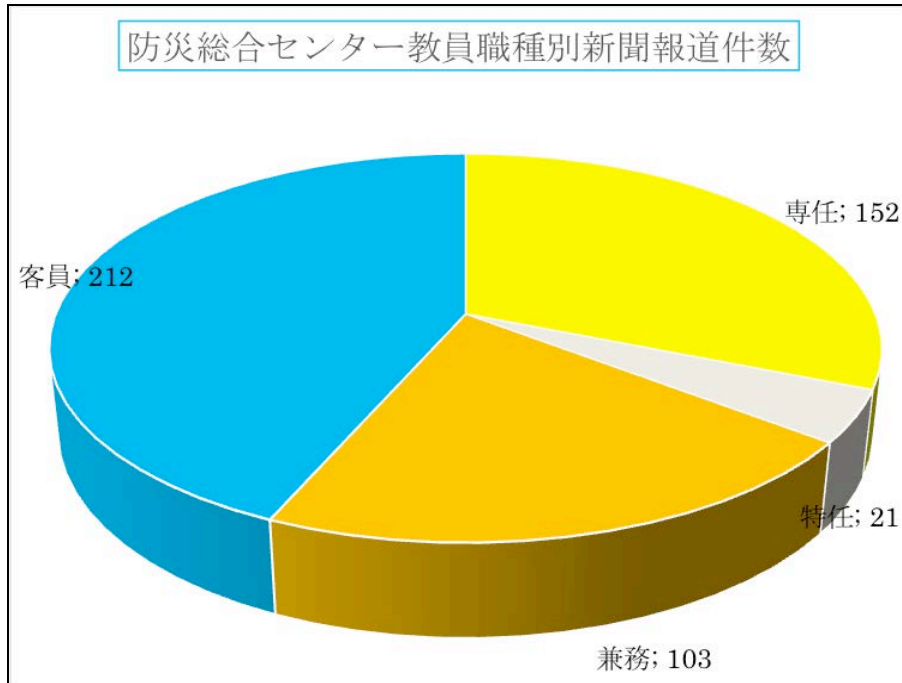


図 5-3 教員職種別報道件数

表 5-2 テレビ・ラジオ報道件数内訳

	専任教員	特任教員	兼務教員	客員教員
NHK 放送	49	1	5	8
静岡放送・TBS テレビ	18	0	3	0
しずおか朝日・朝日テレビ	5	0	3	1
毎日放送	1	0	0	0
テレビ静岡	5	1	5	3
フジテレビ	5	0	0	3
その他放送局	4	1	3	2
計	87	3	19	17

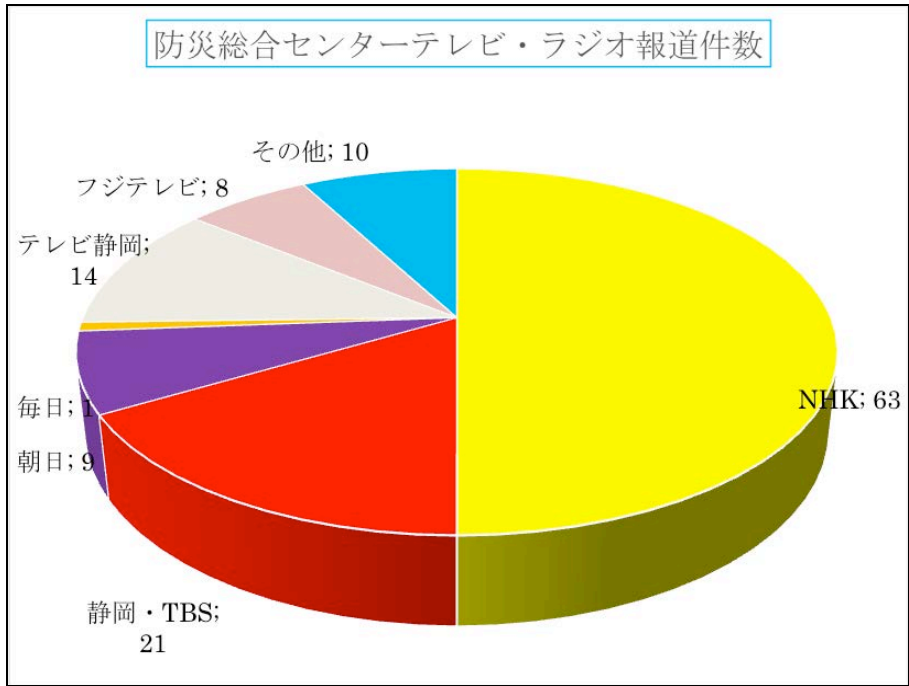


図 5-4 テレビ・ラジオ報道件数

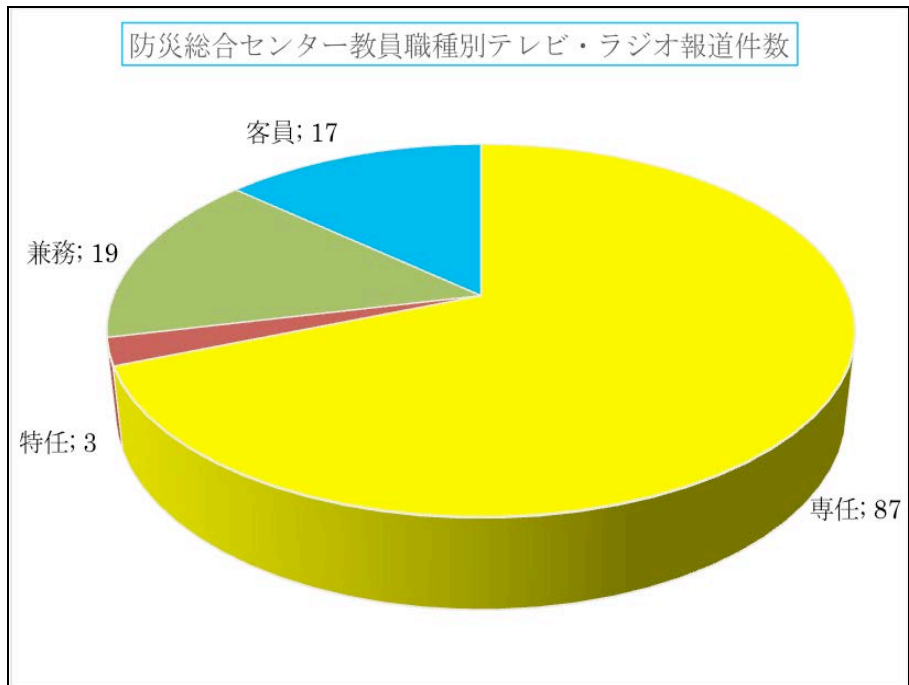


図 5-5 教員職種別テレビ・ラジオ報道件数





防災総合センター年報 第3号

---

2014年8月30日発行

著者・発行者

静岡大学防災総合センター

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

電話：054-238-4502

E-mail：sbosai@sakuya.ed.shizuoka.ac.jp

URL：http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/